

一般国道8号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書 XIV

丘江遺跡 III

2018

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道8号

柏崎バイパス関係発掘調査報告書 XIV

おか 江 遺 跡 Ⅲ

2018

新潟県教育委員会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道8号は新潟市を起点とし、日本海沿いに北陸地方を縦断し、京都市に至る総距離561.2kmの主要幹線道路です。新潟県と北陸地方及び京阪神地方を結ぶとともに、新潟県の産業・経済・文化の交流・発展に大きな役割を果たしています。

しかし、現在の柏崎市域では、市街地化の進展及び交通需要の増加に伴い、慢性的な交通混雑を引き起こしています。柏崎バイパス建設事業は、このような問題を解決し、柏崎市内の安全で円滑な交通を確保することや、地域開発を支援することなどを目的に計画されました。

本書は、この柏崎バイパスの建設に先立ち、2016年度に実施した丘江遺跡の発掘調査報告書です。

丘江遺跡は中世の集落遺跡で、集落域に隣接して水田も見つかりました。集落と水田が隣接する当時の景観がうかがえます。また中世の井戸からは、漆塗りの鎧が出土し、注目されます。

発掘調査で得られた資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されるものと期待しています。

最後に、この発掘調査で多大なご協力と御理解をいただいた柏崎市教育委員会、柏崎市都市整備部八号バイパス事業室、並びに地元の方々、また発掘調査から本報告書の作成まで、格別な御配慮をいただいた国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2018年3月

新潟県教育委員会

教育長 池田 幸博

例　　言

- 1 本報告書は、新潟県柏崎市茨目3丁目字町屋敷に所在する丘江遺跡の発掘調査記録である。
- 2 本発掘調査（以下、本調査）は、一般国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、国土交通省から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。
- 3 本調査は県教委が調査主体となり、公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼し、2016（平成28）年度に実施した。
- 4 埋文事業団は、掘削作業などを、株式会社吉田建設に委託し、発掘調査を実施した。
- 5 整理作業及び報告書作成に係る作業は、県教委が埋文事業団に委託し、主に2016（平成28）年度に実施し、2017（平成29）年度に印刷・刊行した。
- 6 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 7 遺物の注記は、「16 オカエ」とし、調査年度（西暦下二桁）、出土地点・層位などを併記した。
- 8 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 9 遺物番号は通し番号とした。本文及び神図・観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 10 引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。ただし、第VI章については巻末に掲載した。
- 11 各種図版・挿図作成や本文編集は、有限会社不二出版に委託した。
- 12 プラント・オパール分析、花粉分析、大型植物遺体分析、テフラ分析、樹種同定は株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 13 本書の作成は、春日真実（埋文事業団 課長代理）、今井昭久・高柳俊輔（以上、株式会社吉田建設埋蔵文化財調査部調査員）、水野かおり（同、調査補助員）があたり、編集は今井が担当し、春日が補佐した。執筆分担は以下のとおりである。
 - 春日真実：第I章、第VII章 6
 - 今井昭久：第II章2、第III章、第IV章1A・B、2A～E、第V章1・2A、第VII章1・5・7
 - 高柳俊輔：第II章1、第IV章2A～E、第V章2B～D、第VII章2～4
 - 森 将志（株式会社パレオ・ラボ）：第VI章1・2
 - バンダリ・スダルシャン・佐々木由香（以上、株式会社パレオ・ラボ）：第VI章3
 - 藤根 久・鈴木正章（以上、株式会社パレオ・ラボ）：第VI章4
 - 黒沼保子（株式会社パレオ・ラボ）：第VI章5
- 14 図版中の網掛けは、各図版に凡例を示した。
- 15 調査成果の一部は現地説明会資料【2016】、埋蔵文化財事業団年報平成28年【2016】、埋文にいがた第98号【埋文事業団2017】などで公表しているが、本報告書をもって正式な報告とする。
- 16 図書館等（著作権法第31条第1項に規定する図書館をいう）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。
- 17 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多くの御教示・御協力をいただいた。ここに記して厚く感謝申し上げます。（敬称略）

柏崎市教育委員会　柏崎市都市整備部八号バイパス事業室　柏崎機械金属団地協同組合　茨目町内会

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査と整理作業の経過	3
A 試掘確認調査	3
B 本発掘調査	3
3 調査体制	4
A 試掘確認調査	4
B 本発掘調査	4
4 整理作業と整理体制	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
1 地理的環境	5
2 歴史的環境	7
第Ⅲ章 調査の概要	9
1 グリッドの設定と地区名	9
2 基本層序	10
第Ⅳ章 遺構	11
1 遺構の概要と記述の方法	11
A 概要	11
B 遺構の記述と表記方法	11
2 遺構各説	12
A 挖立柱建物	12
B 井戸	15
C 土坑	19
D 溝	22
E 性格不明遺構	25
第Ⅴ章 遺物	27
1 概要	27
2 遺物各説	27
A 土器・陶磁器	27
B 木製品	31
C 石製品	33
D 金属製品	34

第VI章 自然科学分析	36
1 プラント・オパール	36
2 花粉分析	39
3 大型植物遺体分析	43
4 テフラ分析	49
5 樹種同定	51
第VII章 まとめ	54
1 土器・陶磁器	54
2 舌長鑚について	56
3 五輪塔について	57
4 鉄製品	59
5 遺構	60
6 自然科学分析の成果	61
7 遺跡の性格	61
『引用・参考文献』	62
『観察表』	64
遺構観察表	64
遺物観察表	71

挿図目次

第 1 図 柏崎バイパスと遺跡の位置 1	1	第 12 図 産出した花粉化石	42
第 2 図 柏崎バイパスと遺跡の位置 2	2	第 13 図 出土した大型植物遺体	48
第 3 図 試掘・確認調査トレンド位置図	3	第 14 図 火山ガラス（4 φ）の屈折率測定結果	50
第 4 図 柏崎周辺の地形	6	第 15 図 テフラ中の火山ガラスと重鉱物	50
第 5 図 周辺の遺跡	8	第 16 図 出土木製品の光学顕微鏡写真	52
第 6 図 丘江遺跡グリッド設定図	9	第 17 図 土師質土器の法量	54
第 7 図 丘江遺跡Ⅲの基本層序	10	第 18 図 土器・陶磁器の変遷	55
第 8 図 遺構の平面・断面形態、堆積状況の分類	11	第 19 図 木製鎧の分類	56
第 9 図 土師質土器の分類	27	第 20 図 鎧の部位名稱図	57
第 10 図 植物珪酸体分析結果	37	第 21 図 五輪塔部位呼称	58
第 11 図 花粉分布図	40	第 22 図 袋状鉄斧類例	59

表 目 次

第 1 表 周辺の遺跡一覧表	8	第 7 表 火山灰試料の混式筋分け・重液分離の結果	49
第 2 表 分析試料一覧表	36	第 8 表 4 級筋残渣中の礦物組成	49
第 3 表 植物珪酸体分析結果	37	第 9 表 樹種同定結果一覧	51
第 4 表 産出花粉・胞子一覧表	41	第 10 表 器種別の樹種同定結果	53
第 5 表 出土した大型植物遺体	44		
第 6 表 火山灰試料とその詳細	49		

図 版 目 次

【図面図版】

図版 1 遺跡全体図	図版 35 遺構剖別図 20
図版 2 遺構分割図 調査区西側	図版 36 遺構剖別図 21
図版 3 遺構分割図 調査区東側	図版 37 遺構剖別図 22
図版 4 遺構分割図 1	図版 38 遺構剖別図 23
図版 5 遺構剖別図 1	図版 39 遺構剖別図 24
図版 6 遺構分割図 2	図版 40 遺構分割図 13
図版 7 遺構剖別図 2	図版 41 遺構剖別図 25
図版 8 遺構剖別図 3	図版 42 遺構剖別図 26
図版 9 遺構剖別図 4	図版 43 遺構剖別図 27
図版 10 遺構剖別図 5	図版 44 遺構剖別図 28
図版 11 遺構分割図 3	図版 45 遺構剖別図 29
図版 12 遺構分割図 4	図版 46 遺構分割図 14
図版 13 遺構剖別図 6	図版 47 遺構剖別図 30
図版 14 遺構剖別図 7	図版 48 土器・陶磁器 1
図版 15 遺構分割図 5	図版 49 土器・陶磁器 2
図版 16 遺構剖別図 8	図版 50 土器・陶磁器 3
図版 17 遺構分割図 6	図版 51 土器・陶磁器 4
図版 18 遺構剖別図 9	図版 52 土器・陶磁器 5、木製品
図版 19 遺構剖別図 10	図版 53 柱根・石製品 1
図版 20 遺構剖別図 11	図版 54 石製品 2、金属製品
図版 21 遺構剖別図 12	【写真図版】
図版 22 遺構分割図 7	図版 55 調査区遠景
図版 23 遺構剖別図 13	図版 56 調査区全貌
図版 24 遺構分割図 8	図版 57 遺跡の位置、基本層序
図版 25 遺構剖別図 14	図版 58 溝①、SB9867 ①
図版 26 遺構剖別図 15	図版 59 SB9867 ②、SB9959 ①
図版 27 遺構剖別図 16	図版 60 SB9959 ②、SB10186、井戸①
図版 28 遺構分割図 9	図版 61 井戸②
図版 29 遺構分割図 10	図版 62 井戸③、土坑①
図版 30 遺構剖別図 17	図版 63 溝②、土坑②
図版 31 遺構分割図 11	図版 64 溝③、井戸④
図版 32 遺構分割図 12	図版 65 井戸⑤、土坑③
図版 33 遺構剖別図 18	図版 66 土坑④、井戸⑥
図版 34 遺構剖別図 19	図版 67 井戸⑦、土坑⑤、ピット①
	図版 68 ピット②、性格不明遺構①、SB10456

図版 69	SB10457, SB10458, SB10459 ①	図版 87	井戸 ^參 、土坑 ^㊿
図版 70	SB10459 ②, SB10460, SB10461	図版 88	土坑 ^參 、溝 ^⑧
図版 71	SB10462, 井戸 ^⑧	図版 89	性格不明造構 ^②
図版 72	井戸 ^⑨ 、土坑 ^⑩	図版 90	性格不明造構 ^③ 、ピット ^⑤
図版 73	土坑 ^⑦ 、溝 ^④ 、ピット ^③	図版 91	ピット ^⑥ 、SB10394, SB10395, SB10396, SB10397 ①
図版 74	ピット ^④ 、SB10463 ①	図版 92	SB10397 ②, SB10398, SB10399, SB10400 ①
図版 75	SB10463 ②, SB10464, 井戸 ^⑩	図版 93	SB10400 ②, SB10442, 井戸 ^⑩
図版 76	井戸 ^⑪	図版 94	井戸 ^⑫
図版 77	井戸 ^⑫ 、土坑 ^⑧	図版 95	井戸 ^⑫
図版 78	土坑 ^⑯ 、溝 ^⑯	図版 96	井戸 ^⑯ 、土坑 ^參
図版 79	溝 ^⑯ 、井戸 ^參	図版 97	土坑 ^參 、溝 ^⑯ 、ピット ^⑦ 、SX10450 ①
図版 80	井戸 ^參 、土坑 ^參	図版 98	SX10450 ②、作業風景
図版 81	溝 ^⑦	図版 99	土器・陶磁器 1
図版 82	SB10388, SB10389, SB10390, SB10392	図版 100	土器・陶磁器 2
図版 83	SB10391, SB10393, 井戸 ^參	図版 101	土器・陶磁器 3
図版 84	井戸 ^參	図版 102	木製品
図版 85	井戸 ^參	図版 103	石製品、金属製品
図版 86	井戸 ^參		

第Ⅰ章 序 説

1 調査に至る経緯

一般国道8号柏崎バイパスは、柏崎市長崎を起点に同市鰐波に至る延長11.0kmの幹線道路である。交通混雑の解消、広域地域との交流の促進、都市交通の円滑化、都市機能の活性化などを目的に計画され、1987（昭和62）年度に事業化された。1991（平成3）年度から用地買収、1993（平成5）年度から工事に着手し、整備が進められている。これを受けて、建設省（現国土交通省、以下、国交省）と新潟県教育委員会（以下、県教委）との間で、事業用地内の埋蔵文化財の取り扱いに関する協議が本格化した。

柏崎市東原町（豊田橋左岸）から茨目（国道252号）間の分布調査は、県教委の委託を受けた財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（現公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団、以下、埋文事業団）が2002（平成14）年7月に実施した。その結果、対象地域の広範囲で古代・中世・近世の遺物が採取でき、遺跡の存在する可能性が高いことから、道路法線のほぼ全城について試掘調査が必要であると県教委に報告し、県教委はこのことを国交省に報告している。

丘江遺跡に係る試掘確認調査は、埋文事業団が2012（平成24）年10・11月に、県教委が2013（平成25）年7・8月、2014（平成26）年7月に、計73,909m²を対象に実施した。その結果、下層から弥生時代後期から古墳時代前期の遺構・遺物が、上層から中世の遺構・遺物が検出された。特に中世の遺物・遺構は多くのトレンチで出土・検出している。丘江遺跡として新規登録し、下層19,970m²、上層54,467m²、延74,437m²について本発掘調査（以下、本調査）が必要となった。その後、県教委・国交省・埋文事業は協議を重ね、丘江遺跡の本調査を2014年（平成26年）度から複数年に分けて実施することとなった。

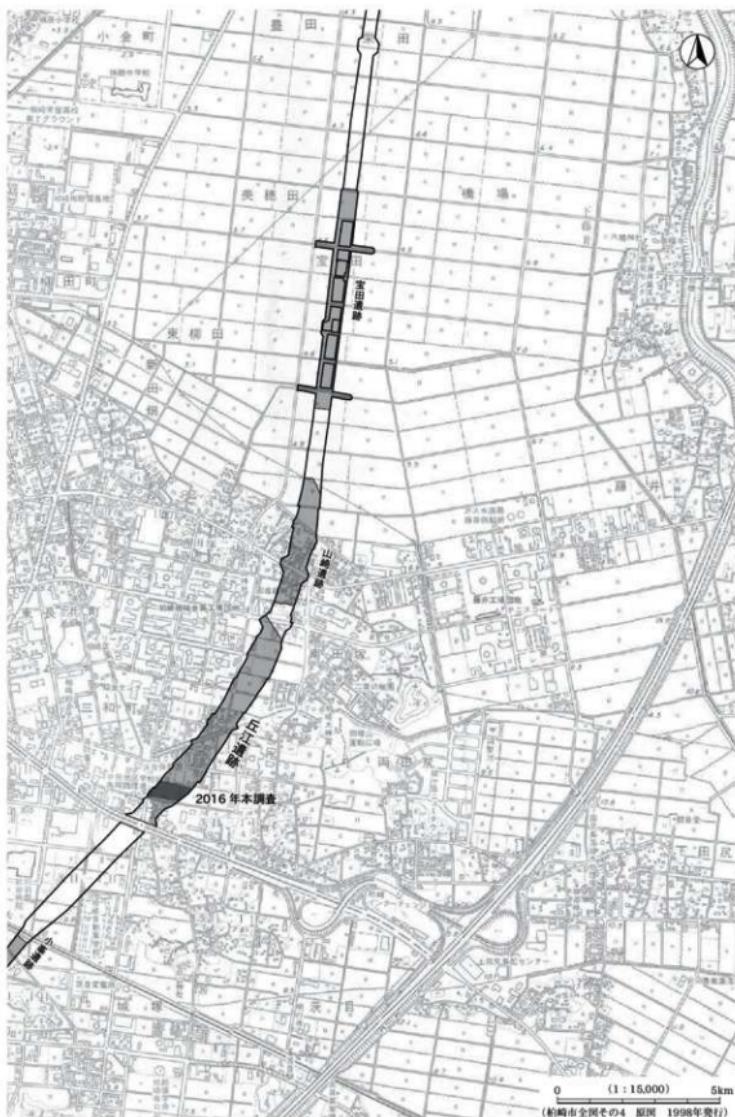
「平成28年3月14日付け国北整長調第66号」で国交省から県教委に本調査の依頼があり、県教委は「平成28年4月2日付け教文第1371号の2」で埋文事業団に平成2016年（平成28年度）の本調査の実施を依頼した。



第1図 柏崎バイパスと遺跡の位置 1

（国土地理院発行「柏崎」「西野町」1:50,000を縮小）

1. 調査に至る経緯



第2図 柏崎バイパスと遺跡の位置 2

2 調査と整理作業の経過

A 試掘確認調査

丘江遺跡の試掘確認調査は埋文事業団が2012（平成24）年10月1～19日・11月12～16日に、県教委が2013（平成25）年7月25日～8月9日、2014（平成26）年7月28・29日に実施した。このうち、2016（平成28）年度の本調査範囲を含む草薙川から国道252号線までの区間は、県教委が2013（平成25）年・2014（平成26）年に実施した。調査対象面積は25,200m²、調査面積は718.5m²で試掘確認率（対象面積に対する調査面積の比率）は約3%である。調査の方法は、対象地内にトレントを任意に設定し、掘削用重機及び人力で掘削・精査を行い、土層堆積状況、遺構・遺物の検出状況、トレントの位置などを図面・写真に記録するものである。多くのトレントから中世の土器・陶磁器が出土し、ピット・井戸・土坑・溝などの遺構を検出した。

B 本発掘調査

2016（平成28）年4月19日から開始し、11月30日に終了した。調査中に油臭がしたため、土壤試験を行ったところ、基準値を超える砒素が検出され発掘調査を約1月中止した。経過は以下のとおり。

4月19日：掘削用重機による盛土・表土除去を開始。

5月19日：本格的な人力掘削開始。

7月6日：調査区東側、ラジコン・ヘリによる航空写真撮影を実施。

8月4日：柏崎市立博物館実習・新潟県教育庁文化行政課主催青少年文化財講座受け入れ。

8月29日：調査区内から基準値を超える砒素を検出。作業を中断。

調査区内から基準値を超える砒素が検出されたことを、国交省が周辺住民へ周知。

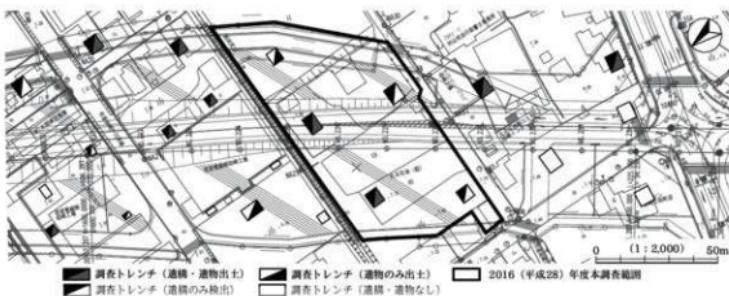
9月29日：安全確認ができたため調査を再開することを、国交省が周辺住民へ周知。

10月3日：安全性が確保できたため作業を再開。

11月2日：調査区西側、ラジコン・ヘリによる航空写真撮影実施。

11月12日：現地説明会・体験発掘実施。参加者46名。

11月30日：現地調査終了



第3図 試掘・確認調査トレント位置図

3 調査体制

A 試掘確認調査

2013(平成25)年度

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 高井 盛雄）
調査期間 7月25日～8月9日
總括 本田 雄二（文化行政課長）
管理 石津 敦（文化行政課 課長補佐）
調査指導 沢田 敦（文化行政課 埋蔵文化財係長）
調査担当 小野本 敦（文化行政課 主任調査員）
調査員 工藤 祐大（文化行政課 職員）

2014(平成26)年度

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 高井 盛雄）
調査期間 7月28・29日
總括 斎藤 靖則（文化行政課長）
管理 松本美奈子（文化行政課 課長補佐）
調査指導 沢田 敦（文化行政課 埋蔵文化財係長）
調査担当 佐藤 友子（文化行政課 埋蔵文化財係 専門調査員）
調査員 加藤 元康（文化行政課 文化財調査員）

B 本発掘調査

調査 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
總括 土肥 茂（事務局長）
監理 松田 祐（総務課長）
庶務 星野 美奈（総務課班長）
調査総括 鈴木 俊成（調査課長）
調査担当 春日 真実（調査課 課長代理）
支援組織 吉田建設株式会社
現場代理人 清水 宏人（埋蔵文化財調査部 調査部長）
調査員 今井 昭俊・高柳 俊輔（埋蔵文化財調査部 調査員）

4 整理作業と整理体制

遺物の水洗・注記の大半は現地プレハブで、本調査と並行して実施した。本格的な整理作業は12月1日～3月31日まで吉田建設三条整理所で行った。整理期間は2016(平成28)年12月1日～2017(平成29)年3月31日である。整理体制は本発掘調査に以下の3名を加えたものである。

整理補助員 水科かおり・佐野美来子・佐藤 則子（以上、吉田建設株式会社 埋蔵文化財調査部）

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

位置

丘江遺跡は、柏崎市茨木3丁目町屋敷他に所在する。柏崎市は新潟県の海岸中央やや南西寄りに位置する。2005年5月1日に刈羽郡西山町、高柳町と合併し、現在の市域が形成された。市の北西は日本海に面し、北東は三島郡出雲崎町、東は長岡市、南は十日町市、南西は上越市と接する。江戸時代には、北国街道と長岡街道（北国街道と魚沼街道を結ぶ街道）の分岐点があり、現在も国道8号から分岐する国道116号、JR信越本線から分岐するJR越後線の起点があり、北陸自動車道が市内を横断するなど陸上交通の要衝となっている。また、日本海は東西日本をつなぐだけでなく、国際貿易港の重要な海路となっていることは言うまでもない。

柏崎平野の地勢

丘江遺跡が所在する柏崎平野は、鶴川と鮒石川、鮒石川の支流である別山川によって形成された幅約7km、長さ約18kmの臨海冲積平野である。その東・西・南の3方は、東頸城丘陵、刈羽・三島丘陵、刈羽三山と称される米山（標高992.6m）、黒姫山（標高889.5m）、八石山（標高518m）などの山地によって囲まれている。また平野の北西部は日本海に面している。長軸は北北東—南南西を向き、平野の北半分が別山川流域、南半分が鮒石川と鶴川の流域である。海岸部には荒浜砂丘が発達し、その後背には湿地性の沖積地が展開する〔鈴木ほか1988・1989〕。砂丘形成の顕著な時期に、河口部が閉ざされることにより満水した湖沼を「鏡ヶ池」と名づけた。

こうした柏崎平野の地形的特徴は、平野を北流する鶴川・鮒石川によって東部・中央部・西部に三区分できることである。東部は鮒石川以東の地域であり、丘陵や沖積地、砂丘が発達している。刈羽・三島丘陵などの丘陵地帯や別山川・長鳥川地域の沖積地、また日本海沿岸の荒浜砂丘などが、北北東—南南西方向に伸びる。

中央部は、鶴川・鮒石川・黒姫山に囲まれた地域である。黒姫山を頂点とする山地や丘陵が、緩やかに南北に伸びる地形をしている。その縁辺では中位河岸段丘の発達が比較的顕著であり、樹枝状の段丘が、鶴川・鮒石川が形成した沖積地に接している。

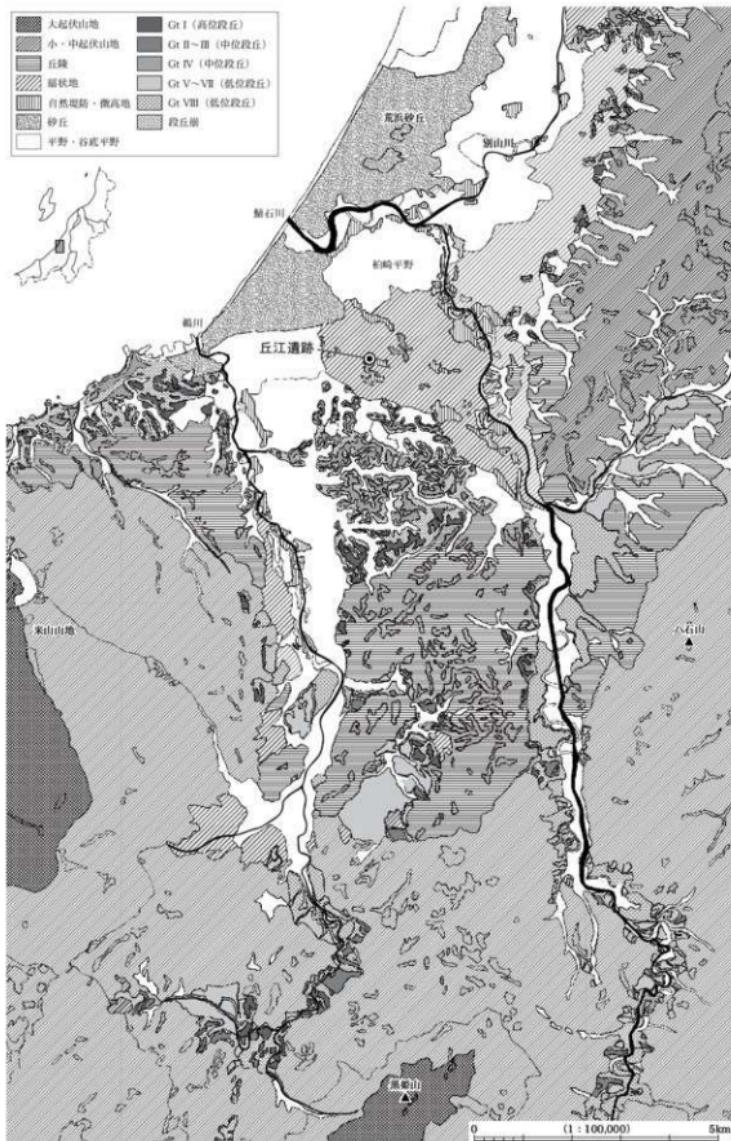
西部は鶴川左岸一帯で、米山から続く山地（米山山地）や丘陵が発達している。砂丘や沖積地は少ない。米山山地の西部は海岸部まで張り出して断崖をなし、東部では狭小な中・高位段丘面が確認できる。広範囲に発達した沖積地や砂丘が展開する東部や中央部とは対照的な様相を示している〔大野・徳間1990〕。

丘江遺跡周辺の地形

丘江遺跡は柏崎平野北西部、鮒石川左岸に位置し、扇状地の中の微高地に所在する。標高は6~7mを測る。柏崎平野の三区分では「中央部」に所在する。海岸線からは約3km内陸である。遺跡の北西側には柏崎の市街地が広がっているほか、鮒石川支流の小河川が流れている。

新潟県の河川は上流に地すべり地帯が多く、浸食、運搬作用が盛んである。さらに下流には灌漑用の取水施設が多いため、河川の流れが下流近くで緩やかになり、その結果、天井川が形成されやすくなっている。鮒石川もこの例にもれず、平野の形成、遺跡の形成に大きな影響をもたらしている。

1 地理的環境



第4図 柏崎周辺の地形

【出典】2015「宝田遺跡」を一部改変

2 歴史的環境

中世 11世紀末から12世紀中葉頃には『和名類聚抄』に記載される郡・郷は再編され、各地に莊園や郷・保を単位とする国衙領が成立した。中世の鶴川流域は、古代の三嶋郡三嶋郷をほぼ踏襲した鶴河莊の莊域であった。古代の三嶋郡一帯は、中世では鶴河莊、佐橋莊、比角莊といった莊園名で表記され、3莊園のほかに原田保、赤田保など、わずかな資料に保名があることから、国衙領の存在が知られている。現状として、莊園・国衙領の所在は、鶴河莊などの莊園を柏崎平野南部の鶴川・鮎石川流域に、原田保などの国衙領を主に北部の別山川流域に比定するのが定説化している〔金子 1976〕。史料として、『吾妻鏡』1186年(文治2年)3月12日条の「三箇國庄々未進注文」には、柏崎平野に比定される莊園として「宇河(鶴川)莊」・「佐橋(鮎石)莊」・「比角莊」の三莊園が記載されている〔荻野 1986〕。

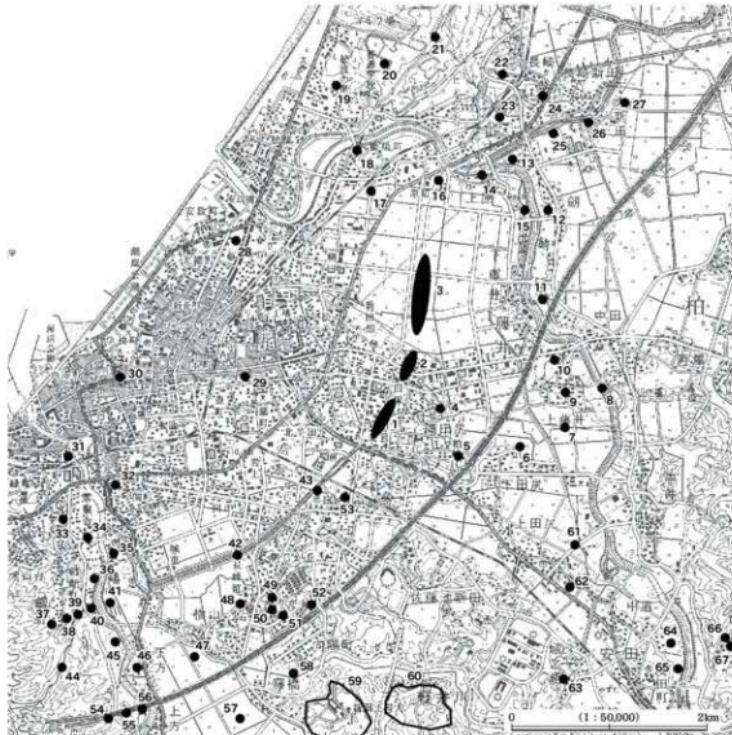
中世の遺跡は、集落遺跡が丘陵裾部や自然堤防などの沖積地に分布し、墳墓や塚・経塚などが丘陵裾部や中位段丘などの台地上に立地する傾向が認められる〔品田 1995〕。

本遺跡の周辺の遺跡には、山崎遺跡(2)、宝田遺跡(3)、小峯遺跡(43)、田塚山遺跡群(4)などがある。田塚山遺跡群は本遺跡から東へ約300mに立地し、仏堂とその関連施設が築造され、周囲に墳墓が配置されている〔品田ほか 1996〕。田塚山遺跡群から南側の丘陵上に立地する小児石遺跡(5)は、中世全般にわたって墓地として機能し、礪石経・六道鉄などが出土している〔品田ほか 1991〕。山崎遺跡は、13世紀中頃から15世紀後半を主体とする集落遺跡で、掘立柱建物28棟や井戸141基が検出され、土師質土器や珠洲焼のほかに風炉や茶臼が出土している〔白井 2016〕。宝田遺跡は古代から断続的に水田耕作を行った生産遺跡である。多数の水田構造を検出し、須恵器や土師質土器、珠洲焼のほかに、15世紀中頃と推定されるおにぎり状炭化米が出土している〔飯坂ほか 2014〕。

鮎石川と別山川の合流点付近には、東原町遺跡(16)、角田遺跡(13)などがある。両遺跡は自然堤防上に立地しており、河川交通などの物流関係を背景に成立したと考えられる。東原町遺跡は13世紀後半から14世紀が主体の集落遺跡で、掘立柱建物4棟、井戸28基、溝92条などが検出され、溝によって居住域と生産域が区画されている。居住域では、鍛冶関連の工房、饗宴に使用された土師質土器の一括廃棄土坑が検出され、1万枚以上の錢貨を埋納した珠洲焼の壺が出土している〔山崎ほか 2005〕。角田遺跡は13世紀後半が主体の遺跡で、掘立柱建物13棟に多数の井戸と土坑が検出され、交通の要衝を押さえ目的で在地小領主が家屋敷を営んだとみられる〔品田ほか 1999〕。

鶴川流域の遺跡としては、下沖北遺跡(41)、鶴巻田遺跡(56)などが自然堤防上に立地する。下沖北遺跡は13世紀から14世紀を主体とする集落遺跡で、溝による方形区画内に掘立柱建物や井戸が集中する居住域とその外側に水田が検出されており、集落の様相が明らかにされている〔山崎ほか 2003、山崎ほか 2005〕。鶴巻田遺跡では、丘陵裾に素掘りの井戸や貯蔵穴が検出され、珠洲焼、青磁、製塙土器、錢貨などのほかに鉄滓などの製鉄関連の資料が出土している〔藤巻 1988〕。

鶴川の河口に近い右岸域の柏崎砂丘では、現在の市街地と重複する柏崎町遺跡(30)が立地する。中世柏崎において、比角莊城にあたり、15世紀には既に東本町まで開発がおよび、17世紀には現市街地の原形が形成されていく過程が明らかにされている。中世の柏崎は町人集団が支配する港湾都市であった可能性が指摘されているが〔矢田 1999〕、それを示すように青花、青磁、白磁などの輸入陶磁器が、柏崎平野のどの中世遺跡よりも多数出土している〔品田・伊藤ほか 2001〕。



[国土地理院「柏崎」1:50,000 原図 2007年発行]

第5図 周辺の遺跡

No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	丘江遺跡	弥生～中世	19	沙津山遺跡	平安・中世	37	香積寺沢遺跡	縄文・古代・中世	55	桐山遺跡	縄文・古代・中世
2	山崎遺跡	古代・中世	20	日置高小学校A	古代	38	相馬野遺跡	縄文・古代・中世	56	鶴谷田遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世
3	室田遺跡	古代・中世	21	日高高小学校B	古代	39	鰐野沢遺跡	縄文・古代・中世	57	沢田遺跡	古代
4	田塚山遺跡群	縄文・弥生・中世	22	西町野遺跡	平安・中世	40	千代井遺跡	平安	58	藤崎向山遺跡	古代
5	小児石遺跡	中世（墓地）	23	宮ノ浦遺跡	古代・中世	41	下津井遺跡	平安・中世	59	藤崎東遺跡群	縄文・古代（聚落遺跡）・中世
6	不道寺遺跡	古代・中世	24	七合宿屋敷跡	中世	42	貴輪遺跡	弥生・平安・中世	60	鶴井川南遺跡	古代（聚落遺跡）
7	前田遺跡	古代・中世	25	下堀井西遺跡	古代	43	小字遺跡	古代・中世	61	大新田遺跡	中世
8	窪野遺跡	縄文・古墳・中世	26	下荒井遺跡	古墳・平安	44	側野水上遺跡	契約墳道	62	大坪遺跡	中世
9	藤井城跡	古代・中世・近世	27	下子見遺跡	中世	45	下津井遺跡	古代	63	安田城跡	中世
10	中田鬼田遺跡	中世	28	坂木町遺跡	古代	46	鳴原野遺跡	中世	64	中道遺跡	古代・中世
11	中田下川原遺跡	古代	29	西谷遺跡	中世	47	茅原遺跡	古代・中世	65	門田遺跡	中世
12	側下川原遺跡	古墳・古代	30	新町の遺跡	中・近世	48	京田遺跡	古代・中世	66	堂の遺跡	中世
13	舟内遺跡	古墳・古墳・中世	31	大久保家遺跡	古墳・中世	49	大久保人遺跡	縄文・平安	67	今瀬桑原堂裏	中世
14	上原遺跡	古代・中世	32	間町遺跡	中世	50	大宮遺跡	縄文・古代			
15	境川原遺跡	中世	33	側野F遺跡	縄文・古代・中世	51	大河内遺跡	古代（聚落遺跡）			
16	東原町遺跡	古代・中世	34	二島神社	古墳・古代	52	面山・面古裏	縄文・平安			
17	藤元町遺跡	古代	35	琵琶島城	古墳・古代・中世	53	城塚遺跡	古代			
18	明瀬町遺跡	縄文・弥生・古代	36	勝林遺跡	縄文・古代	54	西田遺跡	縄文・古代・中世			

第1表 周辺の遺跡一覧表

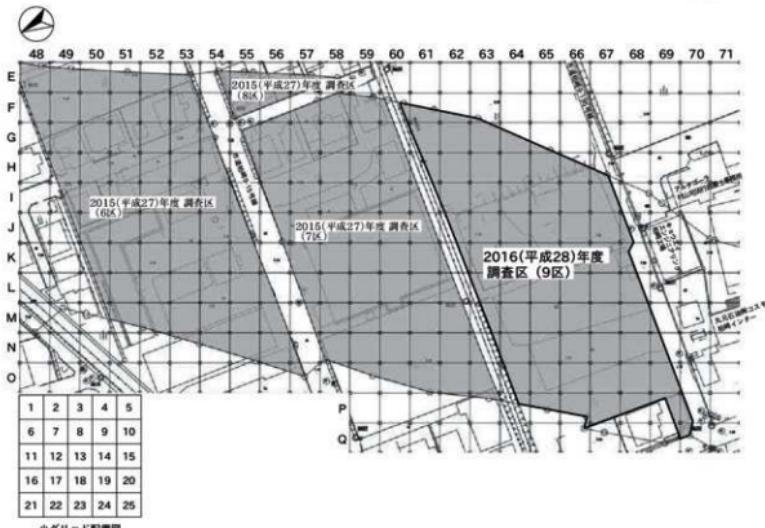
第III章 調査の概要

1 グリッドの設定と地区名

丘江遺跡は、2012年度の試掘調査で存在が新たに確認された遺跡である。グリッドの設定は、2014年度の発掘調査時に柏崎バイパスの法線に沿うよう、道路建設予定地内のセンター杭2点を基準とした。基準としたセンター杭は、No.198 (X=151919.385, Y=7642.954) と No.213 (X=151602.171, Y=7474.344) である。この両センター杭を結んだ直線を横軸とし、これに直交する線を縦軸として設定した。グリッドの基準線方位は、横軸が真北から29度3分57秒東偏している。2016(平成28)年度の発掘調査では、上記のグリッドを南へ延長し使用した。

グリッドは大小2種類を用いた。大グリッドは縦横10m間隔に設置して、横列は算用数字を用いて、北東から南西に向かい「1, 2, 3, 4…」列、縦軸はアルファベットを用いて、南東から北西に向かって「A, B, C, D…」とした。大グリッド名は、北東隅にある基準線の交点を「1A, 1B, 1C, 1D…」と呼称した。小グリッドは、大グリッド内を縦横2m間隔で25分割した。小グリッド北東隅を1として南西に数え南西隅を25とし算用数字で表した。グリッド表記は「7B2」のように呼称した。

丘江遺跡の調査範囲は、法線距離で約700mあり、調査も複数年度にわたる。調査区は市道などによつていくつかのブロックに分かれており、年度により調査区の範囲が異なる。そのため、調査区名は2014



第6図 丘江遺跡グリッド設定図 (S=1:1,625)

年度調査の「1区」からブロックごとに「2区、3区…」と通しで付与した。今年度の調査区は、「9区」にあたる。

2 基本層序

丘江遺跡は柏崎市茨目3丁目字町屋敷ほかに所在し、鰐石川左岸の標高6～7m前後の扇状地に立地する。現況は水田及び宅地盛土と工場跡地の盛土である。地形は、調査区の中央西寄り及び東端に沢状地形の存在があるため、場所によって高低差がある。

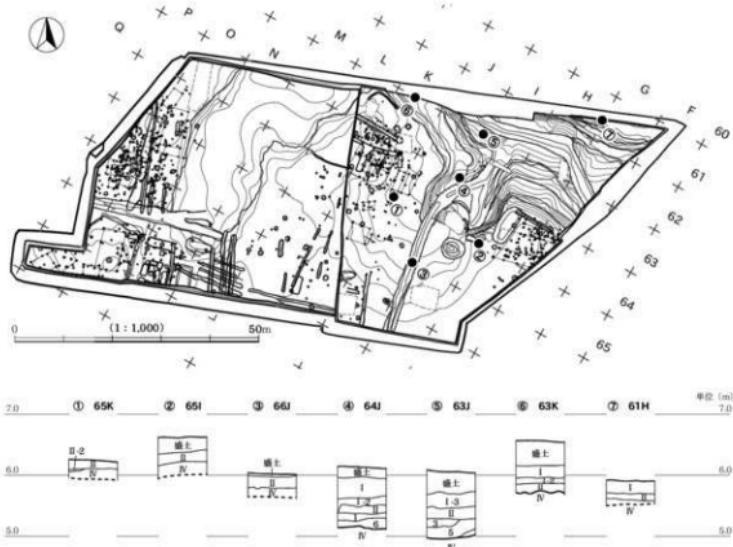
基本土層はI～IV層に大別した。同一の土層でも土質・色調に多少の差異があり、さらに2～4層に細分可能な層もある。このうちII層が鎌倉・室町時代の遺物包含層であり、上位のI層からは同時期の遺物も含まれるが近世の遺物も混じる。今回の調査区では弥生時代後期～古墳時代の遺物包含層であるIII層は確認されなかった。遺物包含層であるII層と遺構検出面であるIV層の境界は、基本的に平坦である。一部、水田耕作等の存在が疑われる箇所では、境界の凹凸が著しい。

I層：灰褐色土（7.5Y4/2）粘性としまりが共に強い。近・現代の水田や畑の耕作土。地点により2～3層に細分される。

II層：灰色シルト（7.5Y4/1）粘性がやや強く、しまりが強い。鎌倉・室町時代の遺物包含層。

III層：黒色シルト（7.5Y2/1）弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層。

IV層：灰色シルト（10Y6/1）粘性としまりが共に強い。基盤土層であり、遺構検出面。



第7図 丘江遺跡Ⅲの基本層序

第IV章 遺構

1 遺構の概要と記述の方法

A 概要

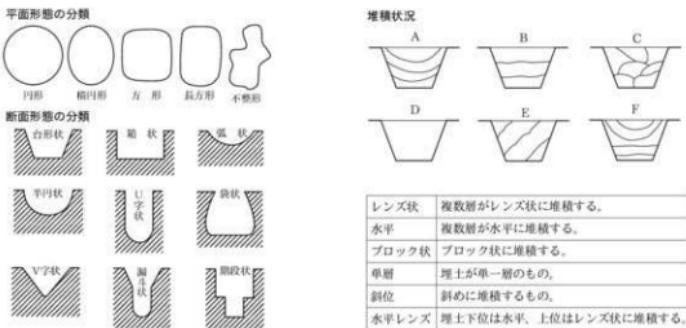
検出した遺構は、掘立柱建物 26 棟、井戸 45 基、土坑 33 基、溝 40 条、性格不明遺構 12 基、ピット 769 基である。出土遺物や遺構の埋土の特徴から、多くは中世の所産と判断した。

B 遺構の記述と表記方法

遺構の記述には、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いた。図面図版は全体図・分割図・個別図で構成し、写真図版は図面図版の掲載順に合わせた。本文は種別ごとに図面図版の掲載順に合わせて記述している。なお、本文中の遺構の記述は、形状や土層の堆積状況を勘案して種別ごとに抽出したものに止めた。抽出した遺構については、すべて遺構個別図を掲載した。本文で記述した以外の遺構は、観察表や図表に示した。

遺構種別は略号を用い、掘立柱建物「SB」、井戸「SE」、土坑「SK」、溝「SD」、性格不明遺構「SX」、ピット「P」とした。遺構略号の後に遺構番号を付した。遺構番号は平成 27 年度調査からの通し番号で、過去の調査と重複しないように今年度は「9501」からとした。

遺構の平面形及び断面形状の表記は、和泉 A 遺跡〔荒川・加藤ほか 1999〕の分類基準（第 8 図）に準拠した。規模は、平面を長軸（最大長・最大径）と短軸、深さを遺構検出面からの最深部までとして計測した。重複関係で計測が困難なものについては残存値を（ ）で記載した。方位は、長軸が真北に対して東西に何度も振れているかを計測し、N-○°-E (W) と表記した。土層断面図の色調は『新版標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所 2004〕を使用した。



第 8 図 遺構の平面・断面形態、堆積状況の分類 [荒川・加藤ほか 1999 を転用]

2 遺構各説

A 掘立柱建物

掘立柱建物については、柱間数の多い方向を桁行（長軸）、少ない方向を梁行（短軸）とした。方位は北に対して桁行が東西に何度傾くかを N-○°-E (W) と表した。建物の面積は桁行と梁行で囲まれた部分を計算した。建物 26 棟を復元した。

SB9867 (図版 6・7・58・59)

64・65G・H に位置する。建物の東側が調査区外へ延伸するため全容は把握できないが、桁行 5 間以上、梁行 1 間で平廂を持つ建物 ($11.2 \times 6.1m$) と推定する。桁行方位は N-76°-W の東西棟である。13 基の柱穴によって構成され、面積は推定 $68.3m^2$ である。柱間は $1.7 \sim 2.8m$ である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面は大半が U 字状を呈し、径 $0.26 \sim 0.60m$ 、深さ $0.12 \sim 0.77m$ である。P9608 から柱根 (130) が出土した。

SB9959 (図版 6・8・59・60)

63・64G、64H に位置する。桁行 3 間 ($4.0m$)、梁行 2 間 ($2.3m$) の建物で、桁行方位は N-76°-W の東西棟である。7 基の柱穴によって構成され、面積は $9.2m^2$ である。柱間は $0.9 \sim 2.2m$ である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面は U 字状または V 字状を呈し、径 $0.23 \sim 0.64m$ 、深さ $0.20 \sim 0.50m$ である。

SB10186 (図版 6・8・60)

63G・H に位置する。桁行 3 間 ($6.0m$)、梁行 1 間 ($2.0m$) の建物で、桁行方位は N-10°-W の南北棟である。8 基の柱穴によって構成され、面積は $12.0m^2$ である。柱間は $0.9 \sim 2.0m$ である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面は U 字状または半円状を呈し、径 $0.23 \sim 0.54m$ 、深さ $0.16 \sim 0.76m$ である。

SB10456 (図版 17・18・68)

64J・K に位置する。桁行 2 間 ($4.1m$)、梁行 2 間 ($2.1m$) の建物で、桁行方位は N-18°-E の南北棟である。7 基の柱穴によって構成され、面積は $8.6m^2$ である。柱間は $0.6 \sim 2.3m$ である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面は U 字状または V 字状を呈し、径 $0.22 \sim 0.50m$ 、深さ $0.13 \sim 0.44m$ である。

SB10457 (図版 17・18・69)

64K に位置する。桁行 4 間 ($5.3m$)、梁行 1 間 ($2.2m$) の建物で、桁行方位は N-27°-E の南北棟である。8 基の柱穴によって構成される。面積は $11.7m^2$ である。柱間は $1.3 \sim 2.4m$ である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面は U 字状または半円状を呈し、径 $0.24 \sim 0.32m$ 、深さ $0.14 \sim 0.57m$ である。

SB10458 (図版 17・18・69)

64K に位置する。桁行 4 間 ($5.5m$)、梁行 1 間 ($2.1m$) の側柱建物で、桁行方位は N-22°-E の南北棟である。9 基の柱穴によって構成され、面積は $11.6m^2$ である。柱間は $1.1 \sim 2.2m$ である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面は U 字状または半円状を呈し、径 $0.22 \sim 0.47m$ 、深さ $0.15 \sim 0.74m$ である。

SB10459 (図版 17・19・69・70)

64K・L に位置する。桁行 3 間 ($5.7m$)、梁行 2 間 ($3.9m$) の側柱建物で、桁行方位は N-74°-W の東西棟である。10 基の柱穴によって構成される。面積は $22.2m^2$ である。柱間は $0.8 \sim 2.6m$ である。柱

穴は平面が円形または楕円形、断面はU字状または半円状を呈し、径0.22～0.40m、深さ0.12～0.72mである。

SB10460 (図版17・19・70)

64Jに位置する。桁行2間(5.2m)、梁行1間(2.6m)の建物で、桁行方位はN-24°-Eの東西棟である。6基の柱穴によって構成され、面積は13.5m²である。柱間は2.2m～2.9mである。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はU字状または半円状などを呈し、径0.21～0.31m、深さ0.24～0.49mである。

SB10461 (図版17・20・70)

63・64K・Lに位置する。桁行2間(4.9m)、梁行1間(2.8m)の建物で、桁行方位はN-53°-Wの東西棟である。6基の柱穴によって構成される。面積は13.7m²である。柱間は2.0～2.8mである。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はU字状または半円状を呈し、径0.26～0.40m、深さ0.17～0.57mである。

SB10462 (図版17・20・71)

64・65Kに位置する。桁行2間(4.1m)、梁行2間(3.7m)の建物で、桁行方位はN-15°-Eの南北棟である。7基の柱穴によって構成される。面積は15.2m²である。柱間は1.5m～4.1mである。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はU字状を呈し、径0.32～0.68m、深さ0.17～0.51mである。

SB10463 (図版24・25・74・75)

65Kに位置する。桁行2間(2.5m)、梁行1間(1.8m)の側柱建物で、桁行方位はN-84°-Wの東西棟である。5基の柱穴によって構成される。面積は4.5m²である。柱間は1.2m～2.1mである。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はU字状または半円状を呈し、径0.24～0.32m、深さ0.10～0.37mである。

SB10464 (図版24・25・75)

65・66Kに位置する。桁行2間(3.8m)、梁行1間(3.6m)の側柱建物で、桁行方位はN-77°-Eの東西棟である。5基の柱穴によって構成される。面積は13.7m²である。柱間は1.8～3.8mである。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はU字状または半円状などを呈し、径0.26～0.42m、深さ0.23～0.38mである。

SB10388 (図版31・33・82)

69Pに位置する。建物の南側が調査区外へ延伸するため全容は把握できないが、桁行2間(5.0m)以上、梁行2間(3.3m)以上の建物で、桁行方位はN-65°-Eの東西棟と推定する。4基以上の柱穴によって構成され、面積は16.5m²以上である。柱間は2.3～3.3mである。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はU字状や漏斗状などを呈し、径0.29～0.40m、深さ0.18～0.53mである。

SB10389 (図版31・33・82)

69Pに位置する。建物の北側が調査区外へ延伸するため全容は把握できないが、桁行2間(4.7m)以上、梁行2間(4.0m)以上の建物と推定する。桁行方位はN-35°-Wの南北棟と推定する。5基以上の柱穴によって構成され、面積は18.8m²以上である。柱間は1.7～2.5mである。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はU字状または半円状を呈し、径0.25～0.45m、深さ0.19～0.39mである。

SB10390 (図版31・33・82)

69Oに位置する。桁行1間(3.4m)、梁行1間(2.1m)の側柱建物で、桁行方位はN-84°-Wの南北棟である。4基の柱穴によって構成される。面積は7.1m²である。柱間は2.0～3.4mである。柱穴は平面が円形、断面はU字状を呈し、径0.32～0.35m、深さ0.32～0.58mである。

SB10392 (図版 32・33・82)

68O に位置する。桁行 1 間 (2.0m)、梁行 1 間 (2.2m) の建物で、桁行方位は N-19°-E の南北棟である。4 基の柱穴によって構成され、面積は 4.4m² である。柱間は 1.6 ~ 2.2m で、柱穴は平面が円形または梢円形、断面は U 字状または漏斗状を呈し、径 0.32 ~ 0.38m、深さ 0.20 ~ 0.44m である。

SB10391 (図版 31・34・83)

68O・69O に位置する。桁行 3 間 (8.1m)、梁行 2 間 (4.7m) の側柱建物で、桁行方位は N-14°-E の南北棟である。9 基の柱穴によって構成される。面積は 38.1m² である。柱間は 2.1 ~ 5.4m である。柱穴は平面が円形または梢円形、断面は U 字状や半円状などを呈し、径 0.25 ~ 0.45m、深さ 0.11 ~ 0.45m である。

SB10393 (図版 32・34・83)

68O に位置する。桁行 1 間 (3.2m)、梁行 1 間 (1.6m) の建物である。桁行方位は N-11°-W の南北棟である。4 基の柱穴によって構成される。面積は 5.1m² である。柱間は 1.2 ~ 3.2m である。柱穴は平面が円形または梢円形、断面は U 字状または弧状を呈し、径 0.29 ~ 0.50m、深さ 0.10 ~ 0.45m である。

SB10394 (図版 40・41・91)

67P に位置する。桁行 2 間、梁行 2 間で、北面に妻廂が付く建物 (4.7 × 2.2m) で、桁行方位は N-10°-E の南北棟である。11 基の柱穴によって構成され、面積は 10.3m² である。柱間は 0.6 ~ 2.2m である。柱穴は平面が円形または梢円形、断面は U 字状または弧状を呈し、径 0.27 ~ 0.86m、深さ 0.11 ~ 0.34m である。

SB10395 (図版 40・41・91)

65O・P に位置する。桁行 2 間 (4.2m)、梁行 1 間 (2.4m) の建物である。桁行方位は N-35°-E の南北棟である。6 基の柱穴によって構成され、面積は 10.1m² である。柱間は 0.9 ~ 2.6m である。柱穴は平面が円形や梢円形、断面は U 字状または弧状を呈し、径 0.11 ~ 0.29m、深さ 0.11 ~ 0.40m である。

SB10396 (図版 40・41・91)

65・66O に位置する。桁行 4 間、梁行 2 間の南側に妻廂が付く建物 (9.6 × 4.3m) で、桁行方位は N-13°-E の南北棟である。14 基の柱穴によって構成され、面積は 41.3m² である。柱穴は平面が円形や梢円形、断面は U 字状または弧状を呈し、径 0.26m ~ 0.38m、深さ 0.13 ~ 0.55m である。

SB10397 (図版 40・42・91・92)

65・66O・P に位置する。建物の南側一部が調査区外へ延伸するため全容は把握できないが、桁行 4 間 (6.5m)、梁行 1 間 (4.4m) の建物である。桁行方位は N-15°-E の南北棟と推定する。8 基以上の柱穴によって構成され、面積は推定で 28.6m² である。柱穴は平面が円形や梢円形、断面は U 字状または弧状を呈し、径 0.32 以上、深さ 0.21 ~ 0.41m である。P10092 から珠洲焼甕が出土した。

SB10398 (図版 40・42・92)

66O・P に位置する。桁行 3 間 (5.1m)、梁行 1 間 (2.4m) の建物で、桁行方位は N-11°-E の南北棟である。7 基の柱穴で構成される。面積は 12.2m² である。柱穴は平面が円形や梢円形、断面は U 字状または弧状を呈し、径 0.20 ~ 0.40m、深さ 0.08 ~ 0.35m である。

SB10399 (図版 40・42・92)

66・67O に位置する。桁行 2 間 (4.2m)、梁行 1 間 (3.2m) の建物で、桁行方位は N-27°-E の南北棟である。6 基の柱穴によって構成され、面積は 13.4m² である。柱穴は平面が円形や梢円形、断面は U 字

状または弧状を呈し、径 0.21 ~ 0.50m、深さ 0.20 ~ 0.56m である。

SB10400 (図版 40・43・92・93)

66・67O・P に位置する。桁行 3 間 (6.9m)、梁行 1 間 (3.6m) の建物で、桁行方位は N-21°-E の南北棟である。7 基の柱穴によって構成され、面積は 24.8m² である。柱穴は平面が円形や梢円形、断面は U 字状または弧状を呈し、径 0.25 ~ 0.58m、深さ 0.15 ~ 0.58m である。

SB10442 (図版 40・43・93)

66・67P に位置する。建物の北側一部が調査区外へ延伸するため全容は把握できないが、桁行 5 間 (8.9m) 以上、梁行 1 間 (3.4m) の建物と推定され、桁行方向は N-12°-E の南北棟と見られる。8 基の柱穴によって構成され、面積は推定で 30.3m² である。柱穴は平面が円形や梢円形、断面は U 字状または弧状を呈し、径 0.20 ~ 0.64m、深さ 0.14 ~ 0.66m である。

B 井 戸

井戸は 45 基検出した。平面は円形・梢円形が多く、少數ながら方形も見られる。土坑と区別が難しいものもある。井戸側は、残骸や杭、礫などを含めて出土していない。すべて素掘りである。側壁は直垂から急斜度が多く、底面は平坦なものが多い。埋土はレンズ状堆積が大部分を占めるが、斜位やブロック状堆積なども見られる。井戸の時期は出土遺物などから判断して、おむね中世の所産である。

SE9527 (図版 6・9・60・61)

63H5・64H1 に位置する。SD9526 に切られる。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.80m・短径 0.80m・深さ 0.80m である。埋土は 3 層でレンズ状に堆積する。

SE9538 (図版 6・9・61)

65H2 に位置する。遺構の東側が調査区外へ広がる。平面は残存部で梢円形、断面は台形状を呈すると推定される。残存値は長径 1.12m・短径 0.98m・深さ 1.28m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。

SE9554 (図版 6・9・61)

64G21・22、64H1・2 に位置する。平面は円形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 0.76m・短径 0.72m・深さ 0.91m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。漆器小片が出土した。

SE9594 (図版 6・9・61)

64H12 に位置する。SK9624 に切られる。平面は残存部で円形、断面は階段状を呈する。遺構の残存値は長径 0.86m・短径 0.86m・深さ 0.81m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。

SE9606 (図版 6・9・62)

63G25、64G21 に位置する。SD9526・P9605 に切られる。平面は円形、断面は台形状を呈する。規模は長径 0.89m・短径 0.83m・深さ 1.24m である。埋土は 3 層で水平に堆積する。漆器碗 (125) が出土した。

SE9607 (図版 6・9・62)

64H1・2 に位置する。9620・P9621 が近接する。平面は梢円形、断面は台形状を呈する。規模は長径 0.72m・短径 0.42m・深さ 0.88m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SE9619 (図版 6・9・62)

64H24・25、64I4・5 に位置する。平面は円形、断面は漏斗状を呈する。規模は長径 1.39m・短径

1.35m・深さ 1.38m である。埋土は 9 層でレンズ状に堆積する。鉄滓が 2 点出土した。

SE9623 (図版 12・14・64・65)

65I2・6～8・11～13・16～18 に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈する。規模は長径 4.74m・短径 4.16m・深さ 1.87m である。埋土は 12 層でレンズ状に堆積する。ほかの井戸と比して規模が大きい。落盤（崩落）などを繰り返したためだと推定する。土師質土器小皿（19）、珠洲焼甕（21）、青磁楓（20）、曲物（113）、漆器椀（119）、板状木製品、石塔類（139～142）などが出土した。

SE9513 (図版 15・16・66)

67J12・17 に位置する。平面は円形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 0.73m・短径 0.66m・深さ 1.06m である。埋土は 5 層で斜位に堆積する。

SE9514 (図版 15・16・67)

67J13 に位置する。平面は梢円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.83m・短径 0.64m・深さ 1.59m である。埋土は 8 層で水平に堆積する。土師質土器、鍵（116）が出土した。

SE9688 (図版 17・21・71)

63K14・15・19・20 に位置する。平面は梢円形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 1.52m・短径 1.08m・深さ 1.54m である。埋土は 6 層でレンズ状に堆積する。

SE9717 (図版 17・21・71)

64K16 に位置する。P9841・P9855 を切る。平面は梢円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 1.23m・短径 0.96m・深さ 1.46m である。埋土は 9 層で下部は斜位、上部はレンズ状に堆積する。越前焼の擂鉢（22）、土師質土器が出土した。

SE9899 (図版 17・21・72)

63K10・15、64K6 に位置する。試掘坑に切られる。平面は円形、断面は台形状を呈する。規模は長径 1.56m・短径 1.37m・深さ 0.82m である。埋土は 3 層で斜位に堆積する、土師質土器が出土した。

SE10268 (図版 24・25・75)

67K6・11 に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 1.09m・短径 0.94m・深さ 1.50m である。埋土は 7 層でレンズ状に堆積する。木製品（板材）が出土した。

SE10269 (図版 24・25・75・76)

66K15 に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.69m・短径 0.66m・深さ 0.88m である。埋土は 7 層でレンズ状に堆積する。珠洲焼甕（23）が出土した。

SE10270 (図版 24・25・76)

67K9・10・14・15 に位置する。SD10226 に造構の一部が切られる。平面は残存部で方形、断面は箱状を呈する。残存部は長径 0.95m・短径 0.90m・深さ 0.73m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。総漆塗の舌長鑓（115）が出土した。

SE10277 (図版 24・26・76)

67K24 に位置する。SX10235 に造構の一部を切られる。平面は残存部で円形、断面は台形状を呈する。残存部は長径 0.71m・短径 0.69m・深さ 1.22m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。土師質土器皿（24）が出土した。

SE10342 (図版 24・26・76)

66L4・5 に位置する。平面は梢円形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 1.14m・短径 0.88m・深

さ 1.56m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。珠洲焼が出土した。

SE10366 (図版 24・26・77)

65L9 に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.84m・短径 0.81m・深さ 1.10m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。土師質土器が出土した。

SE10230 (図版 28・29・30・79)

67L17・22 に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.98m・短径 0.96m・深さ 1.54m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。

SE10231 (図版 28・30・79・80)

66L18 に位置する。平面は円形、断面は台形状を呈する。規模は長径 0.78m・短径 0.68m・深さ 0.94m である。埋土は 4 層で水平・レンズ状に堆積する。

SE9906 (図版 31・34・83)

69P18・23 に位置する。遺構の北側が調査区外へ広がる。平面は残存部で円形、断面は箱状を呈する。遺構の残存値は長径 0.78m・短径 0.60m・深さ 0.64 である。埋土は 5 層で斜位に堆積する。土坑とすべき遺構かもしれない。

SE9972 (図版 31・34・83)

68O15・69O11 に位置する。平面は円形、断面は台形状を呈する。規模は長径 1.05m・短径 1.02m・深さ 1.01m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。

SE10007 (図版 32・35・84)

68N8・13 に位置する。平面は方形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.62m・短径 0.55m・深さ 0.44m である。埋土は褐灰色粘土の単層である。土坑とすべき遺構かもしれない。

SE10001 (図版 32・35・84)

68N22・23 に位置する。平面は円形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 0.90m・短径 0.85m・深さ 0.92m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。珠洲焼が出土した。

SE10003 (図版 32・35・84)

68N16・17 に位置する。SX10002 に切られる。平面は残存部で円形、断面は U 字状を呈する。遺構の残存値は長径 0.81m・短径 0.74m・深さ 0.61m である。埋土は 6 層でレンズ状に堆積する。土師質土器 (29) が出土した。

SE10014 (図版 32・35・84)

68N8 に位置する。SD10022 に切られる。平面は残存部で円形、断面は U 字状を呈する。残存値は長径 0.68m・短径 0.64m・深さ 0.68m である。埋土は 3 層でレンズ状に堆積する。

SE10015 (図版 32・35・85)

68N12・17 に位置する。平面は方形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.94m・短径 0.84m・深さ 0.68m である。埋土は 8 層でレンズ状に堆積する。下部で木片を多く検出した。土坑とすべき遺構かもしれない。

SE10036 (図版 32・35・85)

68N14・15 に位置する。SK10018 に切られる。平面は残存部で円形、断面は箱状を呈する。残存値は長径 0.72m・短径 0.60m・深さ 0.92m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。

SE10037 (図版 32・35・85)

68N1・2・6・7に位置する。P10038に切られる。平面は円形、断面はU字状を呈する。規模は長径0.91m・短径0.83m・深さ0.98mである。埋土は4層でブロック状に堆積する。

SE10181 (図版 32・35・85・86)

68O2に位置する。P10039・P10040に切られる。平面は残存部で円形、断面はU字状を呈する。残存値は長径0.90m・短径0.87m・深さ0.88mである。埋土は3層で、水平堆積である。

SE10227 (図版 32・35・86)

68N10・15に位置する。SK10018に切られる。平面は残存部で円形、断面は台形状を呈する。残存値は長径0.94m・短径0.82m・深さ0.92mである。埋土は4層で下部が水平、上位が斜位に堆積する。

SE10232 (図版 32・36・86)

68N2・3・7・8に位置する。P10275・P10276を切り、SD10221・SX10029に切られる。平面は残存部で円形、断面はU字状を呈する。残存値は長径1.15m・短径1.00m・深さ1.68mである。埋土は8層でレンズ状に堆積する。青磁が出土した。

SE10239 (図版 32・36・86・87)

66N14・15・19・20に位置する。SX10030に切られる。平面は残存部で円形、断面は箱状を呈する。残存値は長径0.90m・短径0.84m・深さ0.78mである。埋土は6層でレンズ状に堆積する。土坑とすべき遺構かもしれない。

SE10053 (図版 40・44・93)

67Oに位置する。P10054に切られる。平面は円形、断面はU字状を呈する。残存値は長径0.80m・短径0.79m・深さ1.13mである。埋土は2層で水平に堆積する。

SE10057 (図版 40・44・93・94)

66O・14・15に位置する。P10055に切られる。平面は円形、断面は台形状を呈する。規模は長径1.08m・短径0.99m・深さ1.4mである。埋土は3層でレンズ状に堆積する。土師質土器、珠洲焼壺(41)、木片が出土した。

SE10069 (図版 40・44・94)

67O1・6に位置する。平面は方形、断面は台形状を呈する。規模は長径1.05m・短径0.92m・深さ0.84mである。埋土は4層で、上部は斜位に、下部は水平に堆積する。

SE10132 (図版 40・44・94)

66O22・23に位置する。SD9942に切られる。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径0.75m・短径0.70m・深さ1.54mである。埋土は3層で水平に堆積する。

SE10167 (図版 40・44・94)

65O15・66O11に位置する。SD10111に切られる。平面は円形、断面は台形状を呈する。残存値は長径1.05m・短径0.93m・深さ1.36mである。埋土は4層で斜位に堆積する。

SE10169 (図版 40・44・95)

65O19・24に位置する。平面は円形、断面はU字状を呈する。規模は長径0.68m・短径0.64m・深さ1.30mである。埋土は3層で、斜位に堆積する。

SE10170 (図版 40・44・95)

65O20・25に位置する。平面は円形、断面はV字状を呈する。規模は長径0.94m・短径0.93m・深

さ 1.16m である。埋土は 3 層でレンズ状に堆積する。

SE10241 (図版 40・44・95)

66O4・9 に位置する。P10255 に切られる。平面は方形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 0.74m・短径 0.74m・深さ 0.83m である。埋土は 6 層でレンズ状に堆積する。

SE10280 (図版 40・45・95)

66O13・14 に位置する。P10281・P10416 に切られる。平面は残存部で円形、断面は階段状を呈する。規模は長径 1.26m・短径 1.12m・深さ 1.41m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。珠洲焼、土師質土器などが出土した。

SE10321 (図版 40・45・96)

67O16・21 に位置する。SD9941 に切られる。平面は残存部で円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 1.24m・短径 1.14m・深さ 1.36m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。土師質土器皿 (42)、珠洲焼 (43・44)、柱痕 (131) が出土した。

SE10339 (図版 40・45・96)

67O22・67P2 に位置する。P10338 に切られる。平面は梢円形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 1.09m・短径 0.56m・深さ 1.21m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。

C 土 坑

土坑は 33 基検出した。平面は円形が大部分を占め、次いで梢円形が多く、少数ながら長方形・方形も見られる。側壁は垂直から急斜度が多く、底面は平坦なものが多い。埋土はレンズ状堆積が大部分を占め、少数ながらブロック状と斜位の堆積が見られる。土坑の時期は出土遺物などから判断して、おおむね中世の所産である。

SK9655 (図版 6・9・12・62)

64I5・10、65I1・6 に位置する。平面は梢円形、断面は台形状を呈する。規模は長径 2.20m・短径 1.10m・深さ 0.43m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。青磁・珠洲焼が出土した。

SK9624 (図版 6・10・63)

63H15・20・11～14、64H16～19・21～24 に位置する。SE9594・SD9526・P10449 に切られる。平面は梢円形、断面は台形状を呈する。規模は長径 8.29m・短径 3.51m・深さ 0.89m である。埋土は 15 層でレンズ状に堆積する。土師質土器皿 (3)・珠洲焼片口鉢 (4)・珠洲焼壺 T 種 (5)・曲物・鉄斧 (144) などが出土した。

SK9630 (図版 12・14・65)

64I10・15 に位置する。P9629 に切られる。平面は残存部で梢円形、断面は弧状を呈する。残存値は長径 1.18m・短径 0.63m・深さ 0.28m である。埋土は 6 層でレンズ状に堆積する。曲物などが出土した。

SK9755 (図版 12・14・65)

65J19・20 に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.64m・短径 0.56m・深さ 0.86m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。

SK9816 (図版 12・14・65・66)

64J18・23 に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.82m・短径 0.77m・深さ

0.61m である。埋土は 5 層でレンズ状に堆積する。

SK9817 (図版 12・14・66)

63J25 に位置する。平面は梢円形、断面は台形状を呈する。規模は長径 0.76m・短径 0.61m・深さ 0.30m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SK9895 (図版 12・14・66)

65J11 に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.70m・短径 0.68m・深さ 0.62m である。埋土は 3 層でレンズ状に堆積する。

SK9896 (図版 12・14・66)

65J9・10・14・15 に位置する。平面は円形、断面は弧状を呈する。規模は長径 0.92m・短径 0.88m・深さ 0.13m である。埋土は褐灰色粘土の単層である。

SK9515 (図版 15・16・67)

66J5 に位置する。SK9516 を切る。平面は円形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 0.87m・短径 0.84m・深さ 0.45m である。埋土は 7 層でレンズ状に堆積する。礫が 3 点出土した。

SK9516 (図版 15・16・67)

66J5 に位置する。SK9515 に切られる。平面は残存部で円形、断面は箱状を呈する。道構の残存値は長径 0.82m・短径 0.21m・深さ 0.32m である。埋土は 5 層で水平・斜位に堆積する。礫が出土した。

SK9511 (図版 15・16・24・67)

66J24・25、66K4・5、67K1 に位置する。開渠・SK9517 に切られる。平面は残存部で梢円形、断面は弧状を呈する。道構の残存値は長径 2.93m・短径 1.74m・深さ 0.21m である。埋土は灰色粘土の単層である。土師質土器が出土した。

SK9685 (図版 17・21・72)

63K8・9・13・14 に位置する。平面は方形、断面は箱状を呈する。規模は長径 1.06m・短径 0.93m・深さ 0.90m である。埋土は 7 層でレンズ状に堆積する。

SK9780 (図版 17・21・72)

65K11 に位置する。平面は方形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.91m・短径 0.80m・深さ 0.81m である。埋土は 8 層でレンズ状に堆積する。

SK9709 (図版 17・21・72)

64K20 に位置する。平面は梢円形、断面は弧状を呈する。規模は長径 0.83m・短径 0.63m・深さ 0.11m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SK9874 (図版 17・21・73)

64K6 に位置する。P9885・P9886 を切り、P9852・P9861 に切られる。平面は梢円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.88m・短径 0.67m・深さ 0.30m である。埋土は黒褐色シルトの単層である。

SK9788 (図版 22・23・73)

64L5 に位置する。P9715 に切られる。平面は梢円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.93m・短径 0.68m・深さ 0.20m である。埋土は 2 層で水平に堆積する。

SK10368 (図版 22・23・73)

65L1 に位置する。平面は梢円形、断面は半円状を呈する。規模は長径 0.47m・短径 0.32m・深さ 0.32m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SK9517 (図版 24・26・77)

66K5、67K1に位置する。SK9511を切る。平面は円形、断面は箱状を呈する。遺構の長径 0.48m・短径 0.45m・深さ 0.51m である。埋土は 7 層で下位が水平、上位がレンズ状である。土師質土器、越前焼擂鉢、板状木製品が出土した。

SK9650 (図版 24・26・77)

65K13・14 に位置する。平面は方形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.59m・短径 0.51m・深さ 0.61m である。埋土は灰色粘土の単層である。

SK9756 (図版 24・26・77)

65K19 に位置する。平面は方形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.85m・短径 0.79m・深さ 0.85m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。珠洲焼片口鉢 (25)、礫が出土した。

SK9814 (図版 24・27・78)

65K9・10 に位置する。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.58m・短径 0.42m・深さ 0.12m である。埋土は 4 層で水平に堆積する。珠洲焼片口鉢 (26) が出土した。

SK10272 (図版 24・27・78)

66K13・14 に位置する。平面は円形、断面は弧状を呈する。規模は長径 0.71m・短径 0.68m・深さ 0.10m である。埋土は褐灰色粘土の単層である。

SK10358 (図版 24・27・78)

67K21、67L1 に位置する。SD10234 に切られ、P10359 を切る。平面は残存部で梢円形、断面は半円状を呈する。遺構の残存値は長径 0.78m・短径 0.60m・深さ 0.18m である。埋土は褐灰色粘土の単層である。

SK10229 (図版 24・27・78)

66L15・20、67L11・12 に位置する。平面は梢円形、断面は弧状を呈する。規模は長径 3.50m・短径 0.72m・深さ 0.17m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SK10197 (図版 28・30・80)

68M8 に位置する。開渠に切られる。平面は残存部で円形、断面は箱状を呈する。残存値は、長径 0.80m・短径 0.75m・深さ 0.50m である。埋土は 4 層でレンズ状に堆積する。珠洲焼が出土した。

SK10222 (図版 28・29・30・80)

67M2・3 に位置する。平面は円形、断面は半円状を呈する。規模は長径 0.84m・短径 0.70m・深さ 0.26m である。埋土は 3 層でレンズ状堆積である。

SK10360 (図版 28・30・80)

66L14・15 に位置する。平面は梢円形、断面は弧状を呈する。規模は長径 0.79m・短径 0.63m・深さ 0.22m である。埋土は黒褐色粘土の単層である。

SK10228 (図版 28・30・80)

66L19・24 に位置する。平面は梢円形、断面は U 字状を呈する。規模は長径 0.72m・短径 0.58m・深さ 0.68m である。埋土は黒褐色粘土の単層である。

SK9975 (図版 32・36・87)

68N13・18・19 に位置する。SK9980・SK9981 を切る。平面は長方形、断面は弧状を呈する。規模は長径 1.65m・短径 0.78m・深さ 0.10m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SK9976 (図版 32・36・86)

68N19・20・24・25に位置する。SK9981・P9997・P10012を切る。平面は長方形、断面は箱状を呈する。規模は長径 2.37m・短径 1.15m・深さ 0.21m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。珠洲焼が出土した。

SK9980 (図版 32・36・87)

68N13に位置する。SK9975・9976に切られる。平面は残存部で方形、断面は弧状を呈する。残存値は長径 1.31m・短径 1.20m・深さ 0.21m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SK9981 (図版 32・36・87・88)

68N18・19・24に位置する。SK9976に切られる。平面は残存部で楕円形、断面は弧状を呈する。残存値は長径 0.85m・短径 0.81m・深さ 0.20m である。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SK10024 (図版 31・32・36・88)

68N2・7に位置する。P10032・P10035を切る。平面は長方形、断面は箱状を呈する。規模は長径 2.24m・短径 0.86m・深さ 0.41m である。埋土は 5 層で斜位に堆積する。土師質土器などが出土した。

SK10224 (図版 32・37・88)

67M19・20・24・25、67N4・5・9・10に位置する。P10453・P10454を切る。平面は楕円形、断面は弧状を呈する。規模は長径 2.90m・短径 1.58m・深さ 0.38m である。埋土は 10 層でレンズ状に堆積する。珠洲焼甕 (30・31) が出土した。

SK10016 (図版 32・38・89)

68N9・10・14・15に位置する。造構の南側が調査区外へ延伸する。平面は残存部で楕円形、断面は箱状を呈する。規模は、残存値で長径 2.62m・短径 1.15m・深さ 0.20m である。埋土は 4 層でレンズ状堆積である。

SK10018 (図版 32・38・89)

68N9・10・14・15に位置する。SE10227・SE10036・P10017を切る。平面は楕円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 3.00m・短径 1.15m・深さ 0.26m である。埋土は 4 層でブロック状に堆積する。

SK9944 (図版 40・45・96)

67O13・14に位置する。SD9941を切る。平面は円形、断面は箱状を呈する。規模は長径 0.89m・短径 0.80m・深さ 0.60m である。埋土は 3 層で斜位に堆積する。珠洲焼が出土した。

SK10115 (図版 40・45・96・97)

65O4・9に位置する。平面は円形、断面は V 字状を呈する。規模は長径 0.82m・短径 0.76m・深さ 0.65m である。埋土は 3 層で斜位に堆積する。

D 溝

溝は 40 条検出した。断面は弧状を呈するものが大部分を占め、少数ながら台形状や半円状もある。埋土は多くがレンズ状堆積と单層である。SD9622・SD9938 が区画溝、SD9941・SD9942・SD9943・SD9946 などが耕作溝、SD9501 が沢状の自然流路であったと推定する。溝の時期は出土遺物などから判断して、中世のものが主体を占めるが、SD9501 は中世以前である。また耕作溝には近世（以降）になるものも存在すると考えている。

SD9824 (図版 4・5・58)

61F・G・Hに位置する。平面はやや弧状を呈しながら東西方向に延伸する。規模は長さ 19.16m 以上・幅 0.66m・深さ 0.17m で、断面は半円状を呈する。埋土は 6 層でレンズ状に堆積する。

SD9501 (図版 4・5・11・58)

61G～63G、61H～63H、62I・63I、62J～64J に位置する。自然流路である。SD9520 を切る。規模は長さ 27.0m 以上・幅 2.82m・深さ 1.01m で、断面は半円状を呈する。

SD9526 (図版 6・9・63)

64G、64H に位置する。SE9527・SE9606、SK9624 を切る。東西方向に延伸する。規模は長さ 9.05m 以上・幅 0.71m・深さ 0.12m で、断面は弧状を呈する。埋土は灰黄褐色粘土の単層である。

SD9622 (図版 12・13・15・64)

64～67I、64～66J に位置する。南北方向に延伸し、南は調査区外へ、北は SD9519 に合流する。規模は長さ 33.91m 以上・幅 2.10m・深さ 0.74m で、断面は台形状を呈する。埋土は 7 層でレンズ状に堆積する。土師質土器皿 (9・10)、珠洲焼壺 (11) 珠洲焼甌 (12・13)・片口鉢 (14・15) 越前焼・甌 (16・18)、青磁碗 (17)、鉄滓、礫、杭、漆器などが出土した。

SD9519 (図版 6・11・12・13・64)

63I・64I に位置する。南北方向に延伸し、北は SD9501 に合流し、南は 64I8 付近で急激に立ち上がる。SD9622 が 63J16 付近で合流する。土師器小甌 (6)・杯または小甌 (7) が出土した。自然の沢状の落ち込みと考える。

SD9665 (図版 17・22・23・73)

63K・63L に位置し、東西方向に延伸する。規模は長さ 9.50m 以上・幅 0.86m・深さ 0.18m で、断面は弧状を呈する。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。土師質土器、珠洲焼などが出土した。

SD10237 (図版 24・27・79)

67L に位置し、南北方向に延伸する。規模は長さ 3.74m・幅 0.57m・深さ 0.15m で、断面は半円状を呈する。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SD10271 (図版 24・27・79)

66K・67K に位置し、南北方向に延伸する。規模は長さ 3.31m・幅 0.74m・深さ 0.09m で、断面は弧状を呈する。埋土は灰白色粘土の単層である。

SD10273 (図版 24・27・79)

66K に位置し、南北方向に延伸する。規模は長さ 2.79m・幅 0.55m・深さ 0.16m で、断面は台形状を呈する。埋土は 2 層でレンズ状に堆積する。

SD10274 (図版 24・27・79)

66K に位置し、南北方向に延伸する。規模は長さ 1.78m・幅 0.35m・深さ 0.05m で、断面は弧状を呈する。埋土は灰白色粘土の単層である。

SD10234 (図版 24・27)

66K・66L に位置し、南北方向に延伸する。SK10358、SX10235などを切る。規模は長さ 6.43m・幅 0.35m・深さ 0.09m で、断面は弧状を呈する。埋土は褐灰色土の単層である。

SD10021 (図版 29・30・81)

68L・M・N に位置し、東西方向に延伸する。SE10232・SD10191・SD10192・SD10193・SD10233、

SX10029 を切る。規模は長さ 13.48m 以上・幅 0.72m・深さ 0.07m で、断面は弧状を呈する。埋土は褐灰色粘土の単層である。

SD10184 (図版 29・30・81)

67M・68M に位置し、東西方向に延伸する。SD10191・SD10192・SD10193・SD10233 を切る。規模は長さ 7.74m 以上・幅 0.59m・深さ 0.08m で、断面は弧状を呈する。埋土は灰白色粘土の単層である。

SD10185 (図版 29・30・81)

67M・68M に位置し、東西方向に延伸する。SD10191・SD10192・SD10233 を切る。規模は長さ 6.25m・幅 0.54m・深さ 0.07m で、断面は弧状を呈する。埋土は灰白色粘土の単層である。

SD10191 (図版 28・29・30・81)

67M・68M に位置し、南北方向に延伸する。SD10021・SD10183・SD10184・SD10185 に切られ、遺構の南側は調査区外へと延伸する。残存値は、長さ 11.43m・幅 0.66m・深さ 0.13m で、断面は弧状を呈する。埋土は褐灰色粘土の単層である。土師質土器、珠洲焼壺（27）が出土した。

SD10192 (図版 28・29・30・81)

67M・68M に位置し、南北方向に延伸する。SD10021・SD10183・SD10184・SD10185 に切られ、遺構の南側は調査区外へと延伸する。残存値は長さ 11.85m 以上・幅 0.44m・深さ 0.21m で、断面は弧状を呈する。埋土は 2 層でレンズ状堆積である。土師質土器、珠洲焼壺（28）が出土した。

SD10193 (図版 29・30・81)

67M・68M に位置し、南北方向に延伸する。SD10021・SD10183・SD10184 に切られ、遺構の南側は調査区外へと延伸する。規模は、残存値で長さ 8.34m 以上・幅 0.71m・深さ 0.29m で、断面は台形状を呈する。埋土は 3 層で水平状堆積である。

SD10226 (図版 24・29・30・81)

67J・K・L・68L に位置し、東西方向に延伸する。開渠に切られ、SE10270 を切る。規模は、残存値で長さ 17.52m 以上・幅 0.49m・深さ 0.09m で、断面は弧状を呈する。埋土は灰白色粘土の単層である。

SD10233 (図版 29・30・81)

67M・68L・68M に位置し、南北方向に延伸する。SD10021・SD10183・SD10184・SD10185 に切られ、遺構の南側は調査区外へと延伸する。規模は、残存値で長さ 11.32m 以上・幅 0.68m・深さ 0.12m で、断面は箱状を呈する。埋土は褐灰色粘土の単層である。

SD9938 (図版 28・31・32・37・88)

67O・68O・67P・68P に位置し東西方向に延伸する。SD9941・SD9942・SD9943・SD9946・P9950・P9951 に切られる。溝の西側は調査区外に出るため全容は不明であるが、東側は 67N12 付近で二又に分かれ、それぞれ 67M17、67N1 付近で収束する。規模は、残存値で長さ 26.56m 以上・幅 2.43～2.70m・深さ 0.48～0.54m で、断面は弧状を呈する。埋土は 4 層で、レンズ状堆積である。断面からは、溝が埋没した後に再び掘削した様子がみてとれる。遺構の東端が SX10450 と重複しているが、埋土が近似するために新旧関係の判断はできていない。土師質土器皿（32～34）、珠洲焼片口鉢（36・37）、甕（35・38）、罐、木製品などが出土した。遺物は 1 層からの出土が多い。

SD9941 (図版 31・37・40・45・88・97)

65・66P、66・67O に位置し、南北方向に延伸する。SE10132、SK9944・P9945 に切られ、ほか

の遺構をすべて切る。残存値は、長さ 21.55m・幅 1.54 ~ 2.24m・深さ 0.10m で、断面は弧状を呈する。

埋土は褐灰色粘土の単層である。SD9942・SD9943・SD9946 に並行する。珠洲焼が出土した。

SD9942 (図版 32・40・45・97)

66O・67O に位置し、南北方向に延伸する。重複する遺構をすべて切る。残存値は長さ 15.58m 以上・幅 0.57 ~ 0.64m・深さ 0.06 ~ 0.12m で断面は弧状を呈する。埋土は褐灰色粘土の単層である。SD9941・SD9943・SD9946 に並行する。

SD9943 (図版 32・40・45・97)

67O に位置し、南北方向に延伸する。重複する遺構をすべて切る。規模は長さ 6.07m・幅 0.61m・深さ 0.09m で、断面は弧状を呈する。埋土は褐灰色シルトの単層である。SD9941・SD9942・SD9946 に並行する。土師質土器皿(46)が出土した。

SD9946 (図版 40・45)

67N・67O に位置し南北方向に直線的に延伸する。SD9938・P10067 を切る。規模は長さ 4.65m・幅 0.46 ~ 0.60m・深さ 0.05m で、断面は弧状を呈す。埋土は褐灰色シルトの単層である。SD9941・SD9942・SD9943 に並行する。

SD10111 (図版 40・45・97)

65・66O に位置し、南北方向に直線的に延伸する。P10429・SE10167 を切る。規模は長さ 2.82m・幅 0.61m・深さ 0.08m で、断面は弧状を呈する。埋土は褐灰色粘土の単層である。

SD10249 (図版 40・45・97)

66O に位置し、南北方向に直線的に延伸する。P10107 に切られる。規模は長さ 0.79m・幅 0.28m・深さ 0.10m で、断面は半円状を呈する。埋土は明緑灰色粘土の単層である。

E 性格不明遺構

性格不明遺構は 11 基検出した。平面は長方形・梢円形・不整形が見られ、断面は多くが弧状を呈する。側壁は垂直から急斜度が、底面は平坦なものが、埋土はレンズ状堆積が多く、ブロック状の堆積も見られる。性格不明遺構の時期は出土遺物などから判断して、おおむね中世の所産である。

SX9503 (図版 15・16・68)

66J20・67J16 に位置する。平面梢円形、断面は弧状を呈する。規模は長径 0.59m・短径 0.47m・深さ 0.11m である。埋土は黒褐色粘土の単層である。

SX10235 (図版 24・27・79)

67K18・19・22 ~ 24 に位置する。SD10234 に切られ、SE10277 を切る。平面は残存部で長方形、断面は弧状を呈する。残存値は、長径 3.61m・短径 1.19m・深さ 0.10m である。埋土は褐灰色粘土の単層である。土師質土器が出土した。

SX10002 (図版 32・38・89)

68N11・12・16・17・21・22 に位置する。SD10022 に切られ、SE10003 や P10195 などを切る。平面は長方形、断面は弧状を呈する。規模は長径 4.96m・短径 1.63m・深さ 0.12m である。埋土は褐灰色粘土の単層である。

SX10019 (図版 32・38・89)

68N15、69N11 に位置する。遺構のほとんどが調査区外へと広がるため全容は不明である。平面は残存部で楕円形と推定され、断面は箱状を呈する。規模は、残存値で長径 1.04m・短径 0.37m・深さ 0.31m である。埋土は 4 層でレンズ状堆積である。

SX10029 (図版 32・39・89)

68M18・19・22-24、68N2 ~ 4 に位置する。SD10021 に切られ、SE10232 を切る。遺構の南側が調査区外へと広がる。平面は残存部で長方形、断面は弧状を呈する。規模は、残存値で長径 4.20m・短径 1.33m・深さ 0.13m である。埋土は 6 層でブロック状堆積である。土師質土器皿 (39)、珠洲焼が出土した。

SX10030 (図版 32・39・89)

68N14・19 に位置する。SE10239、P10012 を切る。平面は不整形である。規模は長径 1.50m・短径 1.32m・深さ 0.25m である。埋土は 3 層でブロック状堆積である。

SX10031 (図版 32・39・90)

68N20、69N16 に位置する。遺構の南側が調査区外に広がる。平面は残存部で楕円形、断面は半円状と推定する。規模は、残存値で長径 1.29m・短径 0.81m・深さ 0.48m である。埋土は 3 層でレンズ状堆積である。

SX10450 (図版 46・47・97・98)

63L・63M、64L・64M、64N、65M・65N・65O、66M・66N・66O に位置する。自然の沢状地形である。調査区北西部の一角を占める沢状地形、北側が調査区外へと広がるため全容は不明である。規模は長さ 33.0m 以上、幅 13.5m 以上、深さ 0.63m 以上で、断面は弧状を呈すると推定される。埋土は 5 層に大別され、いくつかの層には枝番を付した。埋土の堆積状況はレンズ状である。埋土の様相が SD9501 と近似するが、調査区内では同一遺構と認められる確証を得られなかった。調査区外でそれぞれが繋がっている可能性が示唆される。64N10 付近や 63N5 付近などに入り江状の地形の変化が見られる。土師質土器皿 (49 ~ 59)、珠洲焼片口鉢 (61 ~ 70)・壺 (71 ~ 73・76)・壺 (74・75・77)・肥前系陶磁器 (80・81・84)・越前焼 (85)・青磁 (78・79・82) などが出土した。

第V章 遺物

1 概要

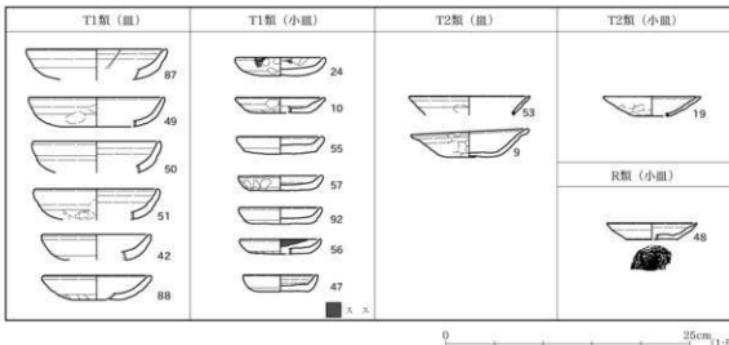
2016(平成28)年度の調査では、浅箱(内法長54cm×幅34cm×深さ10cm)換算で58箱の遺物が出士した。内訳は土器・陶磁器18箱、木製品18箱、石製品18箱、金属製品3箱である。遺物は、土師質土器、珠洲焼、越前焼、瀬戸・美濃焼、肥前系陶器、青磁、白磁、青白磁、木製品、石製品、金属製品、錢貨などが出土した。木製品では漆器椀、曲物のほか、馬具の舌長鎧が井戸(SE10270)から出土した。石製品の多くは砥石と石塔類である。時代は異なるものの石鐵1点が区画溝(SD9622)から出土した。石塔類(五輪塔・宝鏡印塔)は井戸(SE9623)から出土した。金属製品では、鉄斧、包丁、鑓などが見られる。これらの遺物は多くが中世の所産である。

記述は土器・陶磁器→木製品→石製品→金属製品の順で、土器・陶磁器については、遺構出土から遺物包含層出土の順、木製品、石製品、金属製品に関しては報告遺物が少量のため種別ごとにまとめて記述した。

2 遺物各説

A 土器・陶磁器

土師質土器、珠洲焼、越前焼、瀬戸・美濃焼、肥前系陶器、輸入陶磁器があり、器形により大別した。分類・年代観については、輸入陶磁器は〔上田1982〕・〔森田1982〕・〔山本2000〕、珠洲焼は〔吉岡1994〕、瀬戸焼・美濃焼は〔藤澤2008〕、肥前系陶器は〔大橋1989〕の論考を用いた。土師質土器については、品田氏・水澤氏などの論考〔品田1991・1999〕・〔水澤2005〕に従い、成形技法・形態などにより、手づくね成形をT類とし、形態によりT1類とT2類に細分し、ロクロ成形で底部糸切りをR類とした。また、口径10cmを境にして以上を皿、未満を小皿に細分した(第9図)。



第9図 土師質土器の分類

SB9867-P9626 (図版 48・99-1・2)

1は土師質土器皿T1類である。2は珠洲焼壺T種の底部である。静止糸切り痕が底面に残り、内面は滑らかである。

SK9624 (図版 48・99-3～5)

3は土師質土器皿T1類で、胎土中の石英や角閃石の含有量が他の土師質土器よりも多い。内外面に炭化物が付着する。4・5は珠洲焼である。4は片口鉢の体部で、9目1単位の卸目が1条残る。内面下部は使用により器面が凹凸になる。5は壺の体下部で、外面にタタキ、内面に当て具痕と輪粘土紐の痕が残る。

SD9519 (図版 48・99-6・7)

6は土師器の底部片で、全体が摩耗している。7は非口クロ成形の土師器の小甕または鉢である。器形は、全体的に歪みが大きい。内外面に無数の指頭圧痕が残る。時期は8～9世紀前半であろう。

SD9520 (図版 48・99-8)

8は珠洲焼の片口鉢である。器形は、体部から僅かに内傾しながら立ち上がる。口縁部上端に平坦な面を持ち、端部は斜めに挽き出される。平坦面には櫛目波状文が施されている。V期の所産である。

SD9622 (図版 48・99-9～18)

9・10は土師質土器である。9はT2類の皿で、底部から口縁部にかけて直線的に伸び、端部がやや外傾する。指頭圧痕が体部下半に残る。15世紀の所産である。10はT1類の小皿で、13世紀後半から14世紀前半の所産である。11～15は珠洲焼である。12・13は甕の口縁部、11は壺T種の体部である。14・15は片口鉢で、口縁部が外側を向く面を持つ。14は11目以上1単位の卸目が内面に1条、15は11目1単位の卸目が内面に2条残る。どちらもⅡ～Ⅲ期の所産である。16・18は越前焼の甕または壺である。16は体部片である。18の器形は底部から直線的に立ち上がる。外面に付着物、内部に降灰釉が掛かる。22は青磁の底部で、高台は破損し残存しない。山本分類の龍泉窯系碗IV類にあたり、14世紀初頭から後半の所産と推定する。

SE9623 (図版 48・99-19～21)

19は土師質土器小皿のT2類である。器形は底部から直線的に立ち上がり、口縁部は上方へわずかに挽き出される。指頭圧痕が体部下半に残るが、全体的に丁寧な作りである。20は青磁碗の底部で、豈付けから内側は露胎している。山本編年の龍泉窯系碗II類にあたり、13世紀中頃から14世紀初の所産である。21は珠洲焼甕の体部片を素材とする転用研削具である。外面のタタキが磨滅するほど使用されている。

SE9717 (図版 48・99-22)

22は越前焼の擂鉢である。器形は底部から直線的に立ち上がる。口縁部上面に平坦な面を持ち、端部は斜めに挽き出される。内面口縁下には沈線が巡る。9目1単位の卸目が7条内面に残存するが、底部に近いところは摩耗が著しく、卸目が消えている。炭化物が内面に付着する。15世紀に比定される。

SE10269 (図版 48・99-23)

23は珠洲焼の甕の底部である。器形は底部から外反して立ち上がる。底部外面は砂底である。割れ口の一部に炭化物が付着する。

SE10277 (図版 49・99-24)

24は土師質土器小皿T1類で、口縁部に炭化物が付着する。灯明皿としての使用が推定される。

SK9756 (図版 48・99-25)

25は珠洲焼の片口鉢口縁部である。口縁部上端に平坦な面を持ち、端部は外側へ少し挽き出す。

SK9814 (図版 49・99-26)

26は珠洲焼壺T種の底部である。器形は底部から直線的に立ち上がる。静止糸切り痕が底部外面に、底部外縁には指頭圧痕が残る。III期の所産である。

SD10191 (図版 48・99-27)

27は珠洲焼壺T種の体部である。調整痕はやや崩れた絞杉状のタタキが外面に施される。

SD10192 (図版 49・99-28)

28は珠洲焼片口鉢の底部である。静止糸切り痕が底面に、卸目の痕跡が内面に残る。しかし、内面は著しく摩耗し、卸目の単位など判別することは難しい。

SE10003 (図版 49・99-29)

29は土師質土器皿T1類で、口縁部外面に炭化物が付着する。13世紀後半から14世紀前半の所産である。

SK10224 (図版 49・100-30-31)

30・31は珠洲焼甕である。30は口縁部断面が丸みを持ち、やや水平方向に挽き出される。IVの所産である。31は珠洲焼甕の体部片を素材とする転用研削具である。外面のタタキが、使用されたことにより摩耗している。また、内面には細かい線状の擦痕が多数残る。

SD9938 (図版 49・100-32~38)

32~34は土師質土器皿T1類で、いずれも13世紀後半から14世紀前半の所産である。38は全体的に摩耗しており、口縁部内面には炭化物が付着する。33は器壁がやや厚みを持つ。34は口縁部内面には炭化物が付着する。35~38は珠洲焼である。36・37は片口鉢である。36は10目1単位の卸目が内面に3条残る。37は口縁部の上端中央がやや窪む面を持ち、端部は外側へ水平に挽き出される。3目以上1単位の卸目が内面に1条残る。外外面に炭化物が付着する。III期の所産である。35・38は甕で、38は体部、35は口縁部付近の破片である。

SK10029 (図版 49・99-39)

39は土師質土器皿T1類で、胎土中の石英や角閃石の含有量が他よりも多い。体部外面には炭化物が付着する。13世紀後半から14世紀前半の所産である。

P9911 (図版 49・99-40)

40は青磁の口縁部片である。口縁端部はやや外反し、外面に鏽蓮華文が残る。山本分類の龍泉窯系碗IIb類にあたり、13世紀の所産と推定する。

SE10057 (図版 48・100-41)

41は珠洲焼壺T種の底部である。器形は底部から外反して立ち上がる。静止糸切り痕が底部外面に、指頭圧痕が底部外縁に残る。底部内面に降灰が確認できる。体部には炭化物が付着する。

SE10321 (図版 48・100-42~44)

42は土師質土器皿のT1類で、胎土中の白色粒子などが他よりも多い。13世紀後半から14世紀前半の所産である。43は珠洲焼片口鉢である。口縁部上端に平坦な面を持ち、端部は外側へ水平に挽き出される。10目1単位の卸目が内面に2条残る。II~III期の所産である。44は瓷器系陶器壺または甕の底部である。

P9956・SD9622 (図版 50・100-45)

45は珠洲焼の片口鉢である。器形は、底部から直線的に立ち上がる。静止糸切り痕が底面に、削り技法による成形痕と指頭圧痕が底部外縁に残る。8ないし9目1単位の卸目が内面に隙間なく施される。IV期の所産である。

SD9943 (図版 50・100-46)

46は土師質土器皿T1類で、器面の摩耗が著しい。13世紀後半から14世紀前半の所産である。

P10107 (図版 49・100-47)

47は土師質土器小皿T1類で、口縁部外面にはススが付着する。13世紀後半から14世紀前半の所産である。

P10421 (図版 49・100-48)

48は土師質土器小皿R類である。回転糸切り痕が底面に残り、内外面には炭化物が付着する。15世紀の所産である。

SX10450 (図版 50・51・100・101-49～85)

49～58は土師質土器である。53のみT2類の皿で、それ以外はT1類の皿(49～52・54・58)と小皿(55～57)である。前者は15世紀に、後者は13世紀後半から14世紀前半に比定される。50の体部、51の内外面には炭化物が付着する。52は内外面に炭化物が付着する。60は古代の土師器甕口縁部である。

61～77は珠洲焼である。61～68は片口鉢の口縁部である。61は、体部から内湾気味に立ち上がり、口縁部上端は外側を向く面を持つ。端部は上方に強く挽き出され、断面は三角形を呈する。片口部の痕跡をわずかに残す。62は体部が内湾しながら立ち上がる。口縁部上端に内傾する面を持ち、端部は挽き出される。10目1単位の卸目が内面に1条、指頭圧痕が口縁部に残る。63は、体部から直線的に立ち上がり、口縁部上端は外側を向く面を持つ。端部は上方に強く挽き出され、断面は三角形を呈する。5目以上1単位の卸目が内面に2条残る。64は体部が直線的に立ち上がる。口縁部上端に内傾する面を持ち、端部は挽き出され、櫛目波状文が施される。10目1単位の卸目が3条残る。62・64はV期の所産である。65は、体部から直線的に立ち上がり、口縁部上端に外側を向く面を持つ。66は、体部から直線的に立ち上がり、口縁部上端に外側を向く面を持つ。端部は斜め下に挽き出される。4目以上1単位の卸目が内面に2条残る。61・63・65・16はⅡ・Ⅲ期の所産である。67は、体部から内湾気味に立ち上がる。口縁部上端にやや窪む面を持ち、口縁部上面には櫛目波状文が施されている。8目以上1単位の卸目が内面に1条残る。V期の所産である。69・70は片口鉢の底部である。69は単位不明の卸目が内面に複数条施され、複数の指頭圧痕が底部外縁に残る。内面は卸目が消えそうなほど摩耗が著しい。また、底部外縁の一部も摩耗する。70は10目1単位の卸目が内面に3条残る。静止糸切り痕が底部外縁に、指頭圧痕が底部外縁に残る。71～73・76は珠洲焼甕で、71～73は口縁部、76は体部である。74・75は甕T種で74は口縁部、75は体部である。77は甕R種の体部である。

78・79は青磁である。78は口縁部で、79は底部である。79は疊付けまで施釉され、高台の内側は釉を拂り取った痕跡が見られる。山本編年の竜泉窯系III類にあたり、13世紀後半ころの所産と推定する。80・81・84は唐津焼の皿である。81にはぶい橙色の地に灰釉が掛かるが、体部下半から高台内には掛からない。削り出し高台で、内面に胎土目が4か所残る。I期(16世紀末ころ)の所産である。

83は瀬戸美濃焼の天目茶碗である。器形は、やや内湾気味に立ち上がり、口縁部で上方に屈曲する。

端部はやや外反気味に挽き出される。鉄軸が体部中位まで掛かる。古瀬戸の後期様式II期にあたり、14世紀後半から15世紀前半の所産である。85は越前焼鉢の体部片である。内面には卸目が2条残る。

SX10450・SD10437 (図版51・101-86)

86は土師質土器皿のT1類で、13世紀後半から14世紀前半の所産である。

遺構外

87～94まで土師質土器で、すべてT1類の皿(87～91・93)と小皿(92・94)である。90は器形が全体的に歪む。スグが内外面に付着する。

95・96・98～101は珠洲焼の片口鉢である。95は体部が直線的に立ち上がり、口縁部上端に面を持つ。端部はあまり挽き出されない。器面はロクロナデによる凹凸が顕著である。14目1単位の卸目が内面に1条残る。IV期の所産である。96は、体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部上端に面を持つ。端部は上方に強く挽き出され、断面が三角形を呈する。片口部は外側へわずかに挽き出される。10目1単位の卸目が内面に1条残る。VI期の所産である。97は壺T種の底部である。静止糸切り痕が底面に、削り技法による成形痕が底部外縁に残る。内外面の磨耗が著しい。98は、体部が内湾し立ち上がる。口縁上端は外側を向く面を持つ。外面のロクロナデによる凹凸が擦れて磨耗している。100は全体的に摩耗が著しい。5目1単位の卸目が内面に3条ほどに残る。100は12目1単位の卸目が内面に1条残る。101は静止糸切り痕が底部外面に、指頭圧痕が底部外縁に残る。8目以上1単位の卸目が内面に3条残る。

102は唐津焼の口縁部である。103は唐津焼の皿で、灰軸がにぶい橙色の地に掛かる。ヘラケズリ痕から高台内に軸は掛からない。高台は削り出しで、高台内部の底面に墨書で「+」が書かれている。内面には砂目の痕跡が3か所残る。II期(17世紀前半)の所産である。104は青磁碗である。内面底部と体部の境に沈線が巡る。高台は内端接地である。上田編年では15世紀代の所産と考える。105は瀬戸・美濃焼の天目茶碗である。口縁部は、やや内湾気味に立ち上がり、口縁部で上方に屈曲する。端部はやや外反気味に挽き出される。鉄軸が体部に掛かる。古瀬戸の後期様式II期にあたり、14世紀後半から15世紀前半の所産と考える。106は瀬戸・美濃焼の袴腰形香炉である。回転糸切り痕が底面に残り、体部と底部の境に三足が付く。鉄軸が口縁部内面から体部に掛かる。墨痕が底部に付着する。古瀬戸の後期様式IV期新にあたり、15世紀後半の所産である。107は瀬戸・美濃焼折縁皿の口縁部で、2条の沈線が上面を巡る。108は唐津焼の溝縁皿で、軸は高台まで掛かるが、高台の内側は掛からない。高台は削り出しで、砂目の痕跡が残る。内面にも2か所残る。II-1期(17世紀前半)の所産である。109は白磁皿である。山本氏の編年で白磁皿IX類1b、13世紀後半から14世紀前半の所産である。110は青磁壺の底部である。111は青白磁梅瓶で13世紀の所産と見られる。112は越中瀬戸焼壺または匣鉢の底部で、回転糸切り痕が底面に、底部内面にはロクロナデ痕が残る。

B 木 製 品

木製品は、主に曲物、鍾、漆器、柱根などが出土している。このうち器種が分かるもの、用途不明のもののうち加工痕が特徴的なものを抽出し、19点掲載した。

曲物 (図版52・102-113・114)

113は底板と側板が残存する曲物である。SE9623から出土した。底板は柾目材を素材とする。木釘や木釘穴は見られず。桟皮綴じが3か所ある。側板は平面が潰れている。114は板目材を素材とする曲物の底板である。SE10036から出土した。桟皮綴じ組が1か所残存している。加工痕は明瞭ではない。

鎧 (図版 52・102-115)

115は板目材を素材とする馬具の鎧である。SE10270から出土した。舌部が伸びる形状から、舌長鎧であると考えられる。外外面に黒色漆が塗布され、内面には赤色漆も点々と残るが、文様などは見られない。鳩胸の上部から吊り手にかけては欠損するが、鳩胸の張り出しあまり強くはない。また、鳩胸の欠損部分の断面は整っており、切断されている可能性がある。鳩胸の両側には笑があるが、舌裏に至るまでの間で稜線が消滅する。柳葉についても欠損している。大きさは長さ 28.2cm、幅 13.3cm、高さ 7.6cm である。樹種はケヤキである。

鎌 (図版 52・102-116)

116は板目材を素材とする直柄平鎌であると考えられる。SE9514から出土した。正面と背面には、長軸に並行した加工痕が見られるが、磨減しているためはっきりとはしない。樹種はブナ属である。大きさは長さ 18.2cm、幅 10.7cm、厚さ 1.1cm である。

刀子形木製品 (図版 52・102-117)

117は柾目材を素材とする刀子形の木製品である。SX10450から出土した。全体的に炭化しており、加工痕ははっきりとしない。大きさは、長さ 17.1cm、幅 1.7cm、厚さ 0.7cm である。樹種はスギである。

杭 (図版 52・102-118)

118は心去材を素材とする杭である。杭 9683から出土した。棒状の原材について上端は平坦に、下端は鋭角的に加工している。断面形は四角形を呈する。樹種はスギである。

挽物 (図版 52・102-119～125)

119は柾目材を素材とする漆器挽である。SE9623から出土した。口縁部は欠損する。外面には黒色漆が塗布され、赤色漆による草花文が 2か所に描かれる。内面には赤色漆が塗布されている。樹種はブナ属である。120は柾目材を素材とする漆器挽である。SD9622から出土した。高台や体部の半分以上が欠損する。外外面に赤色漆、底面には黒色漆が塗布されている。樹種はブナ属である。121は横木取りの漆器挽である。SE10366から出土した。高台や体部の約半分が欠損する。外外面に黒色漆が塗布されている。樹種はケヤキである。122は横木取りの挽物の皿である。SE10366から出土した。半分以上が欠損しているが、残存部分では轆轤目が確認できる。樹種はブナ属である。123は柾目材を素材とする挽物の皿である。SE10366から出土した。ほぼ完形であり、外外面に轆轤目が確認できる。樹種はブナ属である。124は柾目材を素材とする漆器皿である。SX10450から出土した。外外面に黒色漆が塗布されている。底部は漆がはげており、約半分が欠損する。樹種はブナ属である。124は漆器挽である。SE9606から出土した。口縁部と高台は欠損している。外面には黒色漆が塗布され、その上から赤色漆で文様を描いていると考えられるが、欠損のため意匠は定かではない。内面には赤色漆が塗布されている。樹種はブナ属である。

器種不明 (図版 52-126)

横木取りの木製品である。SX10450から出土した。弧状に加工されている。用途は不明であるが、何らかの部材である可能性もある。樹種はスギである。新発田市住吉遺跡〔高橋ほか 2006〕の図版 84-851などに類例がある。手代木の可能性がある。

柱根 (図版 53-127～131)

127は丸木取りの心持材を用いる柱根である。SD9707から出土した。側面には長軸に並行した加工痕が見られるが、全体的に風化が著しい。底面は平坦に仕上げられている。断面は梢円形を呈する。樹種

はクマシテ属イヌシテ節である。128は丸木取りの心持材を用いる柱根である。P9601から出土した。側面には長軸に並行した加工痕が見られるが、風化が著しい。底面は多方向から加工されており、中心が張り出す形状である。断面は円形を呈する。樹種はサクラ属である。129は丸木取りの心持材を用いる柱根である。側面には、平面の下端に鉈や斧を使用したと考えられる鋭角的な加工が残る。底面は平坦に仕上げられている。断面は円形を呈する。樹種はクリである。130は丸木取りの心持材を用いる柱根である。側面には、長軸に並行した加工痕が見られるが、風化が著しい。底面は多方向から加工されており、中心が張り出す形状である。断面は円形を呈する。樹種はケヤキである。131は丸木取りの心持材を用いる柱根である。側面には、下端の一部に鉈や斧を使用したと考えられる鋭角的な加工が残る。底面は多方向から加工されており、平坦に仕上げられている。断面は円形を呈する。樹種はクリである。

C 石 製 品

石製品は主に砥石や五輪塔などが出土している。そのうち器種が分かるもの、用途不明のものうち加工痕が特徴的なものを抽出し、11点掲載した。

砥石（図版 53-132～137）

132は緑灰色を呈した砂岩製の砥石である。SX10450から出土した。全体的にもろく、触ると表面の砂が崩れそうな印象を受ける。断面は正方形で、上下両端を欠損している。正面・背面・側面のすべてに砥面がある。133は灰色を呈した安山岩製の砥石である。SD9622から出土した。断面は長方形を呈するが、側面や裏面を欠損しているため、正確な形状は不明である。正面に砥面がある。134は灰色を呈した安山岩製の砥石である。II層 64J18から出土した。断面は蒲鉾形を呈するが、側面や背面を欠損しているため、正確な形状は不明である。正面に砥面がある。135は灰色を呈した安山岩製の砥石である。断面は隅丸長方形を呈する。SD9622から出土した。正面と背面に砥面があると考えられるが、磨滅が著しくはつきりしない。端部は欠損している。136は灰色を呈した安山岩製の砥石である。SE10241から出土した。断面は長方形を呈するが、側面は全体的に欠損する。正面に砥面がある。137は灰色を呈した安山岩製の砥石である。II層 62K10から出土した。断面は台形を呈する。下端は欠損する。正面・背面・側面のすべてに砥面がある。

石鎚（図版 53-138）

138は頁岩製の凸基有茎の石鎚である。SD9622から出土した。基部は破損している。SD9622からは珠洲焼や陶磁器がある程度まとまって出土していることから、石鎚は同遺構の時期とは異なる遺物である。

五輪塔（図版 54・103-139～141）

139は黄褐色を呈した凝灰岩製の五輪塔の火輪である。SE9623から出土した。空隙が多く、含有物は少ない。黄色を呈するため、140や141と共に、在地石材の中山石〔大野・徳間 1990〕を用いたものである可能性がある。ホゾ穴はなく、種字も確認できない。大きさは上面幅 11.5cm、軒上幅 37.7cm、軒下幅 29.2cm、火輪高 24.8cm、軒中厚 4.7cm、軒端厚 4.5cm、返り高 1.4cm である。軒口には平撫様工具による痕跡が残る。140は黄褐色を呈した凝灰岩製の五輪塔の火輪である。SE9623から出土した。石の質が139よりも細粒であり、空隙も少ない。砂岩質との印象を受けるが、やや硬質である。黄色を呈するため、139や141とともに在地石材の中山石を用いたものである可能性がある。ホゾ穴は無く、正面に種字が確認できるが判別はできない。大きさは上面幅 10.4cm、軒上幅 26.7cm、

軒下幅 23.5cm、火輪高 20.0cm、軒中厚 4.6cm、軒端厚 5.7cm、返り高 2.7cm である。大きさや石の質が 141 の地輪と同程度であるため、同じ五輪塔の部材であった可能性が高い。軒口には平盤様工具を鋭角に当てて削った痕跡が残る。141 は黄褐色を呈した凝灰岩製の五輪塔の地輪である。SE9623 から出土した。石の質は 140 と類似しており、砂岩質でやや硬質である。黄色を呈するため、139 や 140 とともに在地石材の中山石を用いたものである可能性がある。正面には「ア一」と考えられる種字が確認できるが、全体的に風化や欠損がある。底面には平盤様工具による痕跡が多く残り、窪んでいる。当初この窪みは水輪を置くために加工されたものと想定したが、種字の天地と矛盾が生じている。しかし、五輪塔の水輪は完全な球ではなく、火輪と地輪に接する面は平らにカットされることもあるため、種字を優先して天地を決定した。大きさは地輪高 20.2cm、上幅 22.0cm、下幅 22.4cm である。大きさや石の質が 140 の火輪と同程度であるため、同じ五輪塔の部材であった可能性が高い。

宝篋印塔（図版 54・103-142）

142 は灰色を呈した礫岩製の宝篋印塔の基礎である。SE9623 から出土した。風化により表面が崩れやすくなっている。階段部分は存在せず、種字や格狭間は確認できない。大きさは高さ 34.1cm、上幅 33.3cm、下幅 29.9cm である。

器種不明（図版 54・103-143）

143 は黄褐色を呈した砂岩製の石製品である。II 層 64L17 から出土した。全体的にもろく崩れやすい。中山石と色は類似するが、それよりも軟質である。判別はできないが、正面は種字の可能性がある。断面は長方形を呈するが、背面や側面は欠損している。

D 金属製品

鉄製品は、鉄斧、刀子、鑿、鉄滓、錢貨が出土し、11 点図示した。

鉄斧（図版 54・103-144・145）

144 は袋状鉄斧である。SE9623 から出土した。柄に装着する部分が袋状になっており、袋部の断面は四角形を呈する。また肩部は有さず、刃部が扇状に広がる。大きさは、長さ 9.6cm、幅 4.9cm、厚さ 2.8cm である。145 は鉄斧である。SE9619 から出土した。鉄板を両側から折り返し、重ねている。刃部が折れているが、接合すると考えられる。大きさは刃部の長さ 4.9cm、茎部の長さ 9.6cm、幅 1.8cm、厚さ 0.5cm である。

刀子（図版 54・103-146・147）

146 は丸棟平造りの刀子である。SE9623 から出土した。腐食しており、茎に目釘穴は認められない。大きさは長さ 21.9cm、幅 3.2cm、厚さ 0.4cm である。147 は刀子の先端である。SD9526 から出土した。大きさは長さ 6.1cm、幅 1.8cm、厚さ 0.5cm である。

鑿（図版 54・103-148）

148 は鑿である。II 層 64K21 から出土した。上端が刃部であり、下端が柄との接合部（茎部）である。刃部については片刃である。胸部の断面は円形を呈し、鉄を折り返すような加工はしていない。茎部の断面は四角形を呈する。大きさは長さ 13.0cm、幅 1.6cm、厚さ 0.5cm である。

鉄滓（図版 54・103-149・150）

149 は鉄滓である。SD9622 から出土した。断面は円形を呈する。大きさは径 7.5～9.8cm である。

150 は鉄滓である。SX10450 から出土した。断面は円形を呈する。大きさは径 4.4～8.0cm である。

錢貨（図版 54・103・151～154）

151 は元祐通寶（1086 年初鑄）である。152 は祥符元寶（1009 年初鑄）である。153 は寛永通寶（1636 年初鑄）である。背文字や輪への刻印は見られない。「寛」字の 12 画と 13 画の頭が相接し、「寶」字の貝画末尾が「ス」（ス貝寶）になっているため、古寛永であると考えられる〔永井 1996〕。154 は元祐通寶（1086 年初鑄）である。

第VI章 自然科学分析

1 プラント・オパール

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_4) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山 2000・2009〕。また、イネの植物珪酸体の密度の消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山 1984〕。以下では、丘江遺跡において植物珪酸体分析を実施し、イネ科植物相について検討した。なお、同一試料を用いて花粉分析も行われている。

B 試料と分析法

調査区は北側の標高が低く、沢状地形を呈している。この沢状地形の東区では水田跡や流路が見つかっており、西区では幅約 15m の沢状の落ち込みが南北方向に伸びている。分析試料は、沢状の凹地において東壁から採取された 8 点 (No.1 ~ No.8) と、西区沢から採取された 6 点 (No.1 ~ No.6) の、計 14 点である。試料一覧表を第 2 表に、試料採取箇所を第 10 図の柱図形に示す。これらの試料について、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて次の手順で植物珪酸体の抽出と定量を行った。

- 1) 試料を 105°C で 24 時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約 1g に対し、直徑約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加 (0.1mg の精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550°C・6 時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42kHz・10 分間) による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これは、ほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0 と仮定) と各植物の換算係数（機動細胞珪酸

採取地点	資料 No.	層序	土層	年代
62G15 (BRB5D-D')	1	①層	灰褐色粘土 (10YR4/1)	15 ~ 17 世紀?
	2	②層上	灰褐色粘土 (10YR4/1)	
	3	②層下	灰褐色粘土 (10YR4/1)	
	4	③層	黑褐色粘土 (10VR3/1)	
	5	④層	黑褐色粘土 (10VR3/1)	
	6	⑤層	灰色シルト (5Y4/1)	
	7	⑥層	褐褐色粘土 (10YR4/1)	
	8	⑦層	灰色シルト (5Y4/1)	
SX0450 60N13 (BRB47A-A')	1	1b 層	明褐色粘土 (7.5YR7/2)	15 ~ 17 世紀?
	2	2 層	灰白色シルト (7.5YR8/1)	
	3	3b 層上	灰褐色粘土 (10YR5/1)	13 ~ 14 世紀
	4	3b 層下	灰白色粘土 多量	
	5	4 层	灰褐色粘土 (10YR3/1)	
	6	10 层	黑褐色粘土 (2.5YR3/1)	13 世紀以前

第 2 表 分析試料一覧表

体1個あたりの植物体乾重)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などが具体的にとらえられる〔杉山2000〕。なお、タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

C 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第3表および第10図に示した。主要な分類群について、顕微鏡写真を図版1に示す。

〔イネ科〕

イネ、ヨシ属、シバ属型、キビ族型、

ススキ属型(おもにススキ属)、ウシ

クサ族A(チガヤ属など)

〔イネ科-タケ亜科〕

チマキササ節型(ササ属チマキササ

節・チシマキササ節など)、ミヤコザサ

節型(ササ属ミヤコザサ節など)、マ

ダケ属型(マダケ属、ホウライチク属)、

未分類等

〔イネ科-その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに

結合組織細胞由来)、茎部起源、未分

類等

〔樹木〕

その他



第10図 植物珪酸体分析結果

分類群	学名	地点・試料						実験						調査区					
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6				
イネ科	Gramineae																		
イネ	Oryza sativa	6	13	7	14	7	—	—	—	55	6	7	7	6	7				
ヨシ属	Poaceae	6	—	7	—	—	7	—	7	—	7	13	12	7					
シバ属	Zizaniopsis	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
キビ族	Pennisetum	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
ススキ属	Miscanthus	13	7	7	14	7	7	14	7	14	6	14	33	31	26				
ウシクサ族A	Andropogoninae A type	6	7	7	27	7	7	14	7	34	6	48	33	56	86				
タケ亜科	Bambusoideae																		
チマキササ節型	Sasa sect. Sasa etc.	58	33	40	34	40	26	28	50	34	25	48	80	50	53				
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Cissoidi	32	20	20	14	7	7	28	7	7	13	14	33	37	13				
マダケ属	Phragmatochloa	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				
未分類等	Others	45	13	47	7	40	26	56	28	34	25	48	53	62	40				
その他	Others																		
表皮毛起源	Husk hair origin	13	7	20	7	7	7	7	7	14	6	14	7	19	26				
棒状珪酸体	Rodshaped	51	20	13	34	53	52	21	21	55	6	48	66	56	119				
茎部起源	Stems origin	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7				
未分類等	Others	38	13	20	27	27	26	35	21	41	31	55	53	81	60				
樹木	Arborescent																		
その他	Others	13	7	7	—	—	—	—	—	—	—	—	12	—	—				
海綿細胞	Spongic epidermis	13	13	20	20	7	7	21	29	—	28	18	27	6	40				
総計	Total	200	138	187	191	220	152	210	141	308	126	303	279	450	452				
おもな分類群の算定生産量(単位: kg/m²·cm): 試料の面積を1.0と仮定して算出																			
イネ	Oryza sativa	0.19	0.39	0.20	0.40	0.20	—	—	—	1.61	0.19	0.20	0.20	0.18	0.19				
ヨシ属	Poaceae	0.00	0.00	0.00	1.61	—	0.44	—	—	0.83	0.43	0.44	0.78	0.42	0.42				
シバ属	Poaceae	0.16	0.08	0.17	0.08	0.08	0.17	0.09	0.17	0.08	0.17	0.17	0.41	0.39	0.23				
キビ族	Oryza sativa	0.43	0.25	0.30	0.26	0.38	0.30	0.21	0.37	0.26	0.19	0.36	0.60	0.37	0.40				
ススキ属	Miscanthus	0.10	0.06	0.04	0.02	0.02	0.08	0.02	0.02	0.04	0.04	0.19	0.11	0.04	—				
タケ亜科の比率(%)																			
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.	82	81	83	86	94	91	21	95	93	83	90	86	77	91				
チマキササ節型	Sasa sect. Cissoidi	18	19	17	14	6	9	29	5	7	17	10	14	23	8				
メダカ属	Meteoda	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

第3表 植物珪酸体分析結果

D 考 察

1) 稲作跡の検討

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料 1gあたり 5,000 個以上の高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山 2000〕。なお、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があるため、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討する。

a 62G15

No.1 から No.8 までの層準について分析を行った。その結果、No.1 から No.5 までの層準からイネの植物珪酸体が検出されたが、密度はいずれも 600 ~ 1,400 個 /g と低い値である。イネの植物珪酸体の密度が低い理由としては、稲作が行われていた期間が短かった可能性、土層の堆積速度が速かった可能性、採取地点が畦畔などで耕作面ではなかった可能性、および上層や他からの混入の可能性などが考えられるが、今回の詳細は不明である。

b SX10450 (66N13)

No.1 から No.6 までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネの植物珪酸体が検出された。このうち、No.1 では密度が 5,500 個 /g と高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層準では、密度が 600 ~ 700 個 /g と低い値である。イネの植物珪酸体の密度が低い理由としては、前述のような可能性が考えられる。

2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれる分類群には、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクヒエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には検討が不十分な分類群もあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来する分類群が含まれている可能性がある。これらの分類群の起源植物の究明については、今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畠作物は分析の対象外である。

3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、全体的にススキ属型、ウシクサ族 A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出され、多くの層準でヨシ属も認められたが、いずれも比較的少量である。また、部分的にキビ族型、樹木（その他）なども検出され、SX10450 の No.1 ではマダケ属型が出現している。おもな分類群の推定生産量によると、量的には少ないものの、おおむねチマキザサ節型が優勢であり、部分的にヨシ属も比較的多くなっている。

以上の結果から、各層準の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような比較的温潤な環境であったと

考えられ、この湿润な場所を利用して調査地点もしくはその近辺で水田耕作が行われていたと可能性が高い。また、周辺の比較的乾燥したところには、ササ属（おもにチマキザサ節）などの苞類をはじめ、ススキ属、ウシクサ族なども生育していたと考えられる。

ササ属のうち、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ないところに分布し、冬季の乾燥に適応しているが、チシマザサ節やチマキザサ節は日本海側の多雪地帯に分布し、冬季の乾燥に弱い〔室井 1960、鈴木 1996〕。今回の試料では、後者が優勢であるため、堆積当時は相対的に積雪（降水量）の多い気候環境であったと推定される。

E ま と め

植物珪酸体分析の結果、SX10450 の No.1 ではイネの植物珪酸体が多量に検出され、耕作が行われていた可能性が高いと判断された。また、62G15 の No.1 ~ No.5、SX10450 の No.2 ~ No.6 でも少量ながらイネの植物珪酸体が検出され、調査地点もしくはその近辺で耕作が行われていた可能性が認められる。

各層準の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような比較的湿润な環境であったと考えられ、湿润な場所を利用して調査地点もしくはその近辺で水田耕作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところには、ササ属（おもにチマキザサ節）などの苞類をはじめ、ススキ属、ウシクサ族なども生育していたと考えられる。

引用・参考文献

- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9、15-29。
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査—、考古学と自然科学、17、73-85。
- 室井 韶（1960）竹籠の生態を中心とした分布、富士竹類植物園報告、5、103-121。
- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケア科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—、考古学と自然科学、19、69-84。
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）、辻誠一郎編「考古学と植物学」：189-213、同成社。
- 杉山真二（2009）植物珪酸体と古生態、小杉康ほか編「大地と森の中で—縄文時代の古生態系—縄文時代の考古学3」：105-114、同成社。
- 鈴木貞雄（1996）日本タケ科植物図鑑、聚海書林、271p.

2 花 粉 分 析

A は じ め に

新潟県柏崎市に所在する丘江遺跡において、古植生を検討するために花粉分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、同一試料について植物珪酸体分析も行われている（第2表）。

B 試 料 と 方 法

調査区は北側の標高が低く、沢状地形を呈している。この沢状地形の東区では水田跡や流路が見つかっ

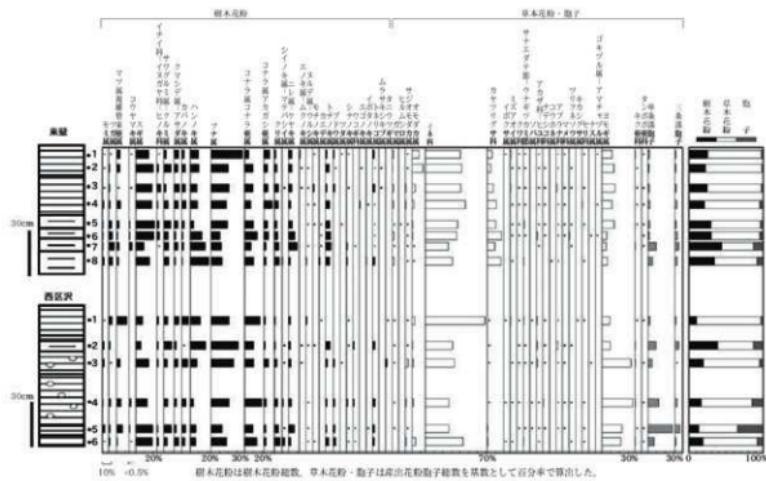
ており、西区では幅約15mの沢状の落ち込みが南北方向に伸びている。分析試料は、沢状地形の東側(62G15No.1～8)と西側(SX10450No.1～6)から採取された計14点である。分析試料一覧を第2表に示す。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

試料（湿重量約3～4g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。各プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC.2123～2130）を作製し、写真を図版1に載せた。

C 結 果

14 試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 41、草本花粉 33、形態分類のシダ植物胞子 2 の総計 76 である。これらの花粉・胞子の一覧表を第 3 表に、花粉分布図を第 11 図に示した。花粉分布図では、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を、草本花粉・胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基準とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン (-) で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やユキノシタ科、バラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

検鏡の結果、樹木花粉組成は2地点間や層位間に顕著な違いは見られなかつた。樹木花粉で産出が目立つ分類群には、スギ属やサワグルミ属ークルミ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属などがある。草本花粉組成では、2地点間に若干の相違が見られ、62G15は、ガマ属やカヤツリグサ科が産出している。



第11圖 花粉分布圖

学名	和名	6K15								SX10450								
		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	
Bl. A.		-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Podocarpus	マキ属	-	-	-	1	3	2	2	2	4	1	4	4	2	6	1	-	
Atheros	モミ属	1	1	2	3	4	7	9	12	9	8	4	5	1	4	3	-	
Bartsia	モクセイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Bartsia vulgaris, Diplotaxis	ワツノ属	9	8	1	9	6	3	6	4	25	-	9	11	14	2	-	-	
Pinus sylvestris, Buplodes	マツ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Scaevola	コウヤマキ属	1	-	1	-	2	2	7	-	-	-	-	4	2	1	-	-	
Cryptomeria	スギ属	31	41	38	37	45	42	19	32	16	16	31	29	39	39	-	-	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イガヤ科-ヒノキ科	1	3	8	3	5	6	1	-	3	3	3	-	2	3	-	-	
Sols	ナナカマド属	-	-	-	-	2	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	
Miria	ナツメ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
Himantandra	アグニノ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Proteaceae-Aglaonoma	サワダラク属-アグロノ属	6	18	5	10	17	10	12	12	10	20	9	10	19	19	-	-	
Cyperaceae-Osmia	カクシノリ属-アザラシ属	11	9	13	9	9	4	9	3	12	5	9	6	5	11	-	-	
Corylus	ハシバミ属	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Betula	カバノ属	6	8	8	9	6	2	4	1	15	1	14	10	8	7	-	-	
Alnus	ハンノキ属	19	20	16	16	8	27	35	42	23	36	8	13	12	-	-	-	
Fagus	ブナ属	76	41	42	39	29	21	25	26	43	66	55	46	26	37	-	-	
Quercus ilexigena, Lepidobalanus	クヌク属-ココナラ属	10	10	10	10	10	21	16	21	36	22	20	19	20	29	-	-	
Quercus ilexigena, Cyclobalanopsis	コナラ属-カシノ属	12	8	9	9	8	11	5	2	11	6	4	5	-	-	-	-	
Cinnamomum	クリ属	4	6	10	9	6	8	11	11	2	2	6	8	10	13	-	-	
Citrus-Pasania	シノノイモ-マテバシイ属	-	-	1	-	-	-	-	1	-	1	1	3	1	6	-	-	
Ulmus-Zelkova	ニレ属-ケヤキ属	7	7	7	5	8	14	20	3	4	4	6	7	13	5	-	-	
Celtis-Aphananthe	エノキ属-ムクノキ属	9	1	1	-	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	
Phellodendron	カハラ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	
Rhus-Tora-Zanthoxylum	カシワ属-カルシナ属	-	1	1	1	1	-	1	1	2	1	1	1	1	1	-	-	
Ber	モクノ属	2	-	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Celastraceae	ニシキイモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Acer	カエデ属	-	-	-	-	1	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	
Aesculus	トチノキ属	3	8	3	9	10	12	13	9	-	11	4	3	2	7	-	-	
Mitis	ブドウ属	32	1	3	-	-	-	-	-	-	-	3	4	4	6	-	-	
Parthenocissus	ツタ属	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
Juglans	シロクマ属	1	-	1	-	-	-	1	2	2	4	1	3	1	1	-	-	
Grewia	カバノ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	1	1	-	
Artocarpus	ウコギ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Eriobotryaceae	ツヅジ科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Styrax	エゴノ属	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Liquorice	イボタノキ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Francoa	トネリコ属	4	1	5	1	1	3	1	5	-	6	-	7	4	4	-	-	
Callipepla	ムラサキサルキ属	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Whipplea	タコウカ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
O. S.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	
Diptera	ダマ属	9	5	9	10	3	12	1	11	1	1	2	2	2	2	-	-	
Psammopteryx	ヒルシムロ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Alone	サジョノダラ属	2	4	6	6	3	3	1	2	7	1	35	14	3	9	-	-	
Sympetrum	オモダラ属	69	120	30	23	5	6	1	1	69	5	16	21	46	46	-	-	
Gramineae	カヤリクサ属	337	394	330	447	260	247	123	181	1380	171	370	363	425	477	-	-	
Oxybaphus	アサガホリクサ属	47	40	56	104	70	13	42	92	2	2	3	6	8	8	-	-	
Commelinaceae	ツユクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Anemone	イボクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Monochoria	ミズアオイ属	10	3	5	2	3	2	-	1	16	-	3	2	-	3	-	-	
Muraceae	クワリ属	4	3	1	1	1	1	-	-	2	1	1	1	1	1	-	-	
Polygonaceae sect. Persicaria-Echinocephala	サンエイナ属-ウナギサカモ属	1	2	1	1	1	1	-	4	18	1	2	1	2	7	-	-	
Fagopyrum	アザレゾリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	
Osmundaceae-Amaranthaceae	チジク属-ヒユク属	3	3	3	1	2	6	1	-	14	6	5	6	1	3	2	-	
Coriagrostis-Baccharis	チジク属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	12	7	-	-	
Thlaspi	カラマツリク属	-	-	-	1	1	1	-	-	2	-	2	1	-	-	-	-	
Brassicaceae	アラタ科	1	2	5	3	2	2	-	1	3	9	1	1	1	1	-	-	
Solidaginaceae	ヨキノクサ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	
Rosaceae	バラ属	-	1	2	2	1	1	-	-	-	-	1	1	-	1	3	-	
Lampranthus	マツメ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
Leguminosae	マメ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	2	1	-	
Ipomoea	アリカ属	-	1	1	1	2	4	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	
Rourea	キシガシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	
Epilobium-Ludwigia	アカバナ属-ミズヨクノシタ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	1	1	
Asteliaceae	セリ科	2	-	1	5	2	-	-	1	2	-	1	1	1	1	1	1	
Flacourtiaceae	シソ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
Actinomma-Gymnosperma	オハラ属	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
Androstachy-Xanthium	ゴキブリ属-アマチャヅチ属	1	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Arenaria	タブタケ属-オナモ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	
Tubuliflorae	キク科	6	1	1	2	-	3	-	5	4	6	7	8	3	7	-	-	
Lignophytes	ラン科-ボウルズ科	3	-	1	1	1	1	-	4	-	5	2	6	4	4	-	-	
シダ植物		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
microspore type spores	キラスカロ子	16	11	12	21	15	11	43	31	49	49	51	163	443	75	-	-	
triad type spores	二重微孢子	9	8	11	22	10	21	19	16	16	23	2	36	94	12	-	-	
Aralian pollen	樹木花粉	210	206	202	209	207	203	205	200	206	209	210	219	201	205	-	-	
Nonaralior pollen	草本花粉	697	712	581	727	473	448	198	335	1749	261	841	922	822	811	-	-	
Spores	シダ植物花粉	25	19	23	43	25	32	62	47	65	72	53	199	537	337	-	-	
Total Pollen & Spores	花粉・孢子数	832	937	806	971	703	684	-	-	-	2020	542	1104	1340	1560	1103	-	-
unknown	不明	5	5	11	6	8	2	13	10	4	8	4	10	6	12	-	-	

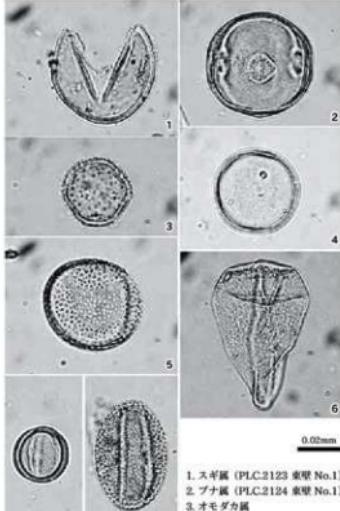
第4表 產出花粉・胞子一覧表

るが、SX10450ではこれらの分類群の産出が少ない。逆にSX10450ではヨモギ属の産出が62G15よりやや多く、栽培植物のソバ属が検出されている。

D 考 察

62G15とSX10450の2地点の分析試料から検出された花粉化石群集の組成には、共通する部分と相違が見られる部分がある。双方の試料と共に通するのは、樹木花粉がほぼ同一の組成を示している点である。樹木は風媒花であるため、遺跡周辺に生育する樹木から飛散した花粉が沢状地形の周辺に均一に堆積したと考えられる。樹木花粉では落葉広葉樹の産出が目立つ。ブナ属をはじめクマシデ属ーアサダ属、カバノキ属、コナラ属コナラ亜属、クリ属などが遺跡周辺の丘陵地に生育していたと思われる。丘陵地の沢沿いなど比較的の水分条件の良好な場所には、サワグルミ属ークルミ属ニレ属ーケヤキ属、トチノキ属なども分布を広げていたであろう。さらに、低地にはコナラ属アガシ亜属などからなる照葉樹林やハンノキ属やトネリコ属などからなる湿地林も存在していたと思われる。スギ属の産出も多く見られ、低地から丘陵地にかけてスギ林も分布していたと考えられる。樹木花粉組成に層位的な違いは顕著には見られないため、こうした樹木植生は試料堆積期間に継続して見られたと考えられる。また、東側と西側の両地点ではイネ科の多産と共に、水田雜草を含む分類群であるサジオモダカ属やオモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、キカシグサ属(西区沢のみ)の産出が確認できた。沢状地形において水田稻作が行われていた可能性がある。植物珪酸体分析においても沢状地形の東側と西側の同一試料からイネの機動細胞珪酸体の産出が確認されおり、水田の存在を裏付ける。

62G15とSX10450の花粉化石群集で相違が見られるのは、草本花粉組成である。62G15では、ガマ属やカヤツリグサ科の産出が目立つが、SX10450では少ない。ガマ属は抽水植物であり、カヤツリグサ科はスゲ属など好湿性を含む分類群である。これらの分類群の産出状況の違いは水分条件の違いを示している可能性がある。すなわち、同じ沢状地形でも、場所によって若干の相違があり、62G15では水分条件が比較的良好であったため、抽水植物のガマ属や好湿性植物のカヤツリグサ科が多く生育していたが、SX10450は水分条件がやや劣悪であったため、これらの分類群の生育が乏しかった可能性が考えられる。SX10450ではヨモギ属がやや多く産出しておらず、比較的乾燥した状態にあった西側でヨモギ属が分布を広げていたと思われる。さらには、西区沢のみで栽培植物のソバ属が検出された。沢状地形では水田稻作が行われていた可能性があるが、比較的乾燥状態にあった西側はソバ栽培に適していったため、稻作と共にソバ栽培が行われていた可能性が考えられる。



1. イネ科 (PLC.2126 東壁 No.1)
2. ガマ属 (PLC.2127 東壁 No.1)
3. カヤツリグサ科 (PLC.2128 東壁 No.1)
4. ヨモギ属 (PLC.2129 東壁 No.1)
5. ソバ属 (PLC.2130 西区沢 No.1)

第12図 産出した花粉化石

3 大型植物遺体分析

A はじめに

ここでは、鎌倉時代～室町時代（13～15世紀）の遺構から得られた大型植物遺体を同定し、食用などに利用された植物や、栽培植物の栽培状況、当時の植生について検討する。

B 試料と方法

試料は水洗済みの試料で、11 遺構から採取された 30 袋である。試料は、井戸（SE）の底面や墓と推定されている土坑（SK）の覆土、性格不明遺構（SX）の覆土から採取された。

堆積物の水洗と大型植物遺体の抽出は、新潟県埋蔵文化財調査事業団で行なわれた。水洗は、5.0mm、3.0mm、1.0mm 目の篩を用いて行われた。井戸については、全点同定し、土坑と性格不明遺構は、5.0mm と 3.0mm 目の篩に回収された大型植物遺体のみを検討した。

同定可能な分類群の抽出・計数・同定は、肉眼および实体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても 1 個体とみなせるものは完形として数え、1 個体に満たないものは破片とした。試料は、新潟県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

C 結 果

同定した結果、木本植物では広葉樹のコブシ種子と、アオツヅラフジ核、ヤマブドウ種子、ウメ核、キイチゴ属核、エノキ属核、クワ属核、クリ果実、キブシ種子、トチノキ炭化種子、カラスザンショウ種子、サンショウ種子、カキノキ種子、炭化種子、クサギ種子、ニワトコ核、タラノキ核の 16 分類群、草本植物では、ツユクサ種子と、ヘラオモダカ果実、炭化果実、ウキヤガラ果実、スゲ属アゼスク節果実、ハリイ属果実、テンツキ属果実、炭化果実、サンカクイーフトイ果実、ホタルイ属果実、ミクリ属核、ヒエ炭化有ふ果、炭化種子、ヒエ属炭化種子、イネ炭化糊・糊殼、炭化糊殼、炭化種子、アワ炭化有ふ果、炭化種子、エノコログサ属有ふ果・炭化有ふ果、オオムギ炭化種子、コムギ炭化種子、ムラサキマン種子、クサネム果実・炭化果実、ダイズ属炭化種子、ササゲ属アズキ亞属炭化種子、アサ核・炭化核、カナムグラ核、メロン仲間種子、ヒヨウタン仲間種子、カタバミ属種子、エノキグサ属種子、スミレ属種子、ソバ果実、ヤナギタデ果実・炭化果実、イヌタデ果実、サナエタデーオイヌタデ果実、ミチヤナギ属果実、イヌタデ属 A 炭化果実、イヌタデ属 B 炭化果実、アリノトウグサ属種子、アカザ属種子、キケマン属種子、ミドリハコベ種子、ナス種子、ナス属種子、キランソウ属果実、メハジキ属果実、エゴマ果実、シソ属果実・炭化果実、ニガクサ属果実、タカサボウ果実、ゴボウ果実、メナモミ属果実、オナモミ属苞、オトコエシ属果実、セリ果実の 51 分類群、シダ植物ではワラビ裂片の 1 分類群の、計 68 分類群が見いだされた。この他に、植物遺体ではないが硬質の不明の遺体が得られ、不明とした（第 4 表）。

以下、産出した大型植物遺体について遺構別に記載する（同定不能種実は除く）。

SE9514：ヘラオモダカが非常に多く、キイチゴ属とホタルイ属、シソ属が多く、イヌタデがやや多く、エノコログサ属とエノキグサ属、アサ、アカザ属、メナモミ属が少量、エノキ属とイネ、オオムギ、クサネム、メロン仲間、カタバミ属、ヤナギタデ、オトコエシ属、ワラビがわずかに得られた。

SE9619：エノキ属が少量、エノキグサ属とイヌタデ、シソがわずかに得られた。この他の分類群は産

3 大型植物遺体分析

分類群	種類	測定								不明
		SE9514	SE9619	SE9688	SE10001	SE10015	SE10037	SE10167	SE10321	
コブシ	種子						2			2
アオツヅラフジ	核									4
ヤマブドウ	種子		(1)			1(5)	(2)	(1)		
ウメ	核					(4)				
モミジチゴ属	核	119(21)		1(1)		2(1)	5(3)	3		
エニキ属	核	2(3)	3(19)			2(9)				
クワ属	核							1		
ヨリノキ	葉実							(5)		
カブシ	種子						4(1)	7		
トチノキ	炭化種子							(6)		
カラスガシ属	種子					1(1)	(1)	1(1)		
サンショウ属	種子		(1)	(4)						
カキノキ	種子							(1)		
クサギ	種子		(1)				7(2)	(1)		
ニワトコ	核						2(1)			1
ガリメノ属	核		1							
ツユクサ	種子		1				(1)			
ヘルオモダカ	葉実	265	2				1			
ウカセカラ	炭化葉実						1			
スケcip/アゼク属	葉実						15			
ハリイ属	葉実					35(1)	4	104(10)	39(3)	
テンツク属	葉実							(13)	1(3)	
サンカクイ-フト子	葉実							4		
ホタルイ属	葉実	103(4)	1	5	1	25	6	70(9)	74(7)	
ミクリ属	核				2	41(2)	1		2	
ヒニ	炭化木本葉								13	
ヒエ属	炭化木本葉							1	21	
イキ	炭化核						2			
ツバ	核	2				1	(1)	(2)	1(10)	(5)
							3(1)	(1)	(5)	(6)
アワ	炭化核			(1)		2(1)		15(16)	352 ^b 3.2kg	258 ^a 2.37g
										1(2)
エノコロガサ属	乾木根	28(3)		1(3)		10(6)	1	(4)	17(6)	
オオムギ	炭化木本葉							1	4	
コムギ	炭化木本葉	1		2			1	4(2)	1	
ムラサキケマン	種子		2					8		
クサトム	葉実	(8)					1			1
ダイズ属	炭化種子								1	
ササゲ属/アズキ也属	炭化種子						1(3)	3(3)		
アサ	核	(13)			3(24)	2(15)	(5)	(76)	9(150)	(12)
										2(1)
カナムグラ	核						1(2)	1		
メロン属	種子	(1)			2(3)	(1)		3(5)		
ヒョウラン属	種子				(10)			2(3)		
カラハバ属	種子	3								
エノシタ属	種子	8(12)	1(4)	2(14)			1(1)	8(31)	8(5)	
スマレ属	葉実						1	10(6)		
ソバ	葉実					9(11)	3			
サナギギ	葉実	2				(2)	58(29)	8(8)	18(1)	
									1	
イヌタチ	葉実	43(7)	2(2)	12(9)			7	21(7)	16(4)	
サナギギ-オオイヌタチ	葉実					2(2)		1	1(20)	
スチサギ属	葉実							1		
イヌタチ属A	葉実									
イヌタチ属B	炭化葉実						1			
アリノウツブ属	種子								1	
アガバ属	種子	17		3		1	1	58(8)	56(3)	
アケビ属	種子					1		16(2)	80(2)	
エドリココベ	種子							2(1)		
ヌス	種子		1		6	1		7(1)	10(1)	2
ナス属	種子	1								
カラシナ属	葉実					1	1	8(11)	1	
メハジキ属	葉実					1				
エゴマ	葉実				(2)	3(1)			32(7)	
シソ属	葉実	249(9)	3	7		5(2)	6	20(9)	13(1)	
									1	
ニガクサ属	葉実							2		
タケツブ属	葉実					1				
ゴボウ属	葉実							2		
メモリ属	葉実	23(1)	1				1(1)	1		
オナモリ	細胞							(1)		
オトコシソ属	葉実			2						
セリ	葉実							1		
ワラビ	剪片	1								
判定不能	炭化葉実								(2)	
不明									1	

①炭化個体数
イチ炭化種子10点の重量を0.092gとして炭化個体に換算した場合の数。

第5表 出土した大型植物遺体（括弧内は被片数）

出数 2 点以下であった。栽培植物ではイネがわずかに得られた。

SE9688 : エノキグサ属とイヌタデが少量、サンショウとホタルイ属、エノコログサ属、アカザ属、シソ属がわずかに得られた。この他の分類群は産出数が 2 点以下であった。栽培植物ではオオムギとナスがわずかに得られた。

SE10001 : アサが非常に多く、ホタルイ属とミクリ属、メロン仲間とヒヨウタン仲間、ナス、エゴマがわずかに得られた。

SE10015 : ハリイ属とホタルイ属、ミクリ属、エノコログサ属、アサ、ソバが少量、イネとエゴマ、シソ属がわずかに得られた。この他の分類群は産出数が 2 点以下であった。栽培植物ではメロン仲間とナスがわずかに得られた。

SE10037 : ヤナギタデがやや多く、キイチゴ属とホタルイ属、イネ、アサ、ソバ、イヌタデ、シソ属がわずかに得られた。この他の分類群は産出数が 2 点以下であった。栽培植物ではオオムギとナスがわずかに得られた。

SE10167 : ハリイ属が多く、ホタルイ属とアサ、アカザ属がやや多く、テンツキ属とイネ、エノキグサ属、スミレ属、ヤナギタデ、イヌタデ、キケマン属、シソ属が少量、ヤマブドウとウメ、キイチゴ属、エノキ属、キブシ、ニワトコ、サンカクイ・フトイ、オオムギ、コムギ、ダイズ属、ササゲ属アズキ亞属、カナムグラ、メロン仲間、ヒヨウタン仲間、ミドリハコベ、ナス、キランソウ属がわずかに得られた。この他の分類群は産出数が 2 点以下であった。栽培植物ではヒエとゴボウがわずかに得られた。

SE10321 : イネが非常に多く、アサが多く、ホタルイ属とアカザ属、キケマン属がやや多く、ハリイ属とヒエ、アワ、エノコログサ属、エノキグサ属、ヤナギタデ、サナエタデ・オオイヌタデ、ナス、エゴマ、シソ属が少量、キイチゴ属とクリ、キブシ、トチノキ、カキノキ、スグ属アゼスグ節、テンツキ属、ダイズ属、ササゲ属アズキ亞属がわずかに得られた。この他の分類群は産出数が 2 点以下であった。

SE10339 : イネが非常に多く、アサが少量、ヤマブドウとカキノキ、ナスがわずかに得られた。

SX9623 : オオツヅラフジとクサギ、ムラサキケマン、アサ、イヌタデがわずかに得られた。

SK10024 : ヤマブドウとイネ、ヒヨウタン仲間、イヌタデ、アカザ属がわずかに得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003）に準拠し、APG III リストの順とした。

(1) ユメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 核 バラ科

褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面全体に不規則で深く小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝に入る。残存高 10.0mm、残存幅 9.6mm。

(2) カキノキ *Diospyros kaki* Thunb. 種子・炭化種子 カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で、基部がやや曲がる。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと想定される種子をカキノキとした。長さ 14.4mm、幅 7.8mm。

(3) ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz 炭化有ふ果・炭化種子(穎果) イネ科

有ふ果は、紡錘形。縱方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。内穎側は平坦で、外穎側は中央が山状に膨らむ。長さ 3.5mm、幅 2.1mm。種子(穎果)は、側面観は卵形、断面は片凸レンズ形で、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長の 2/3 程度と長い。胚は幅が広いうちわ型。長さ 2.1mm、幅 1.6mm。

(4) イネ *Oryza sativa* L. 炭化穀・芻殼・炭化穀殼・炭化種子(頸果) イネ科

穀は側面観が長楕円形。縱方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縱方向の顆粒状突起がある。長さ 6.9mm、幅 3.4mm。芻殼は茶褐色で残存長 2.9mm、残存幅 1.9mm。炭化穀殼は、残存長 5.3mm、残存幅 3.0mm。種子(頸果)は上面観が両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が残り、両面に縱方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 5.7mm、幅 3.1mm。

(5) アワ *Setaria italica* P.Beauv. 炭化有ふ果・炭化種子(頸果) イネ科

有ふ果は、紡錘形。内顎と外顎に独立した微細な乳頭状突起がある。長さ 1.7mm、幅 1.4mm。種子(頸果)の上面観は楕円形、側面観は円形に近い。腹面下端中央の瘤んだ位置に細長い楕円形の胚があり、胚の長さは全長の 2/3 程度。長さ 1.2mm、幅 1.2mm。

(6) エノコログサ属 *Setaria* spp. 有ふ果 イネ科

黄褐色で、上面観は楕円形、側面観は紡錘形。アワよりも細長く、乳頭突起が歯状を呈する。長さ 2.5mm、幅 1.4mm。

(7) オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化種子(頸果) イネ科

側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る 1 本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面形状は楕円形。長さ 5.3mm、幅 2.8mm、厚さ 2.1mm。

(8) コムギ *Triticum aestivum* L. 炭化種子(頸果) イネ科

完形ならば上面観・側面観共に楕円形。腹面中央部には、上下に走る 1 本の溝がある。背面の下端中央部には、扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい。断面形状は腹面側が窪み、背面側が円形となる。長さ 3.4mm、幅 2.4mm、厚さ 2.5mm。

(9) ダイズ属 *Glycine* spp. 炭化種子 マメ科

上面観は楕円形、側面観は長楕円形。臍は全長の 1/2 程度で、長楕円形。小畠ほか (2007) に示されたダイズ属の特徴である中央に縦溝 (hilar groove) と、その周囲に隆線 (rim-areil) はみえない。小畠 (2008) に示された現生種と大きさを比較すると、大きさは栽培種のダイズに近い。長さ 7.7mm、幅 5.8mm、厚さ 3.0mm。

(10) ササゲ属アズキ亜属 *Vigna* subgenus *Ceratotropis* spp. 炭化種子 マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍は全長の半分から 2/3 ほどの長さで、片側に寄ると推定されるが、残存していない。小畠 (2008) に示された現生種と比較すると、大きさは栽培種のアズキに近い。長さ 5.6mm、幅 3.6mm、厚さ 3.5mm。

(11) アサ *Cannabis sativa* L. 核・炭化核 アサ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。表面には脈状の模様がある。長さ 3.9mm、幅 3.2mm、厚さ 2.7mm。炭化核は残存長 3.1mm、残存幅 3.2mm、厚さ 2.6mm。

(12) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は狭卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下 (1984) は、種子の大きさからおむね次の 3 群に分けられるとしている。長さ 6.0mm 以下の雑草メロン型、長さ 6.1 ~ 8.0mm のマクワウリ・シロウリ型、長さ 8.1mm 以上のモモルディカメロン型である。図版に示した種子の大きさは長さ 7.4mm、幅 3.9mm で、マクワウリ・シロウリ型であった。

(13) ヒヨウタン仲間 *Lagenaria* sp. 種子 ウリ科

やや淡黄褐色～褐色で、上面観は扁平、側面観は完形ならば逆三角形。やや湾曲して左右は非対象、先端はW字状で、基部から先端まで、浅く広い溝が2本走る。壁はややスponジ質。長さ18.2mm、幅7.5mm。

(14) ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench 果実 タデ科

暗褐色で、完形の果実は三稜形。稜の端部は翼状に突き出る。長さ5.2mm、幅3.9mm。

(15) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

橙褐色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には歓状突起が複瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ2.9mm、幅3.1mm。

(16) エゴマ *Perilla frutescens* (L.) Britton var. *frutescens* 果実 シソ科

暗赤色で、いびつな球形。端部にやや突出する着点がある。表面には不規則で多角形の低い網目状隆線がある。網目部分の周囲はわずかに凹む。長さ2.5mm、幅2.2mm。

(17) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.7mm、幅1.6mm。

(18) ゴボウ *Arctium lappa* L. 果実 キク科

長さ5.5mm、幅2.4mm。

(19) ワラビ *Pteridium aquilinum* (L.) Kuhn subsp. *japonicum* (Nakai) Å. et D.Löve 裂片 コバノイシカグマ科

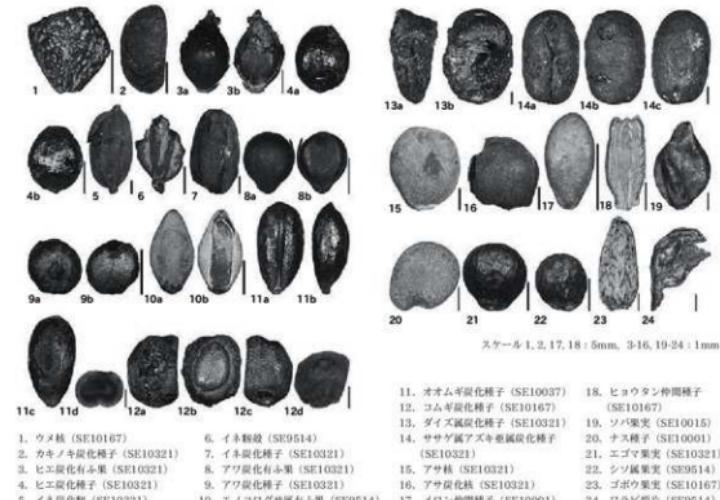
暗褐色で、長楕円形。鈍頭で全縁。葉脈は2～3叉状分岐し平行に並ぶ。長さ5.2mm、幅3.6mm。

D 考 察

丘江遺跡Ⅲの鎌倉時代～室町時代（13～15世紀）の遺構から出土した大型植物遺体を同定した結果、種実を中心とした大型植物遺体が得られ、特に井戸の堆積物からは多量かつ多種類の種実が得られた。

食用可能な種実として、ヤマブドウとウメ、キイチゴ属、エノキ属、クワ属、クリ、トチノキ、カラスザンショウ、サンショウ、カキノキ、ニワトコ、タラノキ、ヒエ、イネ、アワ、オオムギ、コムギ、ダイズ属、ササゲ属アズキ亜属、アサ、メロン仲間（マクワウリ・シロウリ型）、ヒヨウタン仲間、ソバ、ナス、エゴマ、シソ属、セリ、ワラビが得られた。栽培植物では、果樹のウメとカキノキ、水田作物のイネ、畑作物のヒエとアワ、オオムギ、コムギ、アサ、メロン仲間、ヒヨウタン仲間、ソバ、ナス、エゴマ、ゴボウが得られた。ダイズ属とササゲ属アズキ亜属には野生種と栽培種の両方があるが、大きさは栽培種に近かった。サンショウやカラスザンショウ、アサ、エゴマは油や調味料として利用された可能性もある。

井戸からは種実が多く得られ、特にSE9514とSE10167、SE10321からは大量の大型植物遺体が得られた。井戸から得られた種実のうち、抽水植物であるヘラオモダカやホタルイ属などは、井戸内に生育していた可能性がある。井戸内及び周辺の湿地には、湿生～抽水～沈水植物のハリイ属など、湿地にはヤナギタデなど、井戸周辺の道端や草地には、エノコログサ属やエノキグサ属、カタバミ属、イヌタデ、アカザ属など、やや湿った場所にはスゲ属アゼスゲ節とムラサキケマンなどが生育していたと推定される。また、栽培植物が多種類みられ、中でも穀類は炭化している個体が多く、遺構周辺で行われた調理などの行為によって炭化した穀類が、遺構内に堆積したと考えられる。多産したキイチゴ属やシソ属も食料残滓の可能性がある。



第 13 図 出土した大型植物遺体

SE10321 と SE10339 からはイネが大量に得られた。得られた部位はいわゆる炭化米の種子（穀果）であるが、胚が残存している個体が多く、炭化粉や粉殻が得られている点、調理などをした場合に起こる変形も少ないため、粉の状態で保管されていて、粉殻の大部分は炭化時に灰になった可能性がある。

SE9623 からは、栽培植物のアサがわずかに得られたものの、つる植物のアオツヅラフジや落葉高木のクサギ、草地に生育するイヌタデとミラサキケマンがわずかに得られたのみである。

形状から墓の可能性がある土坑 SK10024 の覆土からは、栽培植物のイネやヒヨウタン仲間、食用可能なヤマブドウ、イヌタデ属、アカザ属が得られた。墓とすればイネやヒヨウタン、ヤマブドウは供されれた食物に由来する可能性がある。

引用・参考文献

- 藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学－総括報告書」：638-654、同朋舎出版。
 小畠弘己（2008）マメ科種子同定法、小畠弘己編「極東先史古代の穀物 3」：225-252、熊本大学。
 小畠弘己・佐々木由香・仙波靖子（2007）土器圧痕からみた縄文時代後・晚期における九州のダイズ栽培、植生史研究、15-1, 97-114。
 米倉浩司・梶田 忠（2003-）BG Plants 和名-学名インデックス（YList）、<http://ylist.info>

4 テフラ分析

A はじめに

丘江遺跡は、新潟県柏崎市茨田3丁目字町屋敷ほかに所在し、鰐石川左岸の標高6~7mに位置する。調査では、鎌倉時代・室町時代の遺物が出土する層と弥生時代・古墳時代の遺物が出土する層が確認されている。沢状地形の東壁では、火山灰層が観察された。ここでは、この火山灰層についてテフラ分析を行った。

B 試料と方法

分析試料は、SD9501から採取した2層中の火山灰層1点である（第6表、図版4・5）。

分析No.	位置	層位	時期	堆積物の特徴
1	SD9501	2層	中世	黒褐色粘土 (10YR 3/1)

第6表 火山灰試料とその詳細

テフラ試料は、以下の方で処理した。

湿潤重量35.73gを超音波洗浄機で分散した後、1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)、5φ(0.031mm)の5枚の篩を重ね、湿式篩分けをした。4φ篩残渣について、重液（和光純業工業㈱製テトラブロモエタン（CHBr₂CHBr₂、比重2.96））を用いて軽鉱物と重鉱物に分離した。なお、分析試料とは別に、約10gを乾燥・秤量して、含水率と分析試料の乾燥重量を求めた。

軽鉱物は、簡易プレパラートを作製し、軽鉱物組成と火山ガラスの形態分類を行った。火山ガラスの形態は、町田・新井（2003）の分類基準に従い、バブル（泡）型平板状火山ガラス（b1）、バブル（泡）型Y字状火山ガラス（b2）、軽石型纖維状火山ガラス（p1）、軽石型スponジ状火山ガラス（p2）、急冷破碎型フレーク状火山ガラス（c1）、急冷破碎型塊状火山ガラス（c2）に分類した。

重鉱物は、封入剤カナダバルサムを用いてプレパラートを作製し、斜方輝石（Opx）、單斜輝石（Cpx）、角閃石（Hs）、磁鐵鉱（Mg）などを同定・計数した。

4φ篩残渣の火山ガラスは、横山ほか（1986）に従い、温度変化型屈折率測定装置を用いて屈折率測定を行った。

C 結果

以下に、各試料の湿式篩分け結果、軽鉱物組成、重鉱物組成、火山ガラスの屈折率測定結果を示す。

湿式篩分けを行った結果、4φ篩残渣が最も多く、処理乾燥重量に対して9.58%であった。1φ篩残渣中には、褐鉄鉱が多く含まれていた。なお、含水率は、37.75%であった（第7表）。

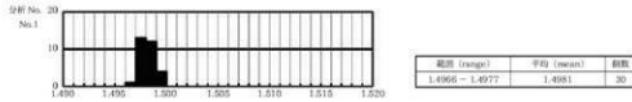
重液分離を行った結果、軽鉱物が94.89%と多く、重鉱物の割合は低かった（第8表）。

4φ篩残渣中の火山ガラスは、軽鉱物265粒中25粒と少なかった。火山ガラスの形態分類では、バブル（泡）型平板状火山ガラス（b1）と急冷破碎型フレーク状火山ガラス（c1）がやや多く検出され、バブル（泡）型Y字状火山ガラス（b2）と重鉱物の組成では、斜方輝石（Opx）、單斜輝石（Cpx）、角閃石（Hs）、磁鐵鉱（Mg）などである。

第7表 火山灰試料の湿式篩分け・重液分離の結果

分析No.	分類	石英 (Q)	長石 (Pl)	不明 (Opq)	火山ガラス					ガラス	軽鉱物の 合計	重鉱物					重鉱物の 合計
					バブル（泡）型 平板状 (b1)	バブル（泡）型 Y字状 (b2)	纖維状 (p1)	スponジ状 (p2)	フレーク状 (c1)			斜方輝石 (Opx)	單斜輝石 (Cpx)	角閃石 (Hs)	磁鐵鉱 (Mg)	不明 (Opq)	
1	II	113	116	11	4	2	6	25	265	66	43	22	16	91	238		

第8表 4φ篩残渣中の鉱物組成



第14図 火山ガラス(4 #)の屈折率測定結果

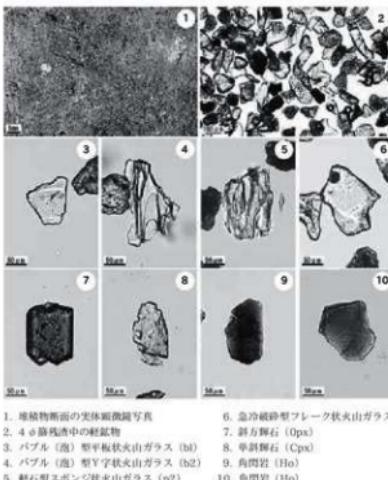
ブル(泡)型Y字状火山ガラス(b2)や軽石型スponジ状火山ガラス(p2)が検出された。また、重鉱物組成は、斜方輝石(Opx)が多く検出され、单斜輝石(Cpx)や角閃石(Ho)が含まれていた(第8表)。

火山ガラスの屈折率測定では、範囲(range)が1.4966-1.4997の狭い範囲を示し、平均値(mean)が1.4981であった(第14図)。

D 考 察

東壁から採取した⑥層中の火山灰層についてテフラ分析を行った。火山ガラスは少ないものの、斜方輝石(Opx)が多く検出され、单斜輝石(Cpx)や角閃石(Ho)が含まれていた。また、火山ガラスの屈折率は、範囲(range)が1.4966-1.4997の狭い範囲を示した。

以上の鉱物組成の特徴や火山ガラスの屈折率から、10世紀頃の新潟焼山・妙高火山東麓に分布する高谷池火山灰c(KGc; 火山ガラスの屈折率1.496-1.500:[早津・新井1985])に類似する。このKGcは、新潟焼山あるいは妙高火山のいずれかの可能性があるが、新潟焼山から妙高火山東麓および関川周辺の遺跡で産出し、その分布は、新潟焼山よりもむしろ妙高火山に近い南に偏る[早津1994、早津2007]。このKGcの年代は、 $1,100 \pm 70 \pm 890 \pm 30$ yrs BP(cal AD 780 ~ 1,050)が得られている[早津2007、早津2008]。なお、このKGcに対比される可能性のある新潟焼山の早川火碎流中の炭化材のウイグルマッチング年代では、cal AD 1,225 ~ 1,244の年代が得られている[早川ほか2011]。



第15図 テフラ中の火山ガラスと重鉱物

引用文献

- 早川由紀夫・藤根 久・伊藤 茂・Zaur Lomtatize・尾崎大真・小林絢一・中村賢太郎・黒沼保子・宮島 宏・竹之内耕(2011)新潟焼山早川火碎流噴火の炭素14ウイグルマッチング年代。地学雑誌, 120, 536-546。
早津賢二(1994)新潟焼山火山の活動と年代—歴史時代のマグマ噴火を中心として—。地学雑誌, 103, 149-165。
早津賢二(2007)上越市用寺遺跡における火山性堆積物とそれに関係した2-3の問題。新潟県埋蔵文化財調査報告書, 183, 66-73。
早津賢二(2008)妙高火山群—多世代火山のライフヒストリー, 424p, 実業広報社。

早津賀二・新井房夫 (1985) 妙高火山群テフラ地城のテフラ層、早津賀二著「妙高火山群－その地質と活動史－」: 253-305。第一法規出版。

町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス、336p、東京大学出版会。

横山卓雄・植原 敏・山下 透 (1986) 温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定、第四紀研究、25, 21-30。

5 樹種同定

A はじめに

丘江遺跡は柏崎平野の西部、鯖石川左岸の沖積地に立地する集落遺跡である。ここでは、出土した木製品 17 点について樹種同定を行った。

B 試料と方法

試料は、井戸や土坑、溝などから出土した木製品 17 点である。遺構の時期は、いずれも鎌倉～室町時代と推測されている。

これらの試料から、剃刀を用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラーで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定、写真撮影を行った。

C 結 果

樹種同定の結果、針葉樹はスギのみ 1 分類群、広葉樹はサクラ属とケヤキ、クリ、ブナ属、クマシデ属イヌシデ節（以下、イヌシデ節）の 5 分類群の、合計 6 分類群が確認された。結果の一覧を第 9 表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を第 16 図に示す。

(1) スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don ヒノキ科
図版 1 1a-1c (実測 No.7)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晚材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に通常 2 個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

(2) サクラ属（広義） *Prunus* s.l. バラ科

図版 1 2a-2c (実測 No.2)

やや小型の道管が、単独あるいは斜め方向に 2 ~ 3 個複合する散孔材である。道管の穿孔は單一で、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1 ~ 5 列幅である。

サクラ属は温帯に生育する落葉または常緑の高木または低木である。サクラ属はさらにサクラ亜属やス

報告番号	種別	グリッド	遺構	面位	本取り	樹種
129	柱板	68N11	P10017	1	—	クリ
128	柱板	64H14	P9610	1	—	サクラ属
130	柱板	64G19	P9609	1	—	ケヤキ
127	柱板	—	SD9707	5	—	クマシデ属 イヌシデ節
126	手代木?	66M20	SX10450	4	柾木	スギ
117	刀子形	66M7	SX10450	3	柾目	スギ
118	杭	63L2	杭 9683	1	柾目	スギ
127	柾	65L9	SE10366	5	柾木	ブナ属
123	柾	65L9	SE10366	5	柾目	ブナ属
124	漆器皿	66N18	SX10450	3	柾目	ブナ属
123	漆器皿	65L9	SE10366	5	柾木	ケヤキ
125	漆器皿	64G21	SE9606	3	—	ブナ属
120	漆器皿	65H17	SD9622	5	柾目	ブナ属
119	漆器皿	65H17	SK9623	12	柾目	ブナ属
116	柾	67J13	SE9514	5	柾目	ブナ属
115	柾	67L20	SH10270	4	柾目	ケヤキ
131	柱板	67O21	SE10321	2	—	クリ

第 9 表 樹種同定結果一覧

モモ亜属、モモ亜属、ウワミズザクラ亜属などに分類され、25種がある。木材組織からはモモとバクチノキ以外は識別困難なため、この2種を除いたサクラ属とする。材は比較的重硬および緻密だが、加工容易である。

(3) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版1 3a-3c (実測No.18)

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3～5列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や渓畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

(4) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版2 4a-4c (実測No.1)

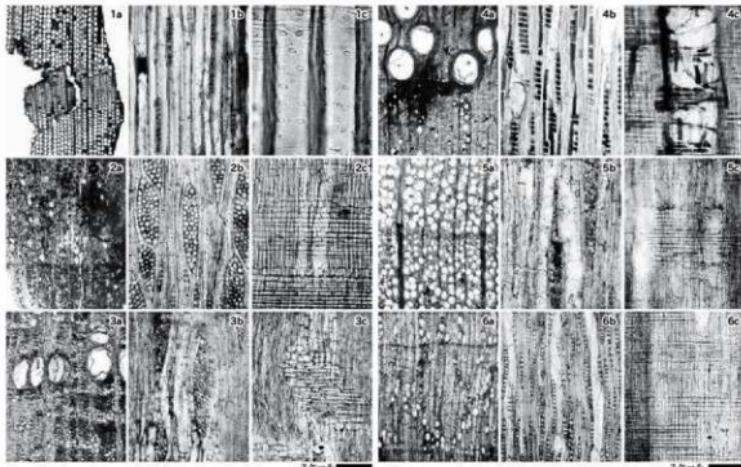
大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(5) ブナ属 *Fagus* ブナ科 図版2 5a-5c (実測No.17)

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は、単一のものと階段状の2種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は堅硬および緻密で、韌性があるが保



1a-1c. スギ (実測No.7), 2a-2c. サクラ属 (実測No.2), 3a-3c. ケヤキ (実測No.18)

a: 積断面 (スケール=250 μm), b: 接線断面 (スケール=100 μm), c: 放射断面 (スケール=1:25 μm, 2d:100 μm)

4a-4c. クリ (実測No.1), 5a-5c. ブナ属 (実測No.17), 6a-6c. クマシデ属イヌブナ (実測No.4)

a: 積断面 (スケール=250 μm), b: 接線断面 (スケール=100 μm), c: 放射断面 (スケール=100 μm)

第16図 出土木製品の光学顕微鏡写真

存性は低い。

(6) クマシテ属イヌシテ節 *Carpinus sect. Eucarpinus* カバノキ科 図版2 6a-6c (実測No.4)

やや小型から中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は晚材部で1列幅の接線状となる。放射組織は同性で1~3列幅、集合放射組織がみられる。

イヌシテ節は暖帯から温帯の低山地に分布する落葉中高木で、イヌシテとイワシテ、アカシテがある。材は重硬で韌性が大きく、割裂しにくい。

D 考 察

器種別の樹種同定結果を第9表に示す。

漆2点と漆器皿1点はすべてブナ属で、漆器椀はケヤキが1点とブナ属が3点であった。中世以降の挽物容器は、全国的にブナ属やケヤキ、トチノキが良く使われる傾向があり〔伊東・山田編2012〕、今回の分析でも同様の傾向がみられた。

鉢はケヤキであった。全国の分析事例は古墳~平安

時代の試料が多いが、ケヤキが最も多く、その他にアカガシ亞属やクリなどがみられ〔伊東・山田編2012〕、中世でも同様の木材利用傾向であった可能性がある。いずれも重硬な木材であり、丈夫な材質の樹種が選択されたと思われる。

刀子形と杭・手代木?はスギで、鍔はブナ属であった。スギの材は軽軟で、加工容易である。

柱根は、クリが2点と、サクラ属とケヤキ、イヌシテ節が各1点であった。いずれも重硬な材である。新潟県内の遺跡では、中世の柱材にクリを中心とした多様な広葉樹が利用されている〔伊東・山田編2012〕。今回の分析でも、特定の樹種ではなく複数の広葉樹が使用されており、これまでに知られているとの同様の傾向を示していると思われる。

参考・引用文献

平井信二(1996)木の大百科、394p、朝倉書店。

伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベースー、449p、海青社。

樹種/油種	鉢	皿	漆原皿	漆漆椀	刀子形	棒状	柱根	不明	総計	
									1	3
スギ					1	1	1	1	1	3
サクラ属							1	1	1	1
ケヤキ	1			1			1	1	3	
クリ							2	2		2
ブナ属		2	1	3				1	1	7
クマシテ属 イヌシテ節							1	1		2
総計	1	2	1	4	1	1	5	2	17	

第10表 器種別の樹種同定結果

第VII章 まとめ

1 土器・陶磁器

丘江遺跡では、土師質土器を中心に珠洲焼などの国産陶磁器、白磁・青磁などの輸入陶磁器が出土した。遺物量は多くないが、各々の所産期をつかむことにより、丘江遺跡の主体となる時期を検討したい。検討するうえで、土器・陶磁器の分類・年代観は、既存の研究〔上田 1982、小野 1982、春日 2015、小池 1999、品田 1999ab、鶴巻 1999、岩田 1997、森田 1982、藤澤 2008、水澤 2005、山本 2000・2010、吉岡 1994〕などを参考にした。

土師質土器皿は、多くがT類で、R類は少ない。T類は形状から1類・2類に大別でき、さらに口径10cmを境として皿・小皿に細分できる。両者の出土量はT1類が多数を占め、T2類は少量である。

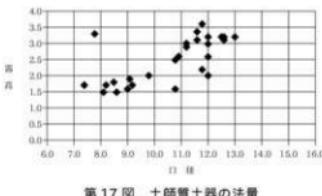
土師質土器皿・小皿30点を対象として、器高×口径による法量分布を行ったところ、第15図の結果が出た。皿は口径12cm前後、小皿は8.5cm前後にまとまりが認められる。器高は、皿が1.5cmから3.5cmと幅を持つに対し、小皿は1.5cmから2.0cmの範囲に収まる。

この結果を基に、水澤氏の論考〔水澤 2005〕を用いて比較検討を行う。13世紀～14世紀は形態的な変化

は明確でないが、大きくみると口径が縮小傾向にあり、口径が皿は12→11cm、小皿は8→7cmと変化する。本期に属する遺物群の類例として、丘江遺跡から南西へ約3.5キロにある下沖北遺跡のSK86の資料群〔山本 2003〕が挙げられている。SK86の資料群は、皿：口径12cm台主体、器高3cm台、小皿：口径8cm前後、器高1.5～1.7cmで、時期は13世紀後半に位置付けられ、14世紀前半には下らないとされる〔水澤 2005〕。SK86から出土した資料群と丘江遺跡の法量は近い傾向にある。しかし、SK86では見られない口径11cm台の皿が定量存在する。これは時代が下るにつれて、口径が縮小傾向にあるためで、丘江遺跡では14世紀前半の土師質土器皿も存在したと考える。後に続く、R類やT2類の出土量が少量なことからも丘江遺跡の主体は13世紀中頃から14世紀前半と考える。

珠洲焼は、甕・壺・片口鉢が出土した。甕・壺に関しては多くの体部片で時期を比定することができなかつたが、片口鉢の器形や口縁端部の形状からⅡ～V期までのものを確認した。甕・壺も同時期内の所産と考える。片口鉢は、Ⅱ～Ⅲ期の出土量が最多で、Ⅳ期に入ると出土量が減少傾向となる。しかし、V期では再び出土量が増加していることから、Ⅱ～Ⅲ期（13世紀中頃）とV期（14世紀後半～15世紀前半）に主体があった。Ⅲ期では竜泉窯系青磁碗（Ⅲ類）、口禿げ白磁皿類（Ⅸ類）が、IV期では瀬戸・美濃焼の天目茶碗、香炉が共伴することが多くなるとされる〔吉岡 1994〕。

輸入陶磁器は、白磁（109）、青磁（17・20・40・78・79・82・104）、青白磁（111）が出土した。109は山本氏の分類では白磁皿Ⅸ類で、13世紀中頃～14世紀の所産である。青磁は碗が大半を占め、山本氏の分類では龍泉窯系碗のⅡ類が多く、これは13世紀中頃から14世紀初めの所産である。青白磁は梅瓶で年代は13世紀である。



第17図 土師質土器の法量

土器質土器		床・鍋底	輸入陶器	国産陶器(朱漆器以外)
T1前			 	
13C 後	49			
14C 後	50			
14C 前	51			
	52			
	53			
	55			
	57			
	56			
	47			
R前				
	48			
T2前			 	
14C 後				
15C 前				
	63			
	64			
	65			
	66			
15C 後	9			
16C 前	19			

第18図 土器・陶器の変遷

珠洲焼以外の国産陶磁器では、瀬戸・美濃焼、越前焼、肥前系陶器が出土した。瀬戸・美濃焼は、袴腰形香炉¹(106)と天目茶碗(83・105)がある。藤澤氏の編年では、106は古瀬戸の後期様式Ⅳ期新にあたり、15世紀後半の所産と考える。83・105は古瀬戸の後期様式Ⅲ期にあたり、14世紀後半から15世紀前半の所産である。越前焼擂鉢(22)は15世紀後半～16世紀前半、肥前系陶器は、唐津焼の皿(80・81・103・108)で見込みに胎土目・砂目の痕跡が残り、大橋氏の編年ではⅠ期～Ⅱ1期のもので、年代は16世紀末～17世紀前半である。

以上のことと踏まえて、出土土器の時期的変遷を示すと第16図となる。土師質土器をはじめ、輸入陶磁器は13～14世紀の時期に多く、この時期の国産施釉陶器はほとんど見当たらない。15世紀前半から16世紀前半までの間は遺物出土量が減少する。16世紀末に入ると肥前系陶器を含む国産施釉陶器の量が徐々に増す。遺物を見る限り、丘江遺跡の主体は13世紀から14世紀であるといえる。

2 舌長鎧について

鎧とは騎乗時に足を乗せる馬具で、乗り降りの際の足がかりとなるほか、馬上の騎乗者の騎座を安定させる役割を持つ。またその形状によって、輪鎧・壺鎧・舌鎧の3種類に分類できる。そのうち舌鎧は、舌部が短い半舌鎧と踵まで乗せ得る長さを持った舌長鎧がある。木製鎧の変遷は、5世紀代の輪鎧に始まり、5～8世紀代に壺鎧が流行し、8世紀以降に舌鎧が出現するというものである〔永井ほか1996〕。

今回の調査では、舌長鎧と考えられる木製鎧(115)がSE10270から出土した。木製鎧は新潟県において、柏崎市箕輪遺跡〔春日・坂上ほか2015〕、胎内市草野遺跡〔水澤2004〕から出土している。また箕輪遺跡は、



第19図 木製鎧の分類〔坂上2015〕を転載・改変。()は主体時期)

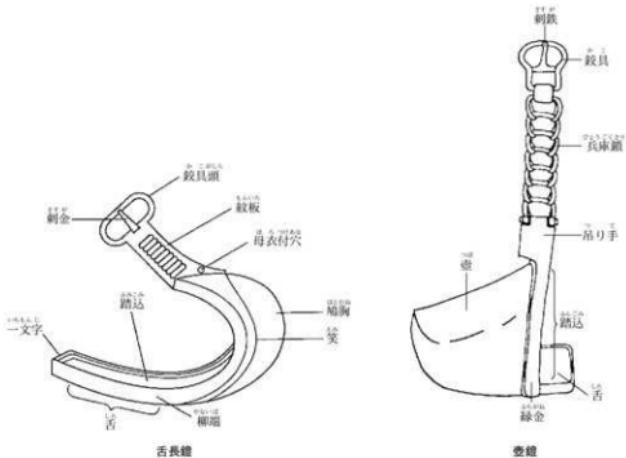
丘江遺跡と直線距離にして約3kmと近い場所に立地している。これらの出土例はどちらも壺鎧で、箕輪遺跡例（第19図4）は8世紀後半～9世紀前半、草野遺跡例は8世紀～9世紀のものである。

舌鎧は8世紀～9世紀に出現し、鎌倉時代以降に主流を占める。壺鎧から舌鎧への変遷の過程で、壺部の退化、そして舌部が発達していく変化が確認できる（第19図）。丘江遺跡の舌長鎧は壺部の古様は残しておらず、舌部が鍾を覆うほど長い。また胸の上部は切断されているため、吊り手に当たる部分の構造は不明であるが、長方形の紋板や円形の鉢具頭などがあったと推測できる（第19図）。年代が判別できる資料との共伴関係はなかったが、構造から鎌倉時代以降のものであろうと考えられる。調査で出土している土器の年代から判断すると、13世紀～15世紀のものである可能性が最も高いのではないだろうか。

丘江遺跡の木製舌長鎧は、吊り手部分を欠損するが全体的な遺存状態は良く、優品である。また黒色塗がほぼ全面に塗布されることを考えても、箕輪遺跡〔春日・坂上ほか2015〕と同様に身分の高い人物の所有物ではないだろうか。完形の舌長鎧が遺跡から出土した例は全国的にも珍しく、今後の類例増加に期待したい。

3 五輪塔について

今回の調査で、五輪塔の部材がSE9623から出土した。点数は火輪が2点、地輪が1点である。五輪塔の出土例は、上越市の旧得法寺跡〔石川ほか1998〕や本田遺跡〔北村2001〕がある。特に旧得法寺跡では、五輪塔の部材をそれぞれ細分化して分類し、形態差の検討を行っている。各形態差に多少の時期差があると考えられるが、紀年銘資料は出土していない〔石川ほか1998〕。しかし、その後の水澤氏の検討により、14世紀代に造塔が開始され、天正16年（1578）の観音寺廃絶時期まで石塔が存在していた可能性が高いことが明らかになった〔水澤2011〕。



第20図 鎧の部分名称図（〔鈴木友也1991〕を転載）

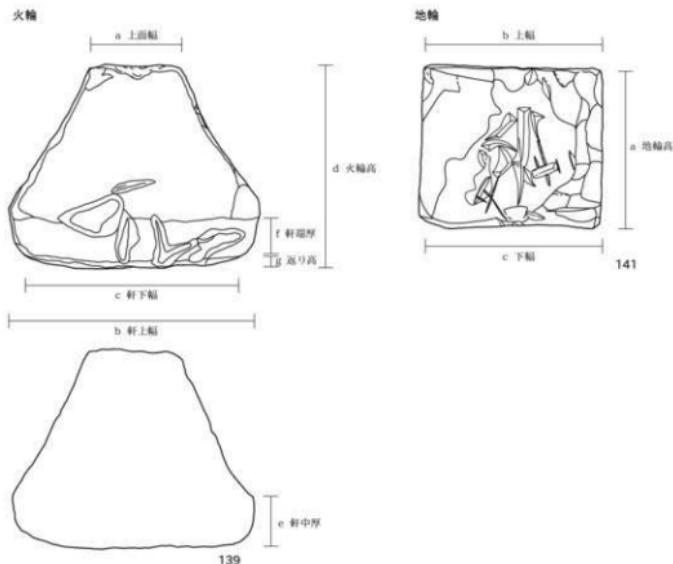
新潟県内の五輪塔は頸城平野に数千基が集中しており、編年が可能である〔狭川・松井 2012〕。年代的な位置づけとしては、水澤の研究〔2011〕に詳しい。これは五輪塔の紀年銘資料を計測することにより、数値に裏付けられた形態的変遷を明らかにしていくというものであり、〔磯部 1992〕が行った手法でもある。今回はこれらの研究を参考に、丘江遺跡出土の資料を数値化し、旧得法寺跡の資料や水澤氏の成果と比較検討したい。

まず火輪については、高幅比（「火輪高」+「軒上幅」）（第 19 図）と上面のホゾ穴（空風輪を火輪に差し込む穴）の有無に着目する。一般的な傾向として、高幅比は 0.65 を超えるものが、鎌倉後期から南北朝初期（～1342）にかけてやや多く、16 世紀代まで散見される。特に 0.7 を超える高いものは、14 世紀から 15 世紀にかけて集中している。旧得法寺跡の資料では、出土した火輪 112 点のうち、5 点がホゾ穴が無いもので、これら少数を 14 世紀代～15 世紀の初頭としている〔水澤 2011〕。

丘江遺跡から出土した火輪 2 点（139・140）は、どちらもホゾ穴は無く、幅高比は 139 で 0.65、140 で 0.74 という数値である。幅高比を見ると 139 は 14 世紀代、140 は 14 世紀～15 世紀代に多い数値を示している。またホゾ穴が無いことから、どちらの火輪も 14 世紀～15 世紀初頭の可能性がある。

次に地輪については、上下比（上幅+下幅）と高幅比（地輪高+上幅）に着目する（第 19 図）。上下比は、地輪の正面形が方形か、台形か、逆台形かを示すものであり、数値が高くなれば方形に近づく。幅高比は、

上幅と高さの比率であり、数値が減少するに従って扁平化する〔石川ほか 1998〕。地輪の一般的な傾向として、鎌倉期には、幅高比が 0.7 以下のものが多数を占めているが、南北朝期以降ほとんどがそれを上回るようになる。0.8 を超えるものは、13 世紀末頃より現れ、南北朝期に比率を増し、14 世紀末より東



第 21 図 五輪塔部位呼称

国では主体をなすようになる。ただし、0.9 を超える正方形に近いものは、わずかの例外を除き南北朝期に限られる。また北陸では原材が枯渢するためか、15世紀末より再び0.7を割り込む扁平なものも現れる〔水澤2011〕。

丘江遺跡から出土した地輪（141）は、上下比が1.01、高幅比が0.91である。ほぼ方形で、扁平率が非常に低い。一般的な傾向から、この数値は14世紀代に多くみられる〔水澤2011〕。また石の質や大きさから、140の火輪とセットになる可能性が高いため、やはり14世紀～15世紀初頭のものである可能性が高い。

以上、丘江遺跡の五輪塔について、数値化を通して旧得法寺跡の資料や水澤氏の成果と比較検討を行った。その結果、14世紀～15世紀初頭のものである可能性が高いと考える。

また、それらは高さ（火輪高・地輪高）が20～24cm程度であり、完形とすれば塔高が3尺程度になる。頸城平野では、15世紀代に3尺以下の小型塔が多く造立されるようになるため〔水澤2011〕、その傾向におおむね沿うと思われるが、火輪についてはホゾ穴がないなどの古い様相も見られた。ただし、五輪塔の火輪にホゾ穴が無いことは、鶴川莊を中心とする柏崎平野西部の特徴である可能性も考えられる。これについては、今後の課題としたい。

4 鉄 製 品

鉄斧などの鉄製工具が出土している。袋状鉄斧（144）はSK9624から、鉄斧（145）はSE9619から見つかった。丘江遺跡で見つかった鉄斧はどちらも鍛造品と考えられ、145については鉄を内側に折りたたむ加工がされている。袋状鉄斧（144）については、袋部の断面形が四角形を呈し、肩部の形成は顕著ではない。また刃部と身部の境に段が付くことやそれらの厚さが異なることから、身と袋部とを別作りにしてのちに鍛接している可能性がある〔村上ほか2007〕。以上の袋部や肩部の特徴から、丘江遺跡の袋状鉄斧は古様を残していると考えられる〔小野ほか2016〕が、珠洲IV期の片口鉢体部が出土しているSK9624の時期（13世紀後半～14世紀）と大きくかけ離れることは考えにくいであろう。また中世遺跡での鉄斧出土の事例として、奈良県香芝市の高山火葬墓・高山石切場遺跡〔下大追1994〕がある。この遺跡では、石切造構NO.7の堆積土層中から袋状鉄斧が見つかった。同遺跡からは石塔などが出土していることから、13世紀を中心とした鎌倉時代中頃～後半にかけて採石された石切場と考えられ、見つかった鉄斧は石塔の加工に使われた可能性が指摘されている。丘江遺跡においても、鉄斧が出土した遺構と同一グリッド内の遺構（SE9623）から五輪塔部材が出土しているため、鉄斧を石材の加工に用いた可能性が考慮されてもよい。



1 高山火葬墓・高山石切場遺跡（奈良県） 2 (144) 丘江遺跡（本書）
(S = 1/6)

第22図 袋状鉄斧類例

5 遺構

前述したように、土器・陶磁器から遺跡の主体となる時期は13世紀中頃～14世紀後半と位置付けた。次に、遺物と遺構の対応関係を整理し、遺構の時期的変遷を検討してみる。

調査区東側及び西側のそれぞれ中央付近に沢状地形が存在し、これらを挟む形で掘立柱建物などの遺構群がある。南から調査区を見ると遺構検出面が「山」の字状に見え、調査区東と中央の遺構群は「山」の字状の先端にある。両遺構群の間にはSD9622があり、沢状地形（SD9619）と合流する。SD9622上部とSD9619の埋土は類似するため、自然地形を巧みに利用した区画溝であったと推定する。SD9622からは土師質土器（9・10）、珠洲焼片口鉢（14・15）、青磁碗（17）が出土しており、時期は13世紀～14世紀に加えて、15世紀後半も含まれる。区画溝として13世紀から15世紀後半まで存続していた可能性が高い。

次に、調査区中央の建物群と調査区西側の建物群に挟まれる沢状地形のSX10450からは、土師質土器はT1類の皿・小皿（49～57）、珠洲焼の片口鉢（61～66・95）が出土しており、年代は13世紀～15世紀のものが確認できる。出土物を見る限り、SX10450は集落が成立して間もない頃に埋め立てが行われた以降16世紀代まで周囲より低い地形であったと推定する。

調査区東では、主にSE9623、SK9624、SD9519・SD9520・SD9622、P9626から遺物が出土した。P9626は、SB9867の柱穴のひとつで、13世紀中頃から14世紀前半の所産とみられる土師質土器（1）、珠洲焼甕の底部（2）が出土した。掘立建物は3棟検出したが、柱穴の切り合い関係が無いため建物同士の新旧は不明である。SB9867とSB9959に関しては、軸方位が類似するため大きな時期差は無いと考える。建物群に隣接するSK9624からは土師質土器（3）、珠洲焼の片口鉢と甕（4・5）、袋状鉄斧（144）が出土した。土師質土器（3）については、褐色で胎土に雲母を多量に含んでいる。水澤氏が提唱した褐色の一群【水澤2005】に対応でき、年代は14世紀である。共伴した珠洲焼、鉄斧も同時期のものと推定される。また、SK9624から南西に10mの地点に、SE9623がある。ここからは土師質土器（19）、青磁碗の底盤（20）、珠洲焼甕の転用砥石（21）、五輪塔・宝篋印塔の部材（139～141・143）が出土した。土師質土器の年代は15世紀後半、青磁碗が14世紀初頭と、出土物に時期幅を持つ。調査区東の遺構群については13世紀から15世紀と推定する。

調査区中央では、掘立柱建物を9棟検出し、それぞれ南北棟（SB10456・SB10457・SB10458・SB10460・SB10462）と東西棟（SB10459・SB10461・SB10463・10464）に大別が可能である。建物同士の新旧関係は、SB10459とSB10461のみ判断が可能で、柱穴の切り合い関係から後者の方が新しい。なお、どちらの建物も東西棟である。建物群の時期については、遺物が希薄なため比定することは難しい。

調査区西側では、掘立柱建物を14棟検出し、南北棟（SB10394・SB10395・SB10396・SB10397・SB10398・SB10399・SB10400・SB10442）と東西棟（SB10390）に、やや東、もしくは西に振れる棟（SB10388・SB10389・SB10392・SB10393）があり、建物同士の新旧関係は、SB10397とSB10398、SB10400とSB10442で判断が可能である。柱穴の切り合い関係でSB10397とSB10398では後者が、SB10400とSB10442では前者が新しい。SB10391・10396・10397・10442は軸方位がN-12°-EからN-15°-E内に治ることから同時期の建物と考える。SB10391とSB10394の間には区画溝SD9938があり、南北で建物群が分かれる。これは屋敷地の違いを示していると考える。埋土からは、時期が13世紀～

14世紀となる土師質土器(32～34)、珠洲焼(37)が出土した。調査区西では、調査区中央や調査区東に比べ13世紀～14世紀代の遺物が多く、SD9938のほかにSE10003・SE10227から出土した。前者からは土師質土器(24・29)が、後者では土師質土器(42)、珠洲焼片口鉢(43)、瓷器系陶器(44)が共伴している。調査区西の遺構群については13世紀から14世紀に比定される。

6 自然科学分析の成果

自然科学分析は、プラントオパール分析・花粉分析・大型植物遺体分析・テフラ分析・樹種同定を行った。ここでは主にプラントオパール分析と花粉分析の結果について検討する。

プラントオパール分析と花粉分析は調査区東壁(62G15)と、調査区西側で検出された沢状の落ち込みSX10450(66N13)の2地点の同一資料を用いて実施した。イネのプラントオパールは東壁(62G15)からは僅かしか検出されなかつたが、調査区西側の沢状地形SX10450-1b層から大量に検出した。SX10450-1b層は出土遺物から15～17世紀の土層と考える。SX10450-1b層の下位には10層起源の黒褐色土と地山(基本層序IV層)起源の灰白色粘土が混じり合う土層が確認でき(3a・3b・4b・4c・5a層など)、13世紀の遺物が出土している。これは中世の丘江遺跡の上限に近い時期である。本章5で指摘しているように丘江遺跡の中世集落の成立期に沢を人為的に埋め戻した可能性が高い。SX10450-1b層は花粉分析の結果から、樹木花粉の比率が他の分析資料よりも低率である点も留意しておきたい。丘江遺跡の成立した13世紀には、周辺に一定量の樹木が存在したが、15～17世紀には周辺の宅地化・耕地化により、樹木が減少した可能性がある。なお、大型植物遺体分析ではSE10321・SE10339からイネの炭化した種子を多く検出したほか、SE9514からシソ属の種子を多く検出した。これ以外では、量は多くないがメロンの仲間、ヒヨウタンの仲間、ソバ、ナス、ナス属の種子、アサの核が検出されている。水田以外にも畑地が作られこれらの植物が栽培された可能性がある。

7 遺跡の性格

丘江遺跡の2016(平成28)年度の調査では、13～14世紀に主体を持つ集落が確認された。集落は、区画溝と自然地形を利用して、3地点に掘立柱建物群が分布する様相が確認できる。遺物では、青白磁梅瓶(111)、瀬戸・美濃焼の香炉(106)、漆塗りの舌長鏡(118)などの優品がみられる。丘江遺跡は地域における拠点的な集落で、有力な人物が存在する集落であった可能性がある。また、丘江遺跡の所在する茨目地区は鎌倉～室町時代には鶴川荘安田条の一部で、柏崎地域の有力氏族である毛利安田氏の支配地域であった。毛利安田氏との関連があった集落の可能性も考慮しなければならない。今後、平成26・27年度の調査成果が報告書として刊行されることにより、丘江遺跡の集落構造や広がりや変遷などが明らかになると思われる。

引用・参考文献

- 荒川隆史・加藤 学ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰 2014 「宝田遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成25年度』 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智記ほか 1998 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第86集 旧得法寺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智記ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第241集 山崎遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 磯部淳一 1992 「群馬県における五輪塔の編年」『高崎市史研究』2 高崎市
- 岩田 隆 1997 「第6章 第2項 越前」「中・近世の北陸」北陸中世土器研究会編 桂書房
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 大橋康二 1989 『肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社
- 大野隆一郎・徳間正一ほか 1990 「大地」『柏崎市史』上巻 新潟県柏崎市市史編纂委員会
- 荻野正博 1986 「莊園と国衙領」『新潟県史』通史編1 新潟県
- 小野哲也ほか 2016 「前近代の北方社会における鉄器流通実態の解明(2)」『岩手県立博物館研究報告 第33号』 岩手県立博物館
- 小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗、皿と分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2
- 柏崎市史編さん委員会 1982 『柏崎市史資料集』考古編2
- 柏崎市史編さん委員会 1987 『柏崎市史資料集』考古編1
- 春日真実 2015 「第VII章 まとめ 1 土器・陶磁器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第254集 箕輪遺跡II』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実・坂上有紀ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第254集 箕輪遺跡II』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金子拓男 1990 「第6章 第3節 三島郡の分立、第5節 交通と交通路、第6節 延喜式内神社」『柏崎市史』上巻 新潟県柏崎市史編さん委員会
- 北村 亮 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第105集 本田遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池邦明 1999 「第5章 中世 第2節 陶磁器の組成と変遷 第1項 中世前期」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編 高志書院
- 国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・藤田ヒューム管株式会社 2014 『柏崎市山崎遺跡現地説明会資料』
- 荻川真一・松井一明 2012 『中世石塔の考古学』 高志書院
- 品田高志 1991 「越中の中世土師器」『新潟考古学談話会会報』第8号 新潟考古談話会
- 品田高志 1995 「総括」『柏崎市内遺跡発掘調査報告書 第20集 柏崎市の遺跡IV』 柏崎市教育委員会
- 品田高志 1996 「田塚山の中世仏道と墳墓」『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第21集 田塚山遺跡群』 柏崎市教育委員会
- 品田高志 1999a 「第5章 第3節 第1項 中世土師器」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会編 高志書院
- 品田高志 1999b 「越後ににおける中世後期の土師器Ⅲ—京都系土師器第2派の流入と展開—」『中世土師器の基礎研究』DVD 日本中世土師器研究会
- 品田高志ほか 1985a 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第4 吉井遺跡部』 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1985b 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第5 刈羽大平・小丸山』 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1990 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第13 古井遺跡部II』 柏崎市教育委員会

- 品田高志ほか 1991 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第 15 小児石』 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1996 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第 21 集 田塚山遺跡群』 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1997 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第 26 集 前掛り』 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 1999 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第 32 集 角田』 柏崎市教育委員会
- 品田高志ほか 2008 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第 52 集 江ノ下』 柏崎市教育委員会
- 下大迫幹洋 1994 『高山火葬墓・高山石切場遺跡発掘調査報告書』 香芝市二上山博物館
- 白井雅明 2016 『山崎遺跡II』『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成 27 年度』 公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 品田高志・伊藤啓雄ほか 2001 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書第 38 集 柏崎町』 柏崎市教育委員会
- 鈴木郁夫ほか 1988 『土地分類基本調査 同野町』 新潟県
- 鈴木郁夫ほか 1989 『土地分類基本調査 柏崎・出雲崎』 新潟県
- 鈴木友也ほか 1990 『日本馬具大観 第一巻古代上』 日本馬具大観編集委員会編 吉川弘文館
- 鈴木友也ほか 1990 『日本馬具大観 第一巻中世』 日本馬具大観編集委員会編 吉川弘文館
- 鈴木友也ほか 1991 『日本馬具大観 第一巻古代下』 日本馬具大観編集委員会編 吉川弘文館
- 鈴木友也ほか 1991 『日本馬具大観 第一巻近世』 日本馬具大観編集委員会編 吉川弘文館
- 高橋 保任ほか 2002 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 109 集 輪輪遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鶴巻康志ほか 1999 『第 5 章 中世第 2 節 B 中世後期』『新潟県考古学』 高志書院
- 永井久美男 1994 『中世の出土銭・出土鉄の調査と分類』 兵庫県埋蔵鉄調査会
- 永井久美男 1996 『日本中世出土銭總覧』 兵庫埋蔵鉄調査会
- 永井宏幸ほか 1996 『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 66 集 大毛沖遺跡』 財團法人愛知県埋蔵文化財センター
- 中野 純・平吹 靖ほか 2006 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第 47 集 与三』 柏崎市教育委員会
- 中野 純ほか 2009 『柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第 48 集 角田 II』 柏崎市教育委員会
- 藤沢良祐 1993 『瀬戸市陶・陶磁史編四』 愛知県瀬戸市
- 藤沢良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- 藤巻正信 1988 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 27 集 西田・鶴巻田遺跡群』 新潟県教育委員会
- 北陸中世土器研究会 1997 『中・近世の北陸』 中世土器研究会編
- 水澤幸一 2004 『中条町埋蔵文化財調査報告書第 30 集 草野遺跡 2 次』 中条町教育委員会
- 水澤幸一 2005 『越後の中世土器』『新潟考古』第 16 号 新潟県考古学会
- 水澤幸一 2011 『仏教考古学と地域史研究』 高志書院
- 村上恭通ほか 2007 『朝日遺跡 02Bd 区出土袋状鉄斧と東アジアの鉄斧製作技術』『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第 138 集 朝日遺跡VII』 財團法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センター
- 森田 勉 1982 『14～16 世紀の白磁の分類と編年』『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
- 矢田俊文 1999 『戦国期越後の守護と守護代』『中世の越後と佐渡』 高志書院
- 山崎忠良ほか 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 140 集 東町原遺跡・下沖北遺跡II』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山本信夫 2000 『太宰府糸坊石跡 XV - 陶磁器分類編一』 太宰府市の文化財 第 49 集 太宰府市教育委員会
- 山本信夫 2010 『貿易陶磁の分類・編年研究の現状と課題』『貿易陶磁研究』30 日本貿易陶磁研究会
- 山本 勝ほか 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 125 集 下沖北遺跡I』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 吉岡康暢 2003 『株洲焼概論』『株洲焼概論』 平成 15 年度埋蔵文化財専門職員実務研修資料集 新潟県教育庁文化行政課

観察表

掘立柱建物(SB)(1)

SB9867	位置 64・65CH	軸行(m)		軸行(m)		方位 N 75° W (68.3m)	面積 耕地面積 柱穴面積(m)	
		3間(11.2)以上		1間+廊(6.1)				
		長径(m)	短径(m)	厚さ(m)	平面	断面		
P9626	0.39	0.39	0.28	内筋	U字形	P9626-P9626	1.7	
P9601	0.60	0.46	0.76	内筋	偏斗形	P9601-P9610	2.7	
P9610	0.45	0.35	0.77	内筋	U字形	P9610-P9625	3.1	
P9608	0.40	0.40	0.76	内筋	U字形	P9625-P9635	1.9	
P9625	0.28	0.26	0.24	内筋	U字形	P9545-P9610	2.5	
P9597	0.35	0.34	0.52	内筋	U字形	P9610-P9597	3.6	
P9573	0.26	0.23	0.15	内筋	凸形筋	P9597-P9573	2.4	
P9553	0.35	0.30	0.44	内筋	U字形	P9573-P9553	1.8	
P9542	0.35	0.34	0.53	内筋	U字形	P9553-P9542	2.2	
P9644	0.43	0.39	0.36	内筋	U字形	P9644-P9599	2.3	
P9599	0.30	0.27	0.12	内筋	半円筋	P9599-P9645	2.8	
P9645	0.43	0.37	0.40	内筋	U字形	P9645-P9548	2.8	
P9548	0.35	0.32	0.20	内筋	U字形	-	-	
SB9959	位置 63G・64G・64H	軸行(m)		軸行(m)		方位 N 75° W (9.2m)	面積 耕地面積 柱穴面積(m)	
		3間(4.6)		2間(2.3)				
		長径(m)	短径(m)	厚さ(m)	平面	断面		
P9508	0.27	0.25	0.37	内筋	U字形	P9508-P9511	1.4	
P9541	0.43	0.37	0.35	内筋	U字形	P9541-P9521	1.6	
P9521	0.54	0.43	0.54	内筋	U字形	P9521-P9613	0.9	
P9513	0.30	0.25	0.36	内筋	U字形	P9613-P9556	1.1	
P9556	0.39	0.34	0.76	内筋	U字形	P9556-P9567	1.1	
P9567	0.23	0.21	0.16	内筋	半円筋	P9567-P9568	2.0	
P9568	0.34	0.31	0.20	内筋	半円筋	(P9568-S9527)	(2.3)	
SB10186	位置 64G・64H	軸行(m)		軸行(m)		方位 N 10° W (12.0m)	面積 耕地面積 柱穴面積(m)	
		3間(6.0)		2間(2.0)				
		長径(m)	短径(m)	厚さ(m)	平面	断面		
P9582	0.31	0.30	0.35	内筋	U字形	P9582-P9531	2.0	
P9531	0.28	0.25	0.21	内筋	V字形	P9531-P9564	2.2	
P9564	0.23	0.23	0.20	内筋	U字形	P9564-P9580	1.7	
P9580	0.54	0.50	0.45	内筋	U字形	P9580-P9523	1.7	
P9532	0.43	0.42	0.50	内筋	U字形	P9532-P9586	1.7	
P9586	0.35	0.24	0.46	内筋	U字形	P9586-P9544	2.0	
P9544	0.40	0.40	0.40	内筋	U字形	P9544-P9620	2.0	
P9620	0.23	0.20	0.25	内筋	U字形	P9620-P9593	2.0	
SB10456	位置 64J・K	#D1		#D1		方位 N 22° E (8.0m)	面積 耕地面積 柱穴面積(m)	
		2間(4.1m)		2間(2.1m)				
		長径(m)	短径(m)	厚さ(m)	平面	断面		
P9785	0.25	0.25	0.13	内筋	U字形	P9785-P9763	2.0	
P9763	0.30	0.30	0.44	内筋	U字形	P9763-P9761	1.7	
P9761	0.27	0.26	0.23	内筋	U字形	P9761-P9777	2.3	
P9777	0.22	0.21	0.13	内筋	U字形	P9777-P9807	0.9	
P9807	0.24	0.19	0.22	内筋	U字形	P9807-P9801	1.2	
P9801	0.25	0.20	0.26	内筋	U字形	P9801-P9776	2.1	
P9776	0.50	0.42	0.36	内筋	V字形	P9776-P9765	2.0	
SB10457	位置 64K	#D1		#D1		方位 N 22° E (11.6m)	面積 耕地面積 柱穴面積(m)	
		3間(5.3m)		1間(2.2m)				
		長径(m)	短径(m)	厚さ(m)	平面	断面		
P9847	0.25	0.24	0.14	内筋	半円筋	P9847-P9854	2.0	
P9854	0.24	0.20	0.17	内筋	U字形	P9854-P9804	2.0	
P9804	0.30	0.27	0.45	内筋	U字形	P9804-P9806	1.3	
P9806	0.27	0.20	0.27	内筋	U字形	P9806-P9885	1.8	
P9885	(0.15)	(0.10)	0.34	内筋	U字形	P9885-P9790	2.4	
P9790	0.30	0.26	0.57	内筋	U字形	P9790-P9794	2.1	
P9794	0.29	0.19	0.40	内筋	U字形	P9794-P9731	1.4	
P9731	0.32	0.32	0.20	内筋	U字形	P9731-P9847	1.8	
SB10458	位置 64K	#D1		#D1		方位 N 22° E (11.6m)	面積 耕地面積 柱穴面積(m)	
		4間(5.5m)		1間(2.1m)				
		長径(m)	短径(m)	厚さ(m)	平面	断面		
P9784	0.30	0.21	0.30	内筋	U字形	P9710-P9784	2.1	
P9784	0.47	0.36	0.74	内筋	U字形	P9784-P9860	1.8	
P9860	0.22	0.22	0.20	内筋	U字形	P9860-P9789	1.5	
P9789	0.29	0.20	0.15	内筋	半円筋	P9789-P9782	2.2	
P9782	0.46	0.44	0.60	内筋	U字形	P9782-P9796	2.0	
P9796	0.37	0.30	0.35	内筋	V字形	P9796-P9723	1.4	
P9723	0.34	0.21	0.56	内筋	U字形	P9723-P9716	1.3	
P9716	0.35	0.25	0.32	内筋	U字形	P9716-P9714	1.4	
P9714	0.23	0.19	0.26	内筋	半円筋	P9714-P9710	1.1	

掘立柱建物 (SB) (2)

SB10459	位置 64K - 64L 2間 (5.7)	柱行 (m)		梁行 (m)		方位 N 78° W 22.2dF 標高	面積	
		柱 (間)		梁 (間)				
		柱径 (m)	柱距 (m)	梁高 (m)	平面	断面		
P9857	0.40	0.31	0.41	内柱形	U字型	P9857-P9727	2.5	
P9727	0.35	(0.11)	0.22	(内柱)	(半内柱)	P9727-P9732	1.3	
P9732	0.34	0.30	0.66	内柱形	V字型	P9732-P9850	2.0	
P9850	0.27	0.21	0.72	内柱形	U字型	P9850-P9794	1.9	
P9794	0.30	0.28	0.12	内柱形	U字型	P9794-P9841	2.0	
P9841	(0.66)	0.29	(0.24)	(内柱)	半内柱	P9841-P9855	0.8	
P9855	0.38	(0.19)	0.37	内柱形	U字型	P9855-P9879	1.5	
P9879	0.22	0.19	0.24	内柱形	U字型	P9879-P9863	2.6	
P9894	0.40	0.37	0.44	内柱形	U字型	P9894-P9787	1.5	
P9787	0.27	0.25	0.17	内柱形	U字型	P9787-P9857	2.3	
SB10460	位置 64J - K 2間 (5.2)	柱行 (m)		梁行 (m)		方位	面積	
		柱 (間)		梁 (間)		N 24° E	13.5dF	
柱穴	柱径 (m)	柱距 (m)	深さ (m)	平面	断面	標高	柱穴開削 (m)	
P9773	0.31	0.21	0.32	内柱形	U字型	P9773-P9732	2.4	
P9758	0.28	0.23	0.24	内柱形	U字型	P9758-P9762	2.4	
P9762	0.30	0.30	0.35	内柱形	U字型	P9762-P9819	2.2	
P9819	0.35	0.31	0.29	内柱形	U字型	P9819-P9808	2.8	
P9808	0.29	0.35	0.23	内柱形	(半内柱)	P9808-P9760	2.9	
P9760	0.39	0.29	0.49	内柱形	U字型	P9760-P9772	2.5	
SB10461	位置 63 - 64K - L 2間 (4.9)	柱行 (m)		梁行 (m)		方位	面積	
		柱 (間)		梁 (間)		N 32° W	13.7dF	
柱穴	柱径 (m)	柱距 (m)	深さ (m)	平面	断面	標高	柱穴開削 (m)	
P9667	0.26	0.26	0.17	内柱形	U字型	P9667-P9703	2.3	
P9705	0.33	(0.25)	0.57	(内柱)	U字型	P9705-P9842	2.7	
P9642	0.40	0.32	0.26	内柱形	台形	P9642-P9839	2.8	
P9659	0.38	0.32	0.47	内柱形	U字型	P9659-P9662	2.5	
P9662	0.39	0.28	0.47	内柱形	U字型	P9662-P9663	2.0	
P9663	0.34	0.31	0.36	内柱形	U字型	P9663-P9667	2.5	
SB10462	位置 64K	柱行 (m)		梁行 (m)		方位	面積	
		柱 (間)		梁 (間)		N 15° E	15.2dF	
柱穴	柱径 (m)	柱距 (m)	深さ (m)	平面	断面	標高	柱穴開削 (m)	
P9633	0.39	0.26	0.25	内柱形	U字型	P9633-P9871	2.2	
P9871	0.32	0.26	0.26	内柱形	U字型	P9871-P9872	1.5	
P9872	0.33	0.33	0.17	内柱形	半内柱	P9872-P9738	4.1	
P9738	(0.98)	0.35	0.41	内柱形	(U字型)	P9738-P9848	1.6	
P9848	0.37	(0.32)	0.30	(内柱)	U字型	P9848-P9795	1.9	
P9795	0.68	0.38	0.33	内柱形	V字型	P9795-P9858	2.6	
P9858	0.45	0.33	0.51	内柱形	U字型	P9858-P9633	1.5	
SB10463	位置 65A	柱行 (m)		梁行 (m)		方位	面積	
		柱 (間)		梁 (間)		N 84° W	4.5dF	
柱穴	柱径 (m)	柱距 (m)	深さ (m)	平面	断面	標高	柱穴開削 (m)	
P9633	0.29	0.25	0.26	内柱形	U字型	P9631-P9638	1.5	
P9638	0.30	0.30	0.12	内柱形	半内柱	P9638-P9637	2.1	
P9657	0.32	0.25	0.37	内柱形	U字型	P9657-P9641	1.8	
P9641	0.24	0.22	0.18	内柱形	U字型	P9641-P9770	1.2	
P9770	0.27	0.25	0.16	内柱形	U字型	P9770-P9631	1.3	
SB10464	位置 65 - 66K	柱行 (m)		梁行 (m)		方位	面積	
		柱 (間)		梁 (間)		N 77° E	13.7dF	
柱穴	柱径 (m)	柱距 (m)	深さ (m)	平面	断面	標高	柱穴開削 (m)	
P9633	0.29	0.25	0.26	内柱形	U字型	P9631-P9638	1.5	
P9638	0.30	0.30	0.12	内柱形	半内柱	P9638-P9637	2.1	
P9657	0.32	0.25	0.37	内柱形	U字型	P9657-P9641	1.8	
P9641	0.24	0.22	0.18	内柱形	U字型	P9641-P9770	1.2	
P9770	0.27	0.25	0.16	内柱形	U字型	P9770-P9631	1.3	
SB10464	位置 65 - 66K	柱行 (m)		梁行 (m)		方位	面積	
		柱 (間)		梁 (間)		N 77° E	13.7dF	
柱穴	柱径 (m)	柱距 (m)	深さ (m)	平面	断面	標高	柱穴開削 (m)	
P9640	0.42	0.37	0.38	内柱形	U字型	P9640-P9653	3.6	
P9653	0.30	0.30	0.23	内柱形	半内柱	P9653-P9754	3.8	
P9754	0.30	0.27	0.25	内柱形	半内柱	P9754-P9660	3.3	
P9660	0.26	0.21	0.23	内柱形	U字型	P9660-P9768	1.8	
P9768	0.32	0.30	0.35	内柱形	U字型	P9768-P9640	1.9	
SB10388	位置 69P	柱行 (m)		梁行 (m)		方位	面積	
		柱 (間)		梁 (間)		N 65° E	(16.5dF)	
柱穴	柱径 (m)	柱距 (m)	深さ (m)	平面	断面	標高	柱穴開削 (m)	
P9826	0.45	0.34	0.53	内柱形	偏V字型	P9826-P9829	2.7	
P9829	0.29	0.26	0.18	内柱形	U字型	P9829-P9831	2.3	
P9831	0.35	0.28	0.37	内柱形	半内柱	P9831-P9835	3.3	
P9835	0.37	0.35	0.03	内柱形	半内柱	—	—	
SB10389	位置 69P	柱行 (m)		梁行 (m)		方位	面積	
		柱 (間)		梁 (間)		N 65° E	(18.8dF)	
柱穴	柱径 (m)	柱距 (m)	深さ (m)	平面	断面	標高	柱穴開削 (m)	
P9830	0.33	0.25	0.19	内柱形	U字型	P9830-P9833	2.2	
P9833	0.25	0.25	0.39	内柱形	U字型	P9833-P9909	2.5	
P9809	0.43	(0.28)	0.04	(内柱)	半内柱	P9809-P9836	1.7	
P9836	0.70	0.40	0.34	内柱形	半内柱	P9836-P9904	2.3	
P9904	0.38	0.34	0.30	内柱形	U字型	—	—	

観察表

掘立柱建物(SB)(3)

SB10390	位置 690	航行(m)		航行(m)		方位 N 84° W	面積 7.1 m ²
		1間(3.4)	2間(6.8m)	1間(2.5m)	平面		
柱穴	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面	断面	柱穴開口(m)	面積
P9912	0.32	0.32	0.47	円形	U字型	P9912-P9914	3.4
P9914	0.35	0.32	0.58	円形	U字型	P9914-P9913	2.0
P9913	0.35	0.33	0.32	円形	U字型	P9913-P9907	3.3
P9907	0.33	0.28	0.45	円形	U字型	P9907-P9912	2.1
SB10391	位置 690+690	航行(m)		航行(m)		方位 N 14° E	面積 38.1 m ²
		2間(4.7m)		2間(4.7m)			
柱穴	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面	断面	柱穴開口(m)	面積
P9961	0.45	0.32	0.45	楕円形	U字型	P9961-P9916	2.5
P9916	0.33	0.31	0.24	円形	半円弧	P9916-P9917	2.2
P9917	0.41	0.40	0.44	円形	楕状	P9917-P9973	3.3
P9972	0.32	0.29	0.42	円形	U字型	P9972-P9840	2.3
P9840	0.25	0.23	0.32	円形	U字型	P9840-P9940	2.4
P9940	0.35	0.35	0.29	円形	U字型	P9940-P9928	2.1
P9928	0.27	(0.24)	0.22	(円形)	U字型	P9928-P9922	2.3
P9922	0.44	0.31	0.18	楕円形	半円弧	P9922-P9929	2.9
P9929	0.36	0.30	0.15	円形	楕状	P9929-P9961	5.4
SB10392	位置 680	航行(m)		航行(m)		方位 N 19° E	面積 4.4 m ²
		1間(2.6)		1間(2.2)			
柱穴	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面	断面	柱穴開口(m)	面積
P9930	0.36	0.32	0.23	円形	U字型	P9930-P9974	2.2
P9974	0.32	0.25	0.41	楕円形	U字型	P9974-P10011	1.9
P10011	0.38	0.34	0.44	円形	楕4字	P10011-P10033	1.6
P10033	0.32	0.28	0.20	円形	U字型	P10033-P9930	2.0
SB10393	位置 680	航行(m)		航行(m)		方位 N 11° W	面積 5.1 m ²
		1間(3.2m)		1間(3.6m)			
柱穴	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面	断面	柱穴開口(m)	面積
P9964	0.35	0.24	0.42	円形	U字型	P9964-P9965	1.6
P9965	0.50	0.41	0.45	楕円形	U字型	P9965-P9979	3.2
P9979	0.30	0.26	0.18	円形	楕状	P9979-P9970	1.2
P9970	0.39	0.29	0.35	円形	U字型	P9970-P9964	3.1
SB10394	位置 67P	航行(m)		航行(m)		方位 N 19° E	面積 10.3 m ²
		2間+幅(4.7)		2間(2.2)			
柱穴	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面	断面	柱穴開口(m)	面積
P10072	0.31	0.27	0.04	円形	楕状	P10072-P10236	1.9
P10236	0.38	0.33	0.24	円形	U字型	P10236-P10400	1.8
P10409	0.44	0.34	0.17	楕円形	半円弧	P10409-P10298	2.2
P10298	0.40	0.33	0.31	楕円形	半円弧	P10298-P10205	0.6
P10205	0.32	0.32	0.34	円形	U字型	P10205-P10313	1.0
P10113	0.31	0.28	0.14	円形	U字型	P10113-P10292	1.2
P10292	0.24	0.23	0.21	円形	U字型	P10292-P10297	0.6
P10297	0.55	0.47	0.24	円形	半円弧	P10297-P10401	2.0
P10401	0.37	0.27	0.11	円形	U字型	P10401-P10072	1.9
P10320	0.86	0.38	0.32	楕円形	U字型	-	-
SB10395	位置 650+65P	航行(m)		航行(m)		方位 N 25° E	面積 10.1 m ²
		2間(4.2)		2間(2.4)			
柱穴	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面	断面	柱穴開口(m)	面積
P10098	0.22	0.16	0.40	楕円形	U字型	P10098-P10097	1.5
P10078	0.25	0.24	0.24	円形	U字型	P10078-P10082	0.9
P10082	0.17	0.14	0.14	楕円形	U字型	P10082-P10081	1.6
P10081	0.26	0.24	0.23	円形	U字型	P10081-P10075	2.6
P10075	0.29	0.27	0.33	円形	U字型	P10075-P10102	1.9
P10102	0.15	0.11	0.11	楕円形	U字型	P10102-P10087	2.3
P10087	0.16	0.19	0.25	円形	U字型	P10087-P10088	1.7
SB10396	位置 650+66P	航行(m)		航行(m)		方位 N 13° E	面積 41.3 m ²
		4間+幅(9.6)		2間(4.3)			
柱穴	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面	断面	柱穴開口(m)	面積
P10283	0.35	0.26	0.19	楕円形	U字型	P10283-P10416	1.9
P10416	0.31	(0.15)	0.15	(円形)	U字型	P10416-P10212	2.4
P10212	0.26	0.23	0.05	円形	楕状	P10212-P10104	1.9
P10104	0.38	0.31	0.05	円形	半円弧	P10104-P10108	2.3
P10108	0.38	0.30	0.44	楕円形	U字型	P10108-P10103	1.9
P10103	0.39	0.38	0.21	円形	U字型	P10103-P10098	1.6
P10098	0.34	0.23	0.13	楕円形	半円弧	P10098-P10084	1.9
P10084	0.25	0.20	0.36	楕円形	U字型	P10084-P10079	4.2
P10079	0.37	0.27	0.29	楕円形	U字型	P10079-P10114	2.2
P10114	0.37	0.38	0.26	円形	U字型	P10114-P10116	2.0
P10116	0.37	0.36	0.16	円形	U字型	P10116-P10290	1.9
P10260	0.44	0.22	0.18	楕円形	U字型	P10260-P10220	1.7
P10220	0.32	0.32	0.29	円形	U字型	P10220-P10283	1.6
P10110	0.35	0.34	0.44	円形	U字型	P10110-P10104	2.2

掘立柱建物 (SB) (4)

SB10397	位置 650 - 65P - 660 - 66P	軒行 (m)		梁行 (m)		方位 N45°E (28.6m)	面積 構造 棟間1箇
		4間 (6.5)	1間 (4.4)	平面	断面		
柱穴	直径 (m)	幅 (m)	深さ (m)	平面	断面	柱穴開口 (m)	
P10129	0.34	0.34	0.35	円形	U字状	P10129-P10173	4.3
P10173	0.36	0.32	0.24	円形	U字状	P10173-P10208	2.2
P10208	0.50	0.45	0.41	円形	U字状	P10208-P10245	1.2
P10245	0.37	0.34	0.30	円形	U字状	P10245-P10118	1.5
P10118	0.41	0.40	0.40	円形	V字状	P10118-P10092	1.5
P10092	0.38	0.26	0.13	楕円形	U字状	-	-
P10161	0.34	0.34	0.24	円形	V字状	P10161-P10123	1.0
P10123	0.40	0.38	0.38	円形	U字状	P10123-P10129	2.3
SB10398	位置 660 - 66P	軒行 (m)		梁行 (m)		方位 N41°E (22.6m)	面積 構造 棟間1箇
		2間 (5.1m)	1間 (2.4)	平面	断面		
柱穴	直径 (m)	幅 (m)	深さ (m)	平面	断面	柱穴開口 (m)	
P10209	0.24	0.19	0.13	楕円形	U字状	P10209-P10323	3.0
P10323	0.22	0.20	0.27	円形	U字状	P10323-P10286	1.1
P10286	0.49	0.27	0.39	楕円形	V字状	P10286-P10282	2.1
P10282	0.30	(0.19)	0.08	(円形)	楕円形	P10282-P10201	2.2
P10201	0.36	0.36	0.35	円形	U字状	P10201-P10124	3.1
P10124	0.40	0.31	0.26	楕円形	U字状	P10124-P10126	2.3
P10126	0.26	(0.19)	0.09	(円形)	楕円形	P10126-P10202	1.5
P10202	0.35	0.34	0.30	円形	U字状	P10202-P10209	1.1
SB10399	位置 660 - 670	軒行 (m)		梁行 (m)		方位 N27°E (13.4m)	面積 構造 棟間1箇
		2間 (4.2m)	1間 (3.2)	平面	断面		
柱穴	直径 (m)	幅 (m)	深さ (m)	平面	断面	柱穴開口 (m)	
P10296	0.33	0.26	0.23	楕円形	U字状	P10296-P10661	3.3
P10061	0.39	0.32	0.44	楕円形	U字状	P10061-P10070	2.0
P10070	0.28	0.21	0.24	楕円形	U字状	P10070-P10304	2.8
P10304	0.27	0.25	0.20	円形	U字状	P10304-P10254	3.0
P10254	0.50	0.39	0.38	楕円形	U字状	P10254-P10206	1.8
P10206	0.35	0.35	0.56	円形	U字状	P10206-P10296	2.5
SB10400	位置 660 - 66P - 670 - 67P	軒行 (m)		梁行 (m)		方位 N21°E (24.8m)	面積 構造 棟間1箇
		3間 (6.9m)	1間 (3.6m)	平面	断面		
柱穴	直径 (m)	幅 (m)	深さ (m)	平面	断面	柱穴開口 (m)	
P10317	0.40	0.40	0.37	円形	楕円形	P10317-P10332	3.8
P10332	0.58	0.39	0.40	楕円形	U字状	P10332-P10414	4.3
P10414	0.50	0.30	0.48	楕円形	V字状	P10414-P10285	2.5
P10285	0.35	0.35	0.34	円形	U字状	P10285-P10152	3.0
P10152	0.37	0.33	0.31	円形	U字状	P10152-P10160	2.8
P10160	0.36	0.35	0.34	円形	半円形	P10160-P10413	2.3
P10205	0.40	0.32	0.23	楕円形	U字状	P10205-P10217	1.9
SB10442	位置 66P - 67P	軒行 (m)		梁行 (m)		方位 N42°E (30.3m)	面積 構造 棟間1箇
		5間 (9.9m)	1間 (3.4m)	平面	断面		
柱穴	直径 (m)	幅 (m)	深さ (m)	平面	断面	柱穴開口 (m)	
P10307	0.22	0.20	0.30	円形	U字状	P10307-P10331	3.4
P10331	0.44	0.42	0.66	円形	U字状	P10331-P10299	1.7
P10299	0.25	0.22	0.31	円形	U字状	P10299-P10148	1.6
P10148	0.64	0.46	0.35	楕円形	半円形	P10148-P10125	2.0
P10125	(0.24)	0.25	0.03	円形	楕円形	P10125-P10175	1.9
P10175	0.39	0.37	0.20	円形	U字状	P10175-P10163	1.7
P10163	0.46	0.39	0.14	円形	U字状	-	-
P10301	0.26	0.23	0.22	円形	U字状	P10301-P10207	1.5

井戸 (SE) (1)

番号	種別	グリッド	長辺 (m)	短辺 (m)	幅 (m)	平面	断面	壁上 切り合ひ	主な出土遺物・薬考
9513 SE 67J	2・6	12・17	0.73	0.66	1.06	円形	U字状	斜壁	-
9514 SE 67J	5	13	0.83	0.64	1.59	楕円形	楕円形	水平	土師質土器(鏡)(116)
9527 SE 64H	5	6	0.80	0.80	0.80	円形	楕円形	レンズ状	<SD9526
9538 SK 65H	2	(1.12)	(0.98)	1.26	0.78	楕円形	楕円形	-	-
9554 SE 64G	21・22	1・2	0.78	0.72	0.91	円形	U字状	レンズ状	- 漆器
9594 SE 64H	12		0.86	0.86	0.81	円形	楕円形	レンズ状	<SK9624
9606 SE 63G	25	21	0.89	0.83	1.24	円形	凸形状	水平	<PM605 <SD9526
9607 SE 64H	1・2	0.72	0.42	0.88	0.86	楕円形	凸形状	レンズ状	-
9618 SE 64H	20		0.90	0.86	1.15	円形	楕円形	プロック状	-
9619 SE 64H	24・25	4・5	1.39	1.35	1.38	円形	楕円形	レンズ状	- 鎌矛(145)
9623 SE 65I	2・6	11・12	4.74	4.16	1.87	円形	半円状	レンズ状	土師質土器(191)/青磁(209)/陶器(21)/骨器(21)/動物(133) 漆器(119)/石器類(139~142)/刀(146)/ 軸(145)
9688 SE 63K	14・15	19・20	1.52	1.08	1.54	楕円形	U字状	レンズ状	-

観察表

井戸(SE)(2)

番号	標識	グリッド	長径・長幅 (m)	短径・幅 (m)	深さ (m)	平面形	断面形	土堆	切り合い	主な出土遺物・標号
9737	SE 64K	16	1.23	0.96	1.46	楕円形	弧状	斜位・ レンズ状	-P9641 -P9655	上層質土層・越前焼(22)
9899	SE 63K	10・15 6	(1.56)	(1.37)	0.82	円形	凸形狀	斜位	-SD9665	上層質土層・陶磁器
9906	SE 61P	18・23	0.78	(0.60)	0.64	(円形)	弧状	斜位	-	
9972	SE 68O	15 11	1.05	1.02	1.01	円形	凸形狀	レンズ状	-	
10091	SE 68N	22・25	0.90	0.85	0.92	円形	U字狀	レンズ状	-	埴輪
10093	SE 68N	16・17	(0.81)	(0.74)	(0.61)	円形	U字狀	レンズ状	-SD10002	上層質土層(29)
10097	SE 68S	8・13	0.62	0.55	0.44	円形	弧状	单層	-	土坑か
10014	SE 68N	8	(0.68)	0.64	0.68	円形	U字狀	レンズ状	-SD10022	
10015	SE 68N	12・17	0.94	0.84	0.68	円形	弧状	レンズ状	-	木、土坑か
10036	SE 68N	14・15	(0.72)	(0.60)	0.92	(円形)	弧状	レンズ状	-SD10038	木漆(114・123～129)
10037	SE 68N	5・2	0.91	0.83	0.98	円形	U字狀	プロック状	-P10033	
10053	SE 66O	9・10	(0.80)	(0.79)	1.13	(円形)	U字狀	水平	-P10054	
10057	SE 66O	14・15	1.08	0.99	1.40	円形	凸形狀	レンズ状	-P10055	上層質土層・陶磁器(34) /木
10069	SE 67O	1・6	(1.05)	(0.92)	0.84	円形	凸形狀	水平	-P10069	
10132	SE 66O	22・23	0.75	0.70	1.94	円形	弧状	水平	-SD10942	
10167	SE 65O	15 11	1.05	0.93	1.36	円形	凸形狀	斜位	-SD10111	
10189	SE 65O	19・24	0.68	0.64	1.30	円形	U字狀	斜位	-	
10170	SE 65O	20・25	0.94	0.93	1.16	円形	V字狀	レンズ状	-	
10181	SE 68O	2	0.90	0.87	0.88	円形	U字狀	水平	-P10039	
10227	SE 68N	10・15	0.94	0.82	0.92	円形	凸形狀	水平・斜位	-SK10018	
10230	SE 67L	17・22	0.96	0.96	1.54	円形	弧状	レンズ状	-	
10231	SE 66L	18	0.78	0.68	0.94	円形	凸形狀	水平・レンズ	-	
10232	SE 68N	2・3 7・8	(1.15)	(1.00)	(1.66)	円形	U字狀	レンズ状	-SD10021 -SD10229 -P10275 -P10276	青磁
10239	SE 66N	14・15 19・20	0.90	0.84	0.78	円形	弧状	レンズ状	-SX10030	
10241	SE 66O	4・9	0.74	0.74	0.83	円形	U字狀	レンズ状	-P10255	磁石(136)
10238	SE 67K	6・11	1.09	0.94	1.50	円形	弧状	レンズ状	-	板瓦
10249	SE 66K	15	0.69	0.66	0.88	円形	弧状	レンズ状	-	陶磁器(23)
10270	SE 67K	9・10 14・15	(0.95)	(0.90)	0.73	(円形)	弧状	レンズ状	-SD10226	鉢(116)
10277	SE 67K	24	(0.71)	(0.69)	1.22	(円形)	凸形狀	レンズ状	-SK10235	上層質土層(24)
10280	SE 66O	13・14	(1.26)	(1.12)	1.41	円形	梯段狀	レンズ状	-P10416 -P10281	上層質土層・陶磁器
10321	SE 67O	16・21	(1.24)	(1.14)	1.36	円形	弧状	レンズ状	-SD9941	上層質土層(42) /陶磁器(42・44) /板瓦(131)
10339	SE 67O	22 2	1.09	0.56	1.21	楕円形	U字狀	レンズ状	-P10336	
10342	SE 66L	4・5	1.14	0.88	1.56	楕円形	U字狀	レンズ状	-	陶磁器
10366	SE 65L	9	0.84	0.81	1.10	円形	弧状	レンズ状	-	上層質土層

土坑(SK)(1)

番号	標識	グリッド	長径・長幅 (m)	短径・幅 (m)	深さ (m)	平面形	断面形	覆土 (厚±)	切り合い	主な出土遺物・標号
9511	SK 66K	24・25 4・5 67K	(2.93)	1.74	0.21	楕円形	弧状	单層	-SK3617	上層質土層
9515	SK 66L	5	0.87	0.84	0.45	円形	U字狀	レンズ状	-SK3616	鐵
9516	SK 66L	5	(0.82)	(0.21)	0.32	(円形)	(斜位)	水平・斜位	-SK3615	鐵
9517	SK 67K	60K 1	(0.48)	0.45	0.51	円形	弧状	水平・レンズ	-SK3611	上層質土層・越前焼(23) /板瓦
9624	SK 63H	11・14 19・21	8.29	3.51	0.89	楕円形	凸形狀	レンズ状	-SK3034 -SD10002	上層質土層(3) /陶磁器(4・5) /板瓦(144) /鐵製品・鐵/木
9630	SK 64I	10・15	(1.18)	(0.63)	0.28	(楕円形)	弧状	レンズ状	-P9629	漆物
9630	SK 65K	13・14	0.59	0.51	0.61	円形	弧状	单層	-	
9655	SK 65L	5・10 1・6	2.20	1.10	0.43	楕円形	凸形狀	レンズ状	-	青磁/陶磁器
9685	SK 63K	8・9 13・14	1.06	0.93	0.90	方形容	弧状	レンズ状	-	
9739	SK 64K	20	0.83	0.63	0.11	楕円形	弧状	レンズ状	-	
9755	SK 65L	19・20	0.64	0.56	0.80	円形	弧状	レンズ状	-	
9756	SK 65K	19	0.85	0.79	0.85	方形容	弧状	レンズ状	-	陶磁器(125) /漆
9788	SK 64L	5	0.93	0.68	0.20	楕円形	弧状	水平	-P9715	
9780	SK 65K	11	0.91	0.80	0.81	方形容	弧状	レンズ状	-	
9814	SK 65K	9・10	0.58	0.42	0.12	円形	弧状	水平	-P9715	陶磁器(26)
9816	SK 64J	18・23	0.82	0.77	0.61	円形	弧状	レンズ状	-	
9817	SK 63J	25	0.76	0.61	0.30	楕円形	凸形狀	レンズ状	-	
9874	SK 64K	6	10.88	(0.67)	(0.30)	楕円形	弧状	单層	-P9852 -P9861 -P9885 -P9886	
9895	SK 65J	11	0.70	0.68	0.62	円形	弧状	レンズ状	-	
9896	SK 65J	9・10 14・15	0.92	0.88	0.13	円形	弧状	单層	-	
9944	SK 67O	13・14	0.89	0.80	0.60	円形	弧状	斜位	-SD9941	陶磁器
9955	SK 68N	13・18 19	1.65	0.78	0.10	長方形	弧状	レンズ状	-SK3980	

土坑(SK)(2)

番号	種別	グリッド	長径・長幅 (m)	短径・幅 (m)	深さ (m)	平面形	断面形	覆土 (厚さ) (m)	切り合い	主な出土物・標考
9976	SK	68N	19・20 24・25	2.37	1.15	0.21	長方形	瓶状	レンズ状	>SK39851 >P9691 >P10012
9980	SK	68N	13	(1.31)	(1.20)	(0.21)	方形	瓶状	レンズ状	>SK3975
9981	SK	68N	18・19 24	(0.85)	(0.81)	(0.20)	楕円形	瓶状	レンズ状	>SK3976
10016	SK	68N	9・10 14・15	(2.62)	1.15	0.20	楕円形	瓶状	レンズ状	-
10018	SK	68N	9・10 14・15	(3.00)	1.15	0.26	円形	瓶状	プロック状	>SE100227 >SE100356 >P10017
10024	SK	68N	2・7	2.24	0.86	0.41	長方形	瓶状	斜傾	>P10032 >P10035
10115	SK	65O	4・9	0.82	0.76	0.65	円形	V字状	斜傾	-
10197	SK	68M	8	(0.80)	(0.70)	(0.50)	円形	瓶状	レンズ状	-
10222	SK	67M	2・3	0.84	0.70	0.26	円形	半円状	レンズ状	-
10224	SK	67M 67N	19・20 24・25 4・5 9・10	2.90	1.58	0.38	楕円形	瓶状	レンズ状	>P10453 >P10454
10228	SK	66I	19・24	0.72	0.58	0.68	楕円形	U字状	单層	-
10229	SK	66I 67L	15・20 11・12	3.56	0.72	0.17	楕円形	瓶状	レンズ状	-
10272	SK	66K	13・14	0.71	0.68	0.10	円形	瓶状	单層	-
10358	SK	67N	21	(0.78)	(0.60)	(0.18)	楕円形	半円状	单層	>P10359 >SD10224
10360	SK	66L	14・15	0.79	0.63	0.22	楕円形	瓶状	单層	-
10368	SK	65L	1	0.47	0.32	0.32	楕円形	半円状	レンズ状	-
10455	SK	67N	12	1.28	(0.64)	0.39	(楕円形)	瓶状	レンズ状	>SD10441

溝(SD)(1)

番号	種別	グリッド	長径・長幅 (m)	短径・幅 (m)	深さ (m)	平面形	断面形	理上	切り合い	出土遺物
9501	SD	62G・62H・ 62I	-	27.0 21.0	2.82	1.01	-	半円状	レンズ状	>SD9520 珠洲鏡/両面器/漆器/木
9519	SD	63・64I	-	14.33 以上	3.24	0.90	-	台形状	レンズ状	-
9526	SD	64G	-	9.05 以上	0.71	0.12	-	瓶状	单層	>SD9527 珠洲鏡(8)・刀子(147)
9622	SD	66I・67I 64・66J	-	33.91 以上	2.10	0.74	-	台形状	レンズ状	>SD9501 上部質土層(9・10)・珠洲鏡(12～15)・越前鏡(16・18)・青磁(17)・漆器柄(120)・石製品(133・135・136)・瓦(9・149)
9661	SD	63L	-	7.5 以上	0.28	0.09	-	瓶状	单層	-
9665	SD	63K・L	-	9.50 以上	0.86	0.18	-	瓶状	レンズ状	>SD9599 >P9679 >P9680 >P9681 >P9684 >P9686 >P9704
9707	SD	64L	-	(2.02)	0.63	0.05	-	瓶状	单層	上部質土層・両面器/G
9708	SD	64K	-	(15.40) 以上	0.60	0.50	-	瓶状	单層	>P9729 >P9845 >SD9574 >SD9575 >P9740 上部質土層・両面器
9824	SD	61F・G・H	-	(19.16) 以上	0.66	0.17	-	半円状	レンズ状	-
9938	SD	67・68O 67・68P	-	(26.56) 以上	2.43 ~ 2.70	0.48 ~ 0.54	-	瓶状	レンズ状	>SD9941 >SD9942 >SD9943 >SD9946 >SD9947 >SD9950 >SD9951 >SD9958 >SD10321 >SD10132 珠洲鏡/両面器 (は)多數
9941	SD	65・66P 66・67O	-	(21.55) 以上	1.54 ~ 2.24	0.10	-	瓶状	单層	>SD10321 >SD10132 珠洲鏡/両面器
9942	SD	66・67O	-	(15.86) 以上	0.57 ~ 0.64	0.06 ~ 0.12	-	瓶状	单層	>SD9938 上部質土層
9943	SD	67O	-	6.07	0.61	0.09	-	瓶状	单層	>SD9945 >SD9946 >SD9947 >SD9948 上部質土層(46)
9946	SD	67N・O	-	4.65	0.46 ~ 0.60	0.05	-	瓶状	单層	>SD9938 >P10067
10021	SD	68L・M・N	-	(13.48) 以上	0.72	0.07	-	瓶状	单層	>SD10232 >SD10191 >SD10192 >SD10233 >SD10239 >SX10029
10022	SD	68N	-	(8.29) 以上	0.77	0.04	-	瓶状	单層	>SE10014 >P9991 >P9992 >P9993 >P10026 >SX10002

観察表

溝 (SD) (2)

番号	種別	グリッド	長径・長軸 (mm)	短径・幅 (mm)	深さ (mm)	平面形	断面形	地土	切り合い	出土遺物
10111	SD	65 - 66O	—	2.82	0.61	0.06	—	弧状	単層	>P10429 >SD10167
10183	SD	68L - M	—	9.49	0.56	0.04	—	弧状	単層	>SD10191 >SD10192 >SD10193 >SD10194
10184	SD	67 - 68M	—	7.74	0.59	0.06	—	弧状	単層	>SD10191 >SD10192 >SD10193 >SD10233
10185	SD	67 - 68M	—	6.25	0.54	0.07	—	弧状	単層	>SD10191 >SD10192 >SD10233
10191	SD	67 - 68M	—	(11.43)	0.66	0.13	—	弧状	単層	土耕質上面/陶調焼(27)
10192	SD	67 - 68M	—	(11.85) 68L	0.44	0.21	—	弧状	レンズ状	土耕質上面/陶調焼(28)
10193	SD	67 - 68M	—	(8.34) 68L	0.71	0.29	—	台形状	水平	>SD10183 >SD10183 >SD10184
10226	SD	67L - K - L 68L	—	(7.52) 68L	0.49	0.09	—	弧状	単層	>SE10270
10233	SD	67M 68L - 68M	—	(11.32) 68L	0.68	0.12	—	弧状	単層	>SD10021 >SD10183 >SD10184 >SD10185
10234	SD	66K - L	—	6.43	0.35	0.09	—	弧状	単層	>SX10255 >SX10358
10237	SD	67L	—	8.74	0.57	0.15	—	半円状	レンズ状	—
10249	SD	66O	—	0.79	0.38	0.10	—	半円状	単層	>P10107
10271	SD	67K - 67K	—	3.31	0.74	0.09	—	弧状	単層	—
10273	SD	66K	—	2.79	0.55	0.16	—	台形状	レンズ状	—
10274	SD	66K	—	1.74	0.35	0.05	—	弧状	単層	—
10346	SD	65K	—	2.63	0.20	0.08	—	弧状	単層	>P10370
10389	SD	64 - 65L 65L	—	(8.16) 65L	0.28	0.07	—	弧状	単層	—
10385	SD	64 - 65N	—	12.02	0.66	0.10	—	弧状	単層	>SX10450
10437	SD	66N	—	(9.18) 65L	0.47	0.08	—	弧状	単層	>SX10450 土耕質上面(86)
10440	SD	66N	—	(3.84) 65L	0.60	0.15	—	弧状	単層	>SX10450
10441	SD	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10442	SD	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10445	SD	66 - 67N	—	(4.00) 65L	0.77	0.14	—	弧状	単層	>SI10444
10446	SD	65 - 66M	—	0.52	0.40	0.12	—	弧状	単層	>SN10450

性格不明遺構 (SX)

番号	種別	グリッド	長径 長軸 (mm)	短径・幅 (mm)	深さ (mm)	平面形	断面形	地土	切り合い	出土遺物	
9503	SX	66L 67L	20 16	0.59	0.47	0.11	円形	弧状	単層	—	
10002	SX	68N	11 - 12 16 - 17 21 - 22	4.96	1.63	0.12	長方形	弧状	単層	>P9984 >P9985 >SI10003 >P10004 >P10005 >P10006 >P10009 >P10020 >P10195 >SD10022	
10019	SX	68N 69N	15 11	(3.04) (0.37)	(0.31)	(橋円形)	弧状	レンズ状	—	—	
10029	SX	68M - 68N 22 - 23 24 2 - 3 - 4	—	1.33	0.13	長方形	弧状	ブロック状	>SE10232 >SD10021	土耕質上面(30)/陶調焼	
10030	SX	68N	14 - 19	1.50	1.32	0.25	不整形	弧状	ブロック状	>P10012 >SI10239	
10031	SX	68N 69N	20 16	(1.29) (0.81)	0.48	(橋円形) (半円形)	レンズ状	—	—	—	
10235	SX	67K	18 - 19 22 - 23 24	3.61	(1.19)	0.10	(長方形)	弧状	単層	>SE10277 >SD10234	土耕質上面
10444	SX	66N 67N	20 16	2.14	0.96	0.32	V字形	単層	>SD10445	土耕質上面/瓦	
10450	SX	63M - 63N 63L 64L - 64M 64M - 64Q 65M - 65N - 65Q, 66M - 66S, 66O - 67M - 67N	—	33.0	13.5	0.63	直上	—	弧状	レンズ状	— 土耕質上面(49 - 59)/土耕層(60)/陶調焼(61 - 77)/陶磁器(78 - 85)/木漆(117 - 124 - 126)/ 4輪車(132)/瓦質(152 - 163)

觀察表

土器・陶磁器觀察表（1）

樹種名	品種名	固有名	樹形	樹高	樹木地點		法規 (cm)		色調		葉態		著生	備考				
					グリッド	通路	樹位	寸法	枝量	葉色	内面	外面	葉面 (外)					
48	1 上樹質 葉	G4117	P9626	2	11.0	-	-	10YR7/4 G4/10R6/4	10YR7/4 G4/10R6/4	N6/1褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	黒・赤	T1類				
49	2 風潤樹 葉	G4123	P9626	2	-	-	-	5YR1/1褐色	N6/1褐色	-	-	静止系切り	G・白	内山耐候・T類				
48	3 上樹質 葉	G4625	SK9824	13	11.4	-	3.1	10YR8/2 G4/10R6/2	10YR8/2 G4/10R6/2	N6/1褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	黒・白・G・角	T1類				
46	4 風潤樹 口跡	G4625	SK9824	13	-	-	-	5YR1/1褐色	5YR1/1褐色	DY6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	白・白					
46	5 風潤樹 葉	G4619	SK9824	13	-	-	-	N6/1褐色	N6/1褐色	気泡	タタキ	タタキ	白	T類				
46	6 上樹質 小葉	G4617-12	S95919	8	-	(6.4)	-	10YR4/2 G4/10R6/2	7.5YR5/4 G4/10R6/2	-	-	ナデ	-	G・白	8・9月配			
47	7 上樹質 小葉	G310.15	S95919	8	11.0	5.5	8.7	7.5YR3/2 G4/10R6/2	7.5YR7/4 G4/10R6/2	にい・褐色	微細斑紋	微細斑紋	ナデ	ナデ	8・9月配			
48	8 風潤樹 口跡	G59526	1	-	-	-	-	5YR1/1褐色	5YR1/1褐色	N7/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	G・白・白	内山耐候・V類			
49	9 上樹質 葉	G4221	S96922	12.0	-	2.6	10YR7/4 G4/10R6/4	10YR7/4 G4/10R6/4	N6/1褐色	ナデ	ナデ	-	-	T2類				
49	10 上樹質 小葉	G6723	S96922	5	9.0	-	1.6	2.5YR8/2 H10/10	2.5YR8/2 H10/10	N6/1褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	黒・白・白・赤	スス木村材	T1類			
49	11 風潤樹 葉	G6623	S96922	2	-	-	-	N4/1褐色	N7/1褐色	押出斑紋	タタキ	-	G・黒・白	T類				
49	12 風潤樹 葉	G642	S96922	8	-	-	-	N5/1褐色	N5/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	黒・白・白					
49	13 風潤樹 葉	G655	S96922	1	-	-	-	2.5YR1/1褐色	2.5YR1/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白	G・白				
49	14 風潤樹 口跡	G6521	S96922	2	-	-	-	5YR1/1褐色	5YR1/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	白	G・黒・白・V類	II・III期			
49	15 風潤樹 口跡	G6519	S96922	3	32.0	-	-	2.5YR7/3 H10/10	2.5YR7/3 H10/10	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	白・黒	G・白・黒	II・III期			
49	16 超耐候 葉	G6425	S96922	2	-	-	-	7.5YR5/2 G4/10R6/2	7.5YR5/2 G4/10R6/2	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	白	-				
49	17 背脂 樹	G4118	S96922	3	-	-	-	7.5YR7/2 G4/10R6/2	7.5YR7/2 G4/10R6/2	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	割り出し・青苔	黒				
49	18 超耐候 葉	G4225	S96922	1	-	(20.0)	-	5YR6/2 H9/9R6/2	5YR6/2 H9/9R6/2	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	付着物あり	内山耐候				
49	19 上樹質 小葉	G6522	S96923	1	9.8	-	-	2.5YR7/3 H10/10	2.5YR7/3 H10/10	N6/1褐色	ナデ	ナデ	付着物あり	内山耐候	T2類			
49	20 香脂 樹	G5522	S96923	4	-	5.4	-	5YR6/4 H9/9R6/4	5YR5/3 H9/9R6/4	N6/1褐色	輪點	輪點	削り出し・高台	-	風潤樹原木			
49	21 風潤樹 葉	G6117	S96923	2	-	-	-	N6/1褐色	7.5YR6/1褐色	N6/1褐色	ナデ	ナデ	-	石・削	輪點			
49	22 風潤樹 葉	G645	S97717	5	34.3	-	-	7.5YR7/4 G4/10R6/4	7.5YR7/4 G4/10R6/4	N6/1褐色	ナデ	ナデ	-	白				
49	23 風潤樹 葉	G6615	S10269	3	-	(7.4)	-	2.5YR6/1褐色	2.5YR6/1褐色	N6/1褐色	ナデ	ナデ	当て具	タタキ				
49	24 上樹質 小葉	G6724	S10277	1	9.1	-	-	7.5YR7/3 H10/10	7.5YR7/3 H10/10	N6/1褐色	ナデ	ナデ	当て具	タタキ	風潤樹原木	G	花栄木付材	
49	25 風潤樹 口跡	G6513	S97596	4	-	-	-	10YR9/1 H10/10	7.5YR6/1褐色	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	幹・黒	香脂			
49	26 風潤樹 葉	G6313	S98914	4	-	12.2	-	N6/1褐色	N6/1褐色	日付ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切り	石・削	T類・細粒性			
49	27 風潤樹 葉	G67M7	S101911	2	-	-	-	N6/1褐色	N6/1褐色	ナデ	ナデ	ナデ	-	G・白	T類			
49	28 風潤樹 口跡	G67M9	S10192	1	-	(14.1)	-	10YR9/3 H10/10	10YR9/3 H10/10	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切り	-	耐候性			
49	29 上樹質 葉	G67N14	S101003	3	11.6	-	3.4	7.5YR6/6 H10/10	7.5YR6/6 H10/10	N6/1褐色	日付ナデ	ロクロナデ	-	G・白	スス木村材	T1類		
49	30 風潤樹 葉	G67M20-25	S10224	5	(46.6)	-	-	2.5YR7/2 H10/10	2.5YR7/2 H10/10	N6/1褐色	ナデ	ナデ	削り出し・高台	-	風潤樹原木	G	花栄木付材	
49	31 風潤樹 葉	G67N4	S10224	2	-	-	-	N6/1褐色	N6/1褐色	当て具	タタキ	-	石・削	香脂				
49	32 上樹質 葉	G67O4	S109938	(12.4)	-	-	-	7.5YR7/6 H10/10	7.5YR7/6 H10/10	N6/1褐色	日付ナデ	ロクロナデ	削り出し・高台	-	風潤樹原木	G・白	内山耐候付材	
49	33 上樹質 葉	G67P1	S109938	12.6	4.8	3.1	-	10YR9/3 H10/10	10YR9/3 H10/10	N6/1褐色	日付ナデ	ロクロナデ	削り出し・高台	-	風潤樹原木	G・白	内山耐候付材	
49	34 上樹質 葉	G67O6	S109938	1	(11.2)	-	-	7.5YR8/4 H10/10	7.5YR8/4 H10/10	N6/1褐色	日付ナデ	ロクロナデ	削り出し・高台	-	風潤樹原木	G・白	内山耐候付材	
49	35 風潤樹 葉	G67O16	S109938	1	-	-	-	N6/1褐色	N6/1褐色	タタキ	-	タタキ	-	G・白	T類			
49	36 風潤樹 口跡	G67O16	S109938	1	-	-	-	2.5YR5/1 H9/9R6/1	2.5YR5/1 H9/9R6/1	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	白・削	田原			
49	37 風潤樹 口跡	G67O16	S109938	1	(34.0)	-	-	2.5YR5/1 H9/9R6/1	2.5YR5/1 H9/9R6/1	N6/1褐色	日付ナデ	ロクロナデ	-	白	香脂			
49	38 風潤樹 葉	G67N25-66M14	S109938	1	-	-	-	N6/1褐色	N6/1褐色	当て具	タタキ	-	白・削	香脂				
49	39 上樹質 葉	G68N3	S101029	1	11.6	-	-	10YR9/4 H10/10	10YR9/3 H10/10	N6/1褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	削り出し・高台	-	風潤樹原木	G・白・白	化成木付材	
49	40 香脂 樹	G69P3	P9911	1	-	-	-	7.5YR5/1 H9/9R6/1	7.5YR5/1 H9/9R6/1	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	風潤樹原木	T類		
49	41 風潤樹 葉	G69P7	S101021	1	10.9	-	-	10YR4/2 H10/10	10YR4/3 H10/10	N6/1褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	削り出し・高台	-	風潤樹原木	G・白	香脂	
49	42 上樹質 葉	G69P1	S101021	4	(26.4)	-	-	5YR5/1 H9/9R6/1	5YR5/1 H9/9R6/1	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	白・削	田原			
49	44 爪深系 葉	G67O21	S101021	2	(12.6)	-	-	7.5YR1/6褐色	GY4/1褐色	N6/1褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切り	白・削	T類			
49	45 風潤樹 口跡	G67O11	S1021	9.8	13.1	-	-	N6/1褐色	N6/1褐色	日付ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	静止系切り	白	香脂			

観察表

土器・陶磁器観察表(2)

開拓場 番号	場所 番号	種類	形態	出土地點			測量(cm)			色調			測量			基上	備考
				グリッド	通標	標位	口徑	底径	高さ	内面	外面	表面(外)	内面	外面	表面(外)		
50 46	土器質	瓶	6706 66012	SD09043	1	11.8	-	2.2	7.5YR5/3 褐色	GYR7/6 白色	ヨコナデ	ヨコナデ	直潤江底	G・角	T1類		
50 47	土器質	小瓶	65SP12 17	P10107	1	7.4	-	1.7	7.5YR6/2 褐色	GYR6/6 白色	ヨコナデ	ヨコナデ	直潤江底	G・角	T1類		
50 48	土器質	小瓶	65SP5	P10421	1	(9.2)	(5.2)	1.7	10YR3/1 褐色	10YR2/1 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	斜板直切		内外面変化付材、 R面		
50 49	土器質	瓶	67N1	SX10450	3	(13.6)	-	-	7.5YR6/6 褐色	10YR7/6 白色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	-	内外面スカ付材		
50 50	土器質	瓶		SX10450	3	13.0	-	-	10YR8/2 褐色	10YR8/2 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	直潤江底	白・砂	泥化物付材、T1類		
50 51	土器質	瓶	66N16	SX10450	3	12.6	-	-	10YR7/1 褐色	10YR7/2 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	G	内外面変化付材、 T1類		
50 52	土器質	瓶	67N10	SX10450	3	(15.6)	-	-	10YR7/2 褐色	10YR5/1 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	G・砂	泥化物付材、T1類		
50 53	土器質	瓶	64N5	SX10450	1	(12.2)	-	-	10YR7/3 褐色	10YR8/3 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	-	T2類		
50 54	土器質	瓶		SX10450	1	(12.0)	2.0	1.0	10YR7/2 褐色	10YR7/2 褐色	ナデ	ナデ	斜潤江底	白	内外面変化付材、 T1類		
50 55	土器質	小瓶	67N	SX10450		(8.5)	1.8	-	7.5YR6/6 褐色	10YR7/2 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	G・白・砂	T1類		
50 56	土器質	小瓶	67N10	SX10450		(4.2)	1.8	1.0	10YR7/2 褐色	10YR8/2 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	G・白	口縫変化付材、 T1類		
50 57	土器質	小瓶	67N17	SX10450	8.6	6.4	1.8	1.0	10YR5/1 褐色	10YR6/3 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	封・白	内外面変化付材、 T1類		
50 58	土器質	瓶	66N21	SX10450	1	-	-	-	10YR7/1 褐色	10YR7/2 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	G	内外面変化付材		
50 59	土器質	不明	64N4	SX10450	1	-	(3.5)	-	10YR3/1 褐色	10YR5/1 褐色	ナデ	ナデ	斜潤江底	砂	9・10世紀?		
50 60	土器質	瓶	66N20	SX10450		(28.2)	-	-	5YR6/6 褐色	7.5YR7/4 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	封・砂	9世紀		
50 61	陶製鏡	片口鏡	65N22	SX10450	2	(21.8)	-	-	N5/褐色	N6/褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	封	世類		
50 62	陶製鏡	片口鏡	67M	SX10450	4	(23.5)	-	-	N6/褐色	7.0YR6/1 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	封	II・III類		
50 63	陶製鏡	片口鏡	67N11	SX10450	2	(24.0)	-	-	N5/褐色	N5/褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	G・封・白	白色シルトから		
50 64	陶製鏡	片口鏡	62117	SX10450	2	(26.7)	-	-	6Y6/1 褐色	2.5Y7/1 褐色	-	-	-	封・白	V類		
50 65	陶製鏡	片口鏡	66M23	SX10450	4	(34.5)	-	-	10YR7/2 褐色	10YR7/2 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	封	II・III類		
50 66	陶製鏡	片口鏡	67N1	SX10450	2	-	-	-	7.5YR5/1 褐色	SY6/1 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	-	V類	
50 67	陶製鏡	片口鏡	67N11	SX10450	2	-	-	-	7.5YR6/1 褐色	N7/褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	G	口縫変化付材		
50 68	陶製鏡	片口鏡	68N24	SX10450	1	-	-	-	N6/褐色	N5/褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	白			
50 69	陶製鏡	片口鏡	67N25	SX10450	2	-	(12.0)	-	N6/褐色	N6/褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	静止直切り	G			
50 70	陶製鏡	片口鏡	65N25	SX10450	2	-	(16.3)	-	10YR7/2 褐色	10YR7/2 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	G・封・白	II・III類		
51 71	陶製鏡	瓶	66N10	SX10450	1	-	-	-	2.5Y6/1 褐色	GY6/1 褐色	当て真	ロクロナデ	ロクロナデ	-	白・青類		
51 72	陶製鏡	瓶	67N11	SX10450	1	-	-	-	N6/褐色	N6/褐色	当て真	ロクロナデ	ロクロナデ	-	G・封・白	V類	
51 73	陶製鏡	瓶	66M24	SX10450	1	-	-	-	N5/褐色	N5/褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	-	封			
51 74	陶製鏡	瓶	63G3		1	-	-	-	N6/褐色	N6/褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	白	II・III・T類		
51 75	陶製鏡	瓶	66M25	SX10450	1	-	-	-	N6/褐色	N6/褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	白	T類		
51 76	陶製鏡	瓶	65M6	SX10450	2	-	-	-	2.5Y7/1 褐色	GY6/1 褐色	当て真	タタキ	-	白			
51 77	陶製鏡	瓶	66N20	SX10450	2	-	-	-	2.5Y7/1 褐色	GY6/1 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	G・封・白	II・III類		
51 78	青磁	碗	65N22	SX10450	1	(14.4)	-	-	10YR6/1 褐色	10YR7/2 褐色	-	-	-	-	磁底厚1類		
51 79	青磁	碗	65N5	SX10450	1	(7.8)	-	-	10YR8/2 褐色	10YR8/2 褐色	施釉	施釉	剥離	剥離	剥離底高白	高 底厚1類	
51 80	青磁	碗	67N1	SX10450	2	(10.5)	-	-	2.5Y7/2 褐色	2.5Y7/2 褐色	施釉	施釉	-	-	大罐1・II類		
51 81	青磁	碗	64N23	SX10450	1	-	-	-	10YR6/2 褐色	7.5YR6/4 褐色	施釉	施釉	剥離	-	-		
51 82	青磁	碗	66N6	SX10450	1	-	(8.2)	-	GY7/2 褐色	GY7/2 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ割り?	-	青磁		
51 83	青磁	碗	66N16	SX10450	1	(8.5)	-	-	10YR2/1 褐色	10YR2/2 褐色	ナデ	ナデ	-	-	青磁		
51 84	青磁	碗	65N15	SX10450	1	-	-	-	10YR8/2 褐色	10YR8/2 褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	-	G・白			
51 85	青磁	碗	66M18	SX10450	2	-	-	-	10YR7/2 褐色	10YR7/3 褐色	ナデ	ナデ	-	G・白			
51 86	青磁	碗	66M21	SX10450	1	11.8	4.4	3.6	10YR7/3 褐色	7.5YR6/4 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	直潤江底	白・黑	T1類		
51 87	青磁	碗	66N21	SD10445	1	14.4	-	-	7.5YR6/4 褐色	7.5YR6/4 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	白・白・黑	やや込み外縁や中央 S付材、T1類		
51 88	青磁	碗	66N21	SD10445	10.8	5.0	2.5	-	10YR8/2 褐色	10YR8/2 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	G・角	T1類		
51 89	青磁	碗	64M21		II	-	-	-	10YR8/2 褐色	10YR8/2 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	G	T1類		
51 90	青磁	碗	65N14		II	(12.5)	-	3.2	10YR6/2 褐色	10YR6/2 褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	斜潤江底	石	内外面スカ付材、 T1類		
51 91	青磁	碗	67N8		II	(10.8)	-	1.6	-	-	ナデ	ナデ	斜潤江底	G・白	内外面スカ付材、T1類		

観察表

土器・陶磁器観察表(3)

開拓番号	報告番号	種類	測定	出土地点		法量(cm)	色調	測定			基上	備考
				グリッド	通幅			層位	口径	底径	高さ	
51 92	土器質 小瓶	67TN10		II	(8.2)	—	7.5VRN/4 7.5VRN/6	7.5VRN/6	ココナデ	ココナデ	石・瓦	T1層
51 93	土器質 瓶	67TN21		II	(12.0)	—	3.0 [3.0] 暗褐色 [3.0] 暗褐色	—	ココナデ	ココナデ	石・瓦	T1層
51 94	土器質 小瓶	65N23		II	(10.0)	—	10V6I/4 10V6I/2	10V6I/4 10V6I/2	ココナデ	ココナデ	—	G・瓦 T1層
51 95	陶糞焼 扇口瓶	67TN13		III	(29.0)	—	10V6I/10灰 10V6I/10灰	10V6I/10灰 10V6I/10灰	ロクロナデ	ロクロナデ	—	石・瓦・白 石瓶
51 96	陶糞焼 扇口瓶	65N13		II	(25.9)	—	5V6I/1灰褐色 5V6I/1灰褐色	5V6I/1灰褐色 5V6I/1灰褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	灰
51 97	陶糞焼 瓶	64M3		II	—	(13.0)	7.5VRN/1灰褐色 7.5VRN/1灰褐色	7.5VRN/1灰褐色 7.5VRN/1灰褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	石・瓦	内面厚手重い、T標
51 98	陶糞焼 扇口瓶	64H18		II	—	—	5.5V7I/1 5.5V7I/1	5.5V7I/1 5.5V7I/1	ロクロナデ	ロクロナデ	—	各面に擦耗
51 99	陶糞焼 扇口瓶	64H28		II	—	—	10V6I/2 10V6I/2	10V6I/2 10V6I/2	ロクロナデ	ロクロナデ	—	白
51 100	陶糞焼 扇口瓶	64H24		II	—	—	10V6I/1 10V6I/1	10V6I/1 10V6I/1	ロクロナデ	ロクロナデ	—	全体的に擦耗重い、やや粗雑な作り
51 101	陶糞焼 扇口瓶	67TN16		II	—	(10.7)	N7/9灰褐色 N6/9灰褐色	N7/9灰褐色 N6/9灰褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	石
52 102	唐津模 瓶	67T22		II	(31.2)	—	10V6I/1 10V6I/1	10V6I/1 10V6I/1	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—
52 103	唐津模 瓶	66H23		III	—	5.3	10V6I/1 10V6I/1	10V6I/1 10V6I/1	ロクロナデ	ロクロナデ	—	大桶口・直筋 舟舟「+」
52 104	青磁 瓶	65M13		II	—	6.2	10V6I/2 10V6I/2	10V6I/2 10V6I/2	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—
52 105	青磁 瓶	65S3		II	(11.6)	—	5V6I/2 [5V6I/2] [5V6I/2] 暗褐色	5V6I/2 [5V6I/2] [5V6I/2] 暗褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	墨
52 106	直口 瓶	65N17-2 67N25		II	11.0	7.0	4.9 [4.9] 暗褐色	10V6I/1 10V6I/1	ロクロナデ	ロクロナデ	—	古戸戸推
52 107	直口 瓶	64K25		II	(13.8)	—	2.5V6I/4 [2.5V6I/4] [2.5V6I/4] 暗褐色	2.5V6I/2 [2.5V6I/2] [2.5V6I/2] 暗褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	—
52 108	唐津模 直口瓶	66N22		II	(14.0)	(5.9)	3.0 [3.0] 暗褐色	5V6I/2 [5V6I/2] 暗褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	大桶口直筋
52 109	青磁 瓶	67O17		II	(13.0)	—	— 2.5V6I/2 2.5V6I/2	2.5V6I/2 2.5V6I/2	ロクロナデ	ロクロナデ	—	直瓶
52 110	青磁 瓶	64K21		II	—	(5.2)	5V6I/1 [5V6I/1] [5V6I/1] 暗褐色	5V6I/1 [5V6I/1] [5V6I/1] 暗褐色	ロクロナデ	ロクロナデ	—	墨
52 111	青磁 瓶	64D23		II	—	—	2.5V6I/1 2.5V6I/1	10C9V7/1 10C9V7/1	ロクロナデ	ロクロナデ	—	墨
52 112	直中腹 瓶	65O03		III	—	(9.0)	10V6I/3 [10V6I/3] [10V6I/3] 暗褐色	10V6I/4 [10V6I/4]	ロクロナデ	ロクロナデ	回転角切り	石・瓦

木製品観察表

開拓番号	No.	種類	出土地点		法量(cm)	測定	層位	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	本数	樹種	備考
			グリッド	通幅									
52 113	曲物	65L17	SE3623	7	(9.6)	0.6	6.3	板目	—	—	—	樹板が半面剥れる	
52 114	曲物	68N11	SE10636	3	8.5	8.8	0.4	板目	—	—	—		
52 115	直物	67L20	SE10270	4	2H.2	13.3	7.6	板目	テヤキ	内外面赤色	—		
52 116	直物	67L23	SE9514	5	18.2	10.7	1.1	板目	テナツ	—	—		
52 117	刀子形	66M7	SN10450	3	17.1	1.7	0.7	板目	スギ	—	—		
52 118	机	63L2	机9683	1	27.0	1.4	1.5	心材	スギ	—	—		
52 119	直筒	65L17	SE9623	12	—	(8.7)	—	板目	テナツ	内外面赤色・外黒色に赤色の文様	—		
52 120	直筒	65L17	SD0622	5	(12.6)	(7.0)	—	板目	テナツ	内外面赤色	—		
52 121	直筒	65L19	SE10366	5	(12.8)	(6.8)	—	板目	ケヤキ	内外面赤色	—		
52 122	直筒	65L19	SE10366	5	(9.1)	(6.3)	1.1	板目	テナツ	内外面赤色	—		
52 123	直筒	65L19	SE10366	5	(9.4)	(7.8)	1.3	板目	テナツ	白木	—		
52 124	直筒	65N18	SN10450	3	(8.6)	(7.9)	0.8	板目	テナツ	内外面赤色	—		
52 125	直筒	64G21	SE3606	3	—	(6.0)	—	板目	テナツ	内外面赤色・外黒色に赤色の文様	—		
52 126	手扒子	65M20	SN10450	4	13.9	3.1	2.6	心材	スギ	—	—		

木柱根観察表

開拓番号	No.	種類	出土地点		法量(最大幅・cm・g)	層位	厚さ	重量	備考
			グリッド	通幅					
53 127	柱根	64L	SD9707	1	24.5	8.9	6.8	心材丸木	クマシナ属・イヌシダ属
53 128	柱根	64H4	P9610	1	22.3	17.5	13.0	心材丸木	サクラ属
53 129	柱根	68N11	P10017	1	25.4	12.1	10.9	心材丸木	クリ
53 130	柱根	64G19	P9608	1	22.4	12.3	10.6	心材丸木	ケヤキ
53 131	柱根	67O21	SE10321	2	(78.0)	14.2	15.2	—	S30867の柱根

観察表

石製品観察表

図版番号	No.	種類	石材	出土地点			計測値(重量:g, その他:cm)				備考
				グリッド	通幅	層位	高さ	幅	厚さ	重量	
53	132	磁石	砂岩	67M1	SX10450	2	(6.4)	5.1	3.7	198.5	
53	133	磁石	蛇山岩	66M25	SQ9622	1	(8.9)	(12.6)	4.9	805.0	
53	134	磁石	蛇山岩	64M18	—	II	(4.7)	(5.6)	(3.6)	123.1	
53	135	磁石	蛇山岩	66M24	SQ9622	2	(10.9)	(9.5)	4.1	4.1	
53	136	磁石	蛇山岩	66M04-9	SQ10241	5	(22.7)	(12.2)	3.1	1309.0	
53	137	磁石	蛇山岩	62M210	—	II	(18.4)	(12.1)	6.8	1500.0	
53	138	磁石	蛇山岩	66M223	SQ9622	4	2.4	1.4	0.5	1.1	基部欠損
54	143	不明	砂岩	64M17	—	II	(8.0)	(9.5)	2.2	205.1	

五輪塔(火輪)観察表

図版番号	No.	石材	出土地点			計測値(重量:g, その他:cm)				備考			
			グリッド	通幅	層位	上面幅	軒上幅	軒下幅	火輪高	軒中央	軒端厚	通り高	重量
54	139	輝灰岩	65M	SQ9623	12	11.5	37.7	29.2	34.8	4.7	4.5	1.4	19.4
54	140	輝灰岩	65M	SQ9623	12	10.4	26.7	23.5	20.0	4.6	5.7	2.7	13.2

五輪塔(地輪)観察表

図版番号	No.	石材	出土地点			計測値(重量:kg, その他:cm)				備考
			グリッド	通幅	層位	地輪高	上幅	下幅	重量	
54	141	輝灰岩	65M	SQ9623	5	20.2	22.0	22.4	13.2	標字「ア」-中山石

宝蓋印塔(基礎)観察表

図版番号	No.	石材	出土地点			計測値(重量:kg, その他:cm)				備考
			グリッド	通幅	層位	高さ	上幅	下幅	重量	
54	142	輝岩	65M	SQ9623	5	34.1	33.3	29.9	61.7	

金属製品観察表

図版番号	No.	種類	出土地点			計測値(重量:g, その他:cm)				備考
			グリッド	通幅	層位	高さ	幅	厚さ	重量	
54	144	銅銀鍌	64G16	SQ9624	9	(9.6)	4.9	2.8	128.8	
54	145	銅銀鍌	65M1	SQ9619	5	対幅:(4.9) 差幅:(9.6)	(1.8)	0.5	右幅:7.5 左幅:22.9	対幅と左幅が折れるが合むする
54	146	万子	65M17	SQ9623	7	21.0	3.2	0.4	67.4	
54	147	万子	64G12	SDP926	1	(6.1)	(1.8)	(0.5)	10.6	対部先端のみ残存
54	148	錫	64G21	—	II	1.5	1.6	1.7	82.1	
54	149	錫	64G10	SDP922	—	9.8	9.0	7.5	832.1	
54	150	錫	65M5	SQ10450	1	8.0	5.2	4.4	110.0	

銭貨観察表

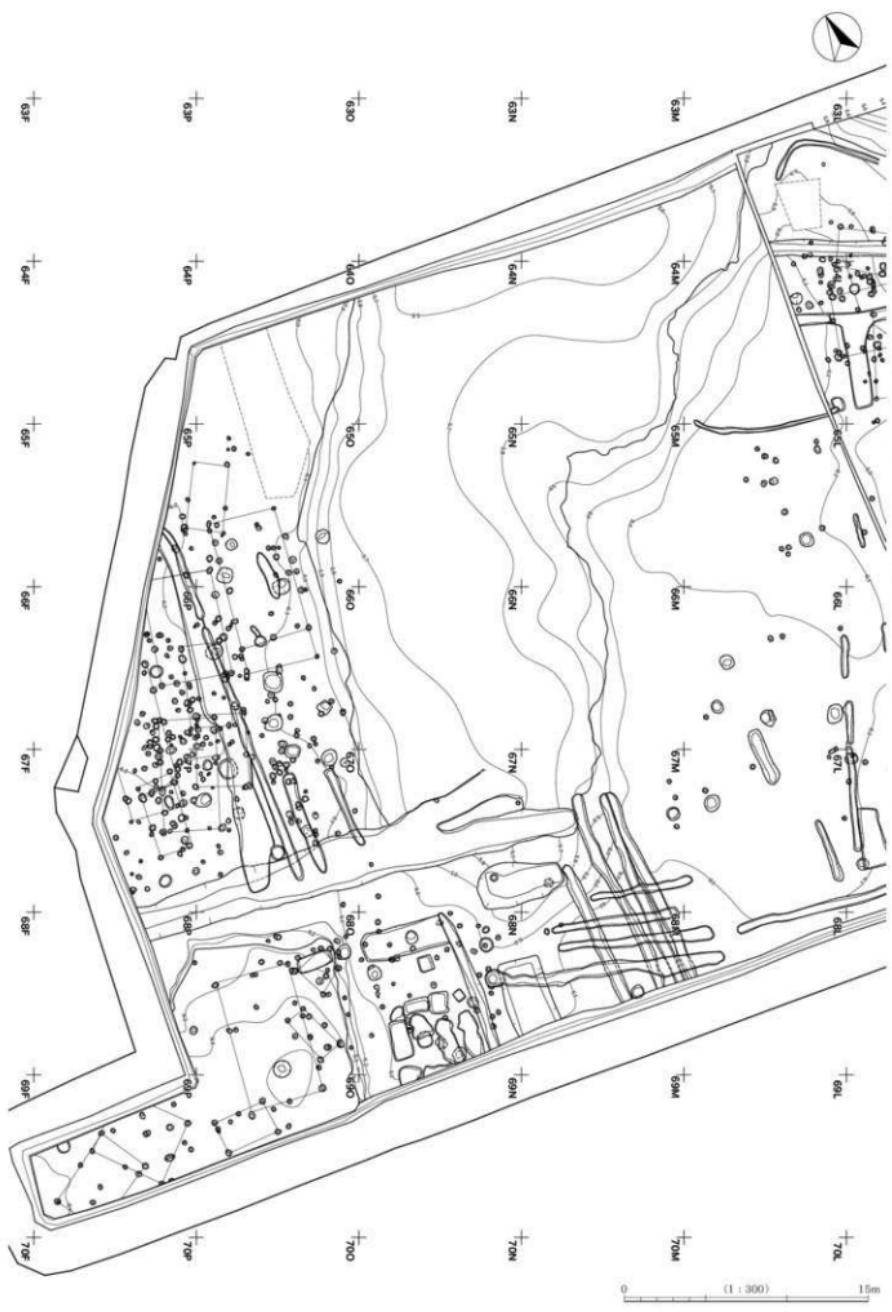
図版番号	No.	銭目名	出土地点			法量(cm ³)				銘年	備考	
			グリッド	通幅	層位	銭付幅	銭径幅	内径幅	外径幅	銭厚	重量	
54	151	神武元年	63J3	—	II	2.00	2.50	2.00	2.00	0.10	3.2	1009年
54	152	元和通宝	65N11	SX10450	1	2.49	2.90	1.90	2.00	0.10	2.3	1086年
54	153	元和通宝	65N9	SX10450	1	2.40	2.40	1.95	1.95	0.10	2.1	1086年
54	154	承和通宝	64M14	—	II	2.45	2.44	1.99	1.98	0.10	2.7	1016年
											古賀本	

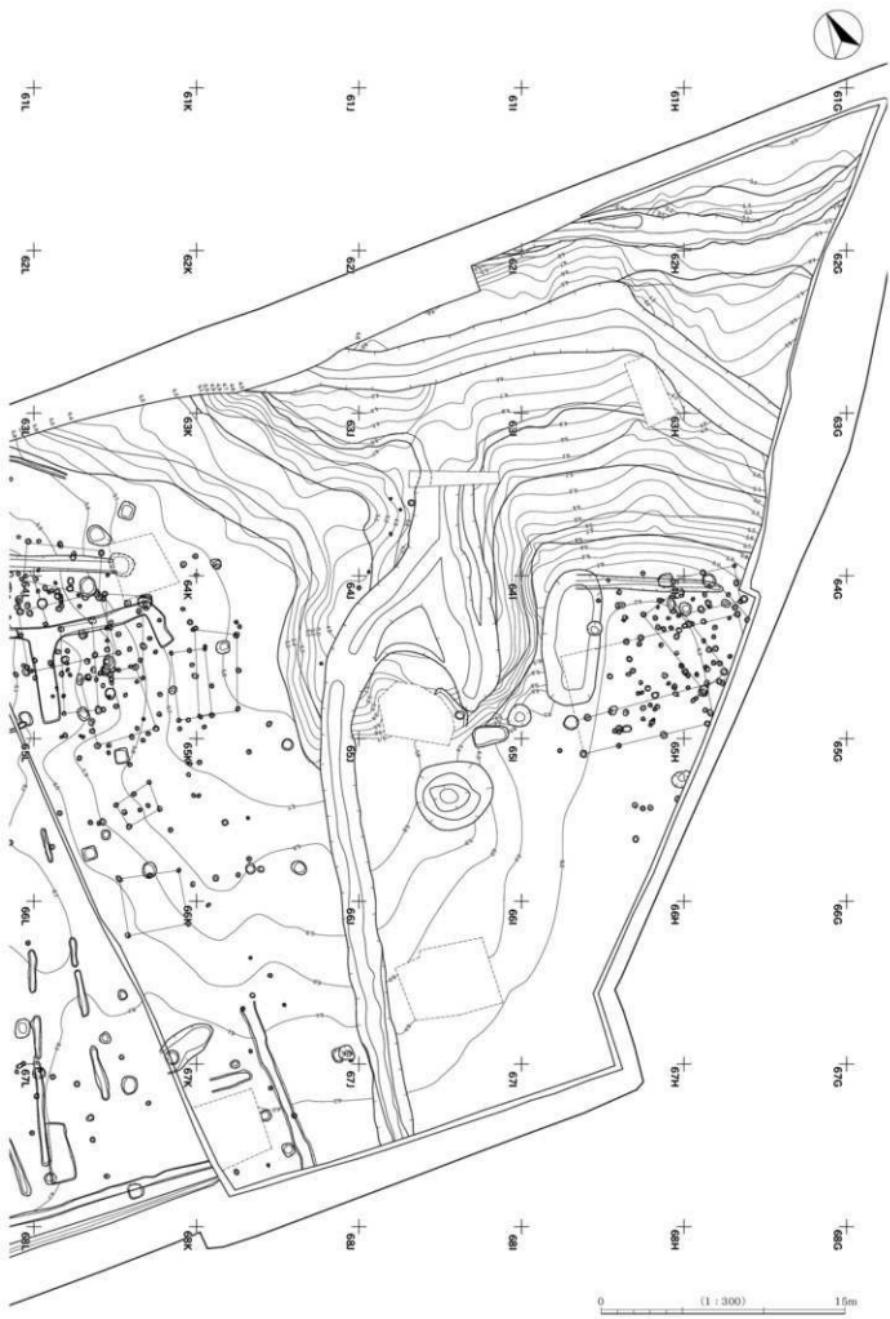
図 版

凡 例

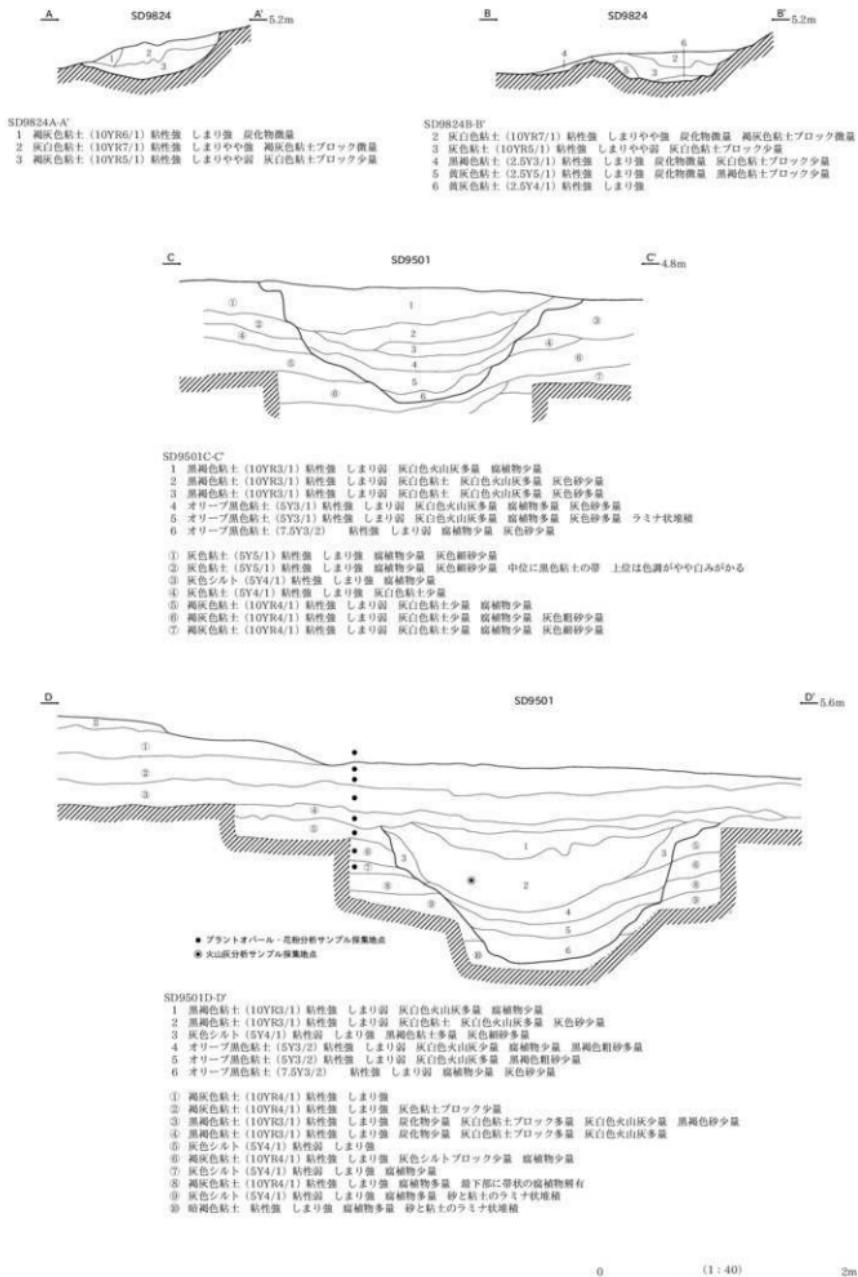
- 1 造構分剖図中のコンターライン横の数値は標高(m)を表す。
- 2 断面図中の w は木器もしくは自然木、p は土器・陶磁器、s は石器もしくは礫を表す。
- 3 遺物実測図の網掛けは、図版ごとに凡例を示した。

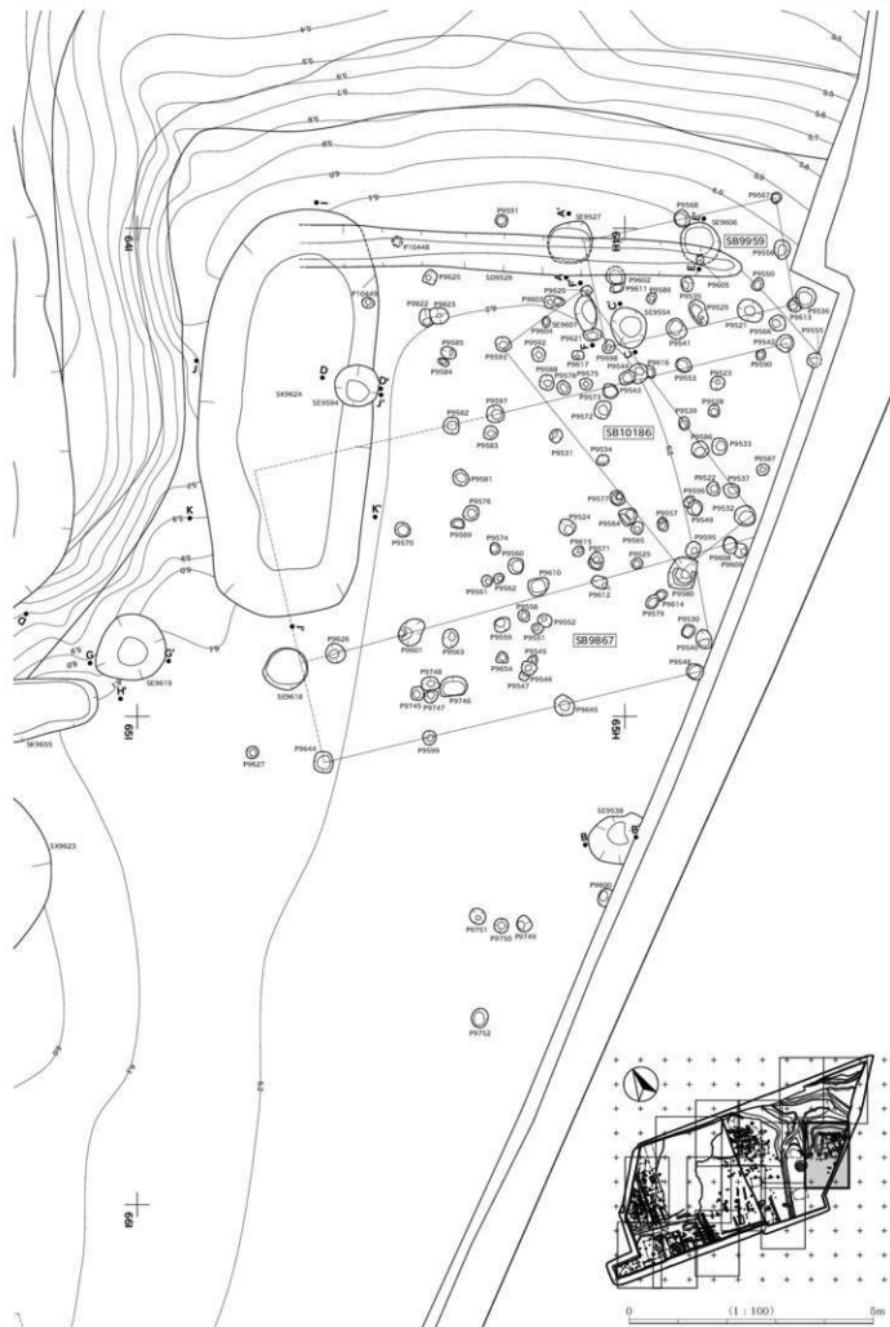


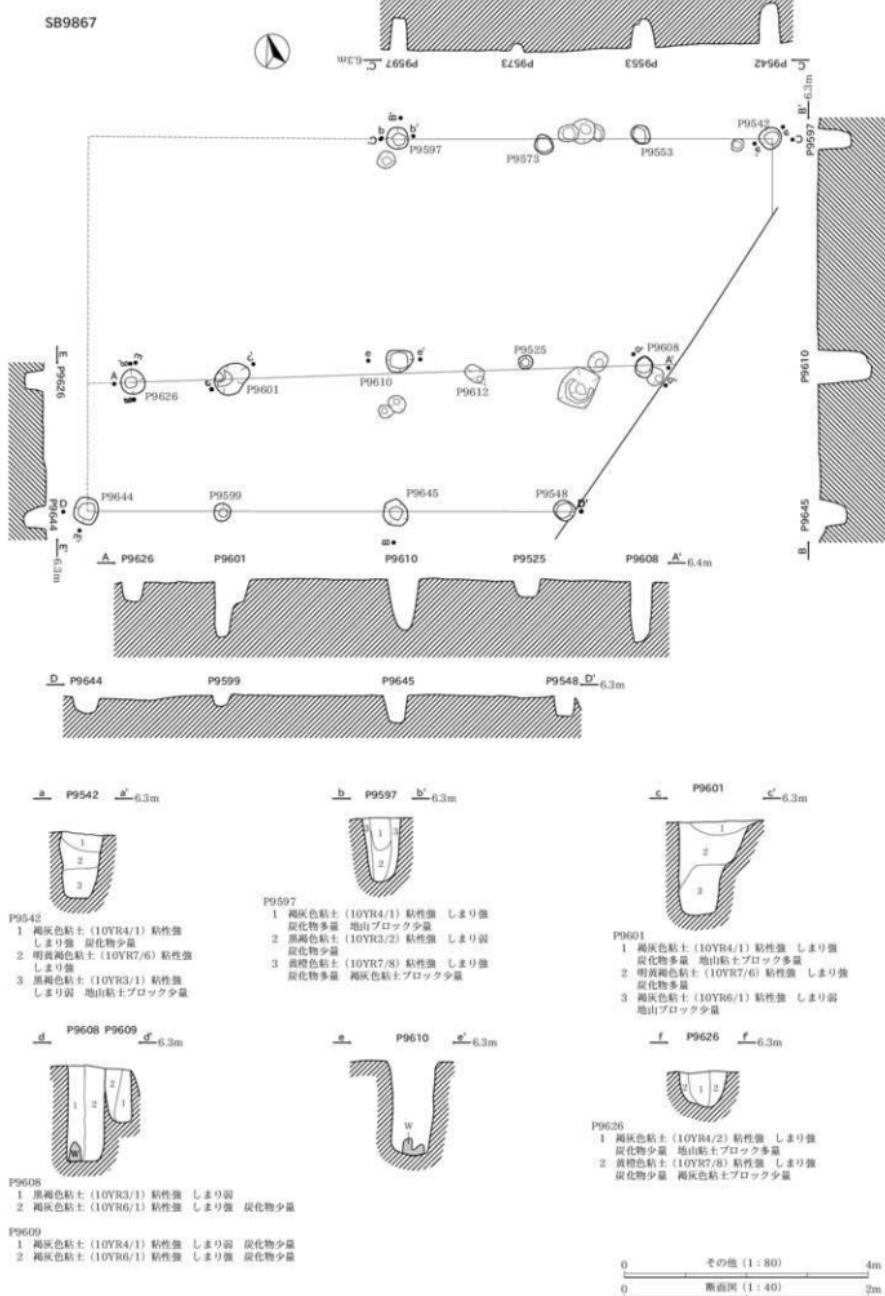




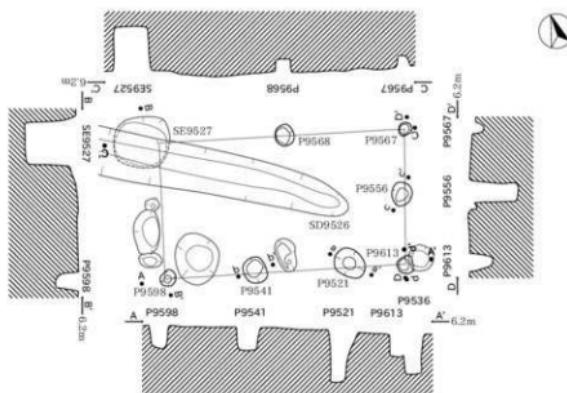




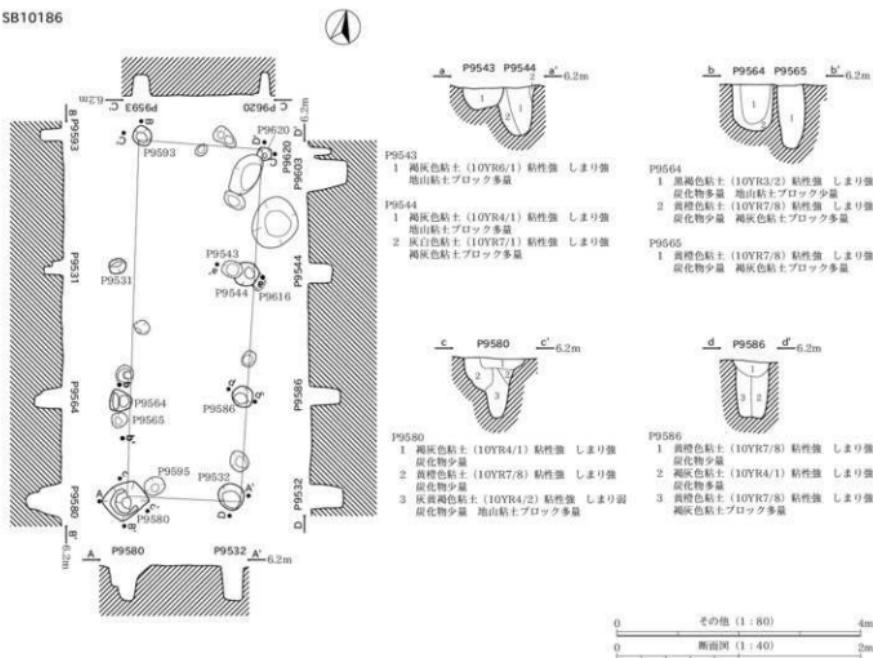




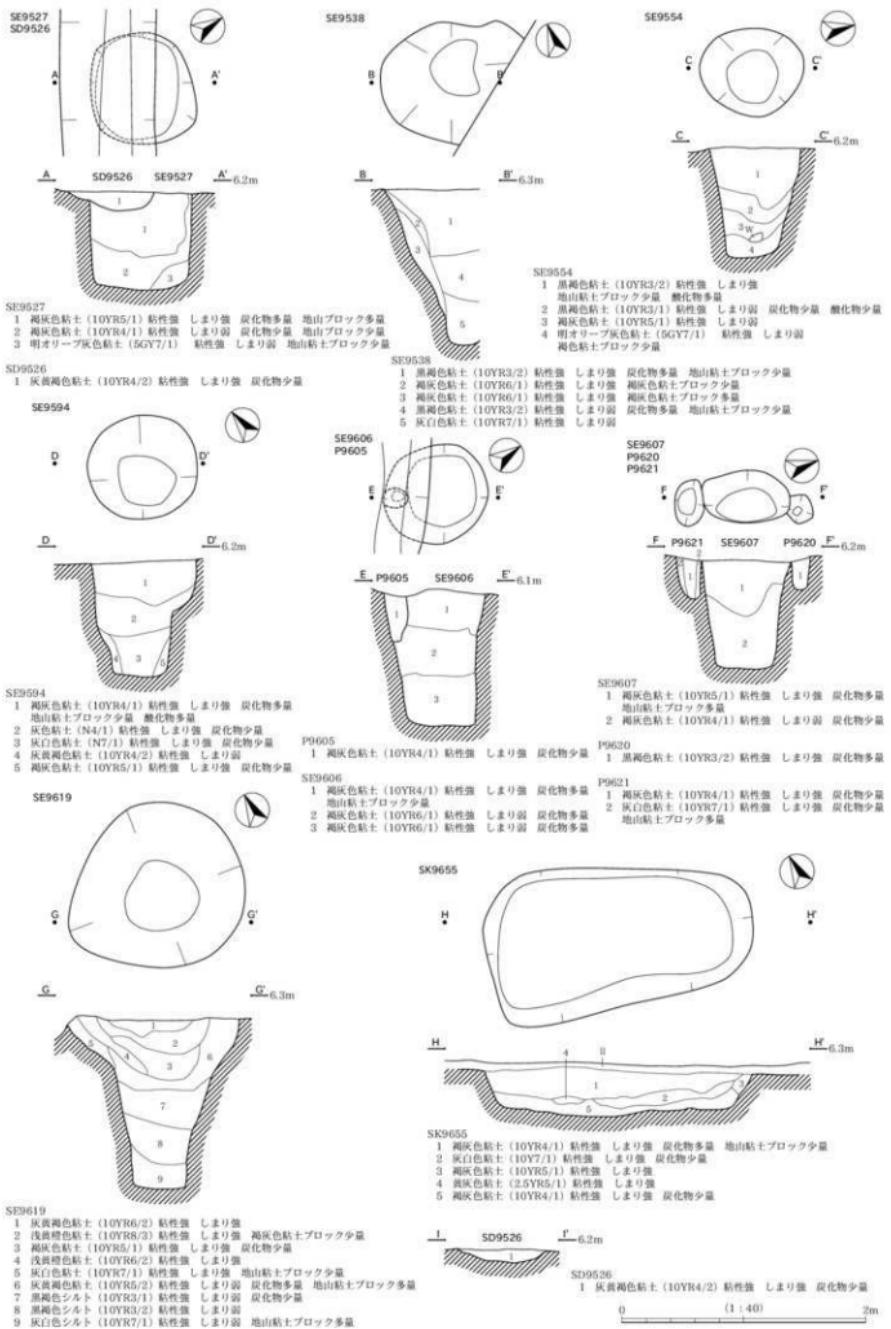
SB9959



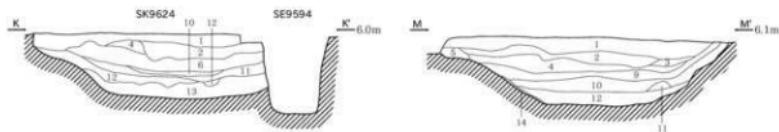
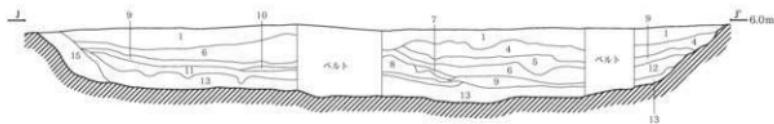
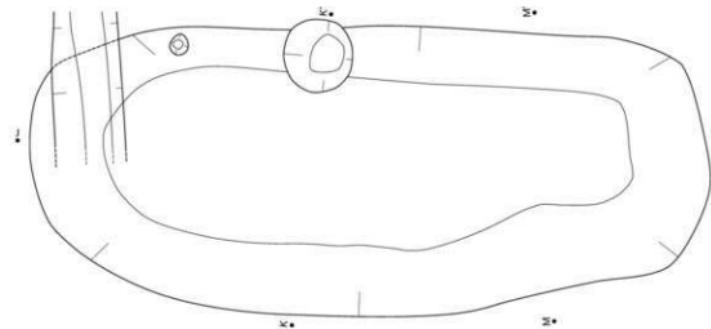
SB10186



構造個別図 4

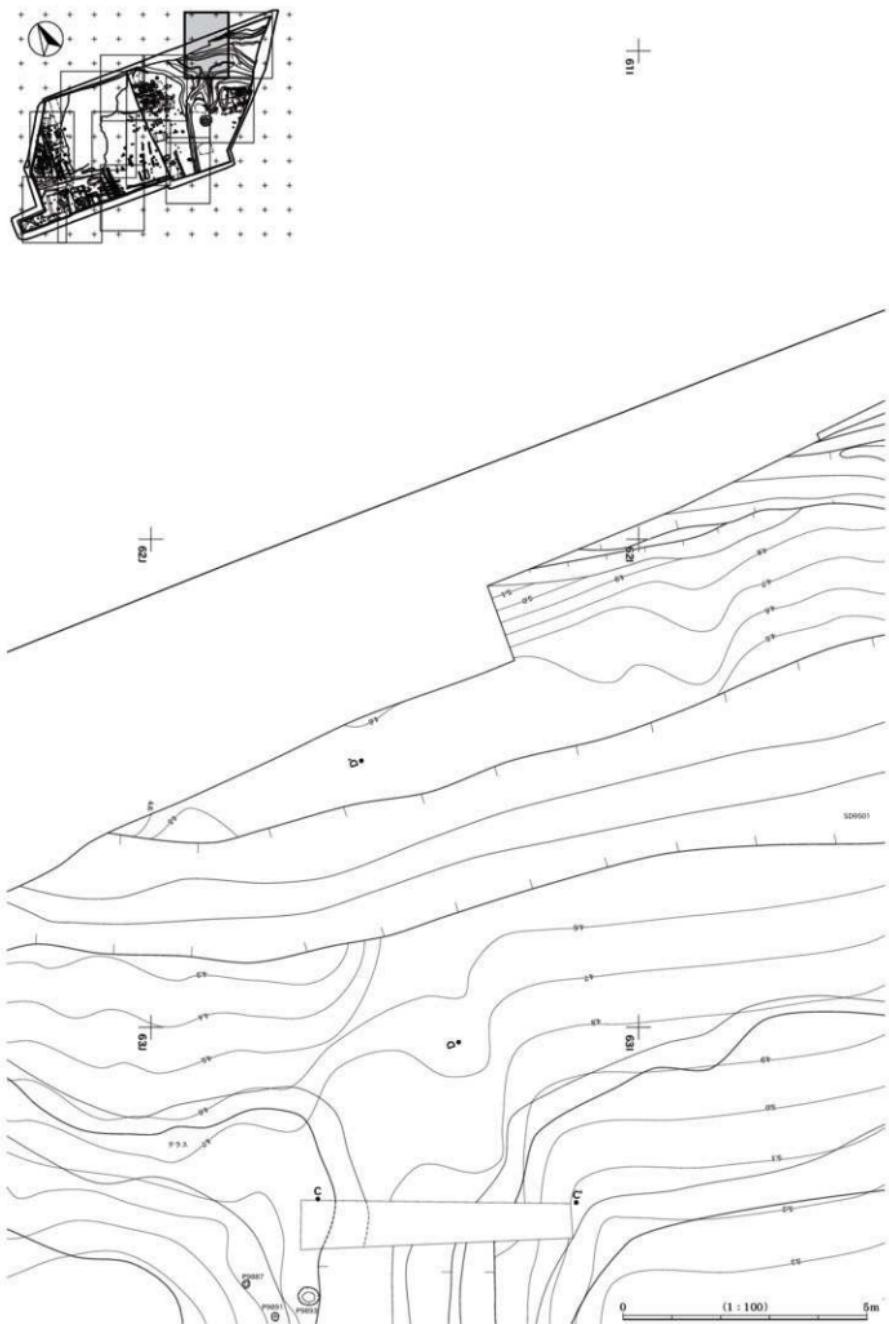


SK9624



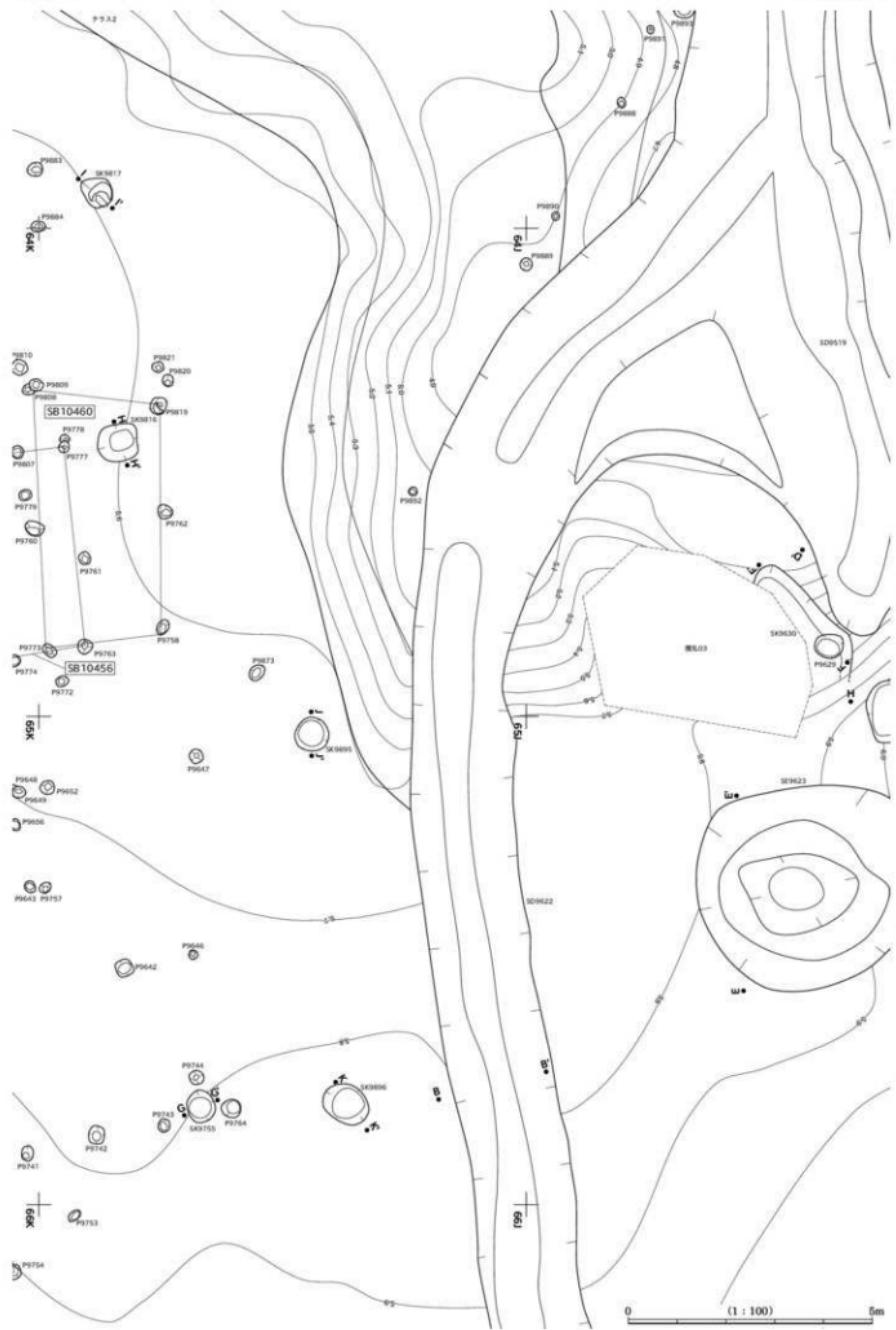
SK9624

- 1 明灰灰色粘土 (7.5YR7/2) 軟性強 しまり強 優化物多量 鮮化物多量
- 2 黒灰い褐色粘土 (7.5YR7/4) 軟性強 しまり強
- 3 黃褐色粘土 (7.5YR7/8) 軟性強 しまり強
- 4 湖灰色粘土 (7.5YR5/1) 軟性強 しまり強 優化物多量
- 5 湖灰色粘土 (7.5YR5/1) 軟性強 しまり強 地山粘土ブロック多量
- 6 湖灰色粘土 (7.5YR5/1) 軟性強 しまり強 優化物少量 地山粘土ブロック少量 鮮化物少量
- 7 湖灰褐色粘土 (10YR5/1) 軟性強 しまり強
- 8 灰白褐色粘土 (10YR7/1) 軟性強 しまり強 優化物少量 地山粘土ブロック多量
- 9 湖灰褐色粘土 (10YR4/1) 軟性強 しまり強 優化物少量 地山粘土ブロック少量
- 10 湖灰褐色粘土 (10YR4/1) 軟性強 しまり強 優化物少量 地山粘土ブロック少量
- 11 湖灰褐色粘土 (10YR4/1) 軟性強 しまり強 優化物多量 地山粘土ブロック少量
- 12 黑黄褐色粘土 (10YR6/2) 軟性強 しまり強 優化物多量 地山粘土ブロック多量
- 13 湖灰褐色粘土 (10YR4/1) 軟性強 しまり弱 優化物多量 地山粘土ブロック多量
- 14 灰白色粘土 (10YR7/1) 軟性強 しまり弱 優化物少量
- 15 灰白色粘土 (10YR7/1) 軟性強 しまり強 地山粘土ブロック少量

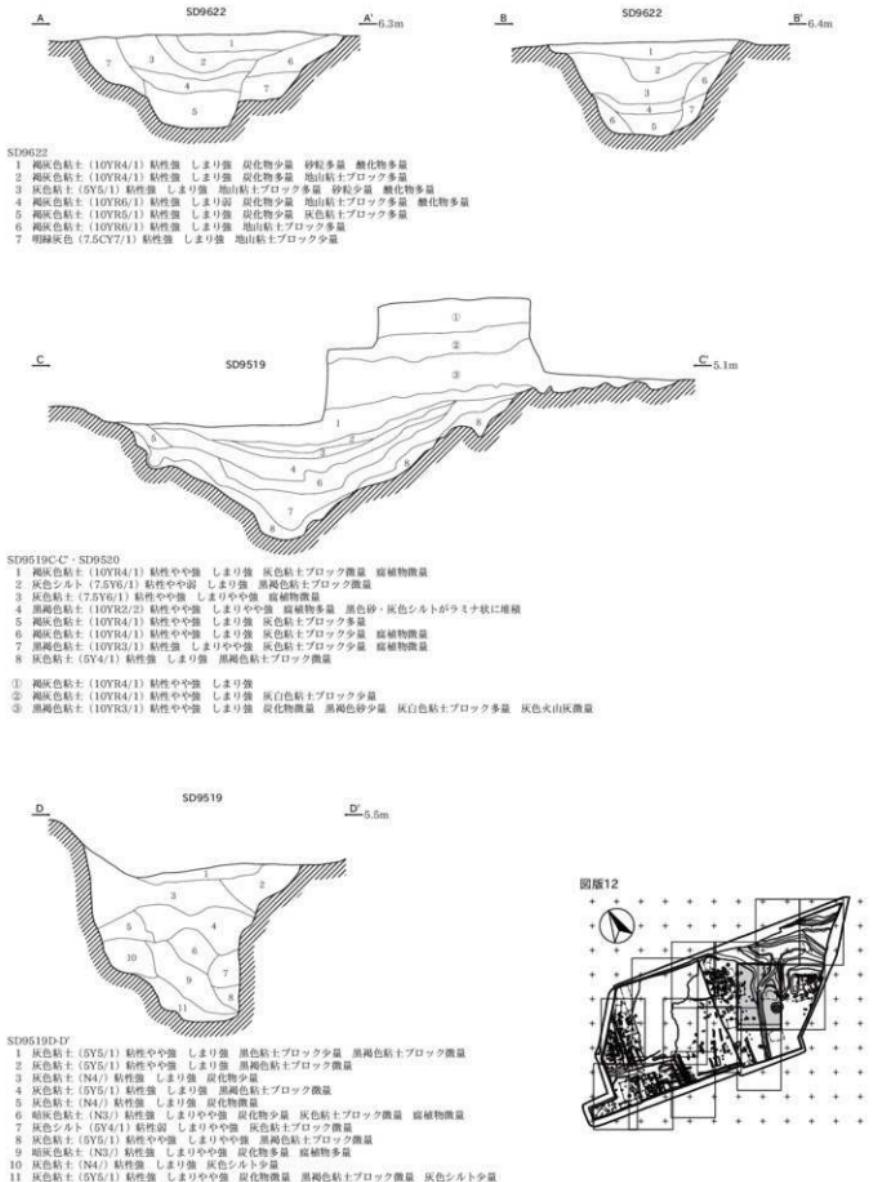


圖版 12

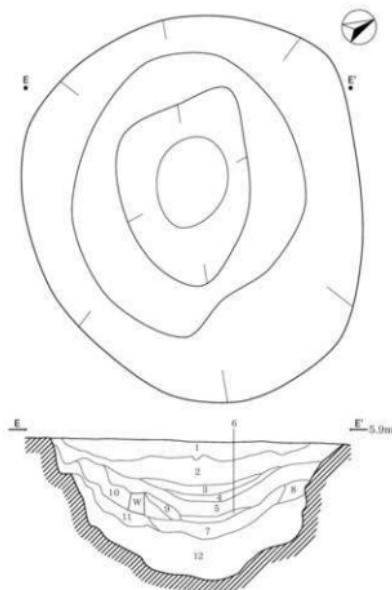
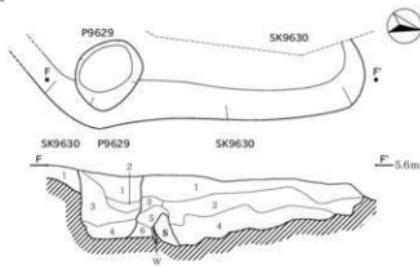
遺構分割図 4



造構別図 6



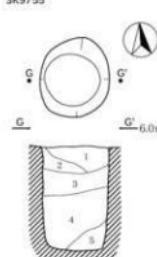
SE9623

SK9630
P9629

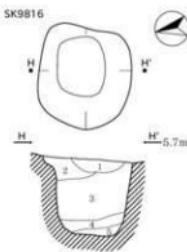
P9629

- 黒褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 黑褐色シルト微量
- 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック微量
- 褐灰色粘土 (N3/1) 粘性やや強 しまりやや強 黑褐色粘土ブロック少量
- 灰色粘土 (N3/1) 粘性やや強 しまりやや強 黑褐色粘土ブロック少量

SK9755



SK9816



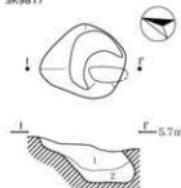
SK9755

- 灰白色粘土 (2.5Y7/1) 粘性強 しまり強 硫化物少量 地山粘土ブロック多量
- 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 硫化物少量 地山粘土ブロック少量
- 灰白色粘土 (N8/1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック少量
- 褐灰色粘土 (N3/1) 粘性強 しまり弱 灰白色粘土ブロック少量
- 灰白色粘土 (N4/1) 粘性強 しまり弱 灰白色粘土ブロック少量

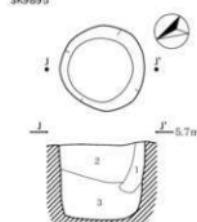
SK9816

- 灰白色粘土 (N6/1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック多量
- 灰褐色粘土 (N6/1) 粘性強 しまり強 硫化物少量 地山粘土ブロック多量
- 灰色粘土 (N6/1) 粘性強 しまり強 硫化物少量 地山粘土ブロック多量
- 灰褐色粘土 (N5/1) 粘性強 しまり弱 灰白色粘土ブロック少量
- 灰褐色粘土 (N5/1) 粘性強 しまり弱 灰白色粘土ブロック少量

SK9817



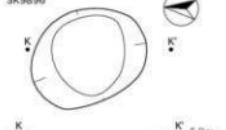
SK9895



SK9895

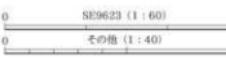
- 明オリーブ色粘土 (5GY7/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量
- 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強 しまり強
- 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック多量

SK9896



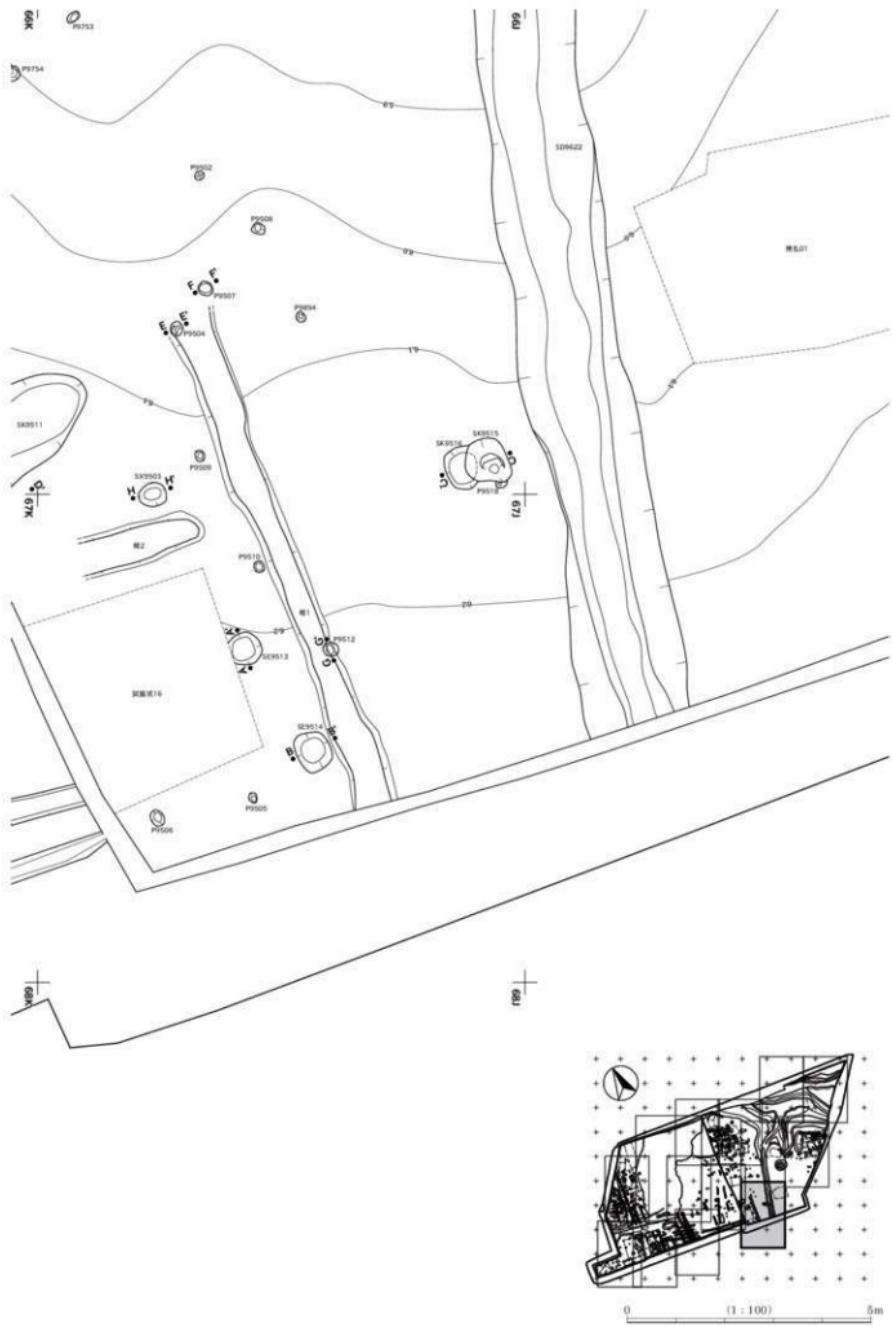
SK9896

- 灰色粘土 (5Y6/1) 粘性強 しまりやや強 地山粘土ブロック少量



遺構分割図 5

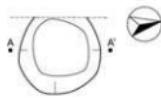
図版 15



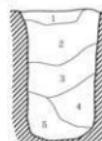
図版 16

造構個別図 8

SE9513

**A**

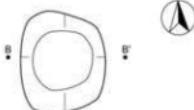
A'-0.3m



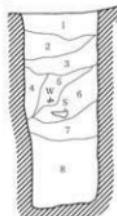
SE9513

- 1 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性やや強 しまり強 黒色シルト微量 灰色粘土ブロック微量
- 2 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性やや強 しまり強 黑色粘土ブロック微量
- 3 深色粘土 (10YR2/1) 粘性やや強 しまり強 黑色粘土ブロック微量
- 4 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまりや強 黑色粘土ブロック微量
- 5 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりや強 黑色粘土ブロック微量

SE9514

**B**

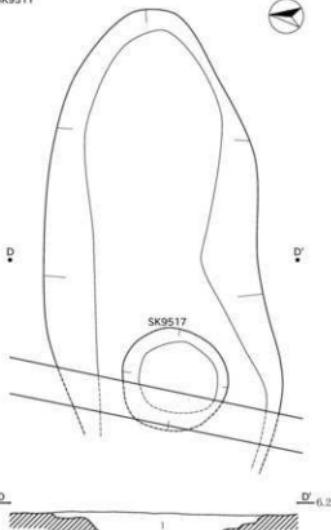
B'-0.3m



SE9514

- 1 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性やや強 しまり強 灰化物微量
- 2 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまりや弱 黑色粘土ブロック微量
- 3 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまりや弱 黑色粘土ブロック微量
- 4 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりや強 黑色粘土ブロック微量
- 5 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまりや強 黑色粘土ブロック微量
- 6 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまりやや強 黑色粘土ブロック微量
- 7 灰化物微量 黑色粘土ブロック微量
- 8 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強 灰化物微量 黑色粘土ブロック微量

SK9511



SK9511

- 1 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強 黑褐色粘土ブロック微量

SK9515
SK9516**C**

SK9515

SK9516

C'-0.3m



SK9515

- 1 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性やや強 しまり強 黑色粘土ブロック微量
- 2 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまり強 黑色粘土ブロック微量
- 3 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまり強
- 4 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまり強 黑褐色粘土ブロック微量
- 5 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりや強 黑色粘土ブロック微量
- 6 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまり強 黑色粘土ブロック微量
- 7 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強 黑色粘土ブロック微量
- 8 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強 灰化物微量 黑褐色粘土ブロック微量

SK9516

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性やや強 しまり強 黑色粘土ブロック微量
- 2 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック微量
- 3 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強 黑色粘土ブロック微量
- 4 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強 黑色粘土ブロック微量
- 5 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性やや強 しまり強 黑色粘土ブロック微量

P9504

**E**

E'-6.2m



P9504

- 1 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性やや強 しまり強 黑色粘土ブロック微量
- 2 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強 黑褐色粘土ブロック微量

P9507

**F**

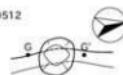
F'-6.2m



P9507

- 1 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性やや強 しまり強 黑色粘土ブロック微量
- 2 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性やや強 しまりやや強 灰化物微量
- 3 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強 黑褐色粘土ブロック微量

P9512

**G**

G'-0.4m



P9512

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強 黑色粘土ブロック微量
- 2 黑褐色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまりやや弱 黑色粘土ブロック微量

SX9503

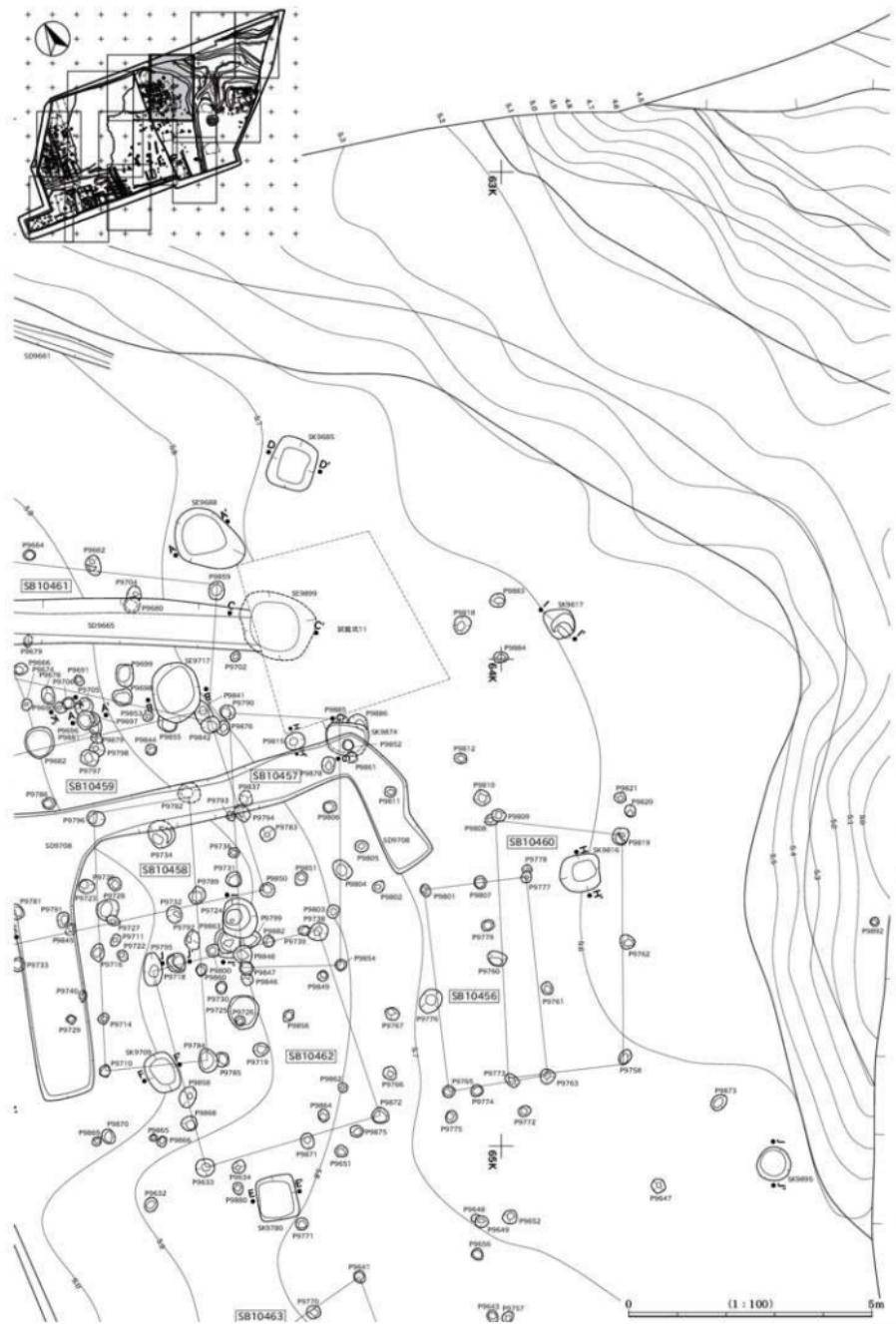
**H**

H'-6.2m



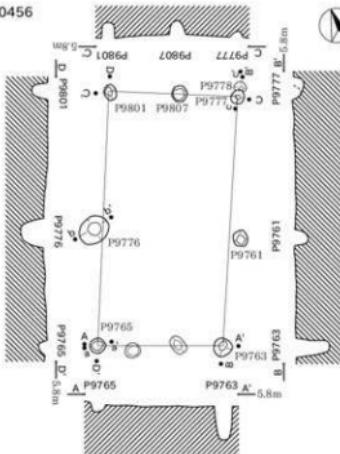
SX9503

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 黑色粘土ブロック微量

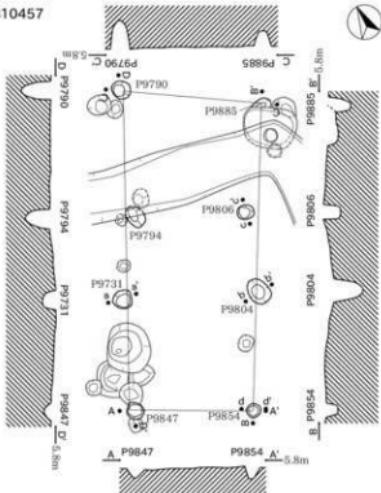


図版 18

SB10456



SB10457



P9806

- 1 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまりや強 黑褐色粘土微量
- 2 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまりや強 黑褐色粘土ブロック微量

c-c' 5.8m



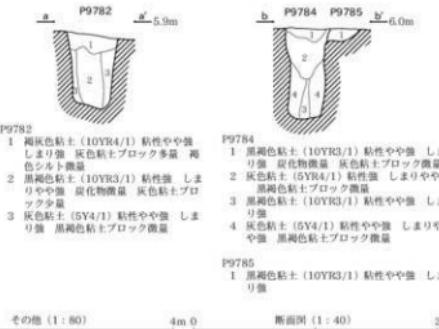
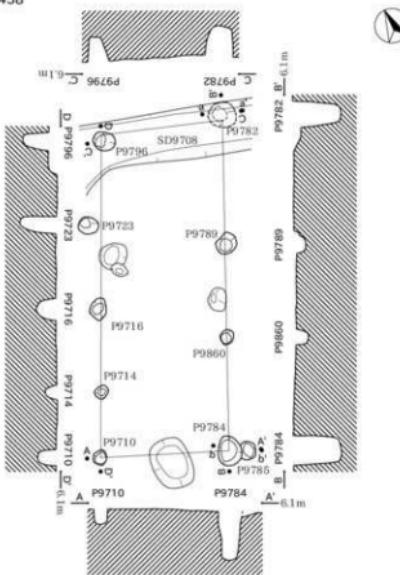
- 1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 黏性強 しまりやや強 灰化物微量
- 2 黑褐色粘土 (5Y4/1) 黏性強 しまりや強

0 その他 (1:80)

造構個別図 9



SB10458



P9785

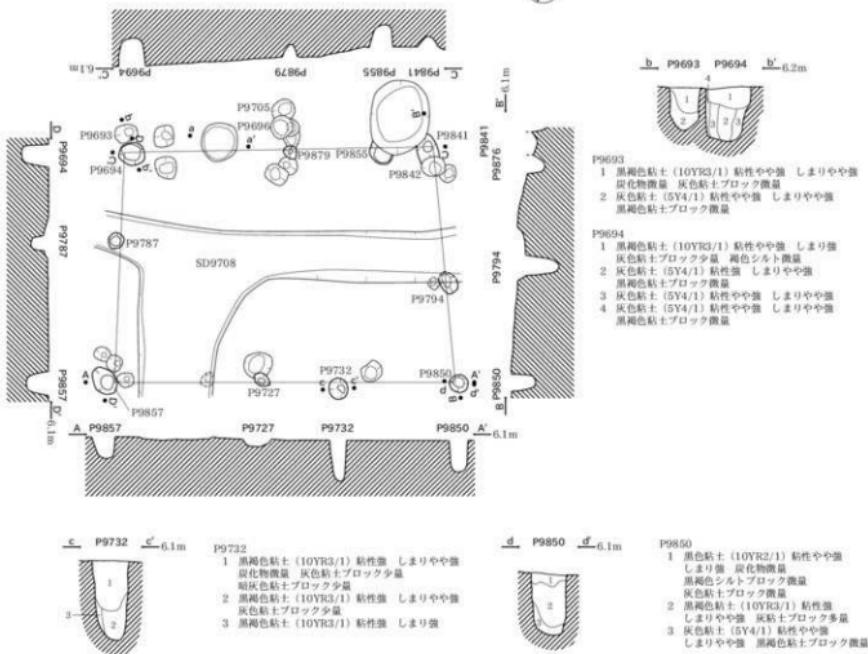
- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 黏性や強 しまり強

その他 (1:40)

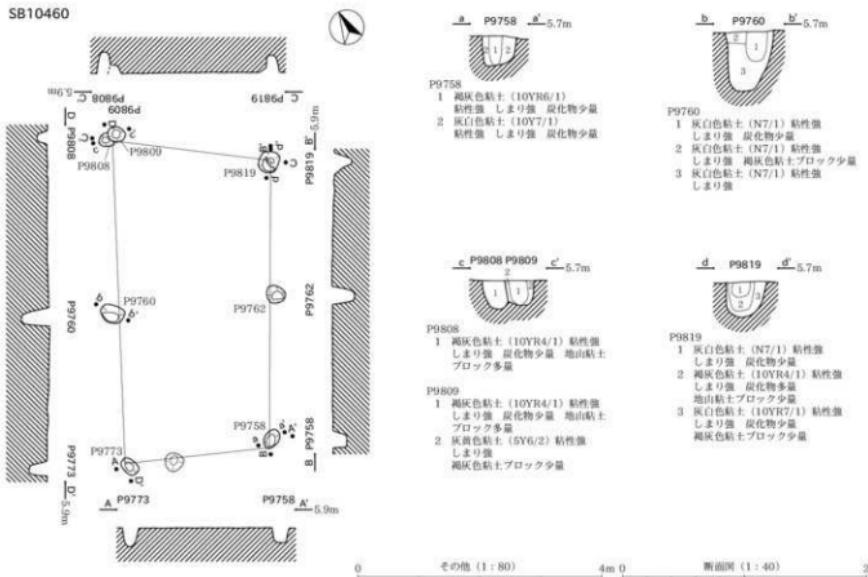
2m

造構個別図 10

SB10459

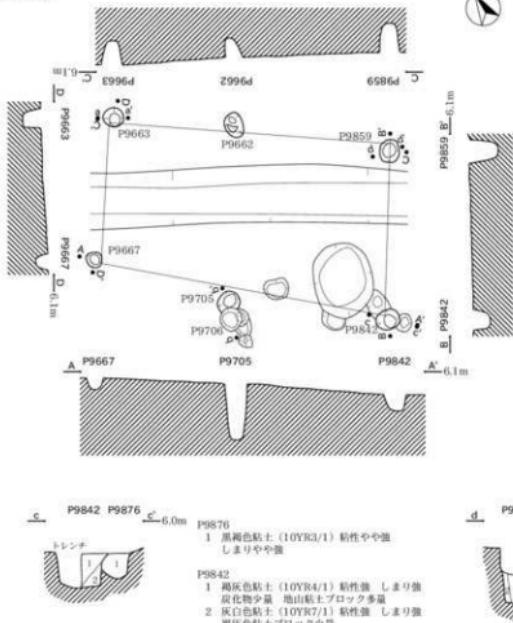


SB10460



図版 20

SB10461



P9663

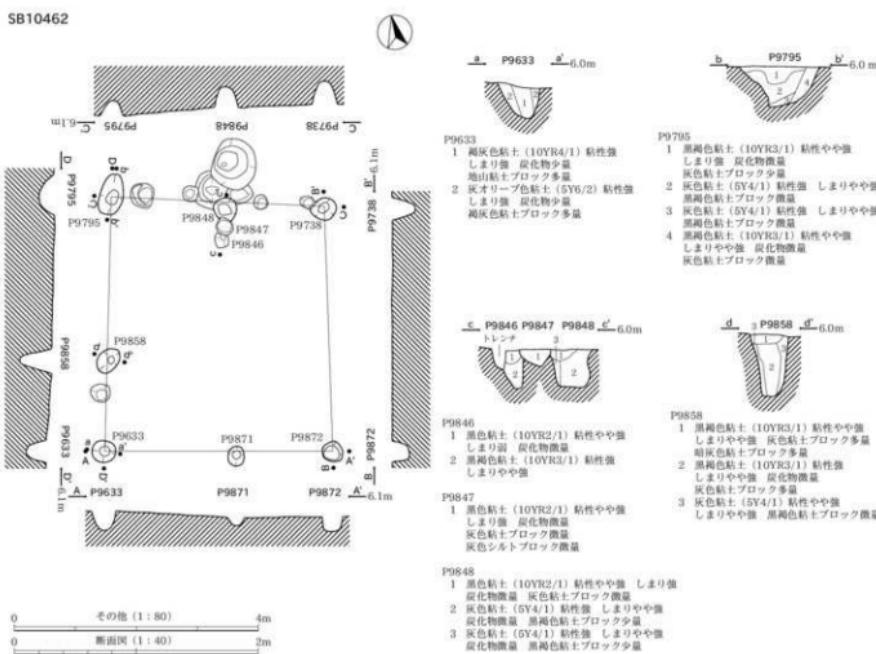
- 1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
灰白色粘土ブロック多量
- 2 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強
黒褐色粘土ブロック微量
- 3 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
灰白色粘土ブロック多量

P9706 P9705 6.0m

P9705

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
炭化物少量 灰色粘土ブロック微量
- 2 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
灰白色粘土微量
- 3 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強
黑褐色粘土ブロック微量
- 4 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強

SB10462

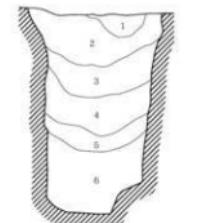
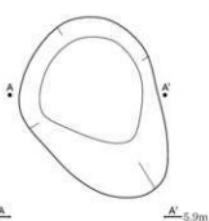


0 その他 (1:80) 4m
0 断面図 (1:40) 2m

遺構個別図 11

造構別個図 12

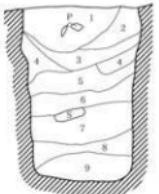
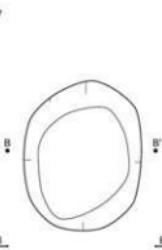
SE9688



SE9688

- 1 黒灰色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強
灰色粘土ブロック多量 黑褐色粘土ブロック少量
- 2 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまりやや強
黑褐色粘土ブロック微量
- 3 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
黑褐色粘土ブロック多量
- 4 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
黑褐色粘土ブロック微量
- 5 オリーブ黒色粘土 (5Y3/2) 粘性強 しまりやや強
灰褐色粘土ブロック微量
- 6 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや弱
腐植物少量

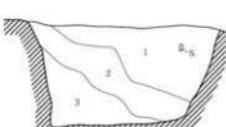
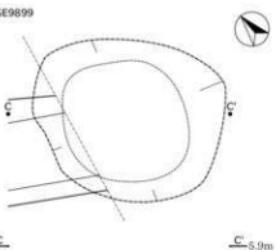
SE9717



SE9717

- 1 黒灰色粘土 (10YR3/2) 粘性強 しまり強
黑色粘土ブロック微量 黑褐色シルト微量
- 2 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまり強
黑褐色粘土ブロック微量
- 3 黑褐色粘土 (10YR3/2) 粘性強 しまり強
黑色粘土ブロック微量
- 4 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまり強
黑色粘土ブロック微量
- 5 黑褐色粘土 (10YR3/2) 粘性強 しまり強
黑色粘土ブロック微量
- 6 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまりやや強
黑色粘土ブロック微量
- 7 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
黑色粘土ブロック微量
- 8 灰色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまり強
黑色砂
- 9 灰色砂 (5Y4/1) 粘性弱 しまり強

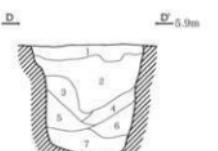
SE9899



SE9899

- 1 黒褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強
地山粘土ブロックを混含
- 2 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強
地山粘土ブロック多量
- 3 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強
地山粘土ブロック多量

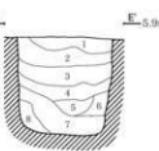
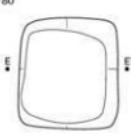
SK9685



SK9685

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/3) 粘性やや強 しまり強
灰褐色微量 黑褐色粘土ブロック微量
- 2 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
黑褐色粘土ブロック少量
- 3 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性強 しまりやや強
黑褐色粘土ブロック少量
- 4 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまり強
黑褐色粘土ブロック多量
- 5 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまり強
黑褐色粘土ブロック微量
- 6 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや強
灰褐色微量
- 7 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまりやや強
黑褐色粘土ブロック微量

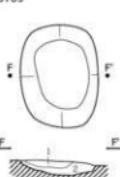
SK9780



SK9780

- 1 黄褐色粘土 (10YR7/4) 粘性強 しまり強
灰褐色少量
- 2 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強
灰褐色微量 地山粘土ブロック微量
- 3 黄褐色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強 しまり強
灰褐色微量 地山粘土ブロック微量
- 4 黑褐色粘土 (2.5Y4/1) 粘性強 しまり強
灰褐色微量
- 5 底面シルト (2.5YR7/1) 粘性強 しまり弱
- 6 黑褐色粘土 (2.5YR3/1) 粘性強 しまり強
灰褐色微量
- 7 黑褐色粘土 (2.5Y2/1) 粘性強 しまり弱
- 8 黄褐色粘土 (2.5Y6/1) 粘性強 しまり弱
- 9 黑褐色粘土 (2.5Y6/1) 粘性強 しまり弱

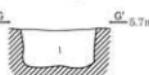
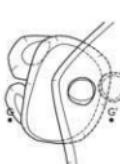
SK9709



SK9709

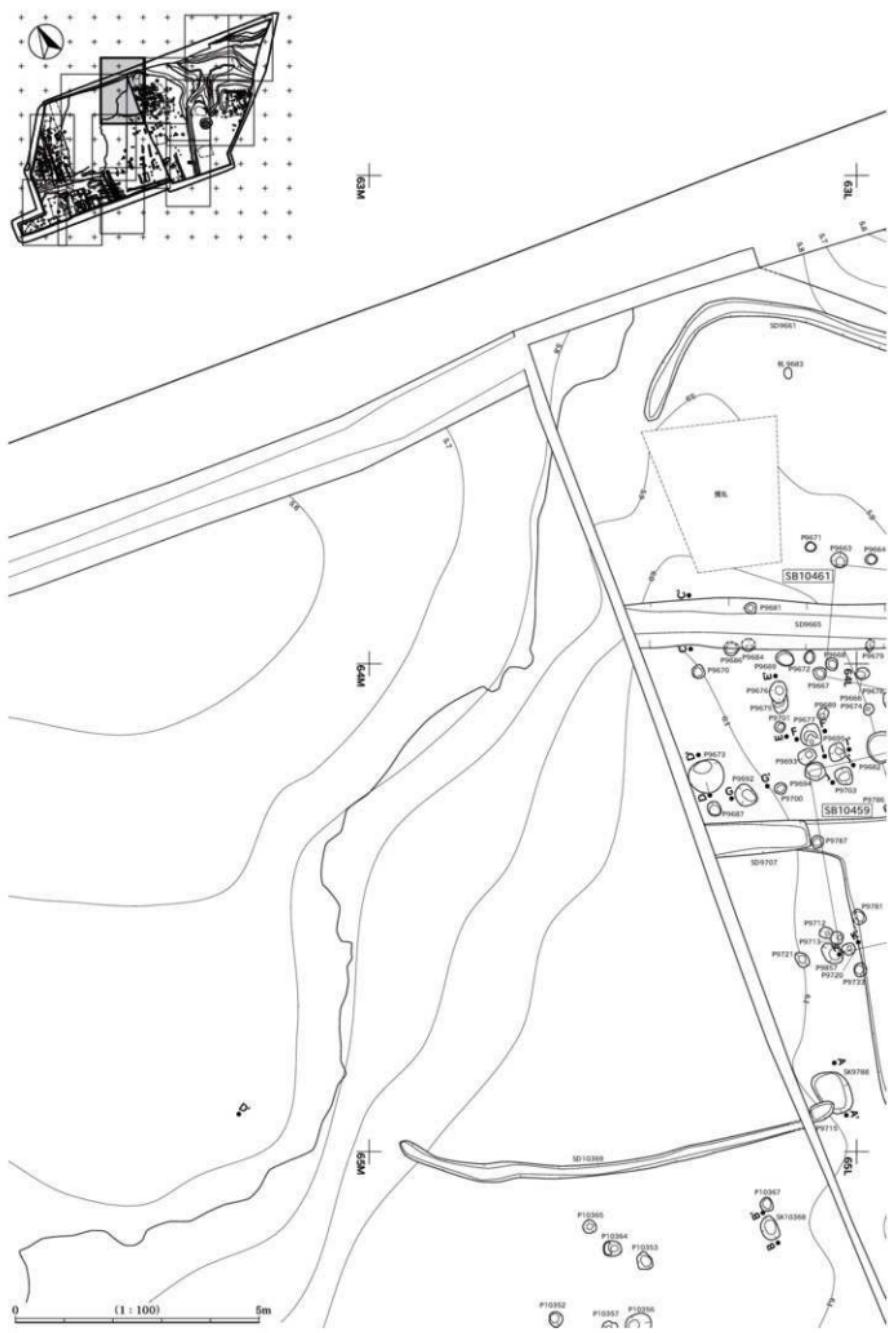
- 1 海灰色粘土 (10YR4/1) 粘性やや強 しまり強
灰色粘土ブロック微量
- 2 淡褐色粘土 (10YR4/1) 粘性やや強 しまり強
灰色粘土ブロック多量

SK9874

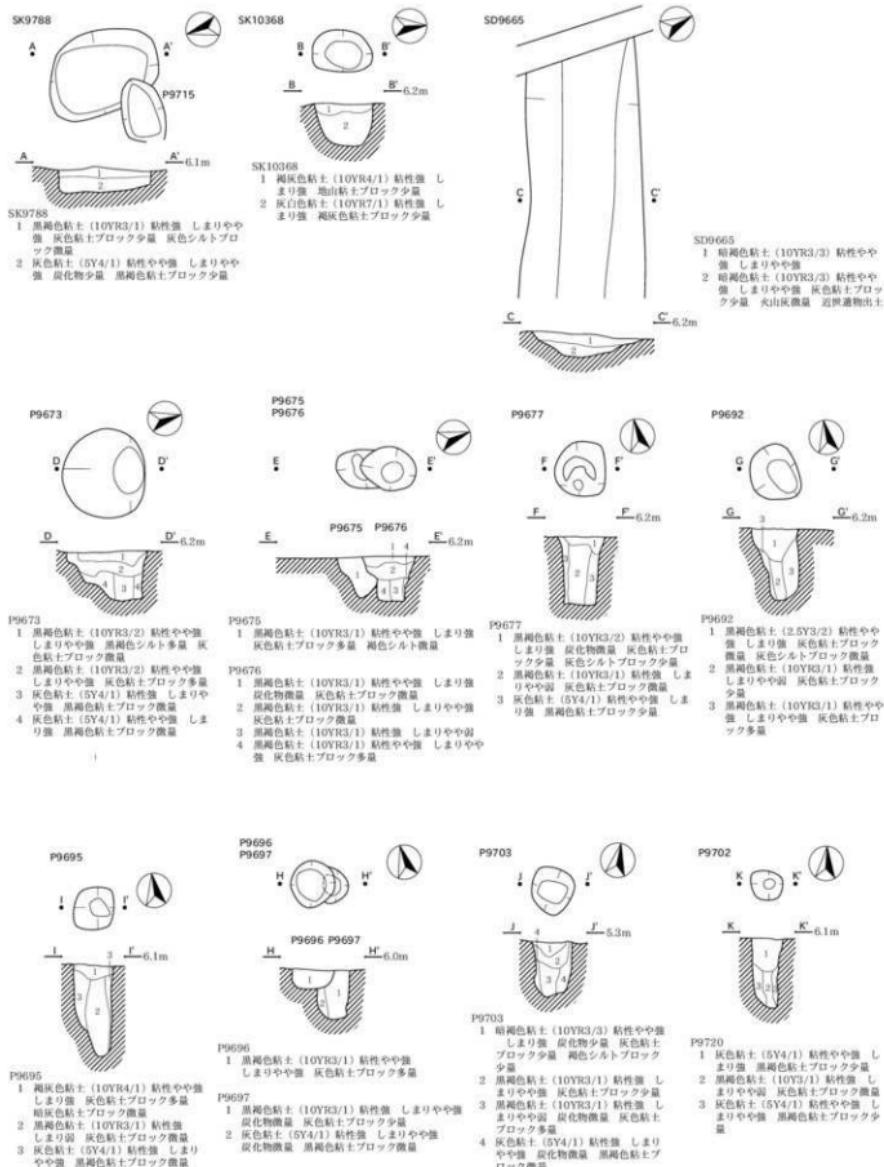


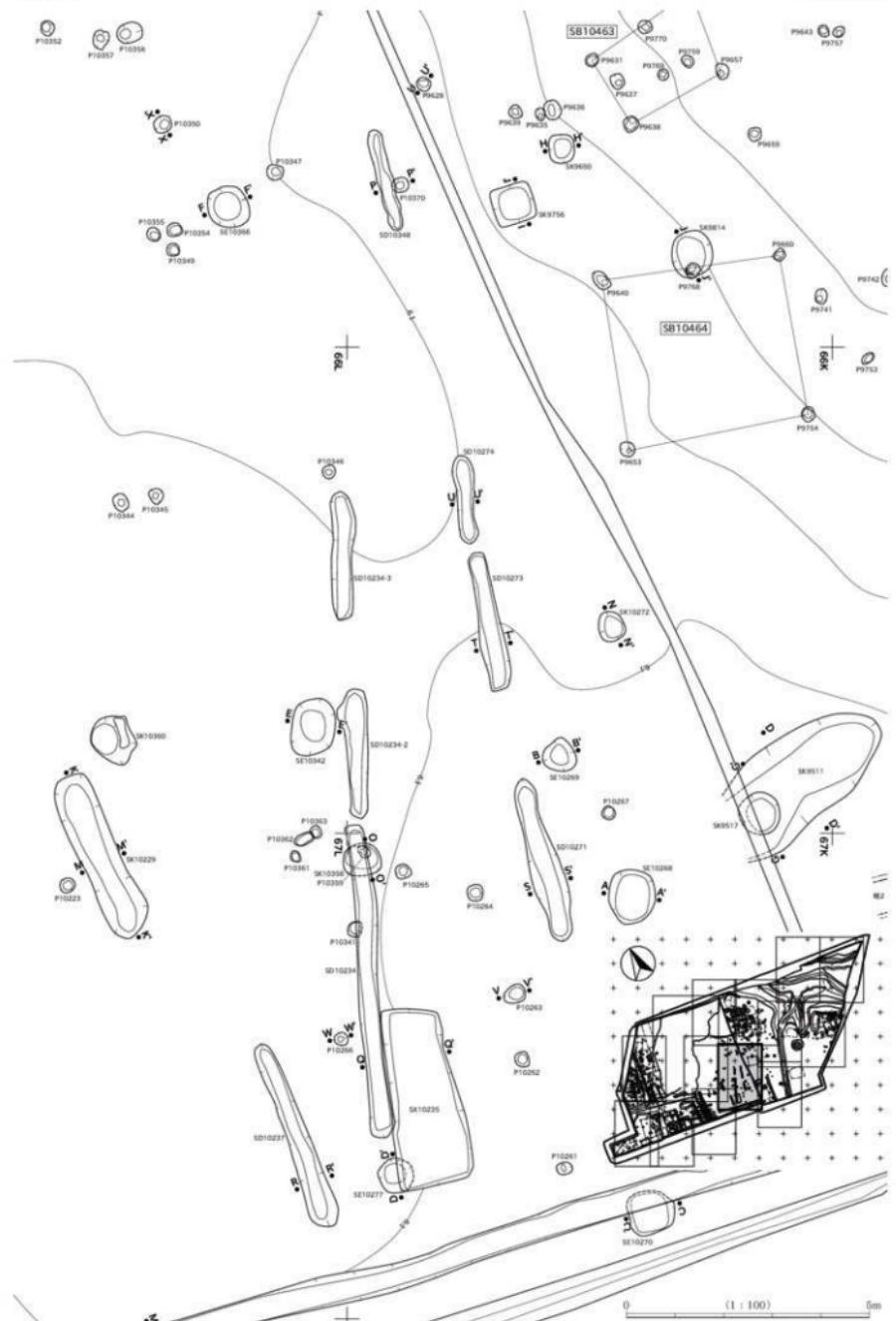
SK9874

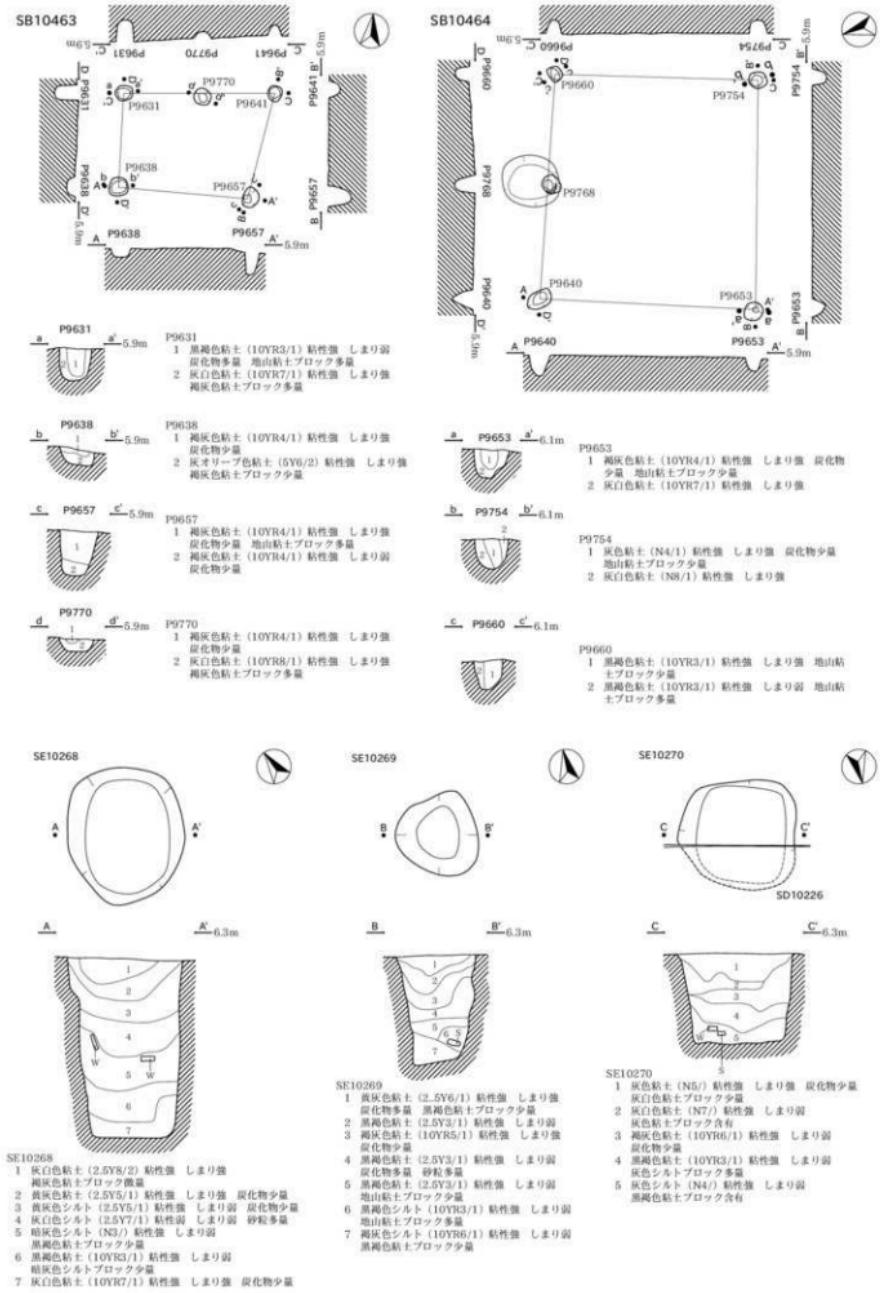
- 1 黑褐色シルト (10YR3/1) 粘性やや弱
しまりやや強 地山粘土ブロック多量



造構個別図 13







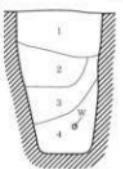
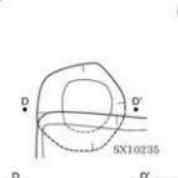
SE10277



SE10342

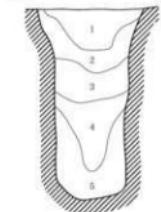
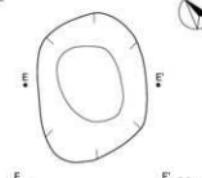


SE10366



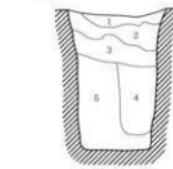
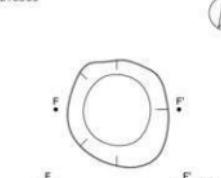
SE10277

- 1 黒色粘土 (N4/1) 粘性強 しまり強 廃化物多量
灰白色粘土ブロック少量
- 2 黒褐色粘土 (N4/1) 粘性強 しまり強 廃化物少量
- 3 黑褐色粘土 (N3/1) 粘性強 しまり弱 廃化物少量
灰白色粘土ブロック多量
- 4 黑褐色シルト (N2/1) 粘性強 しまり弱
地山粘土ブロック多量



SE10342

- 1 黑白色粘土 (10YR7/1) 粘性強 しまり強 廃化物少量 褐灰色粘土ブロック少量
- 2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック少量
- 3 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック多量
- 4 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり弱 廉化物多量 地山粘土ブロック多量
- 5 黑褐色シルト (10YR7/1) 粘性強 しまり弱 廉化物少量 地山粘土ブロック少量



SE10366

- 1 黒白色粘土 (10YR8/1) 粘性強 しまり強 褐灰色粘土ブロック多量
- 2 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック少量
- 3 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック多量
- 4 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり弱 廉化物多量 地山粘土ブロック多量
- 5 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり弱 廉化物少量 地山粘土ブロック少量

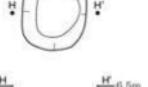
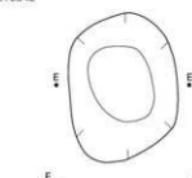
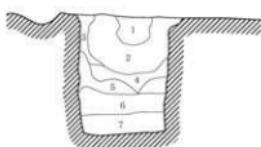
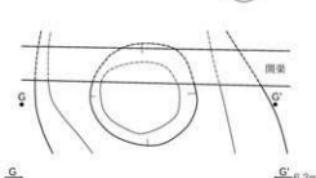
SK9517



SK9650

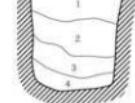
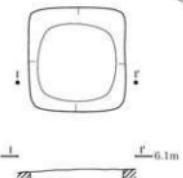


SK9756



SK9650

- 1 黒色粘土 (N6/1) 粘性強 しまり弱 廉化物少量 褐灰色粘土ブロック多量



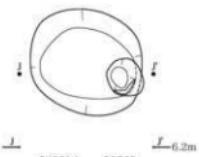
SK9756

- 1 反白色粘土 (2.5Y7/1) 粘性強 しまり強 褐灰色粘土ブロック多量
- 2 反白色シルト (2.5Y7/1) 粘性強 しまり弱 褐灰色粘土ブロック多量
- 3 黑色粘土 (N4/1) 粘性強 しまり弱 地山粘土ブロック多量
- 4 黑色粘土 (N4/1) 粘性強 しまり弱 廉化物少量 地山粘土ブロック少量

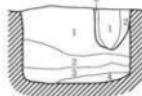
SK9517

- 1 黒色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまり強 黑褐色粘土ブロック少量
- 2 黑褐色粘土 (10YR6/1) 粘性やや強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック多量
- 3 黑褐色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまり強 黑褐色粘土ブロック微量
- 4 黑褐色粘土 (10YR6/1) 粘性やや強 しまり強 黑褐色粘土ブロック微量
- 5 黑色粘土 (5Y4/1) 粘性やや強 しまりやや強 黑褐色粘土ブロック少量
- 6 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性やや強 しまり強 黑褐色粘土ブロック多量
- 7 黑褐色粘土 (10YR6/1) 粘性強 しまりやや強 黑褐色粘土ブロック微量

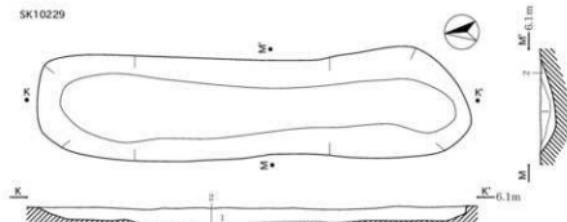
造構別図 16

SK9814
P9768

SK9814 P9768



SK10229



SK10229

- 1 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまり強 塗化物多量 地山粘土ブロック少量
2 灰白色粘土 (10YR7/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量 地山粘土ブロック多量

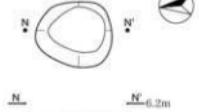
SK9814

- 1 灰白色粘土 (N7/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量 深灰色粘土ブロック多量
2 灰白色粘土 (N7/2) 黏性強 しまり強 塗化物少量 深灰色粘土ブロック多量
3 灰色粘土 (5YV7/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量 地山粘土ブロック多量
4 灰白色粘土 (SY8/1) 黏性強 しまり強

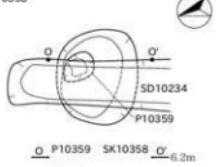
P9768

- 1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量
2 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまり強 地山粘土ブロック多量

SK10272

SK10272
1 深灰色粘土 (10YR6/1) 黏性強
しまり強 地山粘土ブロック多量

SK10358



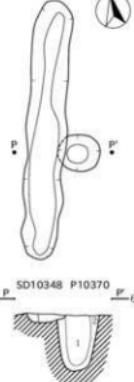
O P10359 SK10358 O' 6.2m

SK10358

- 1 深灰色粘土 (10YR6/1) 黏性強 しまり強
塗化物多量 地山粘土ブロック多量

P10359

- 1 灰白色粘土 (10YR7/1) 黏性強 しまり弱

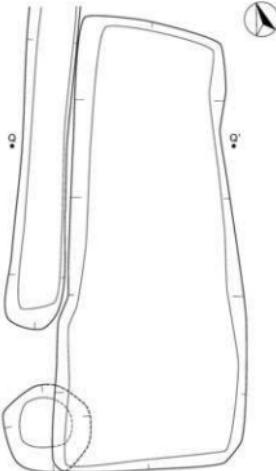
SD10348
P10370

SD10348

- 1 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量
2 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまり強 しまり強
塗化物少量 地山粘土ブロック多量

P10370

- 1 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量
2 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまり強 しまり強
塗化物少量 地山粘土ブロック多量

SD10234
SK10235

SD10234

- 1 深灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量
地山粘土ブロック多量

SK10235

- 1 灰白色粘土 (10YR7/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量

R SD10237 R' 6.2m

SD10237

- 1 灰白色粘土 (10YR7/1) 黏性強 しまり強
塗化物多量
2 灰白色粘土 (10YR7/1) 黏性強 しまり強
塗化物少量

S SD10271 S' 6.2m

- 1 灰白色粘土 (10YR7/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量
地山粘土ブロック多量

T SD10273 T' 6.2m

- 1 深灰色粘土 (10YR6/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量
地山粘土ブロック多量
2 灰白色粘土 (2.5YV7/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量

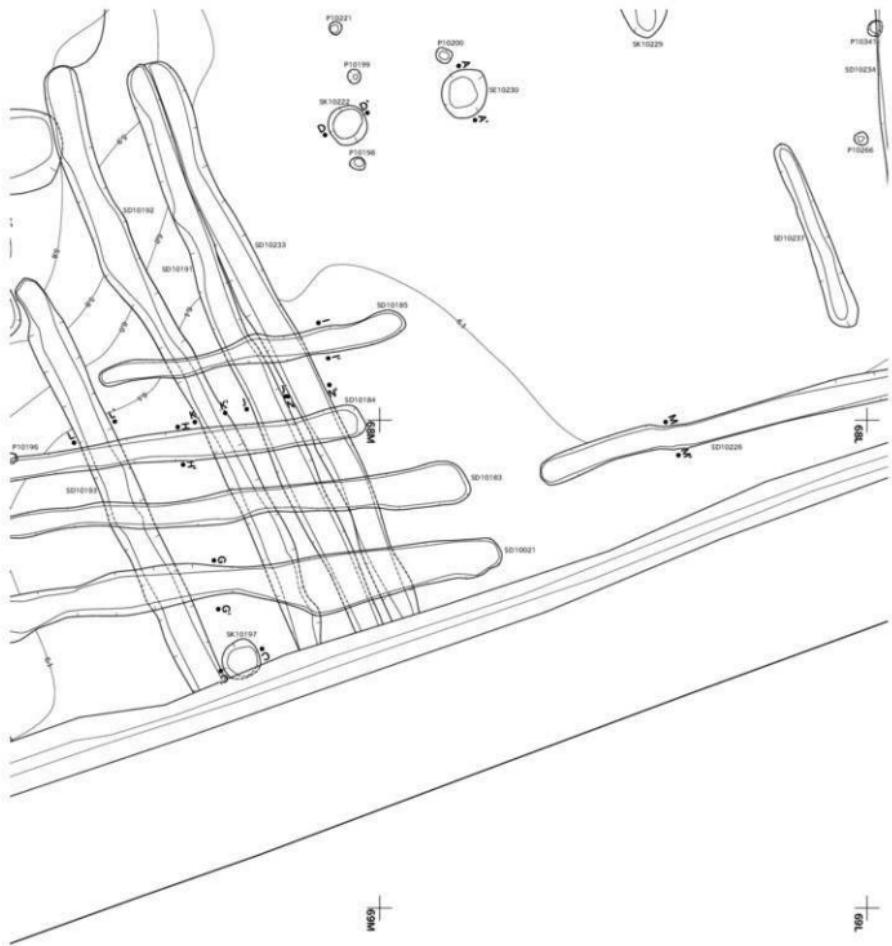
U SD10274 U' 6.2m

- 1 灰白色粘土 (10YR7/1) 黏性強 しまり強 塗化物少量
地山粘土ブロック少量

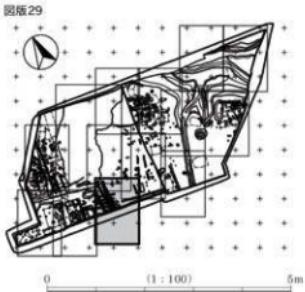


0 (1 : 100) 5m

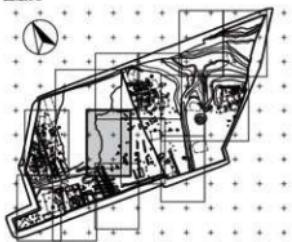
造構分割図 10



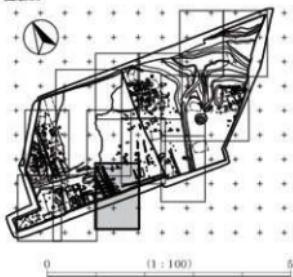
図版 29



図版28

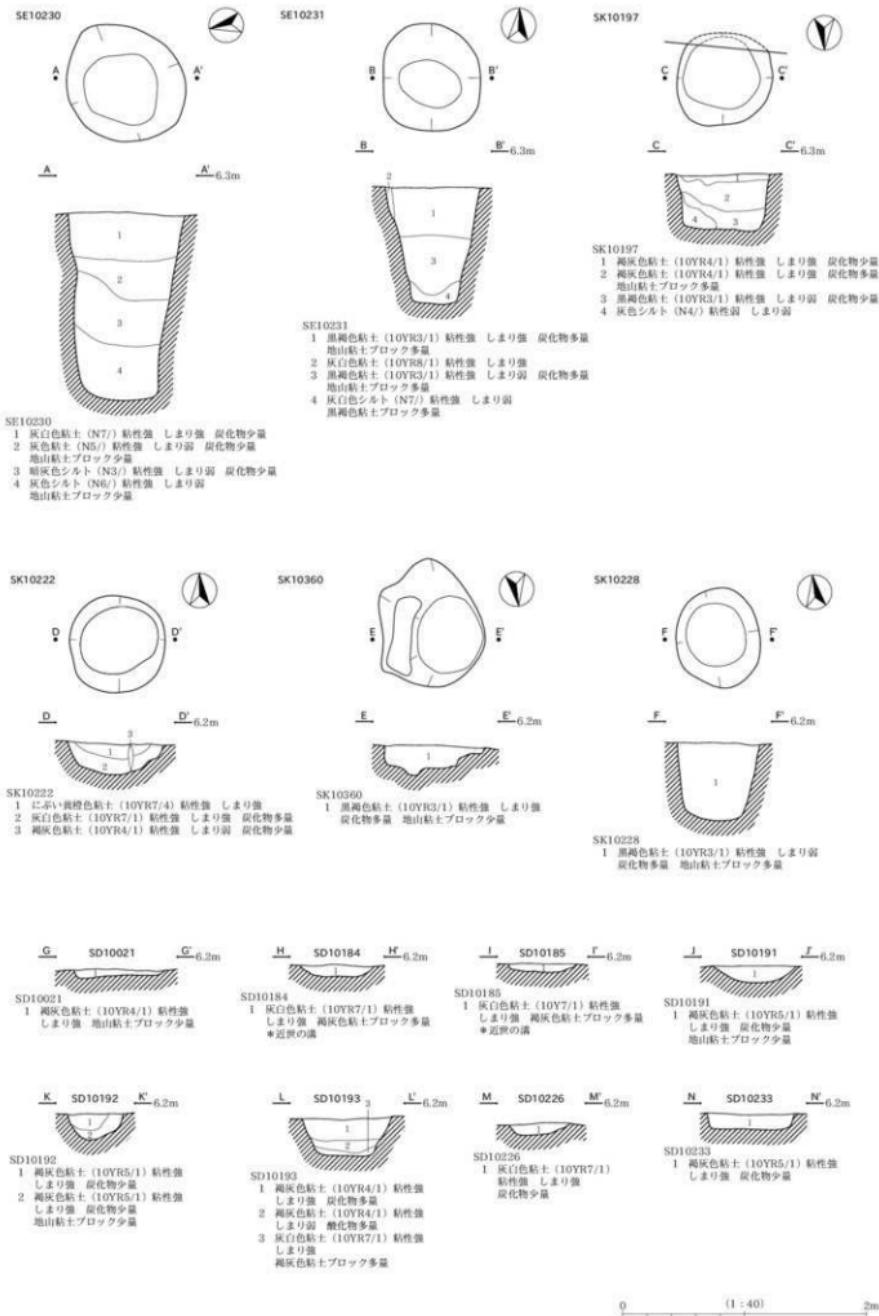


図版29



図版 30

遺構個別図 17



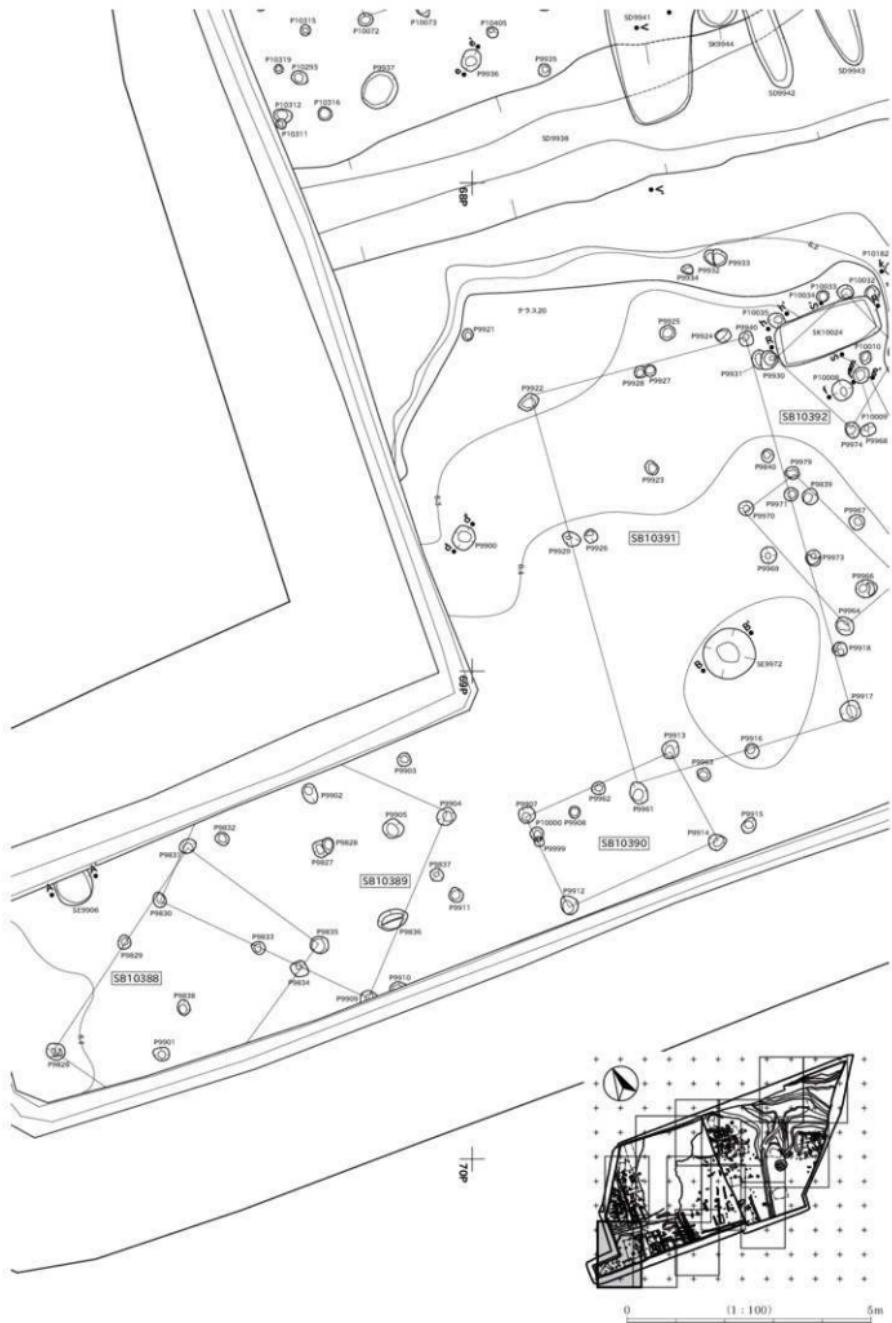
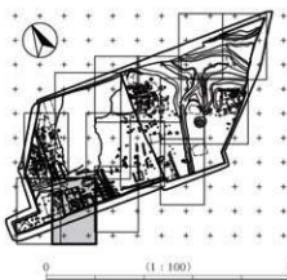
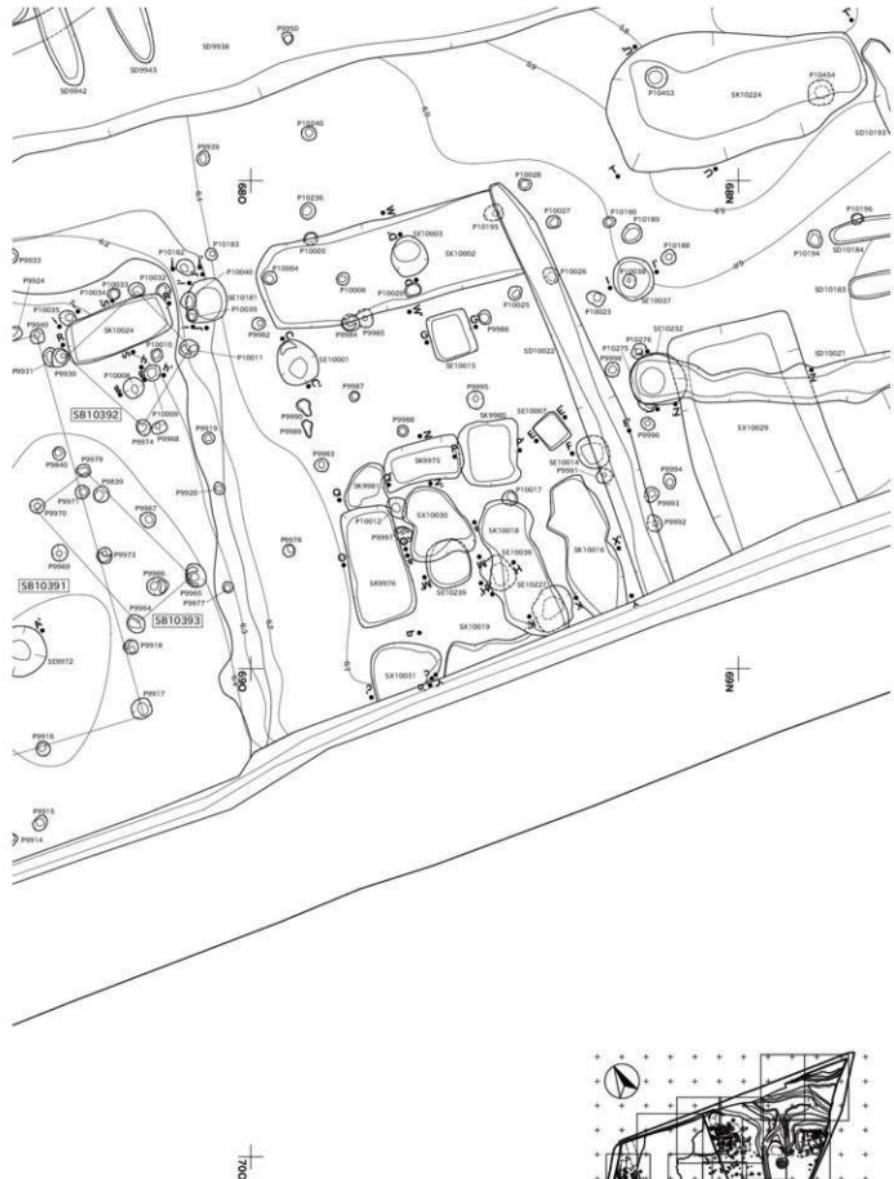


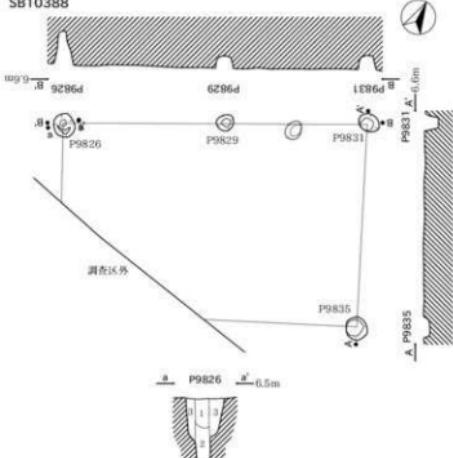
圖 版 32

遺構分割図 12

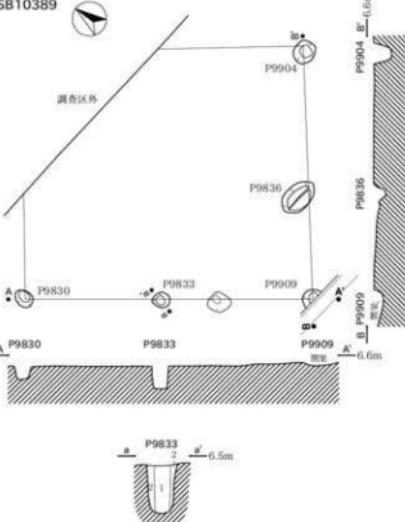


造構個別図 18

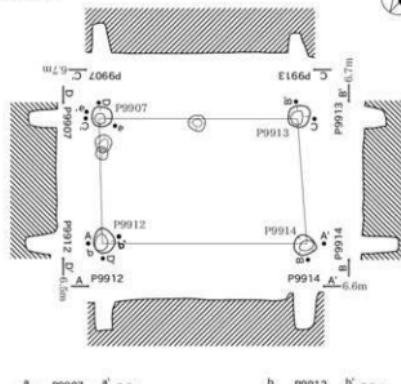
SB10388



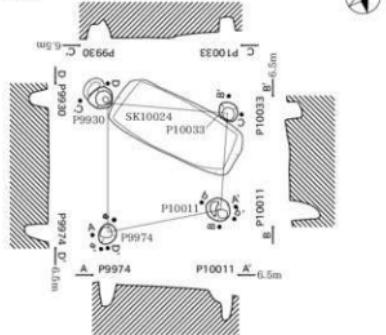
SB10389



SB10390



SB10392



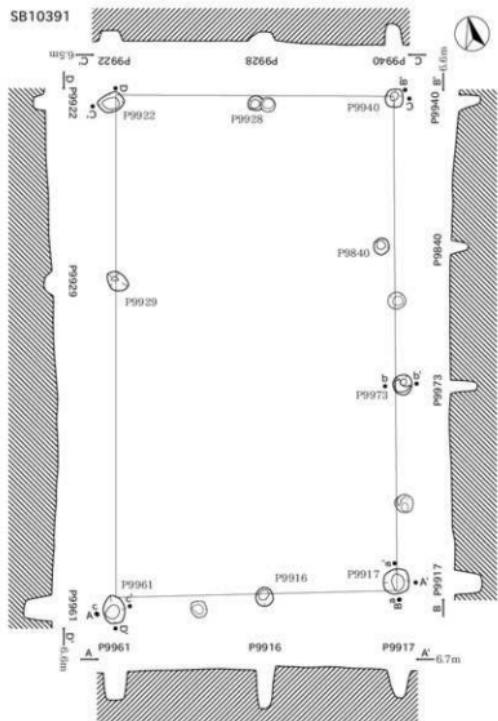
P9907

0 その他 (1 : 80) 4m 0 断面図 (1 : 40) 2m

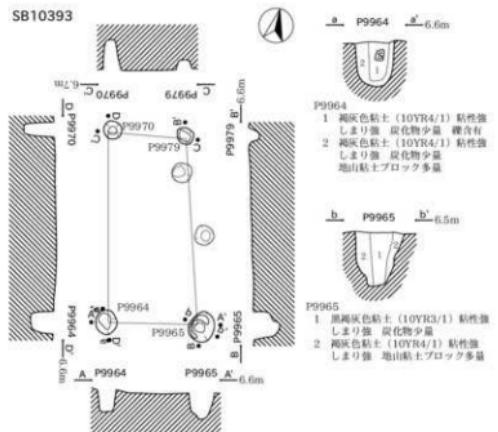
図版 34

遺構個別図 19

SB10391



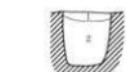
SB10393



0 その他の (1 : 80)
断面図 (1 : 40)

0 2m

a P9917 a' -0.6m



P9917
1 褐灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強
しまり強 広化物少量
2 褐灰色粘土 (10YR3/1) 黏性強
しまり強 広化物多量 地山粘土
3 地山粘土 ブロック多量

b P9973 b' -0.6m



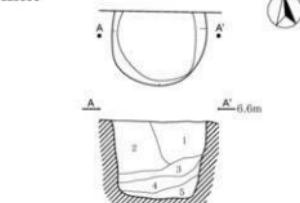
P9973
1 褐灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強
しまり強 広化物少量
2 地山粘土 (10YR7/1) 黏性強
しまり強 広化物多量

c P9961 c' -0.6m



P9961
1 地山粘土 (N3/1) 黏性強 しまり
広化物少量
2 地山粘土 (N3/1) 黏性強 しまり
弱 地山粘土 ブロック少量
3 褐灰色粘土 (10Y4/1) 黏性強
しまり強 地山粘土 ブロック多量
4 褐灰色粘土 (10Y4/1) 黏性強
しまり強 地山粘土 ブロック多量

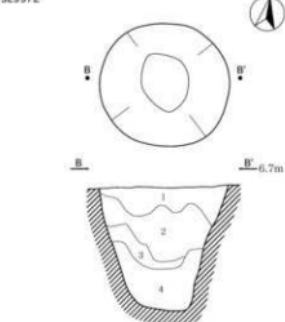
SE9906



SE9906

1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 黏性強 しまり強 広化物多量
地山粘土 ブロック多量
2 地山粘土 (10YR7/1) 黏性強 しまり強 広化物少量
3 褐灰色粘土 ブロック多量
4 褐灰色粘土 (10Y4/1) 黏性強 しまり弱
5 地山粘土 (N4/2) 黏性強 しまり弱 黑色粘土 ブロック少量

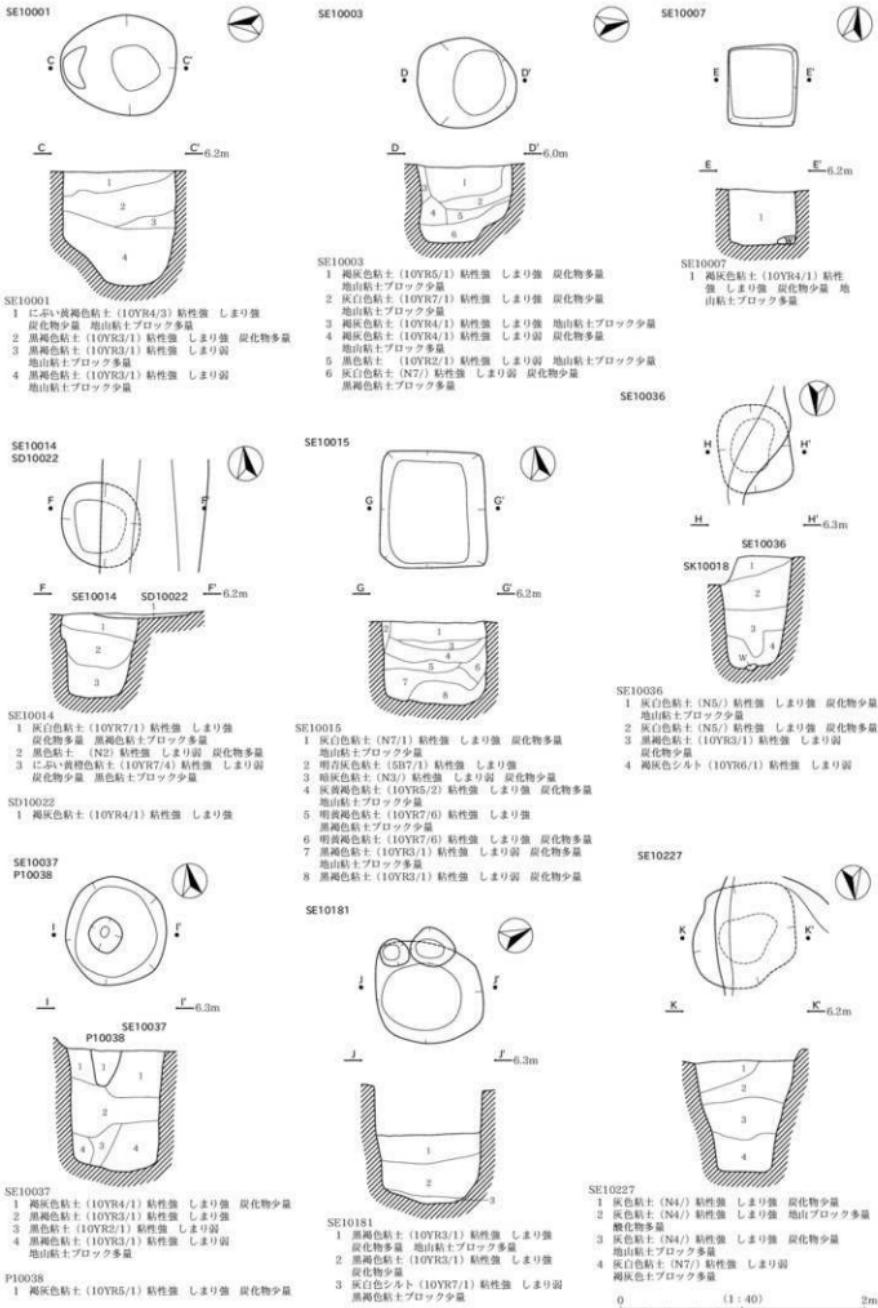
SE9972



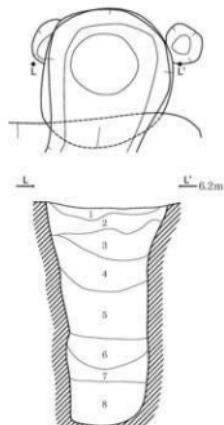
SE9972

1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 黏性強 しまり強 地山粘土 ブロック少量
2 浅黄色粘土 (5Y7/3) 黏性強 しまり弱 褐灰色粘土 ブロック多量
3 淡灰色粘土 (N3/2) 黏性強 しまり弱 地山粘土 ブロック少量
4 浅黄色シルト (5Y7/3) 黏性強 しまり弱 地山粘土 ブロック少量

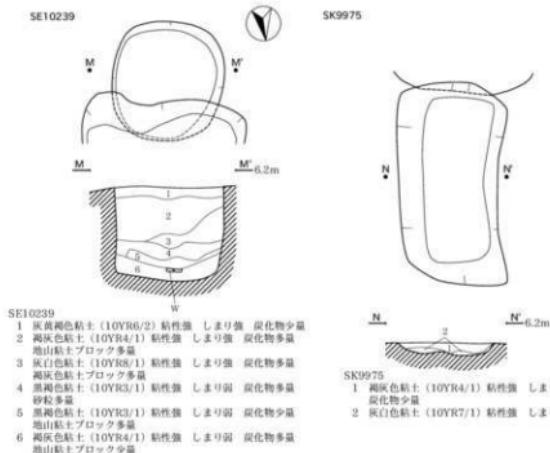
造構個別図 20



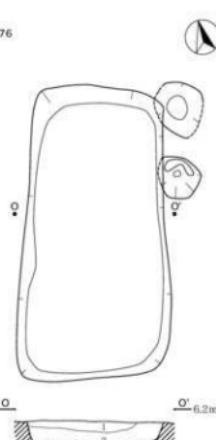
SE10232



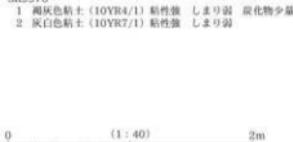
SE10239



SK9976

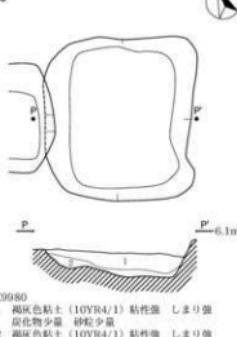


SK9977

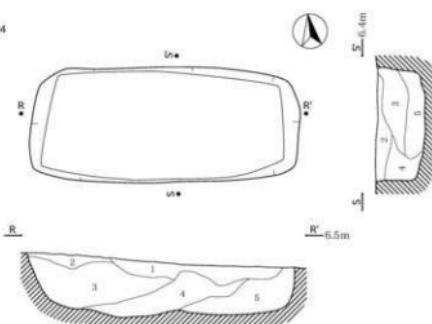


(1 : 40)

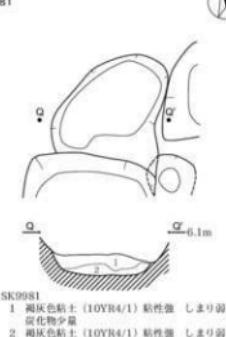
SK9980



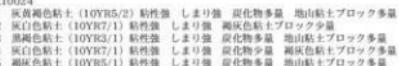
SK10024



SK9981



SK10024

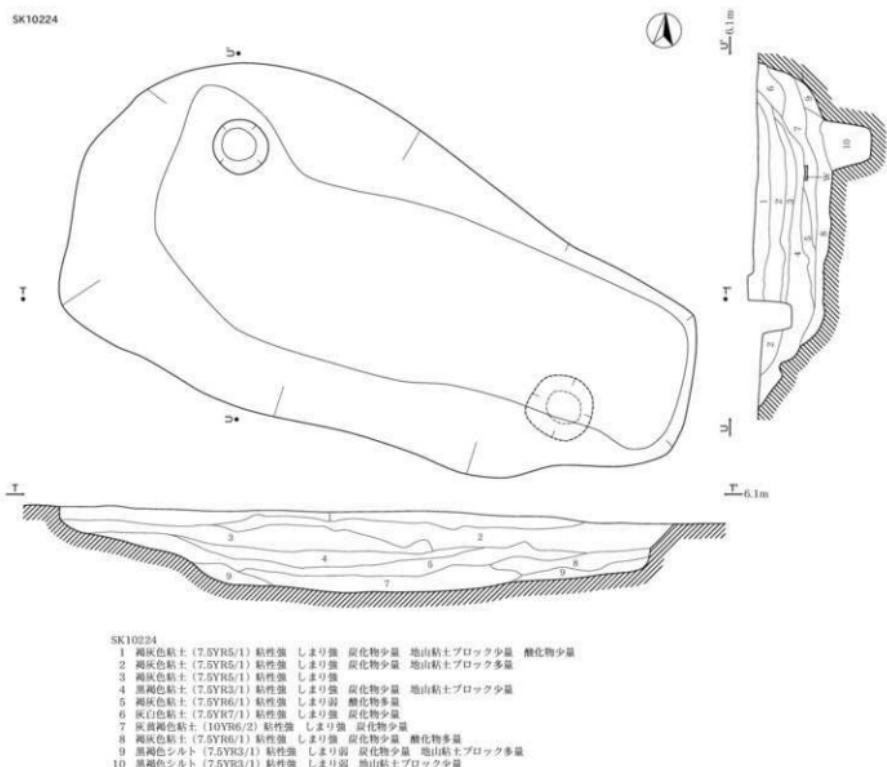


0

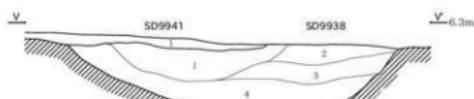
2m

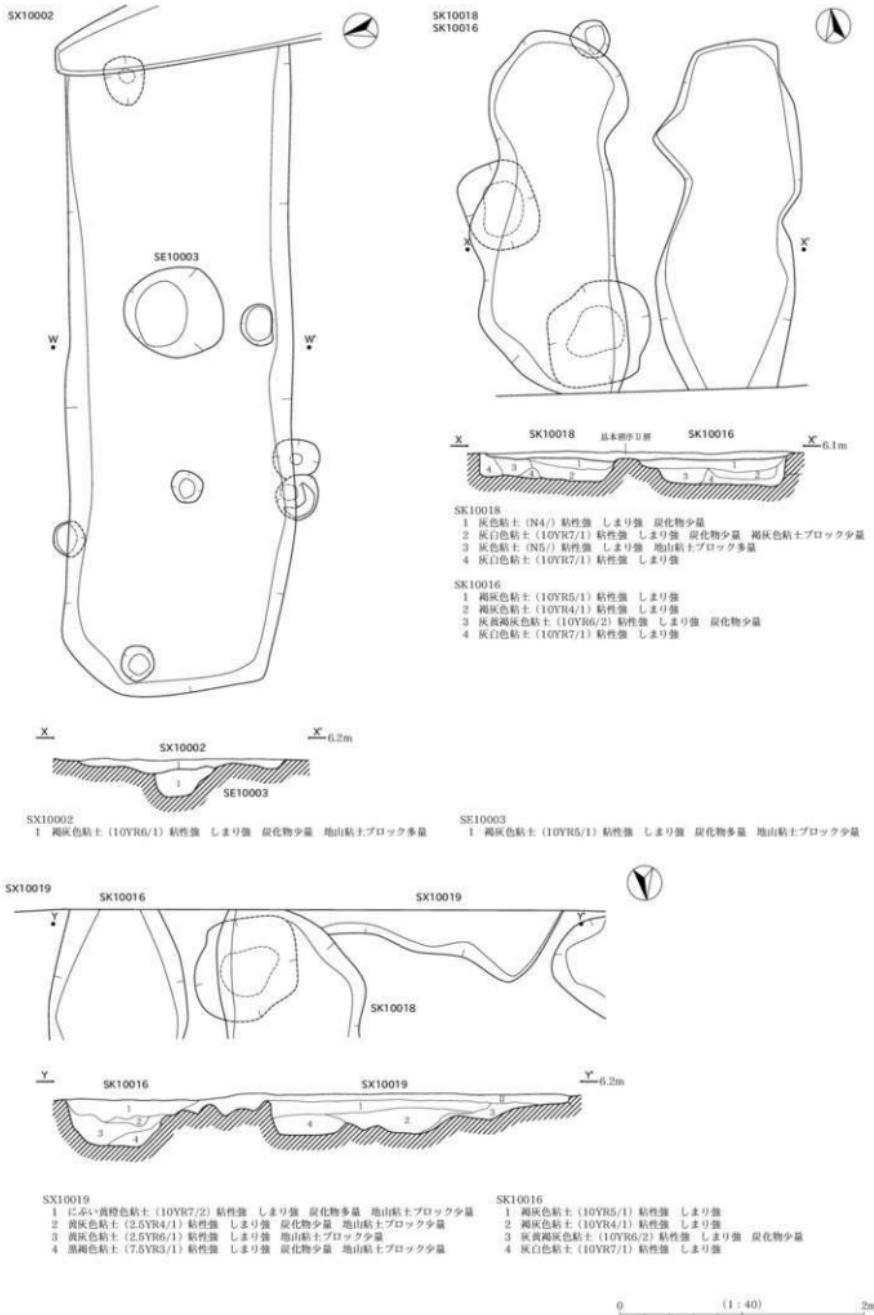
地構個別図 22

SK10224



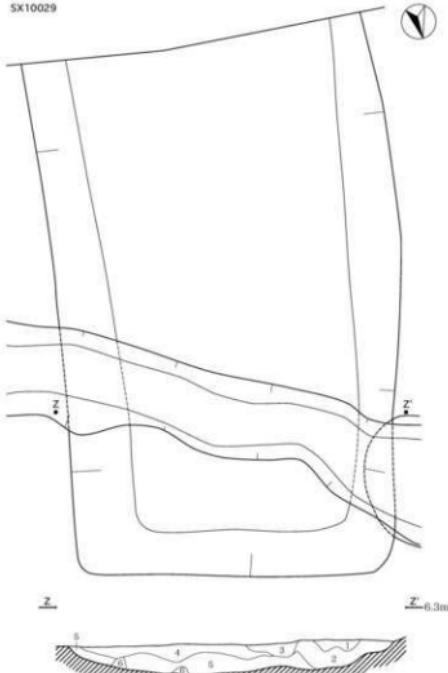
SD9941・SD9938



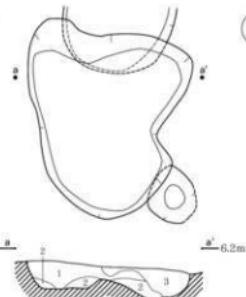


地構個別図 24

SK10029



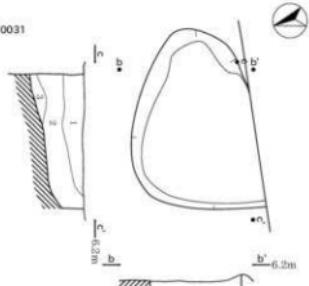
SX10030



SX10030

- 黒色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまり強 塩化物少量
- 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性強 しまり強 黒褐色粘土ブロック多量
- 灰白色粘土 (10YR8/1) 粘性強 しまり強

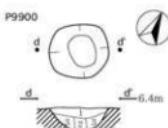
SX10031



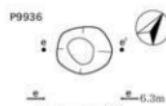
SX10031

- 灰褐色粘土 (10YR6/2) 粘性強 しまり強 塩化物多量
- 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性強 しまり強 塩化物少量
- 灰白色粘土 (10YR8/1) 粘性強 しまり強

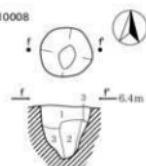
P9900



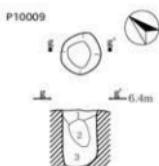
P9936



P10008



P10009



P9900

- 褐色色粘土 (10YR3/1) 粘性弱 しまり弱 塩化物少量
- 明るい褐色粘土 (5GY7/1) 粘性弱 しまり弱 黒色粘土ブロック少量
- IGC色粘土 (5GY7/1) 粘性弱 しまり弱 黒色粘土ブロック多量

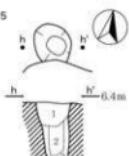
P9936

- 褐灰色粘土 (10YR6/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量
- 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強 しまり弱 地山粘土ブロック多量
- 明瞭灰色粘土 (10CH7/1) 粘性弱 しまり弱 褐灰色粘土ブロック少量

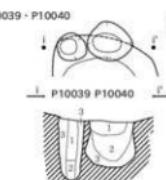
P10008

- 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 塩化物多量 地山粘土ブロック多量
- 褐灰色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強 塩化物少量
- 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性強 しまり強

P10035



P10039 - P10040



P10039

- 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 塩化物少量
- 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性強 しまり強 塩化物少量
- 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 塩化物少量 地山粘土ブロック多量

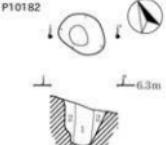
P10040

- 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量
- 灰白色粘土 (N7/1) 粘性強 しまり強 塩化物多量 地山粘土ブロック多量
- 褐灰色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強 塩化物少量 地山粘土ブロック少量

P10009

- 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量
- 灰白色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 塩化物少量
- 灰白色粘土 (10YR7/1) 粘性強 しまり強

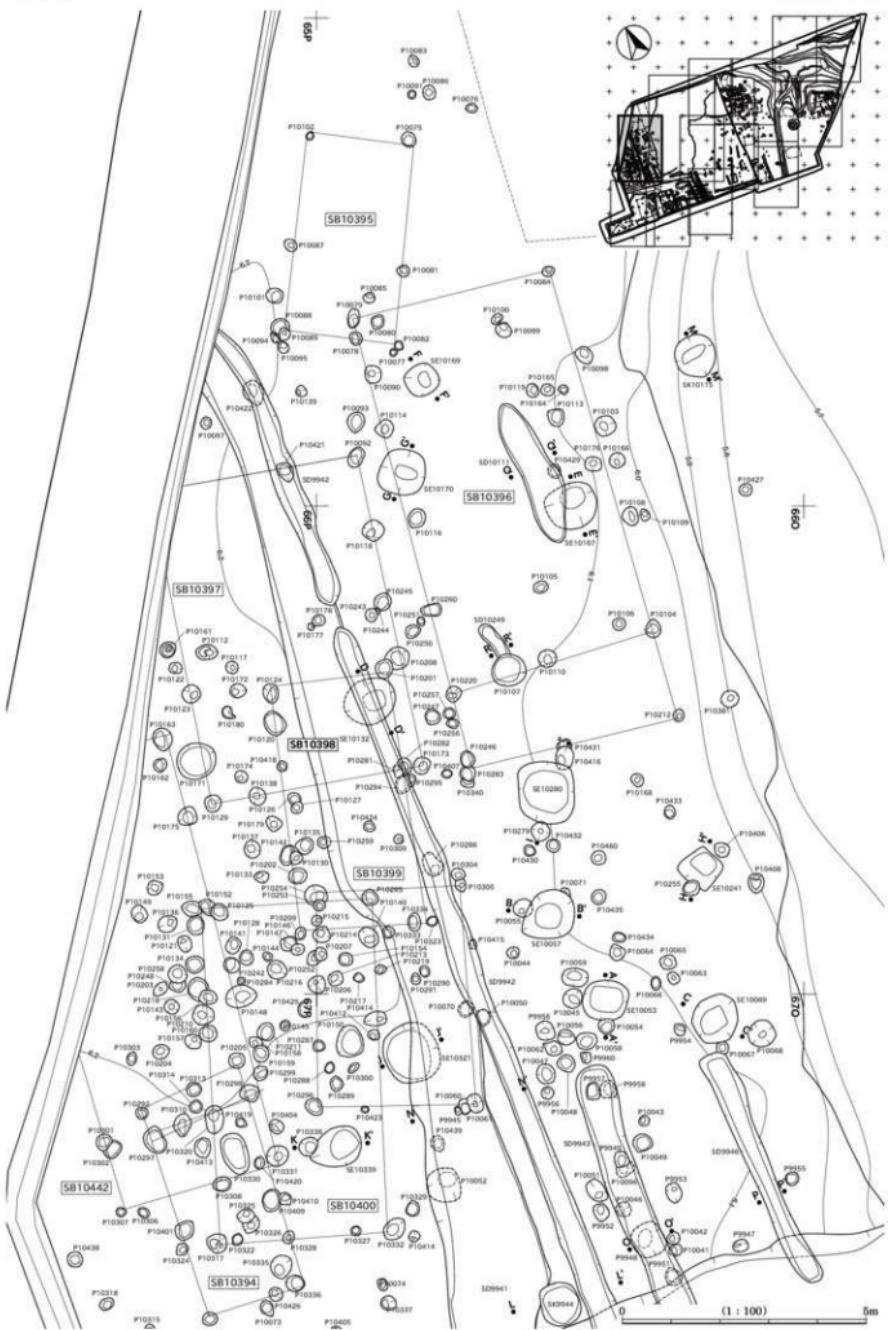
P10182



0

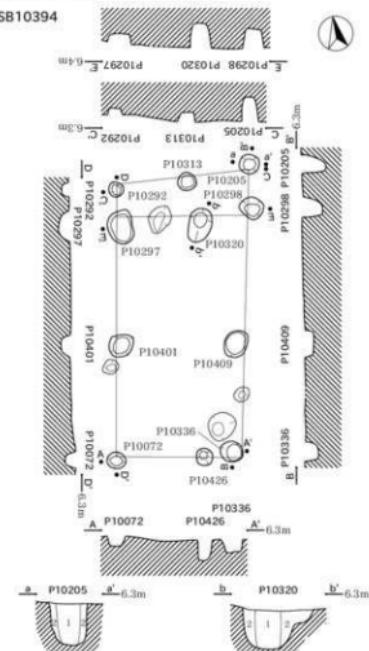
(1:40)

2m



造構個別図 25

SB10394



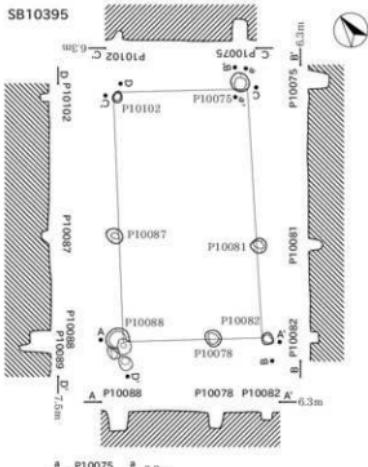
P10205

- 1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 黏性強
しまり弱 地山粘土ブロック少量
2 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック少量

P10320

- 1 黒褐色粘土 (10YR3/1) 黏性強
しまりや弱 地山粘土ブロック多量
2 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック含有

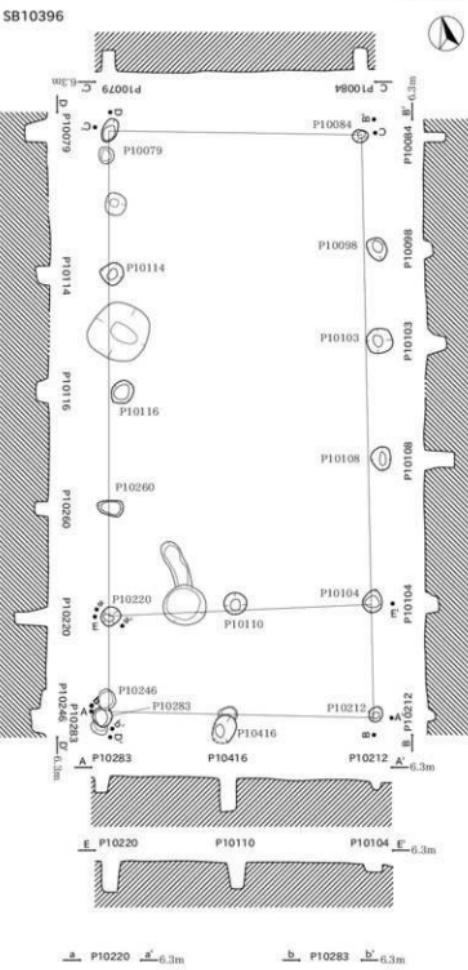
SB10395



P10075

- 1 褐灰色粘土 (10YR4/1) 黏性強 しまり強
地山粘土ブロック少量
2 黒褐色粘土 (10YR3/1) 黏性強 しまり弱
3 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック少量

SB10396



P10220

- 1 海灰色粘土 (10YR5/1) 黏性強
しまり強 地山粘土ブロック少量
2 海灰白色粘土 (7.5YR4/1) 黏性強
しまり強 地山粘土ブロック少量
3 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 海灰白色粘土ブロック少量

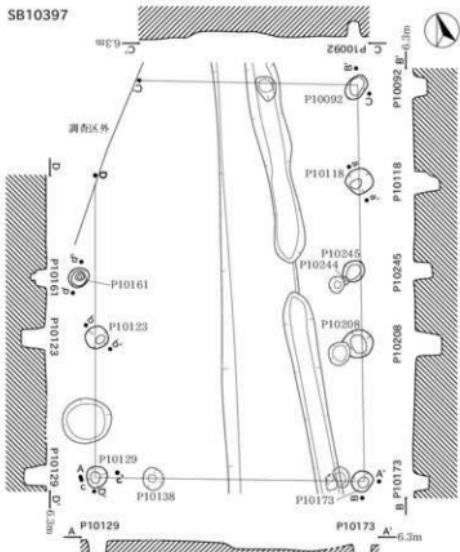
P10283

- 1 海灰色粘土 (10YR5/1) 黏性強
しまり強 地山粘土ブロック少量
2 海灰白色粘土 (7.5YR4/1) 黏性強
しまり強 地山粘土ブロック少量
3 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 海灰白色粘土ブロック少量

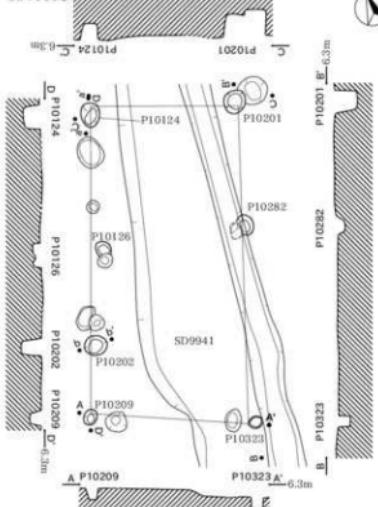
図版 42

遺構個別図 26

SB10397



SB10398



P10124

- 1 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 黏性強
しまり弱 地山粘土ブロック多量
- 2 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 黏性強
しまり弱 地山粘土ブロック多量
- 3 明緑灰褐色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 黒褐色粘土ブロック含有

P10202

- 1 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 黏性強
しまり弱 地山粘土ブロック多量
- 2 明緑灰褐色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 地山粘土ブロック多量

0 その他 (1 : 80) 4m 0 縦面図 (1 : 40) 2m

P10118, P10092, P10092'

P10118

- 1 暗褐色粘土 (10YR3/1) 黏性強
しまり弱 地山粘土ブロック少量
- 2 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 黏性や強
しまり強 地山粘土ブロック多量
- 3 明緑灰褐色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック多量

P10123, P10123'

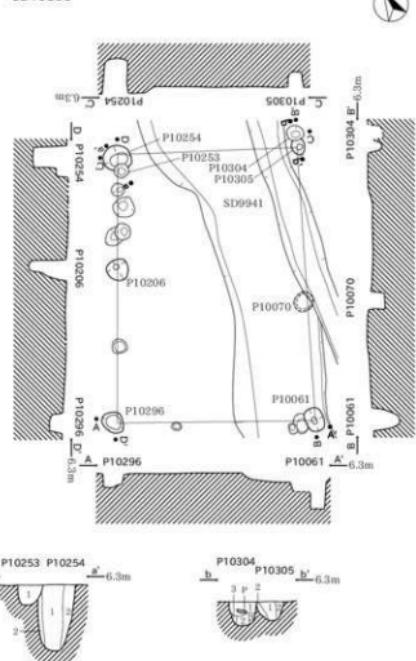
P10123

- 1 暗褐色粘土 (10YR4/1) 黏性強
しまり弱 地山粘土ブロック少量
- 2 明緑灰褐色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 地山粘土ブロック含有

P10161, P10161'

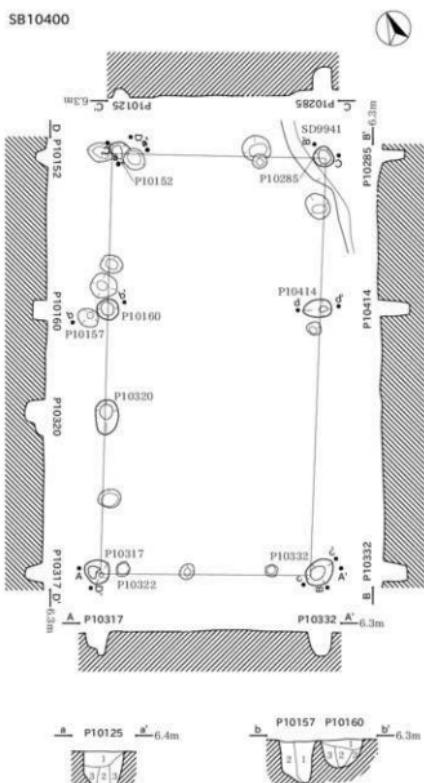
- 1 暗褐色粘土 (7.5YR3/1) 黏性強
しまり強 地山粘土ブロック多量
- 2 両色粘土 (7.5YR4/1) 黏性強
しまりや弱 地山粘土ブロック多量
- 3 明緑灰褐色粘土 (10GY7/1) 黏性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック含有

SB10399

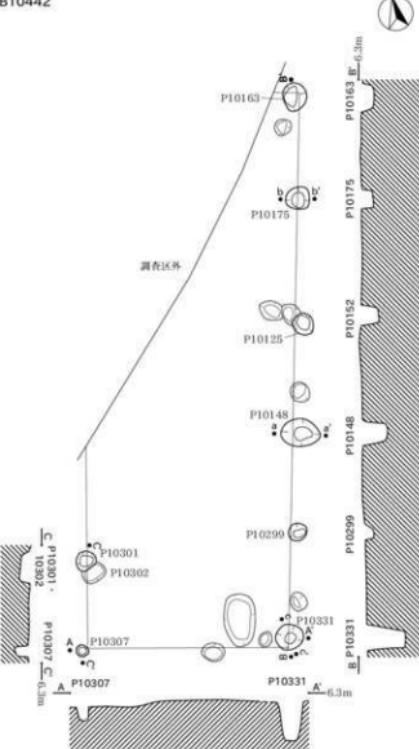


地構個別図 27

SB10400



SB10442



P10157

- 1 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性強
しまりやや弱 地山粘土ブロック少量
- 2 暗灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強
しまりやや弱
- 3 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 粘性強
しまりやや強
黒褐色粘土ブロック含有

P10160

- 1 黑褐色粘土 (7.5YR4/1) 粘性強
しまり強 地山粘土ブロック多量
- 2 黑褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性強
しまり強 地山粘土ブロック多量
- 3 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 粘性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック少量

P10332

- 1 暗灰色粘土 (7.5YR5/1) 粘性強
しまり強 地山粘土ブロック多量
- 2 暗灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強
しまり強 地山粘土ブロック多量
- 3 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 粘性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック含有

P10414

- 1 黑褐色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強
しまり弱 地山粘土ブロック多量
- 2 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強
しまり弱 地山粘土ブロック多量
- 3 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 粘性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック少量

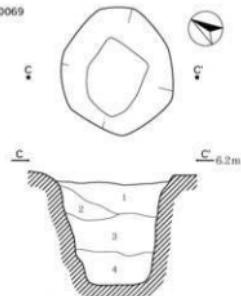
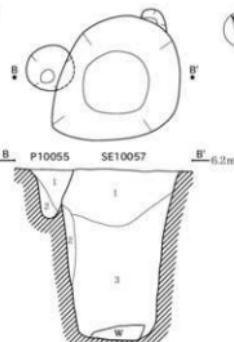
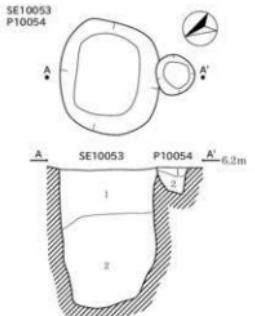
P10148

- 1 暗灰色粘土 (7.5YR4/1) 粘性強
しまり強 地山粘土ブロック少量
- 2 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 粘性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック多量
- 3 暗灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強
しまりやや弱
地山粘土ブロック微量

P10175

- 1 黒褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性強
しまりやや弱 地山粘土ブロック少量
- 2 明緑灰色粘土 (10GY7/1) 粘性強
しまり強 黑褐色粘土ブロック少量
- 3 明緑灰色粘土 (7.5GY7/1) 粘性強
しまりやや弱
地山粘土ブロック微量

図版 44



P10054

- 1 湖灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土ブロック多量
- 2 黑褐色粘土 (7.5VR3/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量

SE10053

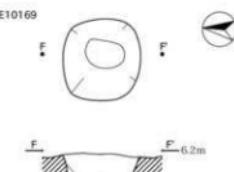
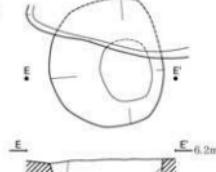
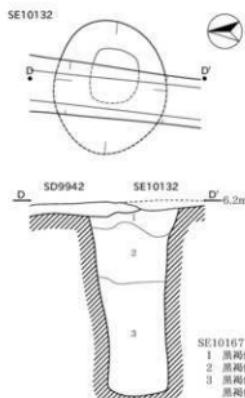
- 1 湖灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック多量
- 2 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土ブロック少量

P10055

- 1 黒褐色粘土 (7.5YR4/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土ブロック少量
2 黑褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土ブロック多量
- 3 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土 ブロック少量

SE10057

- 1 黒褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土 ブロック少量
2 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土 ブロック少量
- 3 黑褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土 ブロック多量

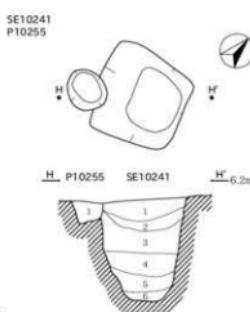
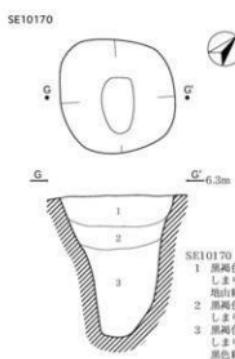


SE10132

- 1 湖灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック多量
- 2 黑褐色粘土 (7.5YR4/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土ブロック少量
- 3 黑褐色粘土 (7.5YR5/1) 粘性強 しまりやや弱

SE10169

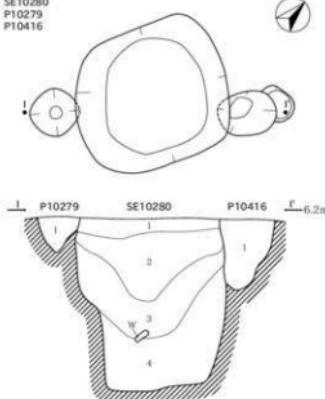
- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土ブロック多量
2 黑褐色粘土 (7.5YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 地山粘土ブロック微量
3 黑褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強 しまり弱 地山粘土ブロック微量



遺構個別図 28

造構個別図 29

SE10280
P10279
P10416



P10279

- 1 深灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック多量
- 2 深灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり弱 廉化物多量 地山粘土ブロック少量
- 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり弱 廉化物少量 地山粘土ブロック少量
- 4 黑褐色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまり弱 地山ブロック多量

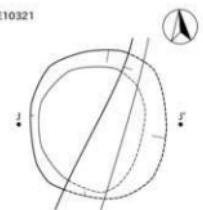
P10416

- 1 深灰色粘土 (7.5YR5/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック少量

SE10280

- 1 深灰色粘土 (7.5Y4/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック多量
- 2 深灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり弱 廉化物多量 地山粘土ブロック少量
- 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり弱 廉化物少量 地山粘土ブロック少量
- 4 黑褐色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまり弱 地山ブロック多量

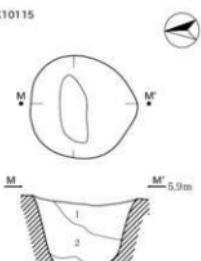
SE10321



SE10321

- 1 深灰色粘土 (7.5YR6/1) 粘性強 しまり強 廉化物多量 地山粘土ブロック多量
- 2 深灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強 しまりやや弱 廉化物多量 地山粘土ブロック少量
- 3 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり弱 廉化物多量 地山粘土ブロック多量
- 4 黑褐色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまり弱 地山粘土ブロック少量 廉植物多量

SK10115

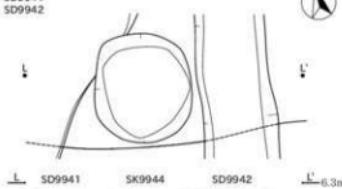


SK10115

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまりやや弱 廉化物少量 地山粘土ブロック多量
- 2 黑褐色粘土 (2.5Y3/1) 粘性強 しまりやや弱 廉化物少量 地山粘土ブロック少量
- 3 黑褐色粘土 (10YR5/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック多量

SD9944

SD9941
SD9942



SD9944

- 1 深灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強 しまり強
- 2 深灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強
- 3 深灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック多量

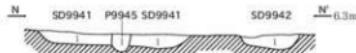
SD9941

- 1 深灰色粘土 (10YR6/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量

SD9942

- 1 深灰色粘土 (7.5YR5/1) 粘性強 しまり強

N SD9941 P9945 SD9941



SD9941

- 1 深灰色粘土 (10YR6/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量

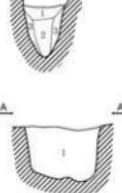
SD9942

- 1 深灰色粘土 (7.5YR5/1) 粘性強 しまり強

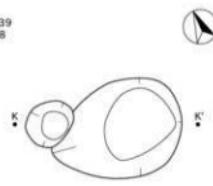
P9945

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強

SD9942 N' 6.3m



SE10339
P10338



P10338

- 1 深灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 地山粘土ブロック少量
- 2 深灰色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり弱 廉化物多量 地山粘土ブロック多量
- 3 深灰色粘土 (10YR5/1) 粘性強 しまり弱 廉化物多量 地山粘土ブロック少量
- 4 深灰色粘土 (10YR1/1) 粘性強 しまり弱 廉化物多量 地山粘土ブロック少量

SE10339

- 1 明緑灰色粘土 (10G7/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 深灰色粘土ブロック多量
- 2 明緑灰色粘土 (10G8/1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 深灰色粘土ブロック多量
- 3 明緑灰色粘土 (10G8Y1) 粘性強 しまり強 廉化物少量 深灰色粘土ブロック多量
- 4 黑色粘土 (10YR2/1) 粘性強 しまり弱 地山粘土ブロック多量
- 5 黑色粘土 (10YR1/1) 粘性強 しまり弱 廉植物多量

SD9943

- 1 深灰色シルト (10YR5/1) 粘性弱 しまり弱 地山粘土ブロック少量

SD9946

- 1 深灰色シルト (10YR4/1) 粘性弱 しまり強 地山粘土ブロック多量

SD10111

- 1 深灰色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック多量

R SD10249 R' 6.2m

- 1 明緑灰色粘土 (10G7/1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック少量

SD10249

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量
- 2 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり弱 廉化物少量 地山粘土ブロック少量
- 3 明緑灰色シルト (10G7Y1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック少量

P9956

- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック少量
- 2 黑褐色粘土 (10YR4/1) 粘性強 しまり弱 廉化物少量 地山粘土ブロック少量
- 3 明緑灰色シルト (10G7Y1) 粘性強 しまり強 黑褐色粘土ブロック少量

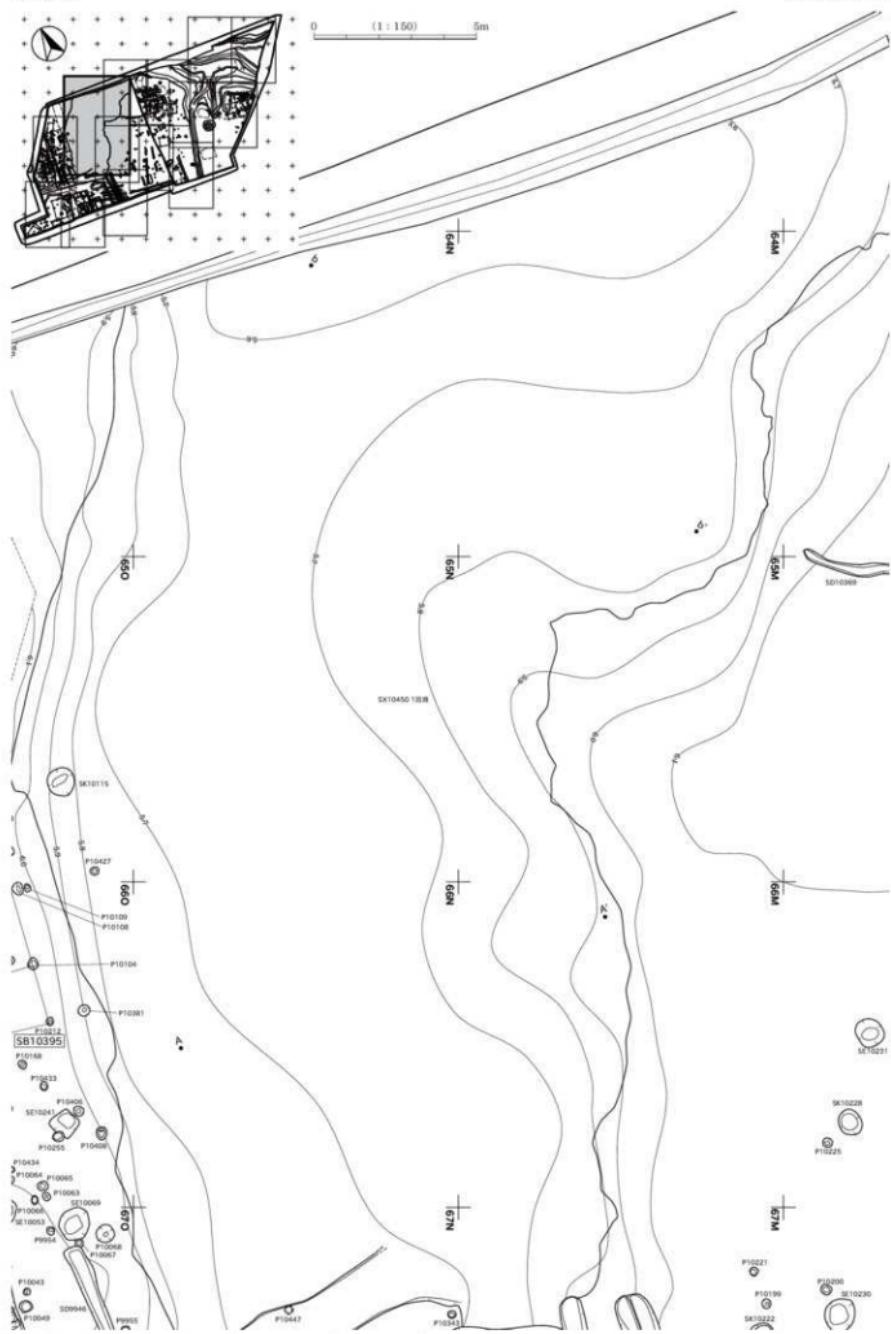
P10107

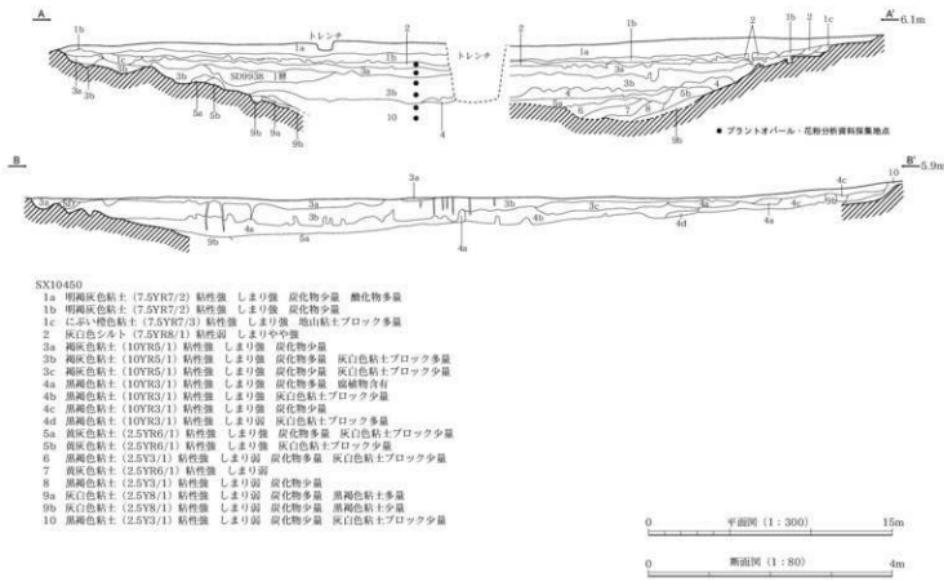
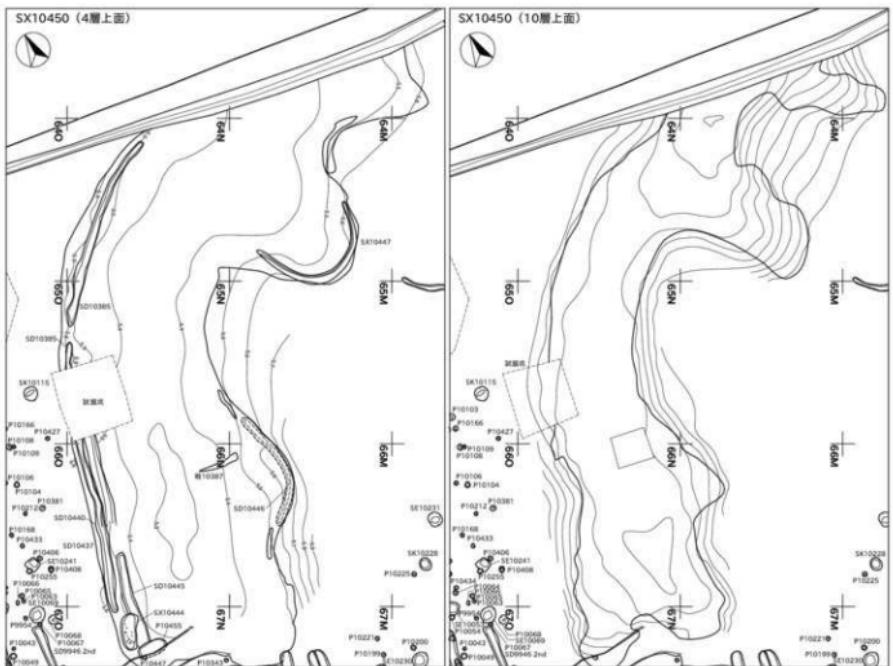
- 1 黑褐色粘土 (10YR3/1) 粘性強 しまり強 地山粘土ブロック多量

0 (1:40) 2m

図版 46

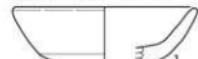
遺構分割図 14



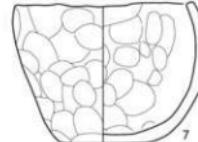
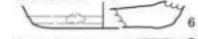


図版 48

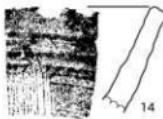
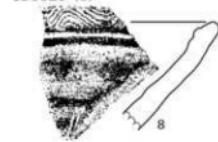
SB9867-P9626 (1・2)



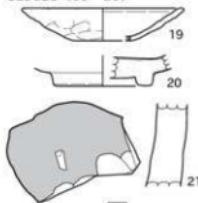
SD9519 (6・7)



SD9526 (8)

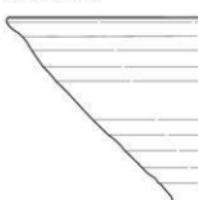


SE9623 (19~21)



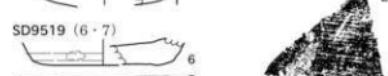
■ 灰面・底面

SE9717 (22)

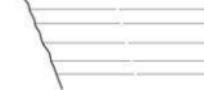
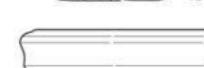
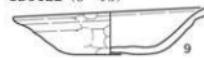


■ 灰化物

SK9624 (3~5)



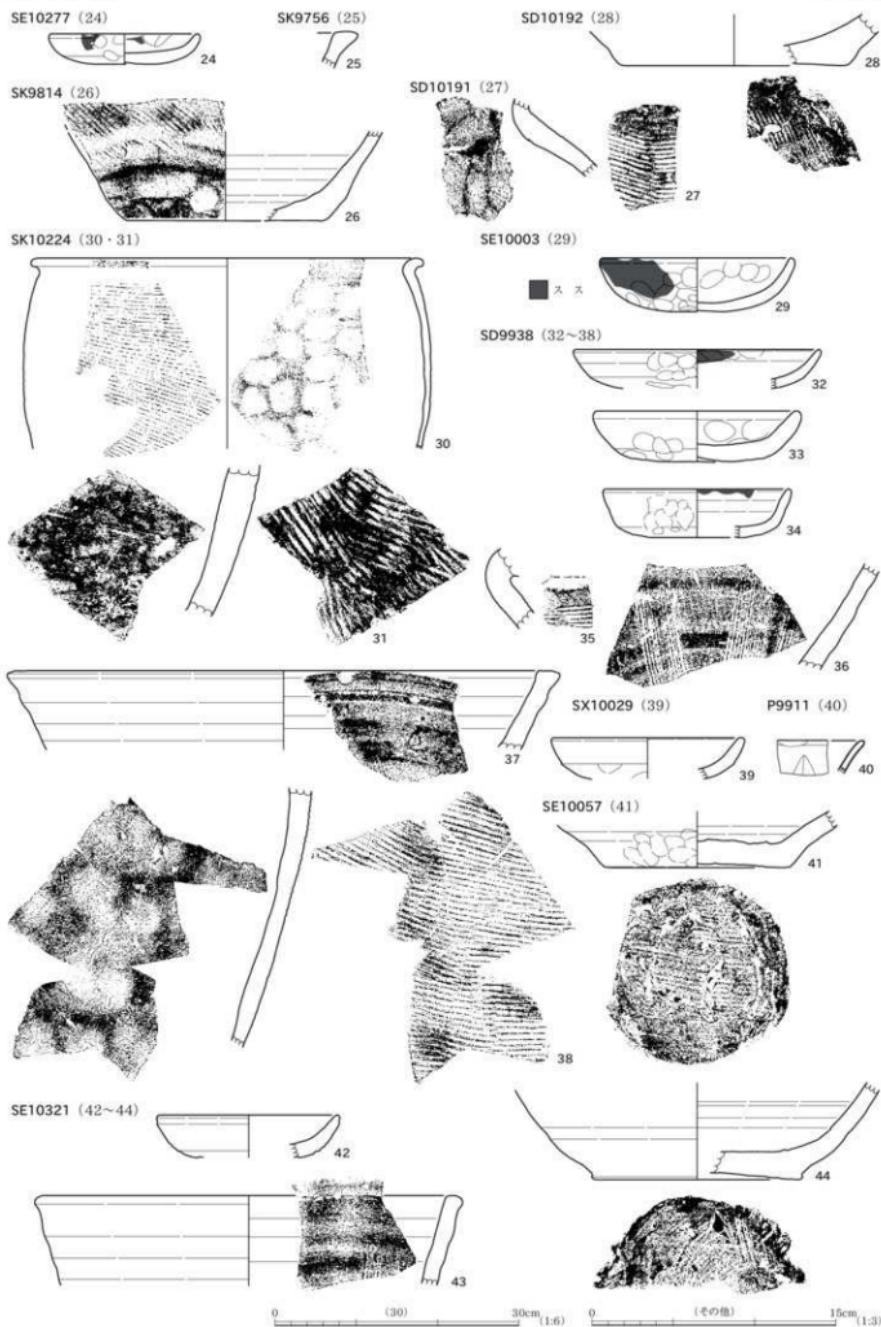
SD9622 (9~18)



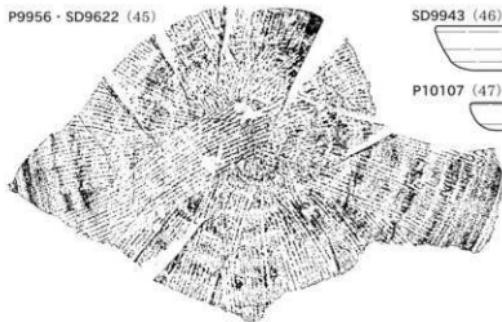
土器・陶磁器 1

15cm (1:3)

0



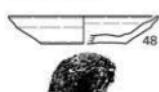
P9956・SD9622 (45)



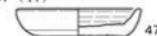
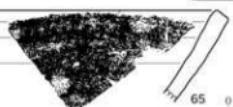
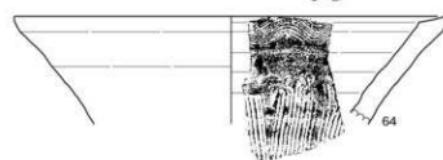
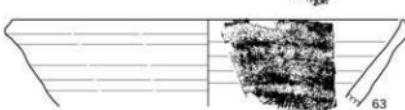
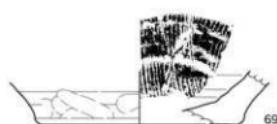
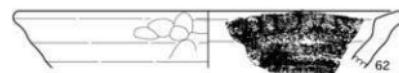
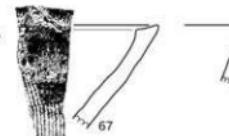
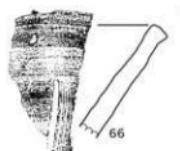
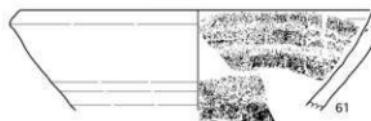
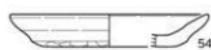
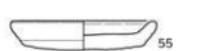
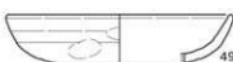
SD9943 (46)



P10421 (48)



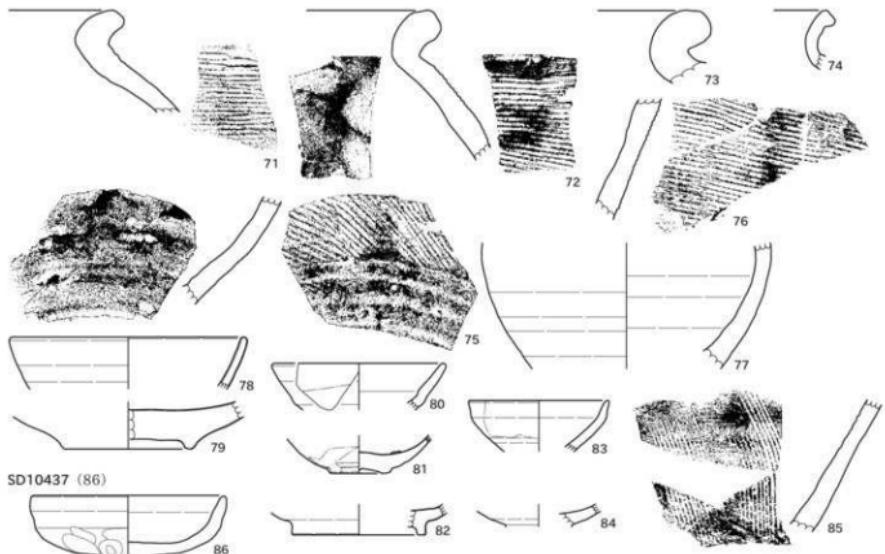
P10107 (47)

SX10450
(49~85)

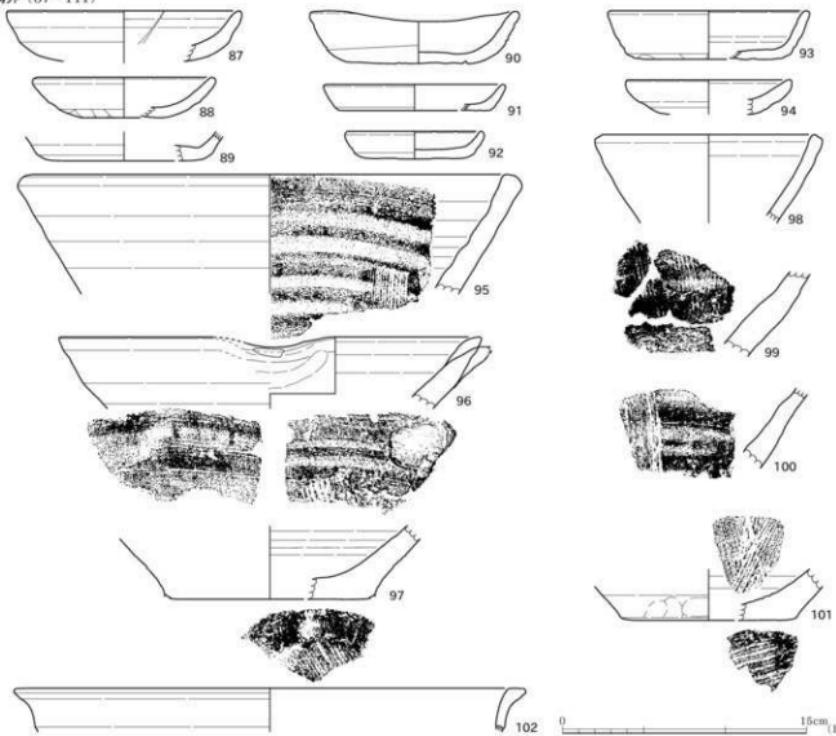
0

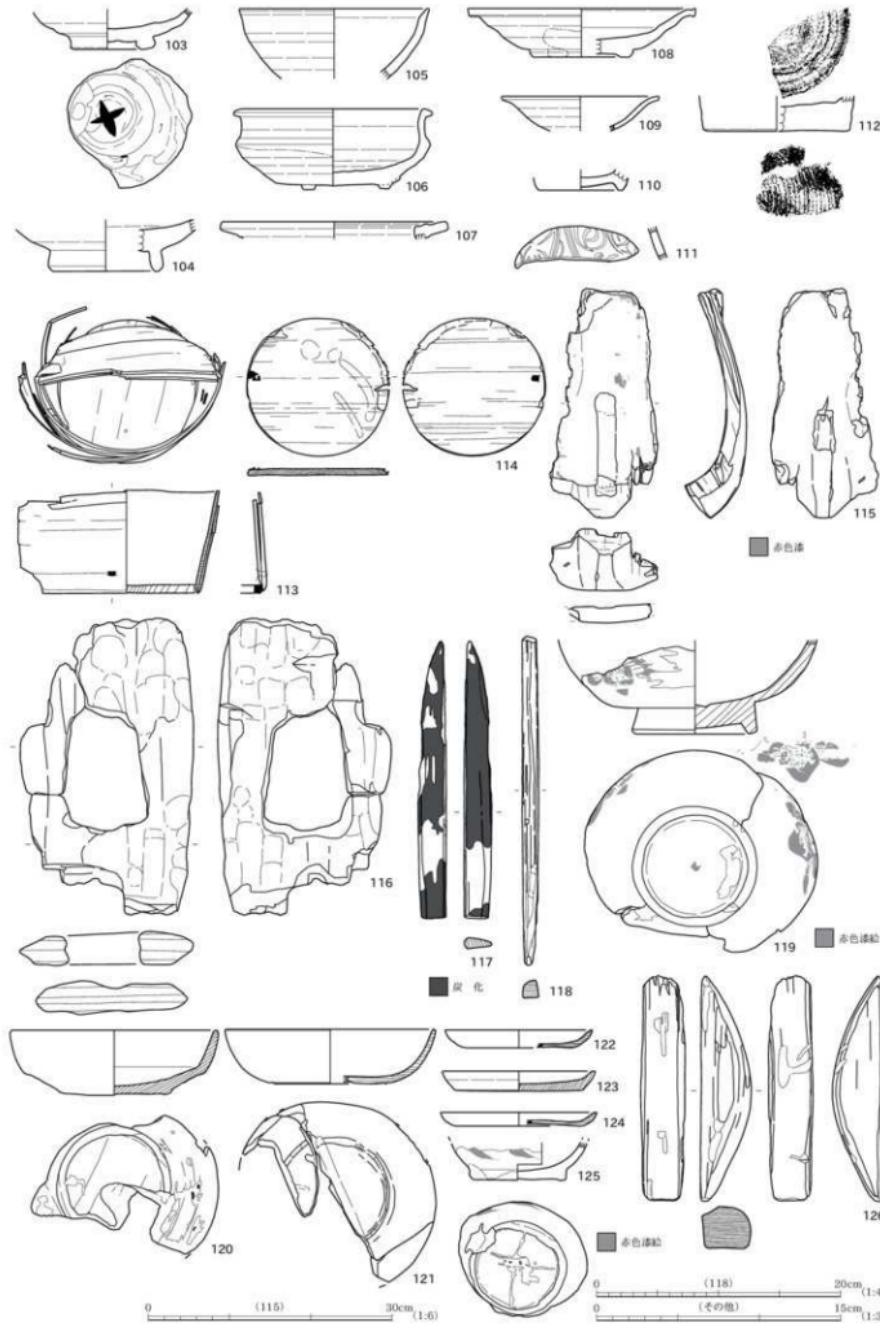
15cm (1:3)

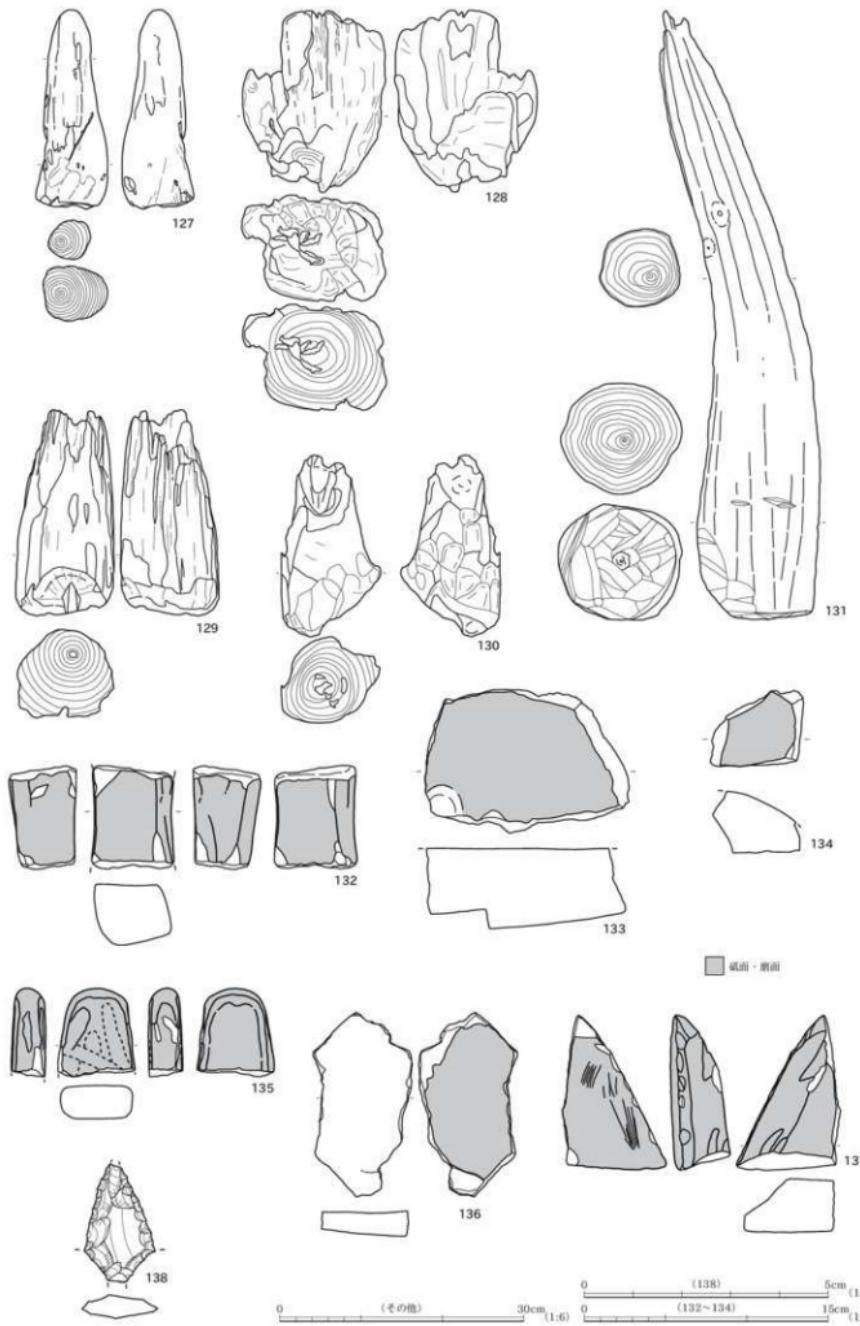
15cm (1:3)

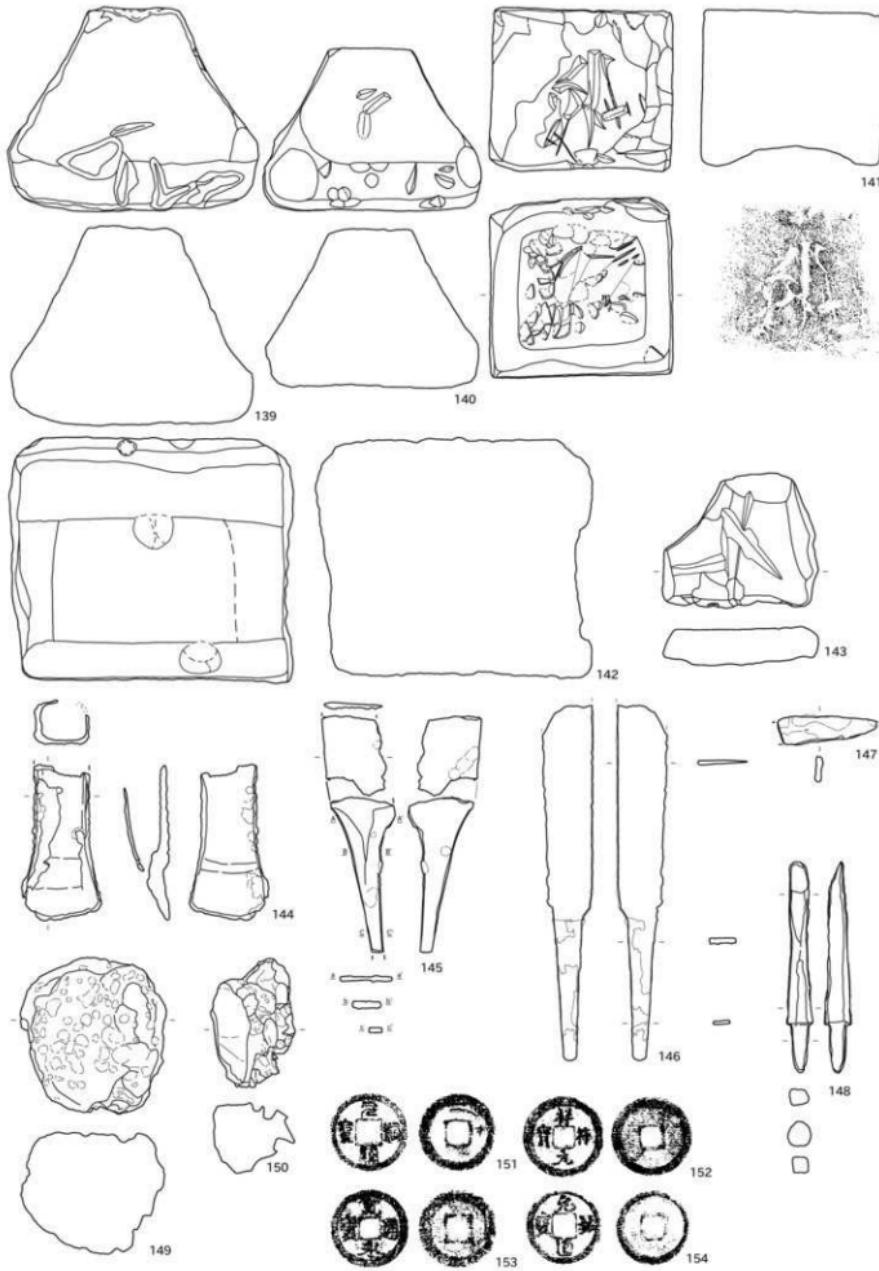


遺構外 (87~111)









0 (151~154) 6cm (2:3) 0 (その他) 15cm (1:3) 0 (139~142) 30cm (1:6)



調査区遠景（北から）



調査区遠景（南から）



調査区東側全景（上空南から）



調査区西側全景（上空南から）



丘江遺跡の位置 (1947年9月19日 米軍撮影)

一般財團法人 日本地図センター発行



基本層序 調査区北壁 (南から)



SD9824 セクション 1(東から)



SD9824 セクション 2(東から)



SD9501 セクション 1(南東から)



SD9501 セクション 2(東から)



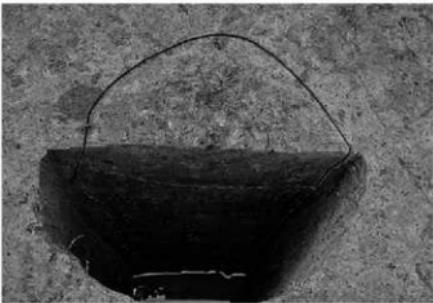
SD9501 完掘(東から)



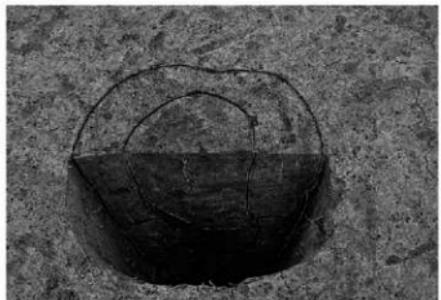
SD9501 完掘(北西から)



64G・H 遺構検出状況(南から)



SB9867-P9542 セクション(南から)



SB9867-P9597 セクション（南から）



SB9867-P9601 セクション（南から）



SB9867-P9608・P9609 セクション（南から）



SB9867-P9608 出土状況（南から）



SB9867-P9610 セクション（南から）



SB9867-P9610 出土状況（南から）



SB9867-P9626 セクション（東から）



SB9959-P9621 セクション（東から）



SB9959-P9541 セクション（南から）



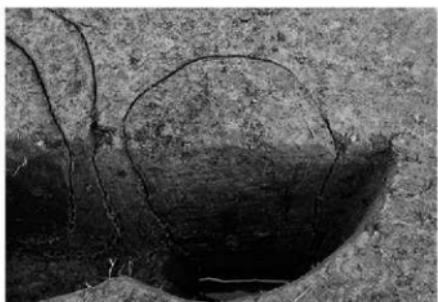
SB9959-P9556 セクション（東から）



SB9959-P9613 セクション（東から）



SB10186-P9544・P9543 セクション（南から）



SB10186-P9564 セクション（南西から）



SB10186-P9580 セクション（南から）



SB10186-P9586 セクション（南から）



SE9527、SD9526 セクション（東から）



SE9527 完掘（東から）



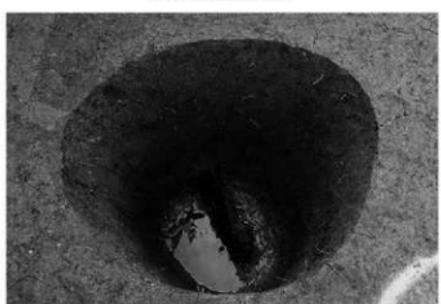
SE9538 セクション（南から）



SE9538 完掘（南から）



SE9554 セクション（東から）



SE9554 出土状況（東から）



SE9554 完掘（東から）



SE9594 セクション（南から）



SE9594 完掘（南から）



P9605, SE9606 セクション(東から)



SE9606 完掘(東から)



SE9607 セクション(東から)



SE9607 完掘(東から)



SE9619 セクション(南から)



SE9619 完掘(南から)

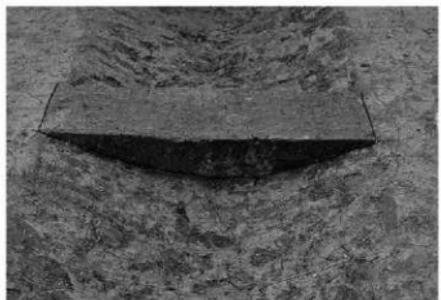


SK9655 セクション(南から)



SK9655 完掘(南から)

溝②、土坑②



SD9526 セクション(東から)



SK9624 セクション1-1(西から)



SK9624 セクション1-2(西から)



SK9624 セクション1-3(西から)



SK9624 セクション2(南から)



SK9624 セクション3(南から)



SK9624 完掘(南から)



SK9624 完掘(東から)



SD9622 セクション 1(北から)



SD9622 セクション 2(北から)



SD9622 完掘(南から)



SD9519 セクション 1(南から)



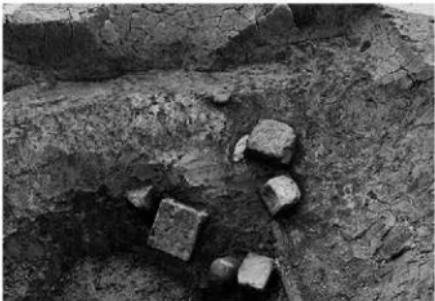
SD9519 セクション 2(北から)



SE9623 セクション 1(東から)



SE9623 セクション 2(東から)



SE9623 出土状況(西から)



SE9623 出土状況（南から）



SE9623 完掘 1（東から）



SE9623 完掘 2（東から）



P9629、SK9630 セクション（北東から）



SK9630 完掘（北東から）



SK9755 セクション（南から）



SK9755 完掘（南から）



SK9816 セクション（東から）



SK9816 完掘 (東から)



SK9817 セクション (西から)



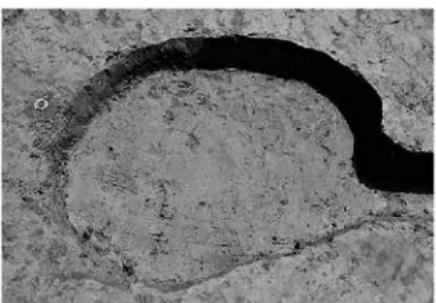
SK9895 セクション (西から)



SK9895 完掘 (西から)



SK9896 セクション (西から)



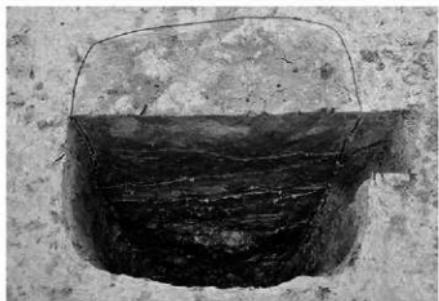
SK9896 完掘 (西から)



SE9513 セクション (東から)



SE9513 完掘 (東から)



SE9514 セクション（南から）



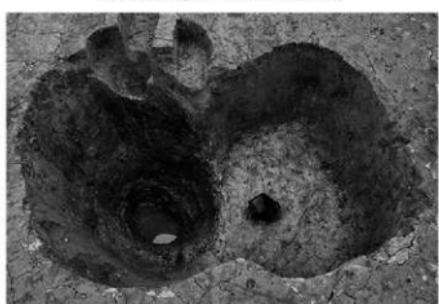
SE9514 完掘（南から）



SK9515・SK9516 セクション（北から）



SK9515 完掘（北から）



SK9516 完掘（北から）



SK9511 セクション（東から）



SK9511 完掘（東から）



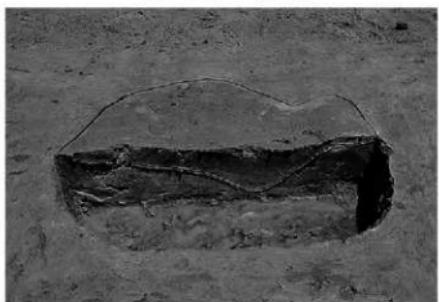
P9504 セクション（南から）



P9507 セクション（南から）



P9512 セクション（東から）



SX9503 セクション（南から）



64K 遺構検出状況（西から）



SB10456-P9765 セクション（南から）



SB10456-P9776 セクション（南から）



SB10456-P9777・P9778 セクション（東から）



SB10456-P9801 セクション（南から）

SB10457, SB10458, SB10459 ①



SB10457-P9731 セクション（南から）



SB10457-P9804 セクション（南から）



SB10457-P9806 セクション（南から）



SB10457-P9854 セクション（南から）



SB10458-P9782 セクション（南から）



SB10458-P9784・P9785 セクション（南から）



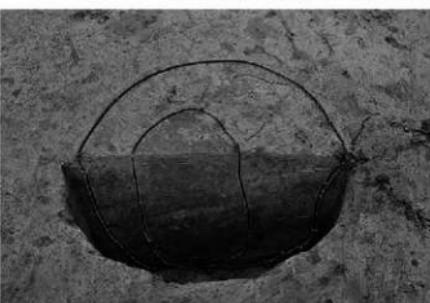
SB10459-P9694・P9693 セクション（西から）



SB10459-P9732 セクション（南から）



SB10459-P9850 セクション（南から）



SB10460-P9758 セクション（南から）



SB10460-P9760 セクション（南から）



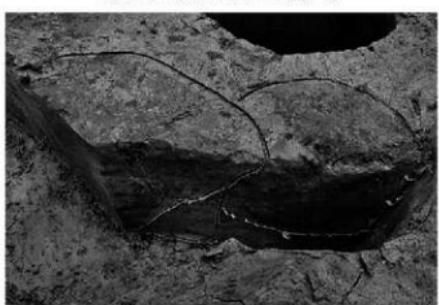
SB10460-P9808・P9809 セクション（南から）



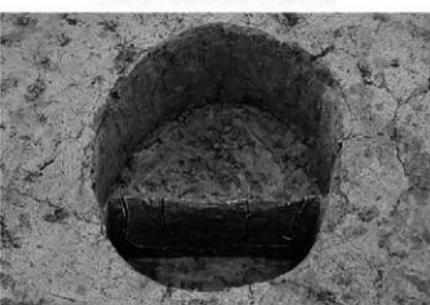
SB10461-P9663 セクション（南から）



SB10461-P9705 セクション（東から）



SB10461-P9842・P9876 セクション（南から）



SB10461-P9859 セクション（南から）



SB10462-P9633 セクション（南から）



SB10462-P9795 セクション（西から）



SB10462-P9848・P9846・P9847 セクション（東から）



SB10462-P9858 セクション（南から）



SE9688 セクション（東から）



SE9688 完掘（南東から）



SE9717 セクション（北から）



SE9717 完掘（北から）



SE9899 セクション（南から）



SE9899 完掘（南から）



SK9685 セクション（南西から）



SK9685 完掘（南西から）



SK9780 セクション（南から）



SK9780 出土状況（南から）



SK9780 完掘（南から）



SK9709 セクション（南から）



SK9874 セクション（西から）



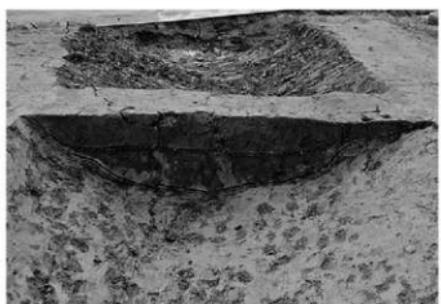
SK9874 完掘（西から）



SK9788 セクション（西から）



SK10368 セクション（東から）



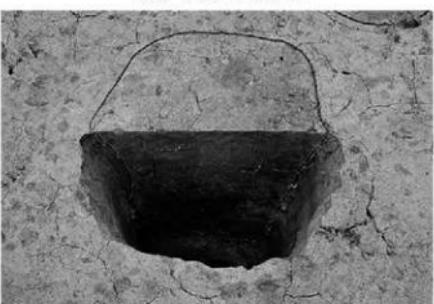
SD9665 セクション（東から）



P9673 セクション（東から）



P9675・P9676 セクション（東から）



P9677 セクション（南から）



P9692 セクション（南から）



P9695 セクション（南から）



P9696 - P9697 セクション（南から）



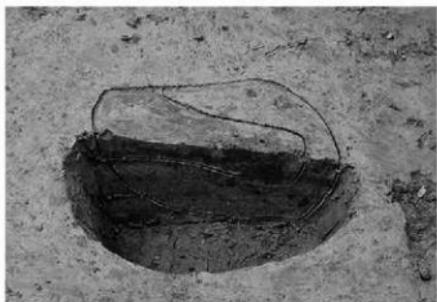
P9703 セクション（南から）



P9720 セクション（南から）



SB10463-P9631 セクション（南から）



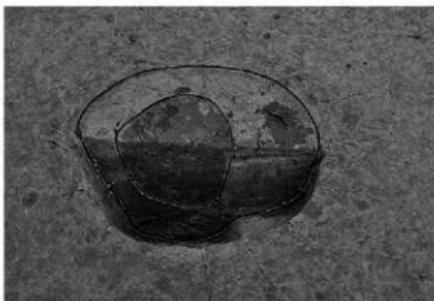
SB10463-P9638 セクション（南から）



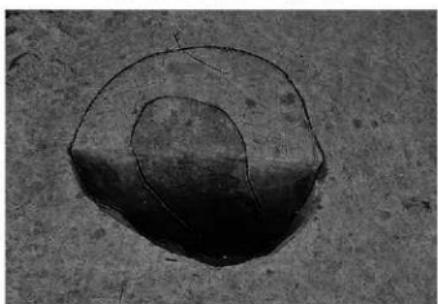
SB10463-P9657 セクション（東から）



SB10463-P9770 セクション (南から)



SB10464-P9653 セクション (南から)



SB10464-P9754 セクション (南から)



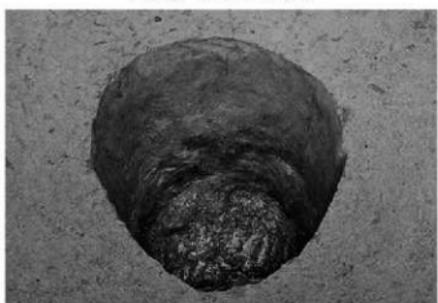
SB10464-P9660 セクション (東から)



SE10268 セクション (南から)



SE10268 出土状況 (南から)



SE10268 完掘 (南から)



SE10269 セクション (南から)



SE10269 完掘（南から）



SE10270 セクション（北から）



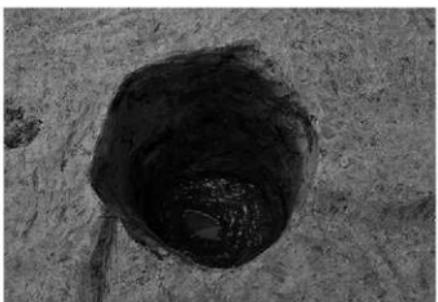
SE10270 出土状況（北から）



SE10270 完掘（北から）



SE10277 セクション（東から）



SE10277 完掘（東から）



SE10342 セクション（南から）



SE10342 完掘（南から）



SE10366 セクション(南から)



SE10366 完掘(南から)



SK9517 セクション(東から)



SK9517 完掘(東から)



SK9650 セクション(南から)



SK9650 完掘(南から)



SK9756 セクション(西から)



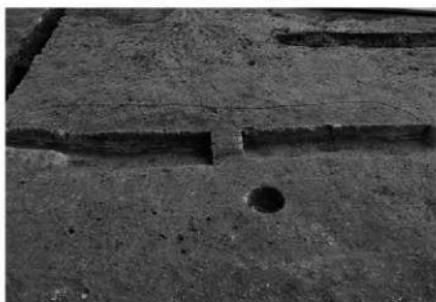
SK9756 完掘(西から)



SK9814 セクション（西から）



SK9814 完掘（西から）



SK10229 セクション（西から）



SK10229 セクション 2（南から）



SK10272 セクション（西から）



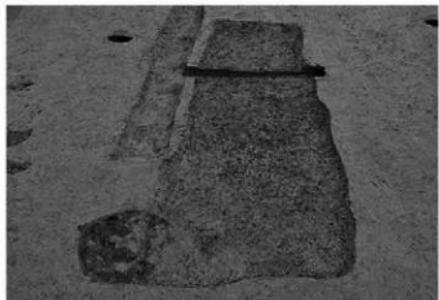
SK10358、P10359 セクション（西から）



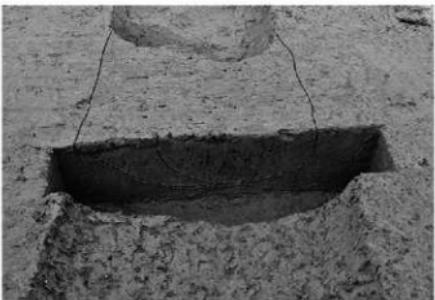
SD10348、P10370 セクション（南から）



SD10234 セクション（南から）



SX10235, SD10234 完掘（南から）



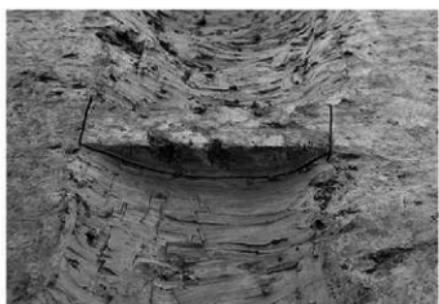
SD10237 セクション（南から）



SD10271 セクション（南から）



SD10273 セクション（南から）



SD10274 セクション（南から）



SE10230 セクション（西から）



SE10230 完掘（西から）



SE10231 セクション（南から）



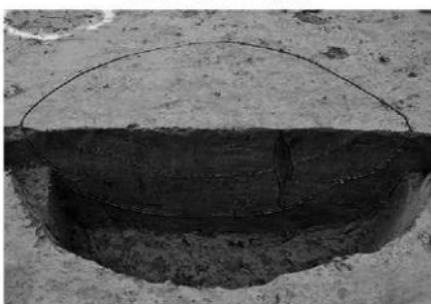
SE10231 完掘(南から)



SK10197 セクション(北から)



SK10197 完掘(北から)



SK10222 セクション(南から)



SK10222 完掘(南から)



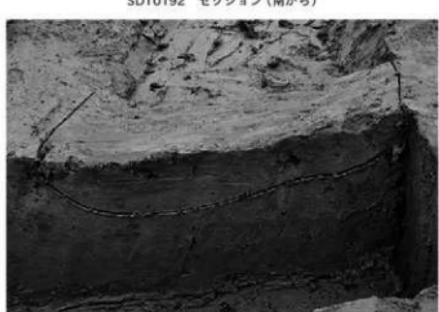
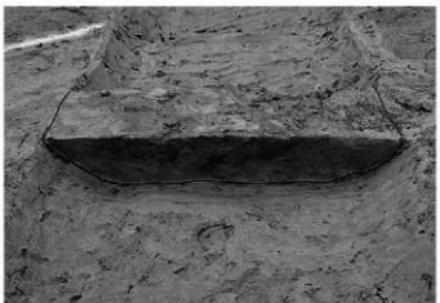
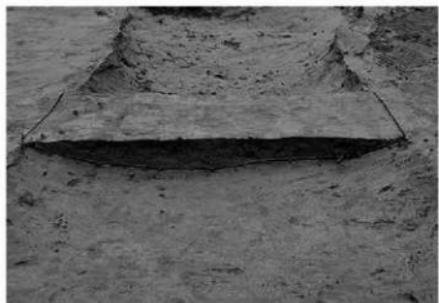
SK10360 セクション(南から)



SK10228 セクション(南から)



SK10228 完掘(南から)

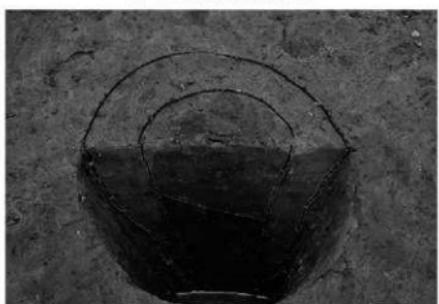




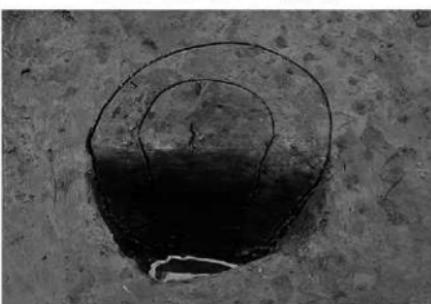
68・69O 遺構検出状況（南から）



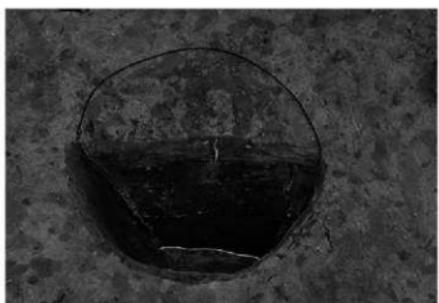
SB10388-P9826 セクション（南東から）



SB10389-P9834 セクション（東から）



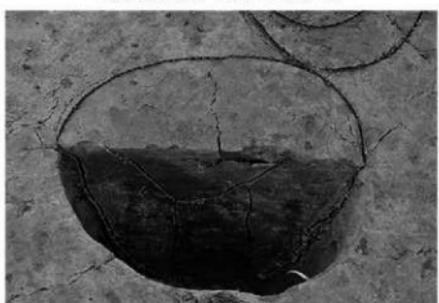
SB10389-P9833 セクション（東から）



SB10390-P9907 セクション（北から）



SB10390-P9912 セクション（南から）



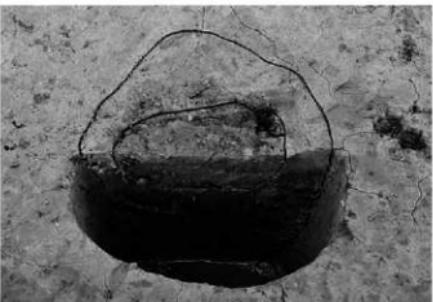
SB10392-P9974 セクション（西から）



SB10392-P10011 セクション（南から）



SB10391-P9917 セクション(東から)



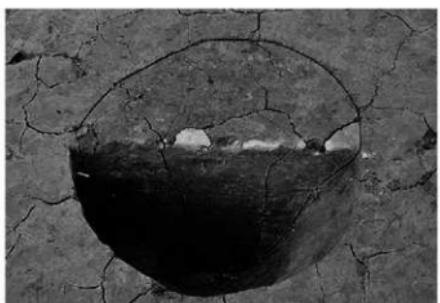
SB10391-P9961 セクション(南から)



SB10391-P9973 セクション(南から)



SB10393-P9964 セクション(東から)



SB10393-P9965 セクション(南から)



SE9906 セクション(南から)



SE9972 セクション(南から)



SE9972 実掘(南から)



SE10001 セクション（西から）



SE10001 完掘（西から）



SE10003 セクション（西から）



SE10003 完掘（西から）



SE10007 セクション（南から）



SE10007 完掘（南から）



SD10022, SE10014 セクション（南から）



SE10014 完掘（南から）



SE10015 セクション(南から)



SE10015 検出状況(南から)



SE10015 完掘(南から)



SE10036 セクション(北から)



SE10036 完掘(北から)



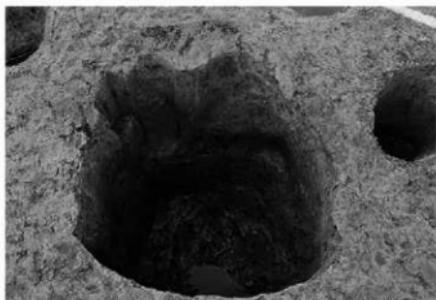
SE10037 セクション(南から)



SE10037 完掘(南から)



SE10181 セクション(東から)



SE10181 完掘(東から)



SE10227 セクション(北から)



SE10227 完掘(北から)



SE10232 セクション(東から)



SE10232 セクション2(東から)



SE10232 完掘(東から)



SE10239 セクション(北から)



SE10239 出土状況(北から)



SK9975 完掘（西から）



SK9975 セクション（西から）



SK9975 完掘（北から）



SK9976 セクション（南から）



SK9976 完掘（北から）



SK9980 セクション（南から）



SK9980 完掘（北から）



SK9981 セクション（南から）



SK9981 完掘(南から)



SK10024 セクション 1(南から)



SK10024 セクション 2(東から)



SK10024 完掘(南から)



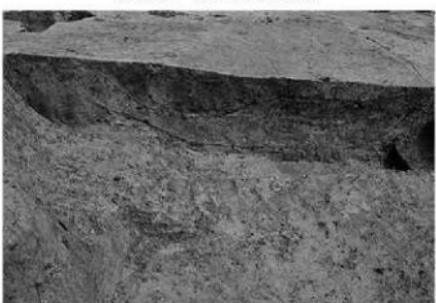
SK10224 セクション 1(南から)



SK10224 セクション 2(東から)



SK10224 完掘(南から)



SD9941・SD9938 セクション(西から)



SX10002 セクション(西から)



SK10018、SK10016 セクション1(南から)



SK10018、SK10016 セクション2(南から)



SX10019 セクション(西から)



SX10029 セクション(北から)



SX10029 完掘(南から)



SX10030 セクション(南から)



SX10030 完掘(南から)



SX10031 セクション 1 (西から)



SX10031 セクション 2 (北から)



SX10031 完掘 (西から)



P9900 セクション (南西から)



P10008 セクション (南から)



P10009 セクション (南西から)



P10035 セクション (北から)



P10039・P10040 セクション (東から)



P10182 セクション（南から）



65-67O 遺構検出状況（南から）



SB10394-P10205 セクション（南から）



SB10394-P10320 セクション（西から）



SB10395-P10075 セクション（西から）



SB10396-P10220 セクション（南から）



SB10396-P10283 セクション（南から）



SB10397-P10118 セクション（南西から）



SB10397-P10123 セクション（南西から）



SB10397-P10129 セクション（南から）



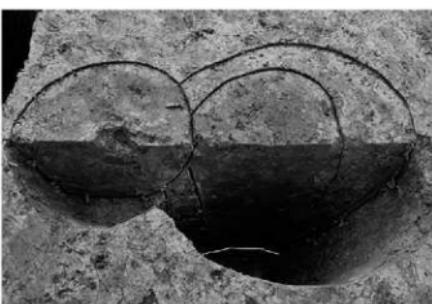
SB10397-P10161 セクション（東から）



SB10398-P10124 セクション（東から）



SB10398-P10202 セクション（南から）



SB10399-P10254・P10253 セクション（南東から）



SB10400-P10125 セクション（南から）



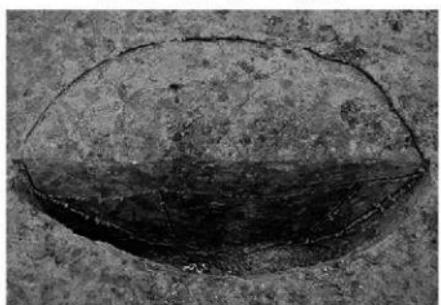
SB10400-P10160 セクション（南から）



SB10400-P10332 セクション（南から）



SB10400-P10414 セクション（南から）



SB10442-P10148 セクション（南から）



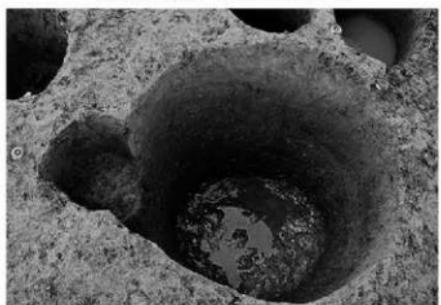
SB10442-P10175 セクション（南から）



SB10442-P10331 セクション（南西から）



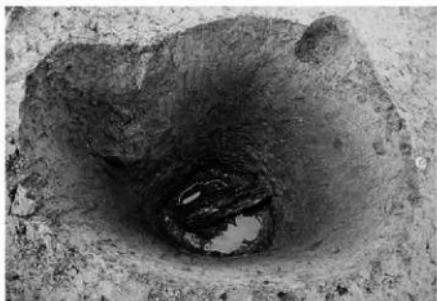
SE10053, P10054 セクション（西から）



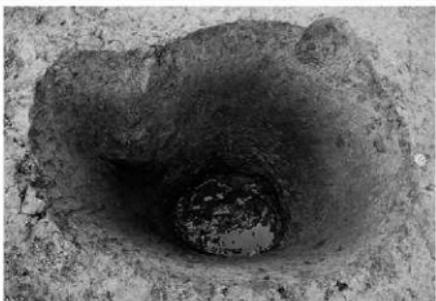
SE10053, P10054 完掘（東から）



SE10057, P10055 セクション（南から）



SE10057 出土状況（南から）



SE10057 完掘（南から）



SE10069 セクション（西から）



SE10069 完掘（西から）



SE10132、SD9942 セクション（西から）



SE10132 完掘（西から）



SE10167 セクション（東から）



SE10167 完掘（東から）



SE10169 セクション（南西から）



SE10169 完掘（南西から）



SE10170 セクション（南東から）



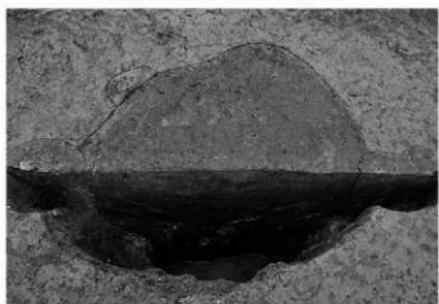
SE10170 完掘（南東から）



SE10241, P10255 セクション（南から）



SE10241, P10255 完掘（南から）



SE10280, P10279, P10416 セクション（東から）



SE10280, P10279, P10416 完掘（東から）



SE10321 セクション（南から）



SE10321 出土状況（北から）



SE10321 完掘（南から）



SE10339、P10338 セクション（南から）



SE10339、P10338 完掘（南から）



SK9944、SD9941・SD9942 セクション（南から）



SK9944 完掘（南から）



SK10115 セクション（南西から）



SK10115 完掘（南西から）



SD9941、SD9942・P9945 セクション（南から）



SD9943 セクション（南から）



SD10111 セクション（北から）



SD10249 セクション（北から）



P9956 セクション（西から）



P10107 セクション（北西から）



SX10450 掘出状況 1（南から）



SX10450 検出状況 2 (西から)



SX10450 セクション 1 (南から)



SX10450 セクション 1-1 (南から)



SX10450 セクション 1-2 (南から)



SX10450 セクション 2 (南から)



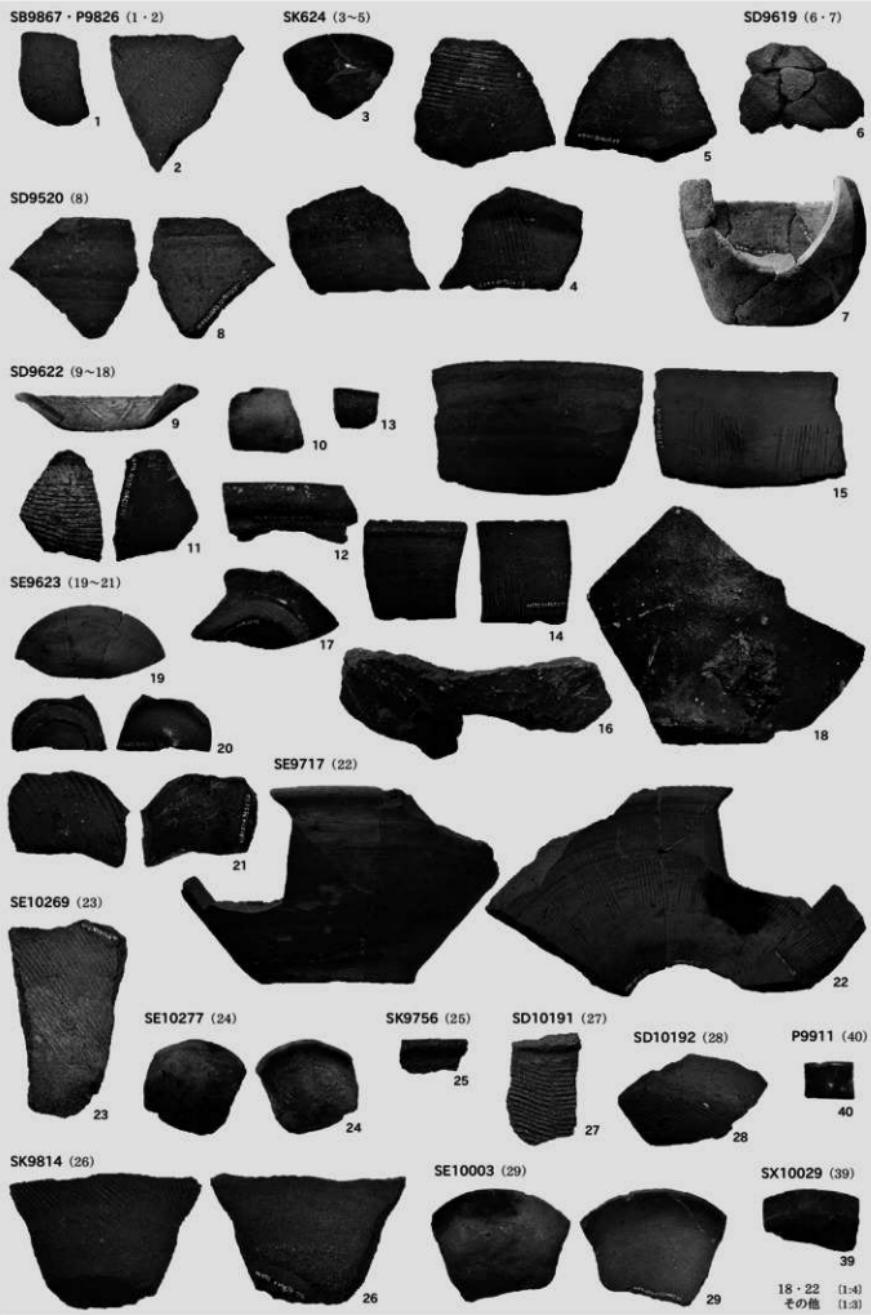
SX10450 3層検出状況 1 (北東から)



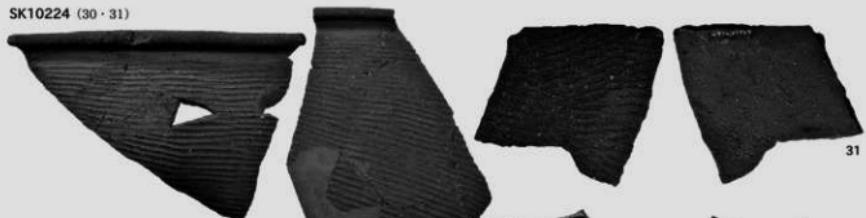
SX10450 3層検出状況 2 (南から)



作業風景



SK10224 (30・31)



SD9938 (32~38)



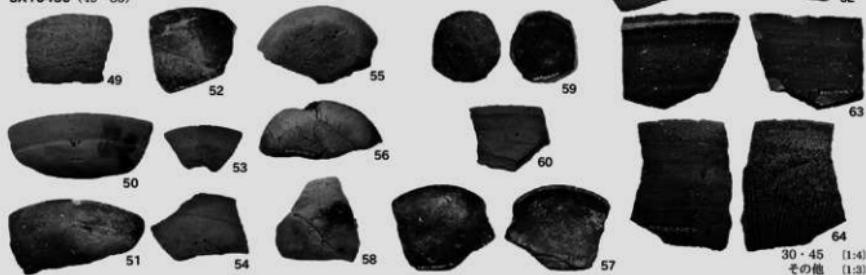
SE10321 (42~44)

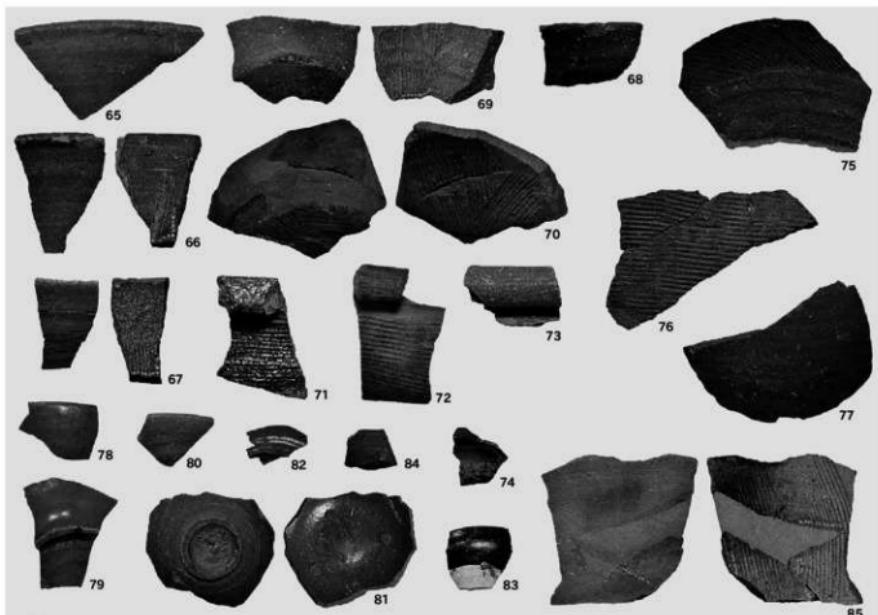


P9956・SD9622 (45)

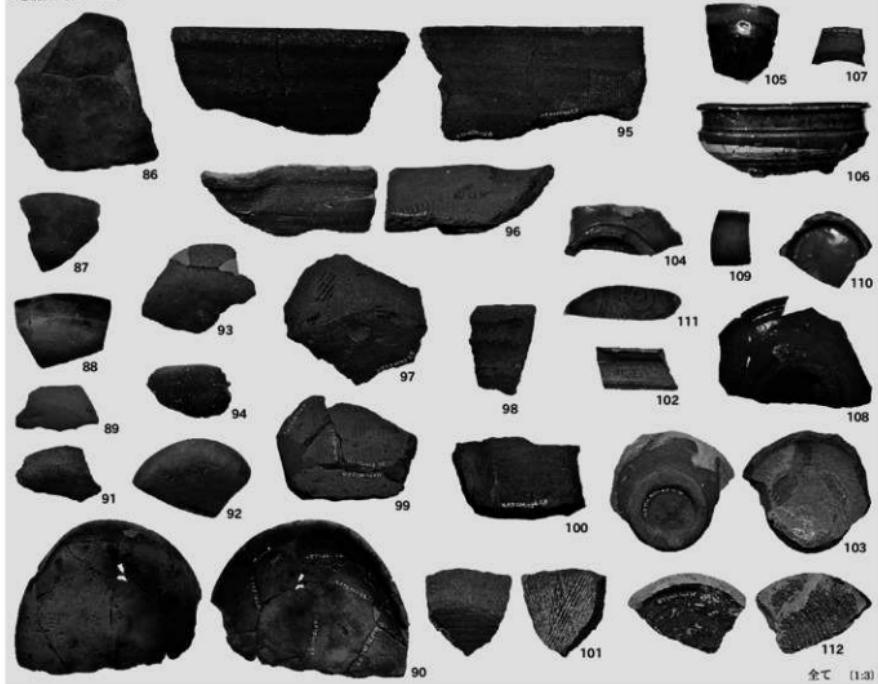


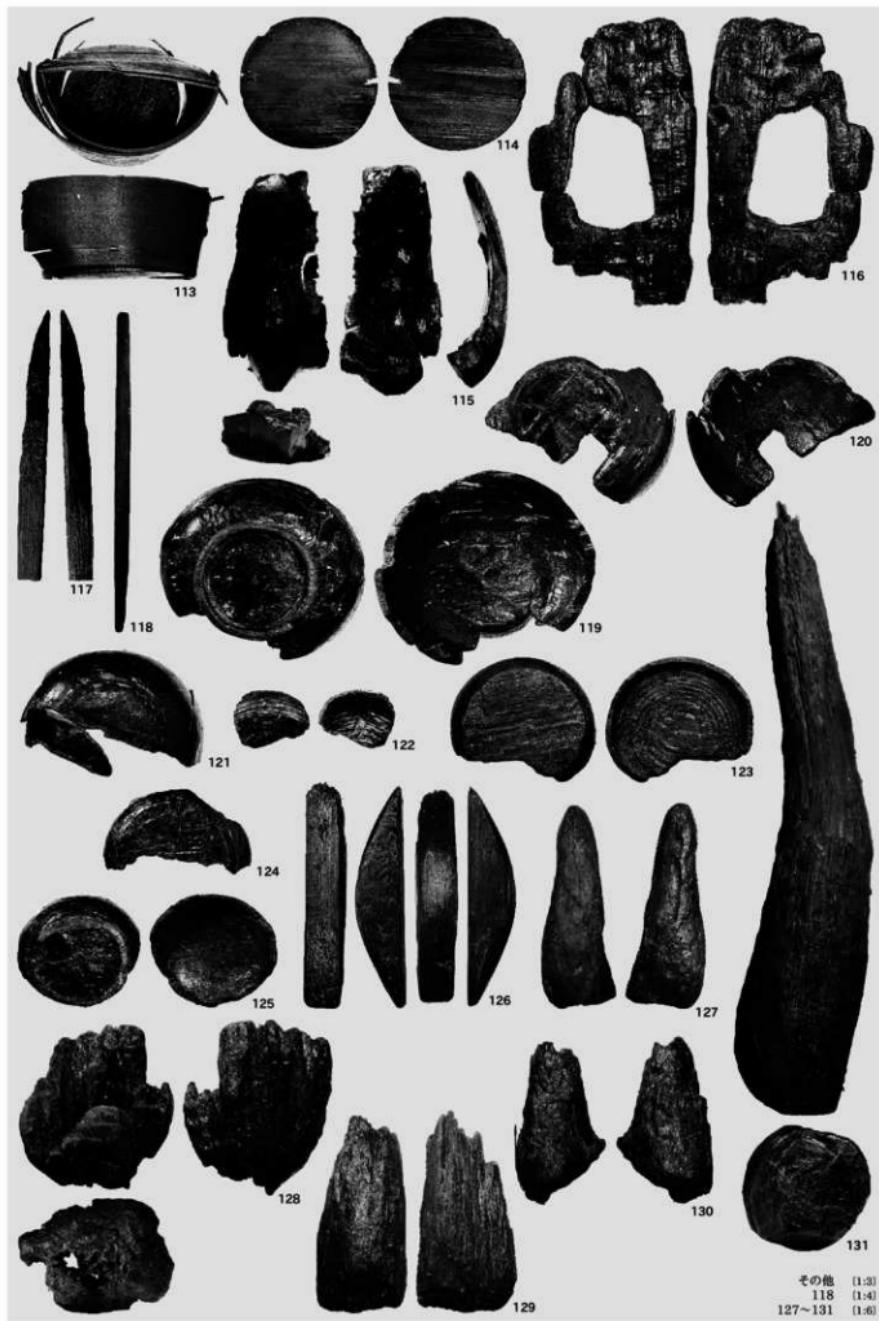
SX10450 (49~85)



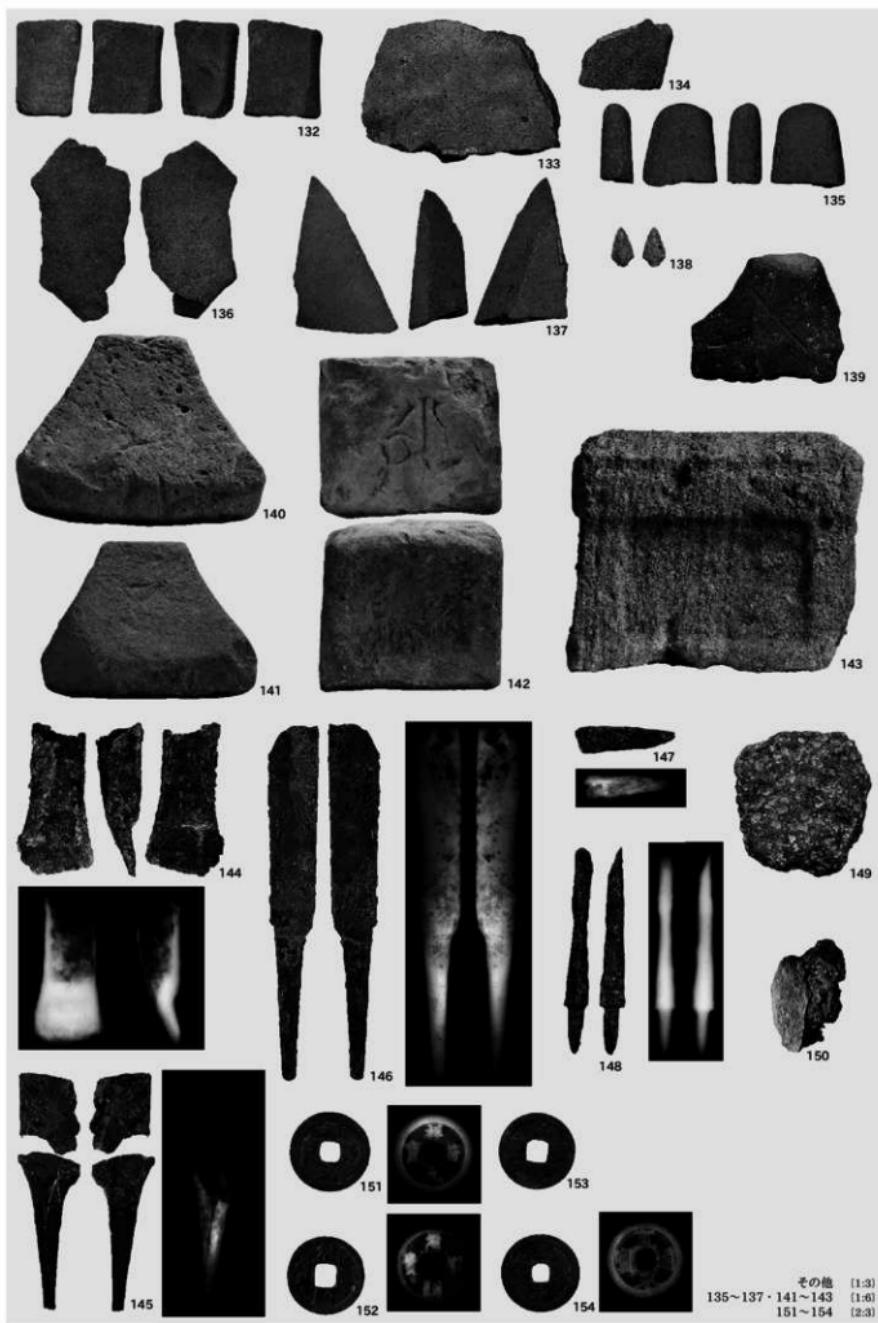


遺構外 (87~112)





その他
118 [1:40]
127~131 [1:6]



報告書抄録

ふりがな	おかえいせき						
書名	丘江遺跡Ⅲ						
副書名	一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第274集						
編著者名	春日真一(公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団)、今井昭俊・高柳俊輔(株式会社吉田建設)、黒沼保子・佐々木由香・鈴木正章・パンダリ・スダルシャン・藤根 久・森 将志(株式会社パレオ・ラボ)						
編集機関	公益財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団、株式会社吉田建設						
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1	TEL	0250(25)3981				
発行年月日	2018(平成30)年3月30日						
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
丘江遺跡	新潟県柏崎市 茨目3丁目 地内	15205 1010	37° 21° 51°	138° 34° 56°	20160401 ~ 20161130	5,203m ²	一般国道8号柏崎バイ バス建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
丘江遺跡	集落	鎌倉～室町時代 (13世紀～15世紀)	掘立柱建物26棟、 戸戸45基、土坑 33基、溝40条、 性格不明遺構12		土師質土器、珠洲焼、越前焼、 瀬戸・美濃焼、越前系陶器、 青磁、白磁、青白磁、木製品 (漆器椀・盤・舌長鑓)、石製品 (礎石・五輪塔・宝鏡印塔)、 金属製品(鉄斧・包丁・鑓)、 錢貨	瀬戸・美濃焼脛形香 炉、青白磁梅瓶、舌長 鑓、五輪塔、宝鏡印塔 などが出土した。	
要約	丘江遺跡は、柏崎平野北西部、鶴石川左岸の沖積地に立地する。13世紀から15世紀を主体とする集落で、沢状地形を抉む形で建物群を3地点検出した。建物の総数は26棟である。出土遺物には青白磁梅瓶や漆塗り舌長鑓などの優品が含まれている。このほか五輪塔・宝鏡印塔も出土した。遺跡は当地を支配していた毛利安田氏と関連し、有力な人物が存在した集落の可能性がある。						

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第274集

一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書 XIV

丘江遺跡 III

2018(平成30)年3月29日印刷
2018(平成30)年3月30日発行

編集・発行 新潟県教育委員会
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
電話 025(285)5511

公益財團法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
電話 0250(25)3981
FAX 0250(25)3986

印刷・製本 株式会社ウイザップ
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1番25号
電話 025(285)3311